

許ヲ受ケタル會社ガ鐵鋼鑄造設備ノ新設、増設又ハ改造ヲ爲サントスルトキ  
 二 自動車製造事業法、工作機械製造事業法、航空機製造事業法又ハ造船事業法ニ依リ許可ヲ受ケタル事業ノミニ使用スル鐵鋼鑄造設備ノ新設、増設又ハ改造ヲ爲サントスルトキ  
 三 行政官廳ノ命令ニ依リ鐵鋼鑄造設備ノ新設、増設又ハ改造ヲ爲サントスルトキ  
 四 臨時資金調整法第四條第一項ノ規定ニ依リ會社ノ設立ニ付認可ヲ受ケ第一回拂込株金ニ依リ鐵鋼鑄造設備ノ新設ヲ爲サントスルトキ  
 五 臨時資金調整法第四條、第八條又ハ第九條ノ規定ニ依リ資本増加、第二回以後ノ株金ノ拂込又ハ社債ノ募集ニ付認可ヲ受ケ備置シタル資金ニ依リ鐵鋼鑄造設備ノ新設、

増設又ハ改造ヲ爲サントスルトキ  
 六 臨時資金調整法第四條ノ二ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ鐵鋼鑄造設備ノ新設、増設又ハ改造ヲ爲サントスルトキハ前項ノ規定ハ鐵鋼鑄造設備ノ製造ヲ爲シ又ハ爲サントスル者其ノ鐵鋼鑄造設備以外ノモノノ製造ニ使用スルキニボラ、反射爐、電氣爐其ノ他ノ熔鑄爐ヲ鐵鋼鑄造設備ニ轉用セントスル場合ニ之ヲ準用ス  
 第三條 前條第一項ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ  
 一 鐵鋼鑄造設備ノ新設、増設又ハ改造ヲ爲サントスル工場ノ名稱及位置  
 二 新設、増設又ハ改造ヲ爲サントスル鐵鋼鑄造設備ノ製造設備ノ能力(設備別ニ記載スベシ)

三 新設、増設又ハ改造ヲ爲サントスル鐵鋼鑄造設備ニ依リ製造スベキ物品ノ種類別數量(備置品ノ種類別數量ヲ記載スベシ)及其ノ原料ノ種類別數量  
 四 鐵鋼鑄造設備ノ新設、増設又ハ改造ヲ必要トスル事由  
 五 工事ノ著手及完成ノ豫定期又ハ備置ケントスル鐵鋼鑄造設備ノ使用開始ノ豫定期(借受ノ場合ニ在リテハ借受ノ豫定期間及借受ケントスル鐵鋼鑄造設備ノ使用開始ノ豫定期)  
 前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ  
 一 新設、増設又ハ改造ヲ爲サントスル鐵鋼鑄造設備ニ依リ製造スベキ物品ノ主たる豫定納入先(納入先別ニ種類別數量ヲ記載スベシ)ヲ記載シタル書類  
 二 前項第三號ニ掲グル原料ノ

取得方法ヲ記載シタル書類  
 三 現ニ鐵鋼鑄造設備ノ製造ヲ爲ス者ニ在リテハ其ノ事業ノ概要(鐵鋼鑄造設備ノ能力、最近一年間ニ製造シタル備置品ノ種類別數量、工場ノ坪數及職工數)ヲ記載シタル書類  
 四 會社ニ在リテハ定款並ニ貸借對照表及損益計算書  
 前二項ノ規定ハ前條第二項ノ規定ニ依リ準用シタル前條第一項ノ許可ヲ受ケントスル場合ニ之ヲ準用ス但シ第一項第五號ニ掲グル事項ハ之ヲ轉用開始ノ豫定期トス  
 第四條 第二條第一項(同條第二項ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ノ許可ヲ受ケタル者其ノ工事ヲ完成シ又ハ備置ケ、借受ケ若ハ轉用シタル鐵鋼鑄造設備ノ使用ヲ開始シタルトキハ運送ナク之ヲ商工大臣ニ届出ツベシ  
 第五條 第二條第一項(同條第二

項ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ノ許可ヲ受ケ鐵鋼鑄造設備ノ新設、増設又ハ改造ヲ爲サントスルトキ  
 轉用ヲ爲シタル者該設備ニ依リ製造スベキ物品ノ種類ヲ變更セントスルトハ其ノ事由ヲ具シ商工大臣ノ許可ヲ受ケベシ  
 第六條 本則ニ依リ商工大臣ニ提出スベキ書類ハ當該鐵鋼鑄造設備ノ新設、増設、改造又ハ轉用ヲ爲ス工場ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スベシ

ル事項ヲ商工大臣ヲ届出ツベシ  
 第五條ノ規定ハ第二項ニ掲グル者ニハ之ヲ適用セズ  
 【參照】  
 昭和十二年九月十日公布法律第九十二號ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル件ナリ  
 〔昭和十四年九月二十八日〕  
 (商工省令第五十九號)  
 第一條 鐵鋼鑄造業トスル者(以下製造業者ト稱ス)ハ官廳ニ於テ又ハ商工大臣ノ指定シタル團體(以下統制團體ト稱ス)ニ於テ交付シタル鐵鋼配給承認書ヲ引渡シ受ケ又ハ官廳ヨリ鐵鋼配給承認書ヲ交付シ受ケタルニ非ザレバ鐵鋼(仕上鐵鋼ヲ含ム以下同ジ)ヲ賣渡スコトヲ得ズ  
 第二條 鐵鋼ヲ業務用ニ使用スル者ハ官廳若ハ統制團體又ハ第四條ノ註文者ヨリ交付シ受ケタル鐵鋼配給承認書ヲ引渡シ非ザレバ製造業者ヨリ鐵鋼ヲ買受ク

ルコトヲ得ズ  
 第三條 製造業者ハ官廳又ハ統制團體ヨリ鐵鋼配給承認書ヲ交付シ受ケタルニ非ザレバ其ノ製造シタル鐵鋼ヲ業務用ニ使用(鐵鋼ヲ仕上グル場合ヲ除ク以下同ジ)スルコトヲ得ズ  
 第四條 鐵鋼ヲ買受ケル目的ヲ以テ鐵鋼配給承認書ヲ交付シ受ケタル者鐵鋼ヲ材料トスル製品ノ製造又ハ加工ヲ他人ニ購買ハンメタル場合ニ於テ當該購買人鐵鋼ヲ買受ケタルトキハ其ノ者ニ當該鐵鋼配給承認書ヲ交付スベシ  
 前項ノ場合ニ於テ註文者ハ購買契約ノ要旨ヲ記載シタル書面及鐵鋼配給承認書ノ寫ヲ當該鐵鋼配給承認書ヲ交付シタル官廳又ハ之ヲ交付シタル統制團體及購買人ノ屬スル統制團體ニ提出スベシ  
 第五條 統制團體ハ商工大臣ノ定ムル數量ノ限度内ニ於テ鐵鋼配給承認書ヲ交付スベシ  
 第六條 鐵鋼配給承認書ハ之ヲ他

人ニ讓渡シ又ハ他人ヨリ讓受ケルコトヲ得ズ但シ第四條第一項ノ規定ニ依リ註文者鐵鋼配給承認書ヲ購買人ニ交付スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
 第七條 鐵鋼配給承認書ヲ引渡シ買受ケタル鐵鋼ハ之ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ズ但シ鐵鋼ニ加工ヲ施シ器具又ハ器具若ハ機械ノ部分品タル鐵鋼ト爲シタル後之ヲ讓渡スル場合及特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
 第八條 製造業者ハ官廳若ハ統制團體ヨリ交付シ受ケ又ハ鐵鋼ヲ買受ケタル者ヨリ引渡シ受ケタル鐵鋼配給承認書ヲ交付又ハ引渡シ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ官廳ニ於テ交付シタルモノニ在リテハ商工大臣ニ、其ノ他ノモノニ在リテハ商工大臣ノ指定シタル團體ヲ經由シ商工大臣ニ提出スベシ  
 第九條 製造業者ハ帳簿ヲ備ヘ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

本則ハ昭和十四年九月三十日ヨリ之ヲ施行ス  
 本則公布ノ際現ニ第二條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケベキ鐵鋼鑄造設備ノ新設、増設又ハ改造ノ工事中ニシテ既ニ基礎工事ヲ終了シタル者ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ同條同項ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス  
 前項ニ掲グル者ハ本則施行ノ日ヨリ二週間以内ニ當該鐵鋼鑄造設備ニ付第三條第一項各號ニ掲グ

法律—鐵鋼配給統制規則



法律一 高速度鋼バイトの供給制限令、船舶建造融資補給及損失補償法

一 製造ノ注文ヲ受ケタル鋼製ノ品名、数量、鋼材重量、約定年月日、鋼材製造時期、引渡決定時期及注文者ノ氏名名稱及住所

二 製造シタル鋼製ノ品名、数量、鋼材重量及製造年月日

三 賣渡シタル鋼製ノ品名、数量、鋼材重量(仕上鋼製ニ在リテハ鋼材重量及仕上重量以下同ジ)、價格、引渡ノ年月日、鋼製配給承認書ヲ交付シタル官廳名又ハ統制團體名及其ノ番號並ニ賣渡先ノ氏名名稱及住所

四 使用シタル鋼製ノ品名、数量、鋼材重量、使用ノ年月日

五 鋼製配給承認書ヲ交付シタル官廳名又ハ統制團體名及其ノ番號

第十條 西工大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ製造業者ノ帳簿其ノ他ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十一條 製造業者ハ毎月賣渡シタル鋼製ノ品名、數量、價格、引渡ノ年月日、鋼製配給承認書ヲ交付シタル官廳名又ハ統制團體名及其ノ番號並ニ賣渡先ノ氏名名稱及住所

第十二條 西工大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ製造業者ノ帳簿其ノ他ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條 西工大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ製造業者ノ帳簿其ノ他ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條 西工大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ製造業者ノ帳簿其ノ他ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十五條 西工大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ製造業者ノ帳簿其ノ他ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十六條 西工大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ製造業者ノ帳簿其ノ他ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十七條 西工大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ製造業者ノ帳簿其ノ他ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十八條 西工大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ製造業者ノ帳簿其ノ他ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

書ノ交付又ハ引渡ハ之ヲ本則ニ依リ鋼製配給承認書ヲ交付又ハ引渡ト看做ス

【參照】 昭和十二年九月十日公布法律第九十二號ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル件ナリ

高速度鋼バイトの供給制限令 (昭和十四年六月十七日) (商工省令第三十號)

鋼製ノ柄ノ部分ノ断面ノ一邊(長邊)ノ長サ十二種以上五十一種以下ノ高速度鋼バイトハ高速度鋼以下ノ鋼ヲ以テ製造シタル鋼製ニ高速度鋼ヲ以テ附及又ハ盛金ヲ爲シタルモノヲ除クノ外之ヲ製造シ、販賣(本令施行前ニ爲シタル契約ニ依リ引渡ヲ含ム)シ又ハ買受ク(本令施行前ニ爲シタル契約ニ依リ受入ルル場合ヲ含ム)コトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限

本令ハ昭和十四年十月十六日ヨリ之ヲ施行ス

【參照】 昭和十二年九月十日公布法律第九十二號ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル件ナリ

船舶建造融資補給及損失補償法 (昭和十四年四月四日) (法律第七十一號)

第一條 政府ハ海運業ノ振興ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ船舶

補給金若ハ補償金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトヲ得

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

造船事業法 (昭和十四年四月四日) (法律第七十號)

第一條 本法ニ於テ造船事業トハ命令ノ定ムル設備ヲ備フル者ノ爲ス船舶ノ製造又ハ修繕ノ事業ヲ謂フ

前項ノ事業ヲ營ム者ノ爲ス船舶船體用機關若ハ機件品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ノ製造又ハ修繕ハ之ヲ其ノ事業ノ一部ト看做ス

第二條 造船事業ヲ營マントスル者ハ政府ノ許可ヲ受クベシ

第三條 前條ノ許可ヲ受クルコトヲ得ベキ者ハ帝國法令ニ依リ設立シタル株式會社又ハ有限會社ニシテ其ノ株主又ハ社員ノ半数以上資本ノ半額以上及議決權ノ

法律一 造船事業法

船舶建造融資補給及損失補償法

船舶建造融資補給及損失補償法

船舶建造融資補給及損失補償法

船舶建造融資補給及損失補償法

船舶建造融資補給及損失補償法

船舶建造融資補給及損失補償法

船舶建造融資補給及損失補償法

船舶建造融資補給及損失補償法

船舶建造融資補給及損失補償法

船舶建造融資補給及損失補償法

船舶建造融資補給及損失補償法

船舶建造融資補給及損失補償法



法律—造船事業法

過半数が帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル法人ニ屬スルモノニ限ル  
前項ノ法人ハ其ノ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半数以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半数が外國人又ハ外國法人ニ屬セザルモノナルコトヲ要ス  
前條ノ許可ヲ受ケタル者則チ二項ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ  
第四條 第二條ノ許可ヲ受ケタル會社(以下造船會社ト稱ス)ハ政府ノ指定スル期間内ニ其ノ事業ヲ開始スベシ  
政府ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限り前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得  
造船會社前二項ノ期間内ニ其ノ事業ヲ開始セザルトキハ第二條ノ效力ヲ失フ  
第五條 造船會社其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止セントスルトキハ命令ノ定

ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケベシ  
造船會社ノ合併又ハ解散ノ決議ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ  
第六條 造船事業ハ土地收用法第二條ノ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業トシ同法ヲ適用ス  
第七條 造船會社ハ其ノ事業ニ關スル設備ノ償却ニ充ツル爲メ勅令ノ定ムル所ニ依リ毎決算ノ利益ノ一部ヲ積立ツベシ  
第八條 株式會社タル造船會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ關スル設備ノ費用ニ充ツル爲メ商法ニ規定スル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル純財産額ヲ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ  
社債償還ノ爲ニスル社債ノ利率

集ニ付テハ其ノ額ハ社債ノ總額中ニ之ヲ算入セズ此ノ場合ニ於テハ拂込ノ期日、若シ數回ニ分チテ拂込ヲ爲サシムルトキハ第一回拂込ノ期日ヨリ六月以内ニ舊社債ヲ償還スルコトヲ要ス  
第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ工場抵當法ニ依リ會社ノ事業ニ關スルモノヲ抵當ト爲スコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ政府其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
第九條 造船會社本邦ニ於テ未ダ製造セラレタルコトナキ船體、船舶用機關若ハ機軸品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ノ製造ヲ爲ス場合ニ於テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ之ニ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得  
第十條 政府ハ造船會社ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ船體、船舶用機關若ハ機軸品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ニハ本邦ニ於テ製

造セラレタル物ヲ使用スベキコトヲ命ズルコトヲ得  
第十條 政府ハ造船事業ノ維持ヲ圖ル爲メ必要アリト認ムルトキハ船舶ノ製造ヲ爲ス造船會社又ハ船舶ノ製造ノ注文ヲ爲ス者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ助成金ヲ交付スルコトヲ得  
第十二條 政府ハ船體、船舶用機關若ハ機軸品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ニ付其ノ規格ヲ定ムルコトヲ得船舶用材料ニ付亦同ジ造船會社ハ前項ノ規定ニ依リ規格ヲ定メタルモノニ付テハ、命令ノ定ムル場合ヲ除クノ外規格ニ適合スルモノニ非ザレバ之ヲ製造シ又ハ船舶ニ使用スルコトヲ得ズ  
第十三條 政府ハ造船會社ニ對シ其ノ製造セントスル船舶ニ付命令ノ定ムル推進性能試驗ヲ受クベキコトヲ命ズルコトヲ得  
第十四條 政府ハ公益上必要アリト認ムルトキハ造船會社ニ對シ

二二六

船舶、船體、船舶用機關若ハ機軸品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ニ付製造若ハ販賣ノ價格又ハ修繕料ノ變更ヲ命ジ又ハ此等ノ物ノ供給ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得  
第十五條 政府ハ公益上必要アリト認ムルトキハ造船會社ニ對シ左ノ各號ニ掲グル事項ヲ命ズルコトヲ得  
一 設備ノ新設、増設又ハ改良  
二 政府ノ指定スル船舶、船體、船舶用機關若ハ機軸品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ノ製造又ハ修繕  
三 船舶ニ關スル特殊事項ノ研究又ハ特殊設備ノ施設  
前項ノ命令ニ因リ生ジタル損失ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス  
前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協賛ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十六條 政府ハ第十二條第一項ノ規格ノ決定、第十四條若ハ前條第一項第一號ノ命令又ハ前條第二項ノ補償金額ノ決定ヲ爲サントスルトキハ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外造船事業委員會ノ議ヲ經ベシ  
造船事業委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第十七條 造船會社ハ其ノ事業ノ改良發達ヲ圖ル爲メ造船組合ヲ設立スルコトヲ得  
第十八條 造船組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得  
一 組合員ノ事業ニ必要ナル物ノ取得、保有及供給並ニ組合員ノ事業ノ爲ニスル共同施設  
二 組合員間ニ於ケル事業ノ統制  
三 組合員ノ事業ニ關スル指導研究及調査  
四 前各號ニ掲グルモノノ外組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業

造船組合ハ營利目的トシテ其ノ事業ヲ行フコトヲ得ズ  
第十九條 造船組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ分賦シ過意金ヲ課スルコトヲ得  
第二十條 造船組合ヲ設立セントスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ヲ以テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クベシ  
組合ノ設立ニ付組合員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコト能ハザル場合ト雖モ特別ノ事由アルトキハ政府ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ開クコトヲ得  
造船組合ハ第一項ノ認可アリタル時成立ス  
第二十一條 造船組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ  
一 目的  
二 名稱

三 地區  
四 事務所ノ所在地  
五 組合員タル資格ニ關スル規定  
六 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定  
七 役員ニ關スル規定  
八 事業ノ執行ニ關スル規定  
九 會議ニ關スル規定  
十 組合員ノ出資及責任ニ關スル規定  
十一 組合員ノ權利義務及經費ノ分擔ニ關スル規定  
十二 會計及財産ニ關スル規定  
十三 存立ノ期間又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ期間又ハ事由  
第二十二條 造船組合ニハ理事及監事ヲ置クベシ  
理事ハ組合ノ業務ニ付組合ヲ代表ス  
監事ハ組合ノ業務ヲ監査ス  
理事ト監事トハ相兼スルコトヲ得ズ  
組合ト理事ト利益相反スル事項

法律—造船事業法

二二七



ニ付テハ監事組合ヲ代表ス  
 理事缺ケタルトキハ監事其ノ職  
 務ヲ行フ但シ其ノ期間ハ三月ヲ  
 超ユルコトヲ得ズ  
 理事ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ  
 政府ハ假理事ヲ選任シ理事ノ職  
 務ヲ行ハシムルコトヲ得  
 第一項ノ規定ニ依ル役員ノ外定  
 款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ  
 置クコトヲ得  
 第二十三條 左ニ掲グル事項ハ總  
 會ノ議決ヲ經ベシ  
 一 定款ノ變更  
 二 收支決算及經費ノ分賦收入  
 方法  
 三 業務報告及收支決算ノ承認  
 四 第二十八條第一項ノ規程ノ  
 制定及變更  
 五 造船組合聯合會ノ設立、加  
 入及脫退  
 六 役員ノ選任及解任  
 七 合併及解散  
 前項第一號、第四號、第六號及  
 第七號ニ掲グル事項ノ決議ハ政  
 府ノ認可ヲ受タルニ非ザレバ其

ノ效力ヲ生ゼズ  
 第二十四條 組合員ハ總會ニ於テ  
 各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款  
 ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付二個  
 以上ノ議決權ヲ有セシムルコト  
 ヲ得  
 第二十五條 總會ノ議決ハ定款ノ  
 定ムル所ニ依リ出席シタル組合  
 員ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ  
 爲ス但シ第二十三條第一項第一  
 號、第二號、第四號、第五號及  
 第七號ニ掲グル事項ノ議決ハ總  
 組合員ノ半数以上ニシテ議決權  
 總數ノ半数以上ニ當ル組合員出  
 席シ其ノ議決權ノ三分ノ二以上  
 ノ多數ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要  
 ス  
 第二十六條 組合員ハ出資一口以  
 上ヲ有スベシ  
 組合員ノ有スベキ出資口數ハ五  
 十口ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ特  
 別ノ事由アルトキハ定款ノ定ム  
 ル所ニ依リ之ヲ増加スルコトヲ  
 得  
 第二十七條 組合員ノ責任ハ第十

九條ノ規定ニ依リ費用負擔ノ外  
 出資額ヲ限度トス  
 造船組合ハ定款ニ依リ組合財產  
 ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト  
 能ハザル場合ニ於テ組合員ノ全  
 員ガ其ノ出資ノ外一定ノ金額ヲ  
 限度トシテ組合ノ債權者ニ對シ  
 責任ヲ負擔スルモノト爲スコト  
 ヲ得  
 第二十八條 造船組合ハ組合員ニ  
 於ケル事業ノ統制ヲ行フ場合ニ  
 於テハ之ニ關スル規程ヲ定ムベ  
 シ  
 政府ハ必要アリト認ムルトキハ  
 造船組合ニ對シ前項ノ規程ノ變  
 更ヲ命ズルコトヲ得  
 第二十九條 造船事業ノ健全ナル  
 發達ヲ圖ル爲メ必要アリト認ムル  
 トキハ政府ハ造船組合ニ對シ必  
 要ナル事業ヲ行フベキコトヲ命  
 ズルコトヲ得  
 第三十條 造船事業ノ健全ナル發  
 達ヲ圖ル爲メ必要アリト認ムルト  
 キハ政府ハ造船組合ノ組合員ニ  
 對シ其ノ組合ノ統制ニ從フベキ

コトヲ命ジ又ハ命令ノ定ムル所  
 ニ依リ組合員ニ非ズシテ組合員  
 タル資格ヲ有スル者ヲシテ其ノ  
 組合ノ組合員タラシムルコトヲ  
 得  
 第三十一條 政府ハ必要アリト認  
 ムルトキハ造船組合ニ對シ定款  
 收支決算及ハ經費ノ分賦收入方  
 法ノ變更ヲ命ズルコトヲ得  
 第三十二條 造船組合ノ事業ノ發  
 達ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ  
 組合ノ行爲ガ法令、定款若ハ政  
 府ノ命令ニ違反シタルトキ若ハ  
 害スルノ虞アリト認ムルトキハ  
 政府ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得  
 一 總會ノ決議ノ取消  
 二 役員ノ解任  
 三 事業ノ停止  
 四 解散  
 第三十三條 造船組合ハ左ノ事由  
 ニ因リテ解散ス  
 一 存立ノ期間ノ満了其ノ他定  
 款ニ定メタル事由ノ發生  
 二 總會ノ決議  
 三 合併

四 破産  
 五 政府ノ解散命令  
 第三十四條 造船組合ハ其ノ共同  
 ノ目的ヲ達スル爲メ造船組合聯合  
 會ヲ設立スル事ヲ得  
 造船組合聯合會ハ他ノ造船組合  
 聯合會又ハ造船組合ト其ノ共同  
 ノ目的ヲ達スル爲メ更ニ造船組合  
 聯合會ヲ設立スルコトヲ得  
 造船組合聯合會ハ法人トス  
 第三十五條 造船組合聯合會ヲ設  
 立セントスルトキハ會員タルベ  
 キ資格ヲ有スル組合又ハ聯合會  
 ノ中會員タルトスル者ニ於テ  
 選任シタル創立委員ヲ以テ創立  
 委員會ヲ開キ定款其ノ他必要ナ  
 ル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府  
 ノ認可ヲ受クベシ  
 第三十六條 第十八條、第十九條  
 第二十條第三項、第二十一條乃  
 至第三十三條ノ規定ハ造船組合  
 聯合會ニ付之ヲ準用ス  
 第三十七條 造船組合及造船組合  
 聯合會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ  
 登記ヲ爲スコトヲ要ス  
 前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事

項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以  
 テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ  
 第三十八條 造船組合及造船組合  
 聯合會ハ所得稅及營業收益稅ヲ  
 課セズ  
 第三十九條 民法第五十一條第二  
 項、第五十二條第二項、第五十  
 四條、第五十五條、第五十九條  
 第三號第四號、第六十條乃至第  
 六十四條及第六十六條ノ規定ハ  
 造船組合及造船組合聯合會ニ付  
 之ヲ準用ス  
 第四十條 本法ニ規定スルモノノ  
 外造船組合及造船組合聯合會ニ  
 關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ  
 之ヲ定ム  
 第四十一條 政府ハ造船會社、造  
 船組合又ハ造船組合聯合會ヲシ  
 テ業務及財產ノ狀況ニ關シ報告  
 ヲ爲サシムルコトヲ得  
 政府ハ造船會社、造船組合又ハ  
 造船組合聯合會ニ對シ業務及會計ニ  
 關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ  
 又ハ處分ヲ爲スコトヲ得  
 第四十二條 本法ハ勅令ノ定ムル

所ニ依リ船舶、船舶用機器又ハ  
 機製品ノ製造又ハ修繕ヲ爲ス事  
 業ニシテ第一條ノ造船事業ニ屬  
 セザルモノニ付之ヲ準用ス  
 第四十三條 第二條ノ規定ニ違反  
 シ許可ヲ受ケズシテ造船事業ヲ  
 營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金  
 ニ處ス  
 第四十四條 造船會社左ノ各號ノ  
 一 該當スルトキハ二千圓以下  
 ノ罰金ニ處ス  
 一 第五條第一項ノ規定ニ違反  
 シ事業ヲ開演シ、廢止シ又ハ休  
 止シタルトキ  
 二 第十條ノ規定ニ依リ命令ニ  
 違反シ本邦ニ於テ製造セラレ  
 タルニ非ザル物ヲ使用シタル  
 トキ  
 三 第十二條第二項ノ規定ニ違  
 反シ規格ニ適合セザルモノヲ  
 製造シ又ハ船舶ニ使用シタル  
 トキ  
 四 第十四條又ハ第十五條第一  
 項ノ規定ニ依リ命令ニ違反シ  
 タルトキ

五 第三十條ノ規定ニ依リ命令  
 ニ違反シ組合ノ統制ニ從ハザ  
 ルトキ  
 第四十五條 造船會社左ノ各號ノ一  
 一 該當スルトキハ五百圓以下ノ  
 罰金ニ處ス  
 一 第四十一條第一項ノ規定ニ  
 依リ報告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ  
 報告ヲ爲シタルトキ  
 二 第四十一條第二項ノ規定ニ  
 依リ命令又ハ處分ニ違反シタ  
 ルトキ  
 第四十六條 造船事業ヲ營ム者ハ  
 其ノ代理人、戶主、家族、雇人  
 其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關  
 シ第四十三條乃至前條ノ違反行  
 爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮  
 ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰  
 ヲ免ルルコトヲ得ズ  
 第四十七條 第四十三條乃至第四  
 十五條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナ  
 ルトキハ理事、取締役其ノ他ノ  
 法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、  
 未成年者又ハ禁治產者ナルトキ  
 ハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス



但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十八條 造船組合又ハ造船組合聯合會ノ理事、監事又ハ清算人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ要求シ又ハ約東シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行為ヲ爲シ又ハ相當ノ行為ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第四十九條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付シ、提供シ又ハ約東シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

罰項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第五十條 造船會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ取締役又ハ其ノ職務ヲ行フ監査役ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス

一 第七條ノ規定ニ違反シ準備金ノ積立ヲ爲サズ又ハ之ヲ同條ニ規定スル以外ノ目的ニ使用シタルトキ

二 第八條ノ規定ニ違反シ社價ヲ募集シ又ハ補償ノ償還ヲ爲サザルトキ

第五十一條 左ノ場合ニ於テハ造船組合又ハ造船組合聯合會ノ理事又ハ監事ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二 本法ニ依リ政府ノ徵收スル報告ヲ爲サズ又ハ本法ニ依リ政府ノ命令若ハ處分ニ從ハザルトキ

三 本法ニ依ル總會ノ招集ヲ怠リタルトキ

四 本法ニ依リ備置クベキ書類ヲ備置カザルトキ又ハ其ノ書類ニ記載セザルトキ

第五十二條 第三十七條及第四十條ノ規定ニ基キテ發シタル勅令ニ於テハ之ニ違反シタル者ヲ五百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得

第五十三條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ第五十條乃至前條ノ過料ニ付テ之ヲ準用ス

附則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ第三條中有限會社ニ關スル規定ハ有限會社法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

ノ處分ノ日迄亦前項ニ同シ  
登錄稅法第十九條第七號中「貿易組合中央會」ノ下ニ「造船組合聯合會」ヲ、「貿易組合」ノ下ニ「造船事業法」ヲ加フ

【參照】  
明治三十三年三月七日公布法律第二十九號土地收用法抄錄

第二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノナルコトヲ要ス

一 國防其ノ他軍事ニ關スル事業  
二 皇室陵墓ノ營繕又ハ神社若ハ官公署ノ建設ニ關スル事業  
三 社會事業又ハ教育若ハ學藝ニ關スル事業  
四 鐵道、軌道、索道、專用自動車、道路、橋梁、河川、堤防、砂防、運河、用水路、水池、船渠、港灣、埠頭、水道、下水、國立公園、市場電氣裝置、瓦斯裝置又ハ火葬場ニ關スル事業

海運組合法

(昭和十四年四月四日) 法律第六十九號

第一條 本法ニ於テ海運業トハ左ニ掲グル事業ヲ謂フ  
一 船舶ニ依リ人又ハ物ヲ運送スル事業  
二 船舶ノ貸渡(期間備船ヲ含ム)ヲ爲ス事業  
三 船舶ニ依リ人若ハ物ノ運送ニ關スル仲立業又ハ船舶ノ貸渡(期間備船ヲ含ム)若ハ買賣ニ關スル仲立業

前項ノ船舶ニハ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶、漁船其ノ他勅令ヲ以テ定ムル船舶ヲ包含セズ

第二條 海運業者ハ其ノ事業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲メ海運組合ヲ

設立スルコトヲ得  
海運組合ハ法人トス  
第三條 海運組合ノ組合員タルコトヲ得ル海運業者ハ内地ニ住所又ハ本店若ハ主タル事務所ヲ有スル者トス

海運組合ハ前項ノ規定ニ拘ラズ政府ノ認可ヲ受ケ外ニ住所又ハ本店若ハ主タル事務所ヲ有スル海運業者ヲ組合員ト爲スコトヲ得

第四條 海運組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得  
一 組合員ノ事業ノ爲ニスル共同施設  
二 組合員間ニ於ケル事業ノ統制  
三 組合員間ニ於ケル事業ニ關スル紛争ノ解決ノ斡旋  
四 組合員ノ事業ニ關スル證明及鑑定  
五 組合員ノ事業ニ關スル指導研究及調査

第六條 前各號ニ掲グルモノノ外組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル

事業  
海運組合ハ營利ヲ目的トシテ其ノ事業ヲ行フコトヲ得ズ  
第五條 海運組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ分賦シ過意金ヲ課スルコトヲ得

第六條 海運組合ヲ設立セントスルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合ノ組合員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ヲ以テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受ケベシ

第七條 創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ設立同意者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第八條 設立同意者ハ創立總會ニ於テ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ

行フコトヲ得  
前項ノ代理人ハ設立同意者タルコトヲ要ス但シ法人タル設立同意者ハ其ノ業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ヲ代理人ト爲スコトヲ得

第九條 海運業ノ統制ヲ圖ル爲メニ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ハ豫メ組合員タルベキ資格ヲ定メ其ノ資格ヲ有スル者ニ對シ海運組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ海運組合ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ指定スル期限ニ設立ノ認可ヲ申請スベシ

第十條 前條第二項ノ規定ニ依リ認可申請アリタル場合ニ於テ定款其ノ他必要ナル事項ニシテ著シク不相當ト認ムルモノアルト



キハ政府ハ之ニ變更ヲ加ヘテ認可ヲ爲スコトヲ得  
前條第二項ノ規定ニ依リ認可申請ナキトキハ政府ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 海運組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス

第十二條 第九條第一項又ハ第十條第二項ノ規定ニ依リ海運組合成立シタルトキハ組合員タルベキ資格ヲ有スル者ハ其ノ組合ノ組合員トス

第十三條 政府第十條第二項ノ規定ニ依リ定款ヲ作成シタルトキハ海運組合ノ理事及監事ヲ命ズ前項ノ理事ハ選擧ナク組合員總會ヲ召集スベシ

第十四條 政府ハ海運業ノ統制ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ

命令ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ非ズシテ組合員タル資格ヲ有スル者ヲシテ海運組合ノ組合員トラシムルコトヲ得  
第十五條 海運組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 目的  
二 名稱  
三 事務所ノ所在地  
四 組合員タル資格ニ關スル規定  
五 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定

六 役員ニ關スル規定  
七 事業ノ執行ニ關スル規定  
八 會議ニ關スル規定  
九 組合員ノ權利義務及經費ノ分擔ニ關スル規定

十 會計及財産ニ關スル規定  
十一 存立ノ期間又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ期間又ハ事由  
第十六條 海運組合ニハ理事及監事ヲ置クベシ

收入方法ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得  
第二十四條 海運組合ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行為ガ法令、定款若ハ政府ノ命令ニ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ政府ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 總會ノ決議ヲ取消  
二 役員ノ解任  
三 事業ノ停止  
四 解散  
第二十五條 海運組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一 存立ノ期間ノ満了其ノ他定款ニ定メタル事由ノ發生  
二 總會ノ決議  
三 破産  
四 政府ノ解散命令  
第二十六條 海運組合ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲海運組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

聯合會又ハ海運組合ト其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲更ニ海運組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得  
海運組合聯合會ハ法人トス  
第二十七條 海運組合聯合會ヲ設立セントスルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會員タルベキ資格ヲ有スル組合員ハ聯合會ノ中會員タルトスル者ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ第二十九條ニ於テ準用スル第九條第一項ノ規定ニ依リ海運組合聯合會ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ其ノ組合及聯合會ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ命令ノ定ムル所ニ依リ創立委員會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クベシ

第二十八條 創立委員會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ創立委員總數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス第八條ノ規定ハ創立委員ニ付之ヲ準用ス  
第二十九條ニ於テ準用スル第九條第一項ノ規定ニ依リ海運組合

聯合會ニ付テハ前二項ノ規定ニ拘ラズ創立委員會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ出席シタル創立委員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス  
第二十九條 第四條、第五條、第九條第一項及第十條乃至第二十五條ノ規定ハ海運組合聯合會ニ付之ヲ準用ス  
第三十條 海運組合聯合會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ  
第三十一條 海運組合及海運組合聯合會ノ清算ニ關シ必要ナル事ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第三十二條 海運組合及海運組合聯合會ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セズ

第三十三條 民法第五十一條第二項、第五十二條第二項、第五十四條、第五十五條、第五十九條第三號、第四號、第六十條乃至第六十二條

於テハ之ニ關スル規程ヲ定ムベシ  
政府ハ必要アリト認ムルトキハ海運組合ニ對シ前項ノ規程ノ變更ヲ命ズルコトヲ得  
第二十一條 海運業ノ經營ニ關スル弊害ヲ預防シ若ハ矯正スル爲又ハ其ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ政府ハ海運組合ニ對シ必要ナル事業ヲ行フベキコトヲ命ズルコトヲ得  
第二十二條 海運業ノ經營ニ關スル弊害ヲ預防シ若ハ矯正スル爲又ハ其ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ政府ハ海運組合ノ組合員ニ對シ又ハ組合員及組合員ニ非ザルモ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ其ノ組合ノ統制ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得  
第二十三條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ海運組合ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ、業務執行又ハ財産ノ狀況ヲ検査シ、定款、收支豫算又ハ經費ノ分賦

受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ぜズ  
理事ハ組合ノ業務ニ付組合ヲ代表ス  
監事ハ組合ノ業務ヲ監督ス  
理事ト監事トハ相兼ヌルコトヲ得ズ  
組合ト理事ト利益相反スル事項ニ付テハ監事組合ヲ代表ス  
理事缺ケタルトキハ監事其ノ職務ヲ行フ但シ其ノ期間ハ三月ヲ超ユルコトヲ得ズ  
理事ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ政府ハ假理事ヲ選任シ理事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得  
第一項ノ規定ニ依リ役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

第十七條 左ニ掲グル事項ハ總會ノ議決ヲ要ス  
一 定款ノ變更  
二 收支豫算及經費ノ分賦收入方法  
三 業務報告及收支決算ノ承認  
四 第二十條第一項ノ規程ノ制定及變更

第十八條 組合員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付二個以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得  
第十九條 總會ノ議決ハ定款ノ定ムル所ニ依リ出席シタル組合員ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第十七條第一項第一號、第二號及第四號乃至第六號ニ掲グル事項ノ議決ハ總組合員ノ半数以上ニシテ議決權總數ノ半数以上ニ當ル組合員出席シ其ノ議決權ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス  
第二十條 海運組合ハ組合員間ニ於ケル事業ノ統制ヲ製フ場合ニ

定及變更  
五 海運組合聯合會ノ設立、加入及脱退  
六 解散  
前項第一號、第四號及第六號ニ掲グル事項ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ぜズ

定及變更  
五 海運組合聯合會ノ設立、加入及脱退  
六 解散  
前項第一號、第四號及第六號ニ掲グル事項ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ぜズ

定及變更  
五 海運組合聯合會ノ設立、加入及脱退  
六 解散  
前項第一號、第四號及第六號ニ掲グル事項ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ぜズ

定及變更  
五 海運組合聯合會ノ設立、加入及脱退  
六 解散  
前項第一號、第四號及第六號ニ掲グル事項ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ぜズ

定及變更  
五 海運組合聯合會ノ設立、加入及脱退  
六 解散  
前項第一號、第四號及第六號ニ掲グル事項ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ぜズ

定及變更  
五 海運組合聯合會ノ設立、加入及脱退  
六 解散  
前項第一號、第四號及第六號ニ掲グル事項ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ぜズ

定及變更  
五 海運組合聯合會ノ設立、加入及脱退  
六 解散  
前項第一號、第四號及第六號ニ掲グル事項ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ぜズ

定及變更  
五 海運組合聯合會ノ設立、加入及脱退  
六 解散  
前項第一號、第四號及第六號ニ掲グル事項ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ぜズ

定及變更  
五 海運組合聯合會ノ設立、加入及脱退  
六 解散  
前項第一號、第四號及第六號ニ掲グル事項ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ぜズ

定及變更  
五 海運組合聯合會ノ設立、加入及脱退  
六 解散  
前項第一號、第四號及第六號ニ掲グル事項ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ぜズ



六十四條及第六十六條ノ規定ハ... 海運組合聯合會ニ付テハ... 但シ民法第十二條中五日トアルハ之ヲ十日トス

五年以下ノ懲役ニ處ス... 罰金ニ處ス... 罰金ニ處ス... 罰金ニ處ス

三 本法ニ依ル總會ノ招集ヲ... 四 本法ニ依リ備置タベキ書類... 第三十九條 第三十條及第三十一條ノ規定ニ基キテ...

第十九條 左ニ掲グルモノニハ... 露稅ヲ課セズ但シ第八號乃至第九號ノ四、第十一號、第十二號及第十四號乃至第十七號ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル

支那事變ニ際シ 徵備セラレタル 機船底曳網漁船 ノ代船ニ關スル 特別取扱

(昭和十四年一月十一日) 第一條 機船底曳網漁業ハ左ニ掲グル場合ニ於テハ機船底曳網漁業整理規則(以下規則ト稱ス)

ケタル者又ハ相續其ノ他之ニ... 准ズベキ事由ニ因リ其ノ漁業ヲ承繼シタル者當該許可船船ガ支那事變ニ際シ徵備中遭難其ノ他ノ不可抗力ニ因リ沈没其ノ他滅失シタル爲メ他ノ船舶ニ付許可ノ申請ヲ爲シタルトキ

ワ操業區域トスル機船底曳網漁業ノ許可ヲ受ケタル者若ハ船舶總噸數三十噸以上ノ船舶ニ付東經百三十度以西ノ海面ノミヲ操業區域トスル機船底曳網漁業ノ許可ヲ受ケタル者又ハ相續其ノ他之ニ準ズベキ事由ニ因リ其ノ業ヲ承繼シタル者ノ申請ニ對スル許可ノ場合ヲ除クノ外從前ノ規則第十六條ノ規定及別表ハ前項ノ區域ニ之ヲ準用ス

附則 則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス 國際電氣通信株式會社中改正 (昭和十四年四月十一日) 法律第八十三號

則條ニ定ムルモノノ外、政府ノ命令ニ依リ又ハ其ノ認可ヲ受ケ左ノ事業ヲ營ムコトヲ得 一 外國ニ於ケル電氣通信事業ノ經營 二 外國ニ於ケル電氣通信ノ設備及其ノ附屬設備ノ貸付 三 電氣通信ノ設備及其ノ附屬設備ノ建設及保守ノ請負 四 電氣通信ノ用品ノ製造及販賣 五 前四號ニ掲グル事業ニ對スル投資



法律一 國際電氣通信株式會社法中改正

府ノ許可ヲ受ケタルモノハ前項ノ規定ニ拘ラズ國際電氣通信株式會社ノ株主ト爲ルコトヲ得  
第六條 政府ハ國際電氣通信株式會社ニ對シ其ノ資本ノ半額ヲ限リ出資スルコトヲ得  
政府所有ノ株式ノ株金拂込ハ其ノ他ノ株式ノ株式拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ得  
政府ハ國ノ所有ニ屬スル第一條ニ掲グル設備及其ノ設備ヲ爲ス爲購入シタル土地ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ得  
第六條ノ二 前條ノ規定ニ依リ政府ニ於テ引受ケタル株式ノ拂込金ハ通信事業特別會計ノ資本助定ノ額出トス  
通信事業特別會計ニ屬スル財産ノ出資ニ因リ政府ノ取得シタル株式ハ同特別會計ノ資本所屬物トス  
第八條 政府ハ國際電氣通信株式會社ノ設備ヲ使用シタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ該設備使用ニ對シ國際電氣通信株式會社ニ交付金ヲ交付ス  
第八條ノ二 國際電氣通信株式會社ハ前法ニ規定スル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ三倍ヲ超ユルコトヲ得ズ  
社債ヲ募集スル場合ニ於ケル株主總會ノ決議ハ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得  
第八條ノ三 政府ハ社債ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得  
前項ノ保證ニ因ル政府ノ支出金ハ通信事業特別會計ノ業務助定ノ額出トス  
第十二條中「主務大臣」ヲ「政府」ニ「電氣通信ノ設備若ハ其ノ附屬設備」ヲ「第一條ニ掲グル設備」ニ改ム  
第十二條ノ二 政府ハ公益上必要アリト認ムルトキハ國際電氣通信株式會社ニ對シ電氣通信ノ技術ノ研究ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得  
第十二條ノ三 國際電氣通信株式會社ハ命令ノ定ムル技術者ヲ選任シ技術ニ關スル事項ヲ擔任セシムベシ政府ハ前項ノ技術者ガ其ノ職務ヲ怠リ又ハ其ノ職務ヲ行フ當リ不當ナル行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ解任ヲ命ズルコトヲ得  
第十二條ノ四 國際電氣通信株式會社社債ヲ募集セシムトスルトキ又ハ借入金ヲ爲サムトスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ  
第十二條ノ五 國際電氣通信株式會社事業計畫ヲ設定シ又ハ變更セムトスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ  
第十三條 取締役及監査役ノ選任及解任、定款ノ變更、利益金ノ處分、合併解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ  
政府ハ國際電氣通信株式會社ノ決議又ハ取締役若ハ監査役ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ取締役若ハ監査役ヲ解任スルコトヲ得  
第十三條ノ二 國際電氣通信株式會社ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ退職後五年間ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ國際電氣通信株式會社ノ取締役及監査役ト爲ルコトヲ得ズ  
第十四條中「主務大臣」ヲ「政府」ニ改ム  
第十四條ノ二 政府ハ國際電氣通信株式會社監理官ヲ置キ國際電氣通信株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得  
第十四條ノ三 國際電氣通信株式會社監理官ハ何時ニテモ國際電氣通信株式會社ニ命ジ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

國際電氣通信株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得  
第十四條ノ四 國際電氣通信株式會社ハ每營業期ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セズ  
第十四條ノ五 國際電氣通信株式會社勅令ノ定ムル營業期及爾後ノ每營業期ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超エテ配當シ得ベキ利益金額ヲ爲サトスルトキハ其ノ超過スル利益金額ハ利益配當ガ總株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ一ト五ト  
第十四條ノ六 國際電氣通信株式會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ昭和十五年一月一日ヨリ十年間ノ通信ケーブル設備ヲ以テ營業事業ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス  
第十四條ノ七 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得稅及營業收益稅ヲ免除セラレタル國際電氣通信株式會社ノ事業ニ對シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
第十四條ノ八 國際電氣通信株式會社左ノ事項ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登録稅ノ額ハ左ノ額トス  
一 第六條第三項ニ規定スル出資ニ因ル資本ノ増加増資拂込株金額ノ千分ノ一  
二 第六條第三項ニ規定スル出資ニ基ク不動產ニ關スル權利ノ取得  
三 不動產ノ價格ノ千分ノ三  
第十四條ノ九 電氣線電話線建設條例ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ國際電氣通信株式會社ガ第一條ニ掲グル設備ノ建設及保守ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス  
第十六條第一項ヲ左ノ如ク改ム  
國際電氣通信株式會社ガ本法若ハ本法ニ基キテ設スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ取締役又ハ其ノ職務ヲ行フ監督役ヲ百圓以上五千圓以下ノ過料ニ處ス  
第十六條ノ二 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ權太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ爲スコトヲ得  
附 則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
政府國際電氣通信株式會社法第六條第三項ノ規定ニ依リ出資ヲ爲サントスルトキハ出資ノ目的タル財產ノ價格及之ニ對シテ與フル株式ノ數ニ付政府出資財產評價委員會ノ議ヲ經ベシ  
政府出資財產評價委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
政府ハ一般會計ニ屬スル國際電氣通信株式會社ノ株式ヲ有ニテ通信事業特別會計ニ保管換ヲ爲スコトヲ得前項ノ規定ニ依リ保管換ヲ爲ス株式ノ對價タル支出金ハ通信事業特別會計ノ資本助定ノ額出トシ其ノ株式ハ同特別會計ノ資本所屬

法律一 國際電氣通信株式會社法中改正



法律—地方鐵道法中改正

屬物件トス

【參照】  
大正十四年三月三十日公布法律  
第三十號國際電氣通信株式會社  
法抄錄

- 第一條 國際電氣通信株式會社ハ  
國際電氣通信ノ取扱ノ爲ニスル  
電氣通信ノ設備及其ノ附屬設備  
ヲ爲シ之ヲ政府ノ用ニ供スルコ  
トヲ目的トスル株式會社トス
- 第二條 國際電氣通信株式會社ハ  
則條ニ定ムルモノノ外主務大臣  
ノ命令ニ依リ又ハ其ノ認可ヲ受  
ケ左ノ事業ヲ營ムコトヲ得
- 一 外國ニ於ケル電氣通信事業  
ノ經營
- 二 外國ニ於ケル無線電氣又ハ  
無線電話ノ設備ノ貸付及工事  
ノ經營
- 三 無線電氣又ハ無線電氣ノ用  
品ノ製造及販賣
- 四 前二號ニ掲グル事業ニ對ス  
ル投資
- 第三條 國際電氣通信株式會社ノ  
資本金ハ二千萬圓トス但シ主務

大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スル  
コトヲ得

- 第四條 國際電氣通信株式會社ノ  
存立期間ハ設立登記ノ日ヨリ五  
十年トス但シ主務大臣ノ認可ヲ  
受ケ之ヲ延長スルコトヲ得
- 第五條 國際電氣通信株式會社ノ  
株式ハ記名式トシ政府公共團體  
帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リテ  
設立シタル法人ニシテ其ノ議決  
權ノ過半數ガ外國人又ハ外國法  
人ニ屬セザルモノニ限リ之ヲ所  
有スルコトヲ得
- 第六條 政府ハ外國無線電報  
ノ取扱ノ爲ニスル國有ノ無線電  
信局設備及其ノ附屬設備無線  
電信局設置ノ爲購入シタル土地  
ヲ以テ投資ノ目的ト爲スコトヲ  
得
- 第八條 政府ハ國際電氣通信株式  
會社ノ設備ヲ使用シ之ニ依リテ  
取扱ヒタル電氣通信ノ料金中本  
邦取得分ニ當ルモノノ一部ヲ勅  
令ノ定ムル所ニ依リ該設備使用  
ニ對シ國際電氣通信株式會社ニ

交付ス

- 第十二條 主務大臣ハ國際電氣通  
信株式會社ノ業務ニ關シ監督上  
必要ナル命令ヲナシ又ハ國際電  
氣通信ノ取扱上必要ナル電氣通  
信ノ設備若ハ其ノ附屬設備ヲ爲  
スベキコトヲ命ズルコトヲ得
- 國際電氣通信株式會社ガ則項ノ  
規定ニ依リテ主務大臣ノ命ジタ  
ル設備ヲ爲スコトヲ怠リタルト  
キハ第八條ノ規定ニ依リ交付金  
ノ一部ヲ交付セザルコトヲ得
- 第十三條 取締役及監査役ノ選任  
及解任定款ノ變更利益金ノ處分  
社債ノ募集合併及解散ノ決議ハ  
主務大臣ノ認可ヲ受タルニ非ザ  
レバ其ノ效力ヲ生セズ主務大臣  
ハ取締役カ法令定款又ハ主務大  
臣ノ命令ニ違反シタルトキハ之  
ヲ解任スルコトヲ得
- 第十四條 國際電氣通信株式會社  
ハ主務大臣ノ認可ヲ受タルニ非  
ザレバ其ノ所有スル電氣通信ノ

二三八

設備又ハ其ノ附屬設備ニ屬スル  
物件ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スル  
コトヲ得ズ

- 第十六條第一項  
國際電氣通信株式會社左ノ各號  
ノ一ニ該當スルトキハ取締役又  
ハ其ノ職務ヲ行フ監査役ヲ百圓  
以上千圓以下ノ科料ニ處ス
- 一 主務大臣ノ命令ニ依リ又ハ  
其ノ認可ヲ受ケタルニ非ズシ  
テ第二條ニ掲グル事業ヲ營ミ  
タルトキ
- 二 主務大臣ノ命令ニ違反シタ  
ルトキ
- 三 本法ニ規定セザル事業ヲ營  
ミタルトキ

地方鐵道法中改正

(昭和十四年三月二十二日)  
法律第十九號

- 第六條 前條  
第六條ノ二乃至第六條ノ五ヲ削リ  
第二十五條 主務大臣ハ公益上必  
要アリト認ムルトキハ地方鐵道

乘者ニ他ノ陸上運送事業者ト連  
絡運輸、直通運輸、運賃協定其  
ノ他運輸ニ關スル協定ヲ爲スベ  
キコトヲ命ズルコトヲ得

- 則項ノ場合ニ於テ設備ノ共用又  
ハ變更、運輸ノ手續、運賃ノ制  
合、費用ノ負擔其ノ他ノ事項ニ  
付協議調ハザルトキハ申請ニ因  
リ主務大臣之ヲ裁定ス
- 第三十一條第一項中「時價ニ  
依リテ國債券面金額ニ換算シタ  
ル金額」ヲ削リ
- 同條第二項中「建設費時價ニ  
依リテ國債券面金額ニ換算シタ  
ル金額ニ連セザルトキハ其ノ換  
算シタル金額」ヲ「建設費ニ連  
セザルトキハ其ノ建設費」ニ改  
ム
- 第三十三條第一項中「時價ニ依リ  
テ國債券面金額ニ換算シ」ヲ削  
ル
- 第三十五條 買收代價ハ國債證券  
ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得此  
ノ場合ニ於テ二十五圓未満ノ端  
數ヲ生ジタルトキハ之ヲ圓面金

法律—地方鐵道法中改正

額二十五圓トス  
則項ニ依リ交付スル國債證券ノ  
交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏  
大臣之ヲ定ム

- 第三十六條ノ二中「時價ニ依リ  
テ國債券面金額ニ換算シタル金  
額」ヲ削リ
- 第三十六條ノ三第一項中「百分ノ  
七」ヲ「百分ノ五」ニ改ム
- 第三十六條ノ五ヲ削リ
- 第三十九條第一項第五號及第二項  
ヲ削リ

附 則

- 勅令第二百二十五號  
昭和十四年法律第十九號中地方鐵  
道法第二十五條、第三十一條、第  
三十三條、第三十五條、第三十六  
條ノ二、第三十六條ノ三及第三十  
六條ノ五ノ改正ニ關スル規定並ニ  
附則第二項ノ規定ハ昭和十四年四  
月二十五日ヨリ其ノ他ノ規定ハ昭  
和十三年法律第七十二號施行ノ日  
ヨリ之ヲ施行ス
- 【參照】  
昭和十三年四月五日公布法律第

七十二號ハ商法中改正ノ件ナリ  
昭和九年法律第二十二號ハ之ヲ  
廢止ス

- 第七十二號ハ商法中改正ノ件ナリ  
昭和九年法律第二十二號ハ之ヲ  
廢止ス
- 【參照】  
大正八年四月十日公布法律第五  
十二號地方鐵道法抄錄
- 第六條 地方鐵道會社ハ株金全額  
拂込前ト雖監督官廳ノ認可ヲ受  
ケ線路ノ延長又ハ改良ノ費用ニ  
充ツル爲其ノ資本ヲ増加スルコ  
トヲ得但シ軌道會社ニ非ザル會  
社ガ營業トシテ地方鐵道ヲ敷設  
スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 第六條ノ二 地方鐵道會社ハ線路  
延長ノ費用ニ充ツル爲其ノ資本  
ヲ増加スル場合各ニ限リ監督官廳  
ノ認可ヲ受ケ利益配當ニ關シ一  
定ノ期間内普通株ニ劣ル株式後  
配株ヲ發行スルコトヲ得
- 第六條ノ三 後配株ヲ發行スル場  
合ニ於テハ其ノ旨ヲ定款ニ記載  
シ且株式申込證ニ左ノ事項ヲ記  
載スルコトヲ要ス
- 一 後配株ノ種類及其ノ各種ノ  
株式ノ數

二 後配株ノ利益配當ニ關スル  
事項

- 三 延長線ノ工事ノ大要殊ニ其  
ノ開業豫定期間
- 第六條ノ四 後配株ノ發行ニ依リ  
テ得タル資金ハ當該線路延長ノ  
費用以外ニ之ヲ充ツルコトヲ得  
ズ
- 會社ガ後配株ヲ發行シタル場合  
ニ於テ定款又ハ株式申込證ニ記  
載シタル事項ニ付特ニ後配株主  
ニ不利ナル變更ヲ爲サルトス  
ルトキハ後配株主總會ノ決議ヲ  
經ルコトヲ要ス但シ已ムコトヲ  
得ザル事由アル場合ニ於テ裁判  
所ノ許可アルトキハ此ノ限ニ在  
ラズ
- 後配株主總會ニハ株主總會ニ關  
スル規定ヲ準用ス
- 第六條ノ五 舊法第九十七條但  
書第二十二條ノ三第二項第二  
百十七條第一項第四號及第二百  
十八條第二項ノ規定ハ後配株ニ  
付之ヲ準用ス
- 第二十五條 主務大臣ハ公益上必  
要アリト認ムルトキハ地方鐵道

二二二九



法律—地方鐵道法中改正

要アリト認ムルトキハ地方鐵道業者ニ他ノ鐵道又ハ軌道トノ運路運輸又ハ直通運輸ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ設備ノ共用又ハ變更、運輸ノ手續、運賃ノ割合及費用ノ負擔ニ付協議ハザルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ規定ス

第三十一條 買收價額ハ左ニ掲グルモノトス

一 最近ノ營業年度末迄ニ運輸開始後三年ヲ經過シタル線路ヲ含ム開業線路ニ付テハ其ノ營業年度末ヨリ遡リ既往三年間ニ於ケル開業線建設費ニ對シテ平均割合ヲ買收ノ日ニ於ケル開業線建設費ニ乗シタル額ヲ二十倍シタル金額トス

二 最近ノ營業年度末迄ニ運輸開始後三年ヲ經過シタル線路ヲ含マザル開業線路ニ付テハ買收ノ日ニ於ケル開業線建設費ヲ時價ニ依リテ國債券面金額ニ換算シタル金額以内ニ於テ

テ協定シタル金額ニ依リテ國債券面金額ニ換算シタル金額以内ニ於テ協定シタル金額ヲ以テ買收價額トス

第三十三條第一項 政府ノ買收スル鐵道又ハ其ノ附屬物件ニ付買收ノ日ニ於テ補修ヲ要スルモノアルトキハ之ニ要スル金額ヲ時價ニ依リテ國債券面金額ニ換算シ買收價額ヨリ控除ス

第三十五條 買收代價ハ券面金額ニ依リ五十五年以内償還スベキ五分利付國債證券ヲ以テ之ヲ交付ス、此ノ場合ニ於テ五十圓未満ノ端數ハ之ヲ券面金額五十圓トス

テ協定シタル金額

三 工事中ノ線路及買收ノ日迄ニ未ダ使用開始ニ至ラザル改良施設ニ付テハ買收ノ日ニ於ケル建設費ヲ時價ニ依リテ國債券面金額ニ換算シタル金額以内ニ於テ協定シタル金額

買收ノ日ニ於ケル建設費ヲ時價ニ依リテ國債券面金額ニ換算シタル金額以内ニ於テ協定シタル金額ヲ以テ買收價額トス

第三十三條第一項 政府ノ買收スル鐵道又ハ其ノ附屬物件ニ付買收ノ日ニ於テ補修ヲ要スルモノアルトキハ之ニ要スル金額ヲ時價ニ依リテ國債券面金額ニ換算シ買收價額ヨリ控除ス

第三十五條 買收代價ハ券面金額ニ依リ五十五年以内償還スベキ五分利付國債證券ヲ以テ之ヲ交付ス、此ノ場合ニ於テ五十圓未満ノ端數ハ之ヲ券面金額五十圓トス

第三十六條ノ二 第三十三條ノ規定ニ準ジテ算出シタル金額ヨリ殘存物件ノ價額ヲ時價ニ依リテ國債券面金額換算シタル金額ヲ控除シタル殘額以内ニ於テ政府之ヲ定ム

未ダ工事を著手セザル線路ニ對スル補償金額ハ測量其ノ他ノ費用ヨリ殘存物件ノ價額ヲ控除シタル殘額ヲ時價ニ依リテ國債券面金額ニ換算シタル金額以内ニ於テ政府之ヲ定ム

第三十五條及第三十五條ノ二ノ規定ハ前二項ノ補償金ノ支拂ニ付テ之ヲ準用ス

第三十六條ノ三第一項 政府ニ於テ地方鐵道ニ接近シ又ハ並行シテ鐵道ヲ敷設シタル爲メ地方鐵道ノ營業年度ニ於ケル益金又ハ益金ト地方鐵道補助法ニ依リ受クル補助金トノ合計ガ當該營業年度ノ建設費ニ益金ノ平均割合ヲ乘シタル額ニ不足ス

トス

第三十六條ノ二 第三十三條ノ規定ニ準ジテ算出シタル金額ヨリ殘存物件ノ價額ヲ時價ニ依リテ國債券面金額換算シタル金額ヲ控除シタル殘額以内ニ於テ政府之ヲ定ム

未ダ工事を著手セザル線路ニ對スル補償金額ハ測量其ノ他ノ費用ヨリ殘存物件ノ價額ヲ控除シタル殘額ヲ時價ニ依リテ國債券面金額ニ換算シタル金額以内ニ於テ政府之ヲ定ム

第三十五條及第三十五條ノ二ノ規定ハ前二項ノ補償金ノ支拂ニ付テ之ヲ準用ス

第三十六條ノ三第一項 政府ニ於テ地方鐵道ニ接近シ又ハ並行シテ鐵道ヲ敷設シタル爲メ地方鐵道ノ營業年度ニ於ケル益金又ハ益金ト地方鐵道補助法ニ依リ受クル補助金トノ合計ガ當該營業年度ノ建設費ニ益金ノ平均割合ヲ乘シタル額ニ不足ス

第三十九條 左ノ場合ニ於テハ地方鐵道業者又ハ其ノ役員若ハ使用人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 前項ノ場合ヲ除クノ外本法ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケベキ事項ヲ許可又ハ認可ヲ受ケズシテ爲シタルトキ

二 法令ニ基キテ爲シタル命令又ハ特許許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

二四〇

ルトキハ政府ハ政府ノ該鐵道運輸開始ノ日ヨリ五年ヲ限リ帝國鐵道特別會計收益勘定簿出算ノ範圍内ニ於テ其ノ不足額ヲ補償スルコトヲ得但シ每營業年度ニ於ケル補償額ハ益金又ハ益金及補助金ト合セ建設費ノ百分ノ七ニ相當スル額ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十六條ノ五 第三十一條第三十三條及第三十六條ノ二ノ國債時價ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

第三十九條 左ノ場合ニ於テハ地方鐵道業者又ハ其ノ役員若ハ使用人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 前項ノ場合ヲ除クノ外本法ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケベキ事項ヲ許可又ハ認可ヲ受ケズシテ爲シタルトキ

二 法令ニ基キテ爲シタル命令又ハ特許許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

三 監査員ノ職務ノ執行ヲ妨グルルトキ

四 法令又ハ法令ニ基キテ爲ス命令ニ依リテ爲スベキ届出、報告其ノ他ノ書類、圖面ノ提出若ハ圖面ヲ寫シ又ハ圖面ノ届出報告若ハ記載ヲ爲シタルトキ

五 第六條ノ四第一項ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シテ後配株主ニ利益ヲ及ボシタルトキ

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

昭和九年三月二十八日公布法律第二十號ハ地方鐵道法又ハ軌道法ニ依リ交付スル國債證券ニ關スル件ナリ

第十九條中「第三十三條ノ二」ヲ「第三十三條」ニ改ム

法律—軌道法中改正

第二十一條 軌道會社ノ株金ノ額一回拂込金額ハ株金ノ十分ノ一ニテ下ルコトヲ得但シ地方鐵道會社ニ非ザル會社ガ營業トシテ軌道ヲ敷設スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十五條中「地方長官」ノ下ニ「又ハ鐵道局長」ヲ加フ

第二十六條中「第六條ノ二乃至第八條」ヲ「第七條、第八條」ニ改ム

第三十六條ノ四及第三十六條ノ五「及第三十六條ノ四」ニ改ム

第二十九條第一項第五號及第二項ヲ削ル

勅令第二百二十六號 昭和十四年法律第二十號中軌道法第十九條及第二十五條ノ改正ニ關スル規定並ニ軌道法第二十六條ノ改正ニ關スル規定中地方鐵道法第三十六條ノ四及第三十六條ノ五ニ關スル部分ハ昭和十四年四月二十五日ヨリ、其ノ他ノ規定ハ昭和十三年法律第七十二號施行ノ日ヨリ

之ヲ施行ス

【參照】 大正十年四月十四日公布法律第七十六號軌道法抄録

第十九條 公共團體ガ第十七條ノ規定ニ依リ買收又ハ補償ヲ爲ス場合ニ於テハ買收價額又ハ補償金額ハ協定ニ依リ協議調ハザルトキハ申請ニ因リ地方鐵道法第三十一條乃至第三十三條ノ二又ハ第三十六條ノ二ノ規定ニ準ジ算出シタル金額ヲ標準トシテ主務大臣之ヲ規定ス

第二十一條 軌道會社ノ株金ノ額一回拂込金額ハ株金ノ十分ノ一ニテ下ルコトヲ得

軌道會社ハ株金全額拂込前ト雖主務大臣ノ認可ヲ受ケ線路ノ延長又ハ改良ノ費用ニ充ツル爲メ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得前二項ノ規定ハ地方鐵道會社ニ非ザル會社ガ營業トシテ軌道ヲ敷設スル場合ニハ之ヲ準用セズ

第二十五條 本法ニ規定スル主務大臣ノ職權ノ一部ハ命令ノ定ム

ル所ニ依リ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第二十六條 地方鐵道法第六條ノ二乃至第八條第十條第二項第十一條、第十五條、第十七條、第十九條第二項、第二十三條第二項第三項、第二十五條、第二十七條第三項乃至第三十六條ノ二、第三十六條ノ四及第三十六條ノ五ノ規定ハ軌道法ニ之ヲ準用ス但シ地方鐵道法第七條第二項及第八條中鐵道抵償法トアルハ明治四十二年法律第二十八號トス

第二十九條 左ノ場合ニ於テハ軌道會社又ハ其ノ役員若ハ使用人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 前項ノ場合ヲ除クノ外本法ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケベキ事項ヲ許可又ハ認可ヲ受ケズシテ爲シタルトキ

二 法令ニ基キテ爲シタル命令又ハ特許許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

二四一



地方鐵道法施行規則中改正

規則中改正

(昭和十四年八月三十一日)

第十八條中「監督官廳」ヲ「所管鐵道局長」ニ改ム  
第十九條及第二十條中「監督官廳」ヲ「鐵道大臣」ニ改ム  
第二十一條中「監督官廳」ヲ「鐵道大臣」ニ改ム  
其ノ理由ヲ具シ「所管鐵道局長」ニ「增加」ヲ加ヘ同條第一號中「增加」ヲ削リ同條ニ左ノ二項ヲ加フ  
認可ヲ受ケタル設計同一設計ニ依ル車輛ノ増加ニ付テハ其ノ理由ヲ具シ鐵道大臣ノ認可ヲ受ケベシ  
前二項ノ規定ニ依ル申請書ニ付テハ同時ニ其ノ副本ヲ所管鐵道局長ニ提出スベシ  
第二十二條中「監督官廳」ヲ「鐵道大臣」ニ改ム  
第二十三條第一項中「添附スベシ」ヲ「添附シ鐵道大臣ニ之ヲ提出スベシ」ニ改ム  
「添附シ鐵道大臣ニ之ヲ提出スベシ」ニ改ム  
此ノ場合ニ於テハ同時ニ其ノ副本ヲ所管鐵道局長ニ提出スベシ  
第二十四條中「又ハ口頭ヲ以テ」ニ改ム  
第二十五條第一項中「監督官廳」ヲ「鐵道大臣」ニ改ム同項ニ左ノ但書ヲ加フ  
但シ運輸開始後ニ於ケル假設工事ニシテ第十八條第一項各號ノ一ニ該當スルモノハ所管鐵道局長ニ之ヲ提出スベシ  
同條第二項中「之ヲ提出スベシ」ヲ「鐵道大臣ニ之ヲ提出スベシ」ニ改ム  
運輸開始後ニ於ケル假設工事ニ付テハ所管鐵道局長ニ之ヲ提出スベシニ改ム  
同條第三項中「假設工事ノ認可申請書及圖書ハ地方長官ヲ經由シ之ヲ提出スベシ」ヲ「假設工事ニ付テハ認可申請書及運輸開始前ニ於ケル地方長官ヲ經由シ之ヲ提出シ運輸開始後ニ於ケル圖書ハ地方長官及所管鐵道局長ニ之ヲ提出スベシ」ニ改ム  
同條ニ左ノ一項ヲ加フ  
運輸開始後ニ於ケル假設工事ノ認可申請書ニ付テハ同時ニ其ノ副本ヲ所管鐵道局長ニ提出スベシ

令ニ違反シタルトキ  
三 監督官ノ職務ノ執行ヲ妨ゲタルトキ  
四 法令又ハ法令ニ基キテ爲ス命令ニ依リテ爲スベキ届出報告其ノ他ノ書類圖面ノ提出若ハ圖製ヲ怠リ又ハ虚偽ノ届出報告若ハ記載ヲ爲シタルトキ  
五 第二十六條ニ於テ準用スル地方鐵道法第六條ノ四第一項ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シテ後配株主ニ不利益ヲ及ボシタルトキ  
非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス  
明治四十二年四月十三日公布法律第二十八號ハ軌道ノ抵當ニ關スル件ナリ

第九條第一項中「監督官廳」ヲ「鐵道大臣」ニ改ム  
同條第二項中「地方長官ヲ經由シ」ノ下ニ「鐵道大臣」ヲ加フ  
第十條第一項中「地方長官ヲ經由シ」ノ下ニ「鐵道大臣」ヲ加フ  
第十四條第二項中「第七號様式ニ依リ」ノ下ニ「鐵道大臣」ヲ加フ  
第十六條中「地方長官ヲ經由シ」ノ下ニ「鐵道大臣」ヲ加フ  
第十七條第一項中「監督官廳」ヲ「鐵道大臣」ニ改ム同項末尾ニ左ノ如ク加フ  
此ノ場合ニ於テハ運輸開始後ニ於ケル變更ニ限リ同時ニ認可申請書ノ副本ヲ所管鐵道局長ニ提出スベシ

第二十五條第一項中「監督官廳」ヲ「鐵道大臣」ニ改ム同項ニ左ノ但書ヲ加フ  
但シ運輸開始後ニ於ケル假設工事ニシテ第十八條第一項各號ノ一ニ該當スルモノハ所管鐵道局長ニ之ヲ提出スベシ  
同條第二項中「之ヲ提出スベシ」ヲ「鐵道大臣ニ之ヲ提出スベシ」ニ改ム  
運輸開始後ニ於ケル假設工事ニ付テハ所管鐵道局長ニ之ヲ提出スベシニ改ム  
同條第三項中「假設工事ノ認可申請書及圖書ハ地方長官ヲ經由シ之ヲ提出スベシ」ヲ「假設工事ニ付テハ認可申請書及運輸開始前ニ於ケル地方長官ヲ經由シ之ヲ提出シ運輸開始後ニ於ケル圖書ハ地方長官及所管鐵道局長ニ之ヲ提出スベシ」ニ改ム  
同條ニ左ノ一項ヲ加フ  
運輸開始後ニ於ケル假設工事ノ認可申請書ニ付テハ同時ニ其ノ副本ヲ所管鐵道局長ニ提出スベシ

第二十六條第一項中「監督官廳」ヲ「鐵道大臣」ニ改ム同條ニ左ノ一項ヲ加フ  
第一項ノ認可申請書ニ付テハ同時ニ其ノ副本ヲ所管鐵道局長ニ提出スベシ  
第二十七條 削除  
第二十八條 削除  
第二十九條 削除  
第三十條 會社合併ノ認可申請書ニハ合併ノ事由ヲ具シ連署ノ上左ノ書類ヲ添附シ地方長官ヲ經由シ鐵道大臣ニ之ヲ提出スベシ  
一 株主總會又ハ社員總會ノ議事及決議(書面ニ依ル決議ヲ含ム以下同ジ)ノ要領書、無限責任社員又ハ總社員ノ同意書ノ原本  
二 合併契約書ノ原本  
三 合併比率決定ノ説明書  
第三十一條中「監督官廳」ヲ「鐵道大臣」ニ改ム  
第三十二條第一項中「添附シ」ノ下ニ「鐵道大臣」ヲ加ヘ同項第一

第二十六條第一項中「監督官廳」ヲ「鐵道大臣」ニ改ム同條ニ左ノ一項ヲ加フ  
第一項ノ認可申請書ニ付テハ同時ニ其ノ副本ヲ所管鐵道局長ニ提出スベシ  
第二十七條 削除  
第二十八條 削除  
第二十九條 削除  
第三十條 會社合併ノ認可申請書ニハ合併ノ事由ヲ具シ連署ノ上左ノ書類ヲ添附シ地方長官ヲ經由シ鐵道大臣ニ之ヲ提出スベシ  
一 株主總會又ハ社員總會ノ議事及決議(書面ニ依ル決議ヲ含ム以下同ジ)ノ要領書、無限責任社員又ハ總社員ノ同意書ノ原本  
二 合併契約書ノ原本  
三 合併比率決定ノ説明書  
第三十一條中「監督官廳」ヲ「鐵道大臣」ニ改ム  
第三十二條第一項中「添附シ」ノ下ニ「鐵道大臣」ヲ加ヘ同項第一

第三十三條中「監督官廳」ヲ「鐵道大臣」ニ改ム同條ニ左ノ一項ヲ加フ  
前項ノ場合ニ於テハ同時ニ圖書ノ副本ヲ所管鐵道局長ニ提出スベシ  
第三十五條ノ二 前二條ノ認可申請書ハ所管鐵道局長ヲ經由シ鐵道大臣ニ之ヲ提出スベシ  
第三十六條中「監督官廳」ヲ「鐵道大臣」ニ改ム同條ニ左ノ一項ヲ加フ  
前項ノ規定ニ依ル認可申請書ハ所管鐵道局長ヲ經由シ之ヲ提出スベシ  
第三十七條中「前二條」ヲ「前四條」ニ改ム「添附シ」ノ下ニ「所管鐵道局長ヲ經由シ鐵道大臣」ヲ加フ  
第三十八條第一項中「監督官廳」ヲ

「鐵道大臣」ニ改ム同條ニ左ノ一項ヲ加フ  
一 株主總會又ハ社員總會ノ議事及決議ノ要領書、無限責任社員又ハ總社員若ハ組合員ノ同意書ノ原本  
第三十九條第一項中「記載スベシ」ヲ「記載シ所管鐵道局長ヲ經由シ鐵道大臣ニ之ヲ提出スベシ」ニ改ム  
同條第二項中「監督官廳」ヲ「所管鐵道局長ヲ經由シ鐵道大臣」ニ改ム同條第三項中「記載シ」ノ下ニ「所管鐵道局長ヲ經由シ鐵道大臣」ニ之ヲ提出スベシ  
第四十條中「添附スベシ」ヲ「添附シ所管鐵道局長ヲ經由シ鐵道大臣ニ之ヲ提出スベシ」ニ改ム  
第四十一條中「監督官廳」ヲ「所管鐵道局長ヲ經由シ鐵道大臣」ニ改ム同條ニ左ノ但書ヲ加フ  
但シ旅客列車及混合列車ノ運輸速度ノ變更ニシテ運輸速度ノ増加ヲ伴ハザルモノハ所管鐵道局長ノ認可ヲ受ケベシ  
第四十二條 前二條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル運輸速度及度數ヲ實施シタルトキハ其ノ月日ヲ運輸開始後ニ於ケル區別ニ依リ鐵道大臣又ハ所管鐵道局長ニ提出スベシ但シ鐵道大臣ニ提出スベキ圖書ハ所管鐵道局長ヲ經由シ之ヲ提出スベシ  
第四十二條ノ二中「監督官廳」ヲ「所管鐵道局長」ニ改ム  
第四十三條 貨物列車ノ運輸スルトキハ其ノ運輸速度、度數及設置時刻ヲ定メ設置時刻表、運行圖表及運輸速度表ヲ添附シ實施ノ月日ヲ所管鐵道局長ヲ經由シ鐵道大臣ニ提出スベシ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ  
貨物列車ノ運輸度數又ハ設置時刻ノ變更ニシテ運輸速度ノ増加ヲ伴ハザルモノハ所管鐵道局長ニ之ヲ提出スベシ  
第四十四條中「監督官廳」ヲ「所管鐵道局長」ニ改ム  
第四十五條 營業休止ノ許可申請書ハ其ノ理由ヲ具シ地方長官ヲ經由シ之ヲ提出スベシ  
營業休止ノ許可申請書及會社解



法律—地方鐵道法施行規則中改正

散ノ決議ノ認可申請書ニハ其ノ理由ヲ具シ株主總會又ハ社員總會ノ議事及決議ノ要領書、無償責任社員又ハ總社員若ハ組合員ノ同意書ノ謄本ヲ添附シ地方長官ヲ經由シ之ヲ提出スベシ

- 一 資本ノ總額
二 株式ノ總數
三 株主ノ總數
四 出席株主及委任株主ノ總數
五 出席株主及委任株主ノ有スル株式ノ總數並ニ其ノ議決權ノ簡數

二四四

第四十七條第一項中「又ハ口頭ヲ以テ」ノ下ニ「鐵道大臣及所管鐵道局長ニ」ヲ加ヘ「監督官廳」ヲ「所管鐵道局長ヲ經由シ鐵道大臣」ニ改メ同條第二項中「第二十號様式ニ依リ」ノ下ニ「所管鐵道局長ニ」ヲ加フ

第四十八條中「他ノ鐵道又ハ軌道」ヲ「他ノ陸上運送事業者」ニ改メ「監督官廳」ヲ「所管鐵道局長」ニ改ム
第四十八條ノ二 他ノ陸上運送事業者ト運賃協定其ノ他運輸ニ關スル協定ヲ爲シタルトキハ協定書ノ謄本ヲ添附シ實施後一週間以内ニ所管鐵道局長ニ之ヲ提出スベシ

二四五

第二十七條及第二十八條ヲ刪除スル規定ノ施行期ニ於テハ同條ノ規定ニ依リ認可申請書ハ鐵道大臣ニ之ヲ提出スベシ
本令施行前鐵道大臣ニ於テ受付ケタル申請書及圖書ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

明治三十三年八月號信省令第三十六號鐵道運輸規程、大正八年八月號信省令第十一號地方鐵道建設規程、大正八年八月號信省令第十二號地方鐵道運輸規程、保安規程、大正八年八月號信省令第十三號地方鐵道係員職制及大正十二年十二月號信省令第六號鐵道係員規程中左ノ通改正ス
昭和十四年八月三十一日
鐵道大臣 永井樗太郎
「監督官廳」ヲ「鐵道大臣」ニ改ム

二四六

鐵道大臣 永井樗太郎
第二條中「主務大臣」ヲ「鐵道大臣」ニ改ム
第四條乃至第六條中「監督官廳」ヲ「鐵道大臣」ニ改ム
第七條中「監督官廳」ヲ「所管鐵道局長」ニ改ム
第八條乃至第十條中「監督官廳」ヲ「鐵道大臣」ニ改ム

第十二條中「地方鐵道法第十一條」ヲ「地方鐵道法第十條第二項、第十一條」ニ、「第二十條、第二十二條」ヲ「第二十條乃至第二十三條」ニ改メ「第二十六條」ノ下テ「第三十三條」ヲ加フ
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前鐵道大臣ニ於テ受付ケタル申請書及圖書ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得
鐵道省令第八號

昭和十年五月鐵道省令第一號地方鐵道運輸規程中左ノ通改正ス
昭和十四年八月三十一日
鐵道大臣 永井樗太郎
「鐵道大臣」ヲ「所管鐵道局長」ニ改ム

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前鐵道大臣ニ於テ受付ケタル申請書及圖書ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得
鐵道省令第九號
大正八年八月號信省令第十四號地方鐵道會計規程中左ノ通改正ス
昭和十四年八月三十一日

鐵道大臣 永井樗太郎
第一條中「監督官廳」ヲ「鐵道大臣」ニ改ム
第六條中「舊法第九十六條」ヲ「舊法第九十一條」ニ改ム
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第六條ノ改正規定ハ昭和十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
鐵道省令第十號

法律—地方鐵道法施行規則中改正

大正十二年十二月號信省令第七號鐵道會計規程中左ノ通改正ス
昭和十四年八月三十一日
鐵道大臣 永井樗太郎
「但シ監督官廳トアルハ鐵道大臣トス」ヲ刪除ス

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
鐵道省令第十一號
大正十二年十二月號信省令第四號鐵道運輸規程中左ノ通改正ス
昭和十四年八月三十一日

鐵道大臣 永井樗太郎
第六條第一項中「監督官廳」ヲ「鐵道大臣」ニ改ム
第十六條第一項中「日使トシ」ヲ「日使トス」ニ改メ「鐵道運輸規程中監督官廳トアルハ鐵道大臣トス」ヲ刪除ス
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
鐵道省令第十二號
明治三十八年五月號信省令第三十七號鐵道抵償法施行規則中左ノ通改正ス

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
鐵道省令第十三號
小運送業法第十七條ノ規定ニ依リ職權委任ニ關スル件左ノ通定ム
昭和十四年八月三十一日
鐵道大臣 永井樗太郎
小運送業ニ關スル事項ニシテ左ニ掲グルモノハ之ヲ鐵道局長ニ委任ス

昭和十四年八月三十一日
鐵道大臣 永井樗太郎
第一條及第五條ノ二中「監督官廳」ヲ「鐵道大臣」ニ改ム
第六條第二項中「前條」ヲ「第五條」ニ改ム
第二十九條 鐵道抵償法又ハ本令ノ規定ニ依リ申請書其ノ他ノ書類ハ鐵道大臣ニ之ヲ提出スベシ

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
鐵道省令第十三號
小運送業法第十七條ノ規定ニ依リ職權委任ニ關スル件左ノ通定ム
昭和十四年八月三十一日

鐵道大臣 永井樗太郎
小運送業ニ關スル事項ニシテ左ニ掲グルモノハ之ヲ鐵道局長ニ委任ス
一 小運送業法第三條及第十三條ノ規定ニ依リ運賃料其ノ他ノ取扱條件ノ變更
二 小運送業法第六條ノ規定ニ依リ事業ノ全部又ハ一部ノ廢止又ハ休止

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前鐵道大臣、鐵道省隊軍監理官又ハ鐵道省隊軍監理官ニ於テ受付ケタル申請書及圖書ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得
鐵道省令第十四號
昭和十二年九月號信省令第六號小運送業法施行規則中左ノ通改正ス
昭和十四年八月三十一日

三 小運送業法第七條ノ規定ニ依リ小運送業ノ運賃但シ常事者ノ二以上ガ資本金二萬圓以上ノ會社ナル場合ヲ除ク
前項ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ運賃ナク之ヲ鐵道大臣ニ報告スベシ

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前鐵道大臣、鐵道省隊軍監理官又ハ鐵道省隊軍監理官ニ於テ受付ケタル申請書及圖書ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得
鐵道省令第十四號
昭和十二年九月號信省令第六號小運送業法施行規則中左ノ通改正ス
昭和十四年八月三十一日

鐵道大臣 永井樗太郎
第八條 左ニ掲グル第一號乃至第三號ノ場合ハ鐵道大臣、第四號乃至第六號ノ場合ハ所管鐵道局長ノ認可ヲ受クベシ
一 小運送業法第一條ニ掲グル事業ノ種別ノ變更ヲ爲サントスルトキ

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
鐵道省令第十五號
小運送業法第十七條ノ規定ニ依リ職權委任ニ關スル件左ノ通定ム
昭和十四年八月三十一日



法律 電氣用品取締規則第三條ノ特例ニ關スル件

二 取扱簿ノ變更ヲ爲サントスル  
三 取引ヨリ生ズル債權債務ノ決  
四 營業上使ハルモノノ價額及保證  
五 本店ノ移轉、支店其ノ他ノ店  
六 組合員ノ變更ヲ爲サントスル  
前項ニ依ル認可申請書ニハ變更  
取扱簿ノ變更ニシテ追加ノ場合  
ハ第六條ニ掲グル事項ヲ記載セ  
ル書類、其ノ他ノ場合ニシテ變  
更後ノ事業ニ付第六條ニ掲グル  
事項ノ中變更ヲ生ズルトキハ其  
ノ部分ヲ記載セル書類ヲ添付ス  
ベシ此ノ場合ニ於テハ前二項ニ  
定ムル其ノ他ノ手續ヲ爲スコト  
ヲ要セズ

電氣用品取締規則第三條ノ特例ニ關スル件

（昭和十三年十二月六日）  
（逓信省令第八十號）  
第一條 電氣用品取締規則第三條ノ規定ニ依リ型式承認ヲ取ケタル電氣用品ニシテ支那事變ニ因リ已ムヲ得ズ代用材料ヲ使用シ其ノ他原型式ノ一部ヲ變更シタルモノハ當該型式承認ヲ受ケタル者ノ申請ニ依リ同規則同條ノ規定ニ拘ラズ逓信大臣ニ於テ原型式ト同一型式ノモノト看做スコトヲ得  
第二條 前條ノ規定ニ依リ申請ヲ爲サントスル者ハ申請書（別記書式）ニ試驗品（圖、本文ハ組テ以テ數フルモノ）ニ在リテハ各其ノ一單位、線條ノモノニ在リテハ一米、並ニ説明書及圖面各二通ヲ添ヘ之ヲ電氣試驗所ニ提出スベシ

ヲ經由シ」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ  
罰項後段ノ規定ハ鐵道局長ニ提出スベキ認可申請書、届出書其ノ他ノ書類ニ之ヲ準用ス  
第三十條中「罰條ノ規定」ヲ「罰條第一項ノ規定ニ」鐵道省陸運監督官又ハ鐵道省陸運副監督官「所管鐵道局長」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ  
罰項後段ノ規定ハ鐵道局長ニ於テ認可ノ處分ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス  
附 則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行前鐵道大臣、鐵道省陸運監督官又ハ鐵道省陸運副監督官ニ於テ受付ケタル申請書及届出書ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

電氣用品取締規則第十三條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
第三條 第一條ノ規定ニ依リ原型式ト同一型式ト看做サレタル電氣用品ニハ原型式ノ電氣用品ト別記書式

區別スル爲「暫」「暫定品」其ノ他ノ適當ナル標示ヲ爲スベシ  
附 則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本令ハ支那事變終了後一年內ニ之ヲ廢止スルモノトス

同一型式認定申請書  
一 電氣用品名  
二 型  
三 原型式承認番地  
四 製造免許番號  
五 製造所ノ名稱及所在地  
右昭和 年 月 日逓信省令第 號ニ依リ申請候也  
主タル營業所 申請者 氏名又ハ名稱 印  
逓信大臣 宛

（注意）  
一、手数料ハ之ヲ徴セザルモノナルニ付收入印紙ノ貼附ヲ要セズ  
二、同一品名ニ屬スルモノヲ多

【參照】  
數同時ニ申請スル場合ニハ適宜一申請書ニ取掲メ型及原型式承認番號ノ明細書ヲ添付スベシ  
法律 軍用自動車検査法

軍用自動車検査法

（昭和十四年三月二十七日）  
（法律第三十六號）  
第一條 戰時又ハ事變ノ際ニ於ケル軍用自動車ノ調達ヲ確實ナラシムル爲メ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ自動車ヲ一定ノ場所ニ差出サシメ其ノ検査ヲ行フコトヲ得  
前項ノ検査ニ際シ必要アルトキハ當該官吏ハ關係者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ検査ニ付協力ヲ爲サシムルコトヲ得  
第二條 前條第一項ノ検査ヲ受ケル者ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ手當及取費ヲ給ス  
第三條 第一條第一項ノ規定ニ違反シテ検査ニ自動車ヲ差出サザル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第四條 第一條第一項ノ検査ヲ受ケル者ハ其ノ検査ノ執行ヲ拒ミ、妨ケ又ハ隠蔽シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス  
同條第二項ノ規定ニ違反シテ質問ニ對シ答辭ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ協力ヲ爲サザル者亦同シ  
第五條 第一條第一項ノ検査ヲ受ケル者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第三條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ズ  
第六條 第三條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同



法律一軍用自動車検査法施行令、大日本航空株式會社法

一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

勅令第九十六號  
軍用自動車検査法ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

軍用自動車検査

法施行令

(昭和十四年三月二十九日)

勅令第九十九號

第一條 軍司令官又ハ師團長ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ、留守府司令官又ハ要港部司令官ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ軍用自動車検査法ニ依ル自動車ノ検査ヲ行フベシ

前項ノ規定ニ依リ検査ヲ行フベキ自動車ノ種類ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 内地ニ在リテハ地方官  
北海道支庁長、警察署長、市長(東京市、京都市、大阪市、名古屋、横浜市及神戸市ニ在リテハ區長)及町村長(町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ町村長ニ準ズベキモノ)朝鮮ニ在リテハ道知事、府尹、郡守、島司

第一條 大日本航空株式會社ハ航空輸送事業ノ振興發展ヲ圖ルヲ目的トスル株式會社トス

第二條 帝國(關東州及南洋群島ヲ含ム以下同ジ)内各地間ニ於ケル航空輸送事業及帝國内ニ起點ヲ有スル國際航空輸送事業ハ大日本航空株式會社ノ外之ヲ營ムコトヲ得ズ但シ勅令ヲ以テ定ムル帝國内各地間ニ於ケル航空輸送事業ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 大日本航空株式會社ノ資本ハ一億圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ得

第四條 政府ハ三千七百二十五萬圓ヲ限リ大日本航空株式會社ニ出資スベシ

第五條 大日本航空株式會社ノ株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分ノ一

第六條 大日本航空株式會社ニ遊下ルコトヲ得  
政府ハ金銭以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第七條 大日本航空株式會社ニ非ザルモノハ大日本航空株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第八條 大日本航空株式會社ニ遊各一人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置ク

第九條 總裁ハ大日本航空株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス  
副總裁ハ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

第十條 總裁及理事ハ總裁ヲ輔佐シ定

第十一條 大日本航空株式會社ハ航空輸送事業ノ振興發展ヲ圖ルヲ目的トスル株式會社トス

第十二條 帝國(關東州及南洋群島ヲ含ム以下同ジ)内各地間ニ於ケル航空輸送事業及帝國内ニ起點ヲ有スル國際航空輸送事業ハ大日本航空株式會社ノ外之ヲ營ムコトヲ得ズ但シ勅令ヲ以テ定ムル帝國内各地間ニ於ケル航空輸送事業ハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 大日本航空株式會社ノ資本ハ一億圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ得

第十四條 政府ハ三千七百二十五萬圓ヲ限リ大日本航空株式會社ニ出資スベシ

第十五條 大日本航空株式會社ノ株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分ノ一

第十六條 大日本航空株式會社ニ遊下ルコトヲ得  
政府ハ金銭以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第十七條 大日本航空株式會社ニ非ザルモノハ大日本航空株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第十八條 大日本航空株式會社ニ遊各一人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置ク

第十九條 總裁ハ大日本航空株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス  
副總裁ハ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

第二十條 總裁及理事ハ總裁ヲ輔佐シ定

第二十一條 大日本航空株式會社ハ航空輸送事業ノ振興發展ヲ圖ルヲ目的トスル株式會社トス

第二十二條 帝國(關東州及南洋群島ヲ含ム以下同ジ)内各地間ニ於ケル航空輸送事業及帝國内ニ起點ヲ有スル國際航空輸送事業ハ大日本航空株式會社ノ外之ヲ營ムコトヲ得ズ但シ勅令ヲ以テ定ムル帝國内各地間ニ於ケル航空輸送事業ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條 大日本航空株式會社ノ資本ハ一億圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ得

第二十四條 政府ハ三千七百二十五萬圓ヲ限リ大日本航空株式會社ニ出資スベシ

第二十五條 大日本航空株式會社ノ株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分ノ一

第二十六條 大日本航空株式會社ニ遊下ルコトヲ得  
政府ハ金銭以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第二十七條 大日本航空株式會社ニ非ザルモノハ大日本航空株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第二十八條 大日本航空株式會社ニ遊各一人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置ク

第二十九條 總裁ハ大日本航空株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス  
副總裁ハ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

第三十條 總裁及理事ハ總裁ヲ輔佐シ定

第三十一條 大日本航空株式會社ハ航空輸送事業ノ振興發展ヲ圖ルヲ目的トスル株式會社トス

第三十二條 帝國(關東州及南洋群島ヲ含ム以下同ジ)内各地間ニ於ケル航空輸送事業及帝國内ニ起點ヲ有スル國際航空輸送事業ハ大日本航空株式會社ノ外之ヲ營ムコトヲ得ズ但シ勅令ヲ以テ定ムル帝國内各地間ニ於ケル航空輸送事業ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十三條 大日本航空株式會社ノ資本ハ一億圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ得

第三十四條 政府ハ三千七百二十五萬圓ヲ限リ大日本航空株式會社ニ出資スベシ

第三十五條 大日本航空株式會社ノ株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分ノ一

法律一 大日本航空株式會社法

第十二條 大日本航空株式會社ハ航空輸送事業ノ經營並ニ航空輸送事業關聯ノ爲ニスル投資、融資及助成ヲ爲スモノトス

第十三條 總裁、副總裁及業務ヲ分掌スル理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 總裁、副總裁及業務ヲ分掌スル理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條 政府ハ大日本航空株式會社ノ業務ヲ監督ス

第十六條 大日本航空株式會社ノ價ヲ募集セントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第十七條 定款ノ變更、利益金ノ處分、合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ効力ヲ生ゼズ

第十八條 大日本航空株式會社ハ毎營業年度ノ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第十九條 政府ハ大日本航空株式會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條 政府ハ大日本航空株式會社ノ業務ニ關シ軍事上又ハ事業關聯上其ノ他公益上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 政府ハ大日本航空株式會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 政府ハ大日本航空株式會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 政府ハ大日本航空株式會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 政府ハ大日本航空株式會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 政府ハ大日本航空株式會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 政府ハ大日本航空株式會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 政府ハ大日本航空株式會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 政府ハ大日本航空株式會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十九條 政府ハ大日本航空株式會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十條 政府ハ大日本航空株式會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得



所有スル株式ノ持込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セズ

第二十六條 大日本航空株式會社ノ毎營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ持込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達セザルトキハ政府ハ初營業年度及續後十年間ヲ限リ之ニ達セシムベキ金額ヲ補給スベシ但シ其ノ額ハ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ持込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ相當スル額及當該年度ニ於テ支拂ヒタル社價ノ利息額ノ合計ヲ超ルコトヲ得ズ毎營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ持込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ相當スル額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ先ヅ之ヲ前項ノ規定ニ依ル補給金ノ償還ニ充ツベシ

ノ毎營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ持込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超エ利益配當ヲ爲サントスルトキハ其ノ超過スル利益金額ハ利益配當ガ總株式ニ付持込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ對スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ持込金額及政府ノ所有スル株式ノ持込金額ニ對シ一ト五トノ割合ヲ以テ之ヲ配當スベシ

恩ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得第三十條 大日本航空株式會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間其ノ事業ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

政府ノ出資又ハ第五條第二項ノ規定ニ依ル第二回以後ノ株金持込ニ基ク不動產又ハ船舶ニ關スル權利ノ取得

料ニ處ス 第三十六條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ適用ス

附則 第三十七條 本法ハ昭和十四年五月十一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十二條 株式申込證ニハ商法第二百二十六條第二項第二號、第

大日本航空株式會社總裁ニ引渡スベシ

第三十八條 昭和十三年十二月一日航空法第三十六條ノ許可ヲ受ケタル大日本航空株式會社(以下許可會社ト稱ス)ハ命令ノ定ムル所ニ依リ株主總會ノ決議ヲ以テ大日本航空株式會社ト爲ルコトヲ得

前項ノ設立委員ノ中少クトモ二人ハ許可會社ノ取締役ノ中ヨリ命スルコトヲ要ス

第四十四條 設立委員ハ前條ノ檢査ヲ受ケタル後選出シタル各新株主ニ付第一回ノ持込ヲ爲サシム

大日本航空株式會社ガ設立ノ登記ヲ受タルトキハ其ノ持込株金額中許可會社ノ持込株金額ニ相當スル部分ニ付テハ登録稅ヲ課セズ大日本航空株式會社ガ前條ノ規定ニ依リ許可會社ヨリ不動產又ハ船舶ニ關スル權利ヲ承繼スル場合ニ於ケル其ノ取得ニ付登記ヲ受タルトキ亦同ジ



法律 大日本航空株式會社法施行令

則條ノ規定ニ依リ許可會社ヨリ  
大日本航空株式會社ヘノ有價證  
券ノ移轉ニ付テハ有價證券移轉  
稅ヲ課セズ

大三十年四月九日公布法律第五  
十四號航空法抄錄  
第三十六條 行政官廳ノ許可ヲ受  
クルニ非ザレバ日本航空機ニ依  
リ運送業ヲ營ムコトヲ得ズ

大日本航空株式  
會社法施行令

(昭和十四年五月九日)  
勅令第三百九號

第五十條 第三十八條乃至前條ニ  
規定スルモノヲ除ク外許可會  
社ヲ大日本航空株式會社ト爲ル  
場合ニ於テ必要ナル事項ハ勅令  
ヲ以テ之ヲ定ム

第一條 大日本航空株式會社法第  
二條但書ノ規定ニ依リ大日本航  
空株式會社ニ非ザルモノノ營ム  
コトヲ得ル航空輸送事業ハ不定  
期航空輸送事業及航空聯絡ノ長  
サ三百キロメートルヲ超エザル  
定期航空輸送事業ニ限ル

行ヲ終リタル後之ヲ請求スベシ  
但シ選信大臣ノ定ムル場合ニ於  
テハ毎營業年度ノ終リタル後又  
ハ損失ノ生ジタル都度之ヲ請求  
スルコトヲ得

行ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間其  
ノ事業ニ付各該地ノ法令ニ依  
ル所得稅、營業收益稅及營業稅  
ヲ免除ス

第五條 朝鮮ニ於ケル道、府、邑、面  
臺灣ニ於ケル州、廳、市、街、庄、關  
東州ニ於ケル市、町、村、及南洋群島ニ  
於ケル地方費ハ前條ノ規定ニ依  
リ所得稅、營業收益稅及營業稅  
ヲ免除セラレタル期間大日本航  
空株式會社ノ事業ニ對シテハ地  
方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特  
別ノ事情ニ基キ朝鮮ニ在リテハ  
朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣  
總督、關東州ニ在リテハ滿洲國  
駐劄特命全權大使、樺太ニ在リ  
テハ樺太廳長官、南洋群島ニ在  
リテハ南洋廳長官ノ認可ヲ受ケ  
タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 昭和十三年十二月一日航  
空法第三十六條ノ許可ヲ受ケタ  
ル大日本航空株式會社(以下許  
可會社ト稱ス)大日本航空株式  
會社法第三十八條第一項ノ決議

【參照】

損失ノ補償ハ當該命令事項ノ限

損失ノ補償ハ當該命令事項ノ限

損失ノ補償ハ當該命令事項ノ限

損失ノ補償ハ當該命令事項ノ限

損失ノ補償ハ當該命令事項ノ限

損失ノ補償ハ當該命令事項ノ限

ヲ爲シ之ニ付選信大臣ノ認可ヲ  
リタルトキハ選信大臣ノ決議ノ日  
ニ於ケル資產勘定及債務勘定ヲ  
整理シ選信大臣ノ承認ヲ受ケベ  
シ

第十條 大日本航空株式會社ノ設  
立登記ノ申請ヲ受理シタルトキ  
ハ登記官更ハ職權ヲ以テ許可會  
社ノ登記用紙ニ其ノ事由ヲ記載  
シテ之ヲ閉鎖スベシ

臨時肥料配給統  
制法施行規則  
(昭和十三年十二月二十七日)  
農林省令第六號

三 受渡ニ關スル事項  
四 代金決済ニ關スル事項  
五 取引ノ違約ニ關スル事項

第七條 會社ハ毎年八月一日ヨリ  
翌年七月三十一日ニ至ル期間ノ  
事業計畫ヲ定メ六月三十日迄ニ  
認可申請書ヲ農林大臣及選信大  
臣ニ提出スベシ但シ第一回ノ事  
業計畫ニ付テハ臨時肥料配給統  
制法第一條第一項ノ規定ニ依ル  
命令アリタル日ヨリ一月以内ニ

命令アリタル日ヨリ一月以内ニ

法律 臨時肥料配給統制法施行規則

本令ハ大日本航空株式會社法施行  
ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ大日本航空株式會社法施行  
ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ大日本航空株式會社法施行  
ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ大日本航空株式會社法施行  
ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ大日本航空株式會社法施行  
ノ日ヨリ之ヲ施行ス



法律一 過燐酸石灰、石灰燻素、粗製加里鹽類等肥料輸出許可規則

之ヲ提出スベシ

前項ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

- 一 事業計畫ノ概要
- 二 銘柄別ノ買入先別買入豫定數量(月別ニ記載スベシ)
- 三 銘柄別ノ配給先別、配給區域別及月別配給豫定數量
- 四 銘柄別ノ仕向地別、輸出及移出豫定數量(月別ニ記載スベシ)

第一項ノ認可申請書ニハ需給推算其ノ他事業計畫設定ニ關スル基礎資料及説明書ヲ添付スベシ

第八條 會社ハ定時總會ノ會日ヨリ一週間前ニ法律第九十條ニ掲グル書類及株主名簿ヲ農林大臣及農工大臣ニ提出スベシ

第九條 會社ハ株主總會終結後速滞ナク其ノ決議録ノ原本ヲ農林大臣及農工大臣ニ提出スベシ

第十條 會社ハ毎月十日迄ニ其ノ前月ニ於ケル業務ノ狀況ヲ農林大臣及農工大臣ニ報告スベシ

狀況ヲ其ノ營業期經過後速滞ナク農林大臣及農工大臣ニ報告スベシ

第十一條 臨時肥料配給統制法第一條第三項ノ規定ニ依ル命令ヲ爲ス場合ニ於テハ農林大臣及農工大臣ハ命令ニ從フベキ者ノ資格、賣渡先、賣渡方法其ノ他必要ナル事項ヲ定メ之ヲ告示ス

第十二條 過燐酸石灰製造業者ハ毎年六月三十日迄ニ其ノ年八月一日ヨリ翌年七月三十一日ニ至ル期間ノ月別製造豫定數量ヲ農林大臣及農工大臣並ニ會社ニ報告スベシ

第十三條 臨時肥料配給統制法施行令ハ本則ノ規定ニ依リ農林大臣及農工大臣ニ提出スル書類ハ二通り作成シ農林省及農工省ニ各一通ヲ提出スベシ

附 則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

過燐酸石灰、石灰燻素、粗製加里鹽類等肥料輸出許可規則

(昭和十四年五月二十二日) 農林省令第四號

第一條 左ニ掲グル肥料ハ農林大臣及農工大臣ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ之ヲ輸出スルコトヲ得ズ

- 一 過燐酸石灰(重過燐酸石灰ヲ含ム)
- 二 石灰燻素
- 三 粗製加里鹽類(粗製硫酸加里及粗製氯化加里)
- 四 配合肥料、化成肥料及之ニ類スル肥料(重要肥料業統制法施行規則第一條第二項ニ掲グルモノヲ除ク)

第二條 前條ノ規定ハ輸出品用原材料承認書交付規則ニ依リ輸出品用原材料承認書ヲ交付ヲ受ケタル者ガ契約書ニ基キ過燐酸石灰

二五四

灰ヲ自ラ輸出シ又ハ他人ヲシテ輸出セシムル場合及私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ニシテ明治三十七年勅令第九號第一條第三項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル者ガ同項ニ規定スル事由ニ因リ輸入シタル過燐酸石灰ヲ使用シテ製造シタル過燐酸石灰ヲ輸出スル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ

地方長官ハ前項ノ場合ニ於テ輸出品用原材料承認書交付規則ニ依リ契約書ニ基キ過燐酸石灰ノ輸出ヲ爲サントスル者ニ對シ其ノ旨ヲ認スル書面ヲ交付スルコトヲ要ス

第三條 第一條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル輸出許可申請書ニ注文アリタルコトヲ認スル書面ヲ添付シ之ヲ農林大臣及農工大臣ニ提出スベシ

- 一 肥料ノ種類及名稱
- 二 數量及價額(種類別ニ記載スベシ)
- 三 賣渡先ノ氏名又ハ名稱及事業

事務所ハ營業所

四 仕向地及仕向港

五 輸出港

六 輸出時期

第四條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者則第一號乃至第四號ニ掲グル事項ヲ變更セントストキハ事由ヲ具シ農林大臣及農工大臣ノ許可ヲ受ケベシ

第五條 農林大臣及農工大臣第一條ノ許可ヲ爲ストキハ輸出ノ期間ヲ指定ス

第六條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ肥料ノ輸出ヲ爲ス場合

法律一 新聞用卷取紙供給制限規則

ニ於テ農林大臣及農工大臣ノ交付スル輸出許可書ヲ當該税關ニ提出スベシ

輸出品用原材料承認書交付規則ニ依リ契約書ニ基キ過燐酸石灰ノ輸出ヲ爲サントスル者ハ其ノ肥料ノ輸出ヲ爲ス場合ニ於テ第一條第二項ノ規定ニ依リ地方長官ノ交付シタル證明書ヲ當該税關ニ提出スベシ

第七條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者輸出ヲ爲シタルトキハ其ノ都度運滞ナク左ニ掲グル事項ヲ農林大臣及農工大臣ニ届出ツベシ

- 一 輸出ノ許可ヲ受ケタル肥料ノ種類、名稱及數量並ニ許可ノ年月日
- 二 輸出ヲ爲シタル肥料ノ名稱並ニ種類別數量及價額
- 三 仕向地及仕向港
- 四 輸出港
- 五 輸出ノ年月日

附 則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

新聞用卷取紙供給制限規則

(昭和十四年六月三十日) 農工省令第三十二號

第一條 新聞用卷取紙製造業者又ハ新聞用卷取紙販賣業者(以下供給者ト稱ス)新聞用卷取紙(新聞紙トシテ使用スルモノヲ謂フ以下同ジ)ヲ使用スル事業主(以下新聞社ト稱ス)ニ對シ新聞用卷取紙ヲ供給セントストキハ

新聞社別供給數量ニ付農工大臣ノ承認ヲ受ケベシ

農工大臣ハ各新聞社ニ付供給者ノ當該新聞社ニ對スル新聞用卷取紙ノ供給總數量ガ當該新聞社ノ基準數量ニ農工大臣ノ定ムル比率ヲ乘ジテ算出シタル數量ヲ超エザル數量ノ範圍内ニ於テ前

項ノ承認ヲ爲スモノトス但シ農工大臣特別ノ事情アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 農工大臣新聞用卷取紙ノ供給ヲ調整スル爲メ必要アリト認ムルトキハ供給者ニ對シ新聞用卷取紙ノ製造又ハ供給ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトアルベシ

第三條 供給者新聞用卷取紙ヲ第一條第一項ノ期間ニ於テ供給スベキ契約ヲ爲シタルトキハ運滞ナク新聞社別供給數量及契約期間ヲ農工大臣ヲ届出ツベシ

第四條 供給者ハ毎月十日迄ニ其ノ前月ノ新聞用卷取紙ノ新聞社別供給數量ヲ農工大臣ニ届出ツベシ

附 則  
二五五



本則ハ昭和十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四條ノ規定ハ昭和十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス...

ゴム配給統制規則中改正

第一條中「巴拉タ及ガタバチヤ及再生ゴム並ニ其ノ故及屑」ニ改ム...

ハ西工大臣ノ指定シタル者(以下再生ゴム配給機關ト稱ス)以外ノ者ニ再生ゴムヲ販賣スルコトヲ得ズ...

受ケ又ハ他人ニ委託シテゴムヲ原料若ハ材料トスル物品ノ製造若ハ加工ヲ爲サシメントスルト...

本令ハ昭和十四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第九條ノ改正規定ハ昭和十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス...

ル者(以下工業者ト稱ス)ハ西工大臣又ハ西工大臣ノ指定シタル團體(以下統制團體ト稱ス)...

滿洲國若ハ中華民國ニ於ケル消費ニ充ツル爲メ販賣スルコトヲ得ズ...

第一條 本則ニ於テ「膠ゴムトハインデイアラバ、パララバ、ラテックス、ジロトン、巴拉タ、ガタバチヤ又ハ再生ゴム...

對又ハ材料トスル物品ノ製造又ハ加工ヲ業トスル者(以下工業者ト稱ス)ハ西工大臣ノ指定シタル者(以下内地ゴム配給機關ト稱ス)...

第六條 配給機關ハゴム購入票ト引換フルニ非ザレバゴムヲ販賣スルコトヲ得ズ...

第十二條 工業者ハ其ノ製造又ハ加工シタル製品ノ數量及原料又ハ材料ニ付西工大臣又ハゴム購入票ヲ交付シタル統制團體ノ検査ヲ受ケベシ...

第三條 粉末ゴムノ製造業者ハ西工大臣ノ指定シタル者(以下粉末ゴム配給機關ト稱ス)以外ノ者ニ粉末ゴムヲ販賣スルコトヲ得ズ...

第七條 膠ゴム又ハ粉末ゴムノ製造業者又ハ販賣業者ハ工業者ニ對シ膠ゴム又ハ粉末ゴムヲ販賣スルコトヲ得ズ但シ内地ゴム配...



法律一附ゴム及粉末ゴム配給統制規則

給機關、輸入ゴム配給機關若ハ粉末ゴム配給機關ヲ販賣スル場合又ハ附ゴム若ハ粉末ゴムノ販賣ヲ爲ス工業者ガ販賣ノ目的ヲ以テ買受タルトキ之ニ販賣スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 附ゴム又ハ粉末ゴムノ蒐集業者又ハ販賣業者ハ販賣ノ目的ヲ以テ買受ケタル附ゴム又ハ粉末ゴムヲ販賣以外ノ用ニ供スルコトヲ得ズ

第九條 内地ゴム配給機關、輸入ゴム配給機關又ハ粉末ゴム配給機關ハ購入票ト引換フルニ非ザレバ附ゴム又ハ粉末ゴムヲ販賣スルコトヲ得ズ

第十條 内地ゴム配給機關、輸入ゴム配給機關又ハ粉末ゴム配給機關ハ工業者ヨリ購入票ト引換ヘニ附ゴム又ハ粉末ゴムノ買受ノ申込アリタルトキハ正當ノ事由アルニ非ザレバ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十一條 購入票ハ商工大臣又ハ統制團體之ヲ發行シ工業者ニ交

付ス商工大臣ノ發行スル購入票ハ別記様式ニ依ル

統制團體ハ其ノ發行スル購入票ノ様式ニ付商工大臣ノ承認ヲ受クベシ

第十二條 工業者ハ購入票ヲ他人ニ讓渡シ又ハ他人ヨリ讓受タルコトヲ得ズ

第十三條 統制團體ハ第十一條第一項ノ規定ニ依リ毎月交付スル購入票ニ相當スル附ゴム又ハ粉末ゴムノ總數量ニ付録メ商工大臣ノ承認ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第十四條 内地ゴム配給機關、輸入ゴム配給機關又ハ粉末ゴム配給機關ハ毎月十日迄二前月中ニ引換ヘタル購入票ヲ商工大臣又ハ之ヲ交付シタル統制團體ニ差出スベシ

附 則  
本則ハ昭和十四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

二五八

別記様式 日本標準規格A列六號(梓ハ黑色花形標トス)

第 號 附 ゴ ム 購 入 票

購 入 者 (氏 名 名 稱) (住 所)

數量	封度
銘 柄	
購入先	

昭 和 年 月 日 發 行  
昭 和 年 月 日 迄 有 効

國 工 省

第 號 粉 末 ゴ ム 購 入 票

購 入 者 (氏 名 名 稱) (住 所)

數量	買
銘 柄	
購入先	

昭 和 年 月 日 發 行  
昭 和 年 月 日 迄 有 効

國 工 省

【參照】  
昭和十二年九月十日公布法律第九十二號ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル件ナリ

皮革使用制限規

則 中 改 正

(昭和十四年七月二十五日)  
(商工省令第三十七號)

第一條中「牛革(黃牛革及水牛革ヲ含ム以下同ジ)」ヲ「牛革(黃牛革ヲ含ム以下同ジ)又ハ水牛革」ニ、「特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ」ヲ「特別ノ事情ニ依リ商工大臣ノ指定シタル者ニ在リテハ商工大臣、其ノ他ノ者ニ在リテハ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ」ニ改ム

第二條中「牛革、馬革、羊革、豚革、鯨革又ハ鯨革」ヲ「牛革、水牛革、馬革、豚革、鯨革、山羊革、山羊革、豚革、鯨革、犬革、鯨革又ハ鯨革」ニ、「特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル

場合ハ此ノ限ニ在ラズ」ヲ「特別ノ事情ニ依リ商工大臣ノ指定シタル者ニ在リテハ其ノ他ノ者ニ在リテハ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ」ニ改ム

第三條 牛革若ハ水牛革ヲ使用シ第一條ニ掲グル物品若ハ其ノ材料又ハ牛革、水牛革、馬革、豚革、鯨革、山羊革、山羊革、豚革、鯨革、犬革、鯨革若ハ鯨革ヲ使用シ則チニ掲グル物品若ハ其ノ材料ヲ輸出品(關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ輸出スルモノヲ除ク以下同ジ)又ハ其ノ材料トシテ製造シタル者ハ中華民國ニ於ケル消費ニ充ツル爲販賣スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 牛革若ハ水牛革ヲ使用シタル第一條ニ掲グル物品若ハ其ノ材料又ハ牛革、水牛革、馬革、豚革、鯨革、山羊革、山羊革、豚革、鯨革、犬革、鯨革、鯨革、鯨革、山羊革、山羊革、

豚革、鹿革、狼革、犬革、鯨革又ハ鯨革ヲ使用シタル第一條ニ掲グル物品若ハ其ノ材料ニシテ輸出品又ハ其ノ材料トシテ製造セラレタルモノヲ消費ケタル者ハ中華民國ニ於ケル消費ニ充ツル爲販賣スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

附 則  
本令ハ昭和十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

【參照】  
昭和十三年七月一日商工省令第四十三號皮革使用制限規則抄錄

第一條 左ニ掲グル物品又ハ其ノ材料ハ牛革(黃牛革及水牛革ヲ含ム以下同ジ)ヲ使用シテ之ヲ製造スルコトヲ得ズ但シ軍ノ製造又ハ輸出駐支(關東州、滿洲國又ハ中華民國向ノモノヲ除ク)ニ係ル場合及特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル

場合ハ此ノ限ニ在ラズ (左記略ス)

第二條 左ニ掲グル物品又ハ其ノ材料ハ牛革、馬革、羊革、豚革、鯨革又ハ鯨革ヲ使用シテ之ヲ製造スルコトヲ得ズ但シ軍ノ製造又ハ輸出駐支(關東州、滿洲國又ハ中華民國向ノモノヲ除ク)ニ係ル場合及特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 牛革ヲ使用シタル第一條ニ掲グル物品若ハ其ノ材料又ハ牛革、馬革、羊革、豚革、鯨革若ハ鯨革ヲ使用シタル第二條ニ掲グル物品若ハ其ノ材料ニシテ輸出品(關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ輸出スルモノヲ除ク)トシテ製造セラレタルモノヲ消費ケタル者ハ之ヲ本邦、關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ於ケル消費ニ充ツル爲販賣スルコトヲ得ズ

法律一皮革使用制限規則中改正



皮革配給統制規則中改正

(昭和十四年七月二十五日) 昭工省令第三十八號

第一條 本則ニ於テ皮トハ牛(黃牛ヲ含ム)、水牛、馬、驢、騾、羊、山羊又ハ豚ノ皮ヲ謂ヒ革トハ牛(黃牛ヲ含ム)、水牛、馬、驢、騾、羊、山羊、豚、鹿、熊、犬、鯨又ハ鯨ノ皮ヲ就製シタルモノヲ謂フ
第二條中「羊」ヲ「山羊、山羊」ニ改ム
第三條中「販賣シタル皮」ヲ「販賣シタル前條ノ皮」ニ改ム
第四條第一項中「其ノ皮」ヲ「第二條ノ皮」ニ改ム
第五條ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ特別ノ事情ニ依リ商工大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第七條 販賣業者ハ其ノ組織スル工業組合、販賣業者、輸入業者及移入業者以外ノ者ヨリ、製革業者ノ組織スル工業組合ハ販賣業者及移入業者以外ノ者ヨリ皮ヲ買受タルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ商工大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第八條第一項中「製革業者」ノ下ニ「(製革業者ノ組織スル工業組合)ヲ其ノ組合員ヨリ買受ケ又ハ其ノ委託ヲ受ケ販賣スル場合ニ於テハ當該工業組合」ヲ加フ
第九條 販賣業者、輸入業者又ハ移入業者ハ何等ノ名義ヲ以テスル間ハズ商工大臣ノ指定シタル價格ヲ超ユル對價ヲ以テ皮ヲ販賣スルコトヲ得ズ製革業者又ハ其ノ組織スル工業組合若シテ販賣スルトキ亦同ジ
第十條中「製革業者」ノ下ニ「若ハ其ノ組織スル工業組合」ヲ加フ
第十一條及第十二條中「及製革業者」ヲ「又ハ製革業者若ハ其ノ組織スル工業組合」ニ改ム
附則
本令ハ昭和十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ違反シタル行為ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
(參照)
昭和十三年七月一日商工省令第四十五號皮革配給統制規則抄録
第一條 本則ニ於テ皮トハ牛、馬、羊又ハ豚ノ皮ヲ謂ヒ革トハ牛、馬、羊、豚、鹿又ハ鯨ノ皮ヲ就製シタルモノヲ謂フ
第二條 販賣ノ目的ヲ以テ牛、馬、羊又ハ豚ヲ屠殺シタル者ハ特別ノ事由ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外其ノ皮ヲ使用若ハ消費シ又ハ屠肉ニ附著シタル屠畜販賣スルコトヲ得ズ
第三條 前條ニ掲グル者ハ毎月十日迄ニ其ノ前月中ニ販賣シタル皮ノ種類別及取引先別數量ヲ地方長官ニ届出ツベシ
第四條第一項
第二條ニ掲グル者ハ商工大臣ノ指定シタル販賣業者(以下販賣業者ト稱ス)又ハ地方長官ノ指定シタル仲買人(以下仲買人ト稱ス)以外ノ者ニ其ノ皮ヲ販賣スルコトヲ得ズ
第五條 商工大臣ノ指定シタル輸入業者(以下輸入業者ト稱ス)又ハ移入業者(以下移入業者ト稱ス)ニ非ザレバ皮ヲ輸入又ハ移入スルコトヲ得ズ
第七條 製革業者ハ販賣業者、輸入業者及移入業者以外ノ者ヨリ皮ヲ買受タルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ商工大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第八條第一項
製革業者ハ毎月ノ革ノ種類別及取引先別販賣數量ヲ定メ商工大臣ノ承認ヲ受ケベシ之ヲ變更セシメタルキ亦同ジ
第九條 販賣業者、輸入業者、移入業者又ハ製革業者ハ何等ノ名義ヲ以テスル間ハズ商工大臣ノ指定シタル價格ヲ超ユル對價ヲ以テ皮ヲ販賣スルコトヲ得ズ
第十條 販賣業者、輸入業者、移入業者又ハ製革業者ハ皮革ノ販賣

賣ニ當リ前條ノ價格ヲ超ユル對價ヲ以テ之ヲ販賣シタルト同一ノ利益ヲ舉グル目的ヲ以テ買戻約款ヲ附シ、他ノ商品ヲ併セ販賣シ其ノ他之ニ類スル行為ヲ爲スコトヲ得ズ
第十一條 販賣業者、仲買人、輸入業者、移入業者及製革業者ハ毎月十日迄ニ其ノ前月中ニ賣買シタル皮革ノ種類別及取引先別數量ヲ商工大臣ニ届出ツベシ製革業者ノ使用シタル革ノ種類別數量ニ付亦同ジ
第十二條 販賣業者、仲買人、輸入業者、移入業者及製革業者ハ帳簿ヲ備ヘ皮革ノ買受及販賣並ニ革ノ使用ニ關スル事實ヲ記載スベシ

ル者其ノ製造又ハ加工ニ使用スル設備ヲ新設シ、増設シ若ハ改造シ又ハ之ヲ譲受ケ若ハ借受ケントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケベシ
一 綿又ハ其ノ製品
二 羊毛(山羊毛及駱駝毛ヲ含ム)又ハ其ノ製品
三 兔毛又ハ其ノ製品
四 麻又ハ其ノ製品
五 絹又ハ其ノ製品(生絲ヲ除ク)
六 人造絹織又ハ其ノ製品
七 ステープルファイバ又ハ其ノ製品
八 紙又ハ其ノ製品
九 セロファン又ハ其ノ製品
十 前各號ニ掲グル物品ノ故、前又ハ從價
前項ノ設備ハ商工大臣ノ指定スルモノニ依リ
附則
本令ハ昭和十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
從前ノ規定ニ違反シタル行為ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
(昭和十四年九月十二日) 昭工省令第五十號
第一條 第一項ヲ左ノ如ク改ム
極毛織(毛織維ヲ重畳聯合ニ於テ一層以上使用シタル織ニシテ紡毛織ヲ除キタルモノヲ謂フ)
ヲ製造スル場合ニ於テハ輸出品(關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ輸出スルモノヲ除ク)以下同ジ)及輸出品ノ原料又ハ材料ニ用フルモノヲ除クノ外其ノ太サヲ左ニ掲グル番手ト爲システープルファイバ、其ノ他ノ毛又ハ綿ニ非ザル纖維ヲ重畳聯合ニ於テ五層、六層又ハ七層混紡スルコトヲ要ス但シ特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

纖維工業設備ニ關スル件

(昭和十四年六月二十三日) 昭工省令第三十一號

左ノ各號ノ一ニ該當スル物品ノ製造又ハ加工ヲ爲シ又ハ爲サントス

從前ノ規定ニ違反シタル行為ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
(昭和十四年九月十二日) 昭工省令第五十號
第一條 第一項ヲ左ノ如ク改ム
極毛織(毛織維ヲ重畳聯合ニ於テ一層以上使用シタル織ニシテ紡毛織ヲ除キタルモノヲ謂フ)
ヲ製造スル場合ニ於テハ輸出品(關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ輸出スルモノヲ除ク)以下同ジ)及輸出品ノ原料又ハ材料ニ用フルモノヲ除クノ外其ノ太サヲ左ニ掲グル番手ト爲システープルファイバ、其ノ他ノ毛又ハ綿ニ非ザル纖維ヲ重畳聯合ニ於テ五層、六層又ハ七層混紡スルコトヲ要ス但シ特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
合ハ此ノ限ニ在ラズ
毛織維
芯地用毛織
單絲
メートル式番手九番
其ノ他
單絲
メートル式番手三番、四十八番、六十番
雙絲
メートル式番手三十番、三十六番、四十八番、六十番
莫大小毛織
單絲
メートル式番手三十二番
雙絲
メートル式番手二十番、三十二番、三十六番
手編毛織
三合機織
メートル式番手九番、十六番
四合機織
メートル式番手九番、十六番
第二條 紡毛織(毛織維ヲ重畳聯合ニ於テ一層以上使用シテ)
合ニ於テ一層以上使用シテ



法律一石炭販賣取締規則

シヤリ・カド、手紡織又ハガ  
ラ紡織ニ依リ製造シタル綿ヲ  
フ)ヲ製造スル場合ニ於テハ輸  
出品及輸出品ノ原料又ハ材料ニ  
用フルモノヲ除クノ外其ノ太サ  
ヲ左ニ掲グル番手ト爲システ  
ブルフアイバ一其ノ他ノ毛又ハ  
綿ニ非ザル纖維ヲ重量割合ニ於  
テ二割以上七割以下混紡スルコ  
トヲ要ス但シ特別ノ事情ニ依リ  
地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合  
ハ此ノ限ニ在ラズ

毛織線  
メートル式番手三  
番、五番、五番、七  
番、十番、十四番  
莫火小毛線  
メートル式番手十  
番、十四番、二十  
番

本令ハ昭和十四年九月十五日ヨリ  
之ヲ施行シ

昭和十三年七月八日商工省令第  
四十八號毛製品ステールブルフア  
イバ一等混用規則抄録  
第一條第一項  
襪毛織ヲ製造スル場合ニ於テハ  
輸出品(關東州、滿洲國又ハ中  
華民國ニ輸出スルモノヲ除ク以  
下同ジ)及輸出品ノ原料又ハ材  
料ニ用フルモノヲ除クノ外其ノ  
太サメートル式番手九番、十  
六番、二十番、三十番、三十二  
番、三十六番、四十八番、五十  
二番、六十番、六十四番又ハ七  
十二番ト爲システールブルフア  
イバ一其ノ他ノ毛又ハ綿ニ非ザル  
纖維ヲ重量割合ニ於テ五割、六  
割、七割、八割又ハ九割混紡ス  
ルコトヲ要ス但シ特別ノ事情ニ  
依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル  
場合ハ此ノ限ニ在ラズ

石炭販賣取締規則

(昭和十四年八月十六日)  
商工省令第四十三號

第一條 石炭ノ生産業者又ハ販賣  
業者ハ商工大臣ノ許可ヲ受ケル  
ニ非ザレバ石炭ヲ販賣(本則施  
行前ニ爲シタル契約ニ依リ引渡  
ヲ含ム以下同ジ)スルコトヲ得  
ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限  
ニ在ラズ  
一 左ノ各號ノ一ニ該當スル石  
炭ヲ販賣スルトキ  
イ 御用品  
ロ 船舶用品  
二 一箇稱ニ付販賣業者又ハ組  
合員ノ爲ニ共同購入ヲ爲ス法  
人タル組合ニ對スル販賣契約  
數量ガ月當二百五十噸、使用  
者ニ對スル販賣契約數量ガ工  
場、事業場其ノ他ノ使用場所

二六二  
每二月當二百五十噸ヲ超エザ  
ルトキ  
三 別表甲號又ハ乙號ニ掲グル  
株式會社又ハ團體ノ株主又ハ  
團體員タル石炭ノ生産業者又  
ハ販賣業者ガ輸入炭及移入炭  
以外ノ石炭ヲ販賣スルトキ  
四 天災事變其ノ他己ムヲ得ザ  
ル事由アリタルニ因リ許可ヲ  
受タルコト能ハザルトキ  
第二條 石炭ノ生産業者又ハ販賣  
業者則稱ノ許可ヲ受ケントスル  
トキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シ  
タル許可申請書ヲ商工大臣ニ提  
出スベシ  
一 販賣先  
二 販賣セントスル石炭ノ名稱  
別數量及價格  
三 販賣先ニ於ケル用途  
四 引渡ノ時期及場所  
第三條 別表甲號ニ掲グル株式會  
社又ハ團體ノ株主又ハ團體員タ  
ル石炭ノ生産業者又ハ販賣業者  
又ハ其ノ株主タル株式會社又ハ  
所屬スル團體ノ交付スル販賣指

圖書ニ依リニ非ザレバ輸入炭及  
移入炭以外ノ石炭ヲ販賣スルコ  
トヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ  
此ノ限ニ在ラズ  
一 左ノ各號ノ一ニ該當スル石  
炭ヲ販賣スルトキ  
イ 御用品  
ロ 船舶用品  
二 一箇稱ニ付販賣業者又ハ組  
合員ノ爲ニ共同購入ヲ爲ス法  
人タル組合ニ對スル販賣契約  
數量ガ月當二百五十噸、使用  
者ニ對スル販賣契約數量ガ工  
場、事業場其ノ他ノ使用場所  
每二月當二百五十噸ヲ超エザ  
ルトキ

炭ヲ販賣スルコトヲ得ズ但シ左  
ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
一 左ノ各號ノ一ニ該當スル石  
炭ヲ販賣スルトキ  
イ 御用品  
ロ 船舶用品  
二 一箇稱ニ付販賣業者又ハ組  
合員ノ爲ニ共同購入ヲ爲ス法  
人タル組合ニ對スル販賣契約  
數量ガ月當五十噸、使用者ニ  
對スル販賣契約數量ガ工場、  
事業場其ノ他ノ使用場所毎二  
月當五十噸ヲ超エザルトキ  
三 天災事變其ノ他己ムヲ得ザ  
ル事由アリタルニ因リ販賣指  
圖書ニ依リコトヲ得ザルトキ

日迄ニ、十月一日ヨリ翌年三月  
三十一日ニ至ル期間ノ計畫ハ八  
月三十一日迄ニ之ヲ提出シ商工  
大臣ノ承認ヲ受ケベシ之ヲ變更  
セントスルトキ亦同ジ  
商工大臣必要アリト認ムルトキ  
ハ配給計畫ノ變更ヲ命ズルコト  
アルベシ  
別表甲號又ハ乙號ニ掲グル株式  
會社又ハ團體第三條又ハ前條ノ  
規定ニ依リ販賣指圖書ヲ交付セ  
ントスルトキハ商工大臣ノ承認  
ヲ受ケタル配給計畫ニ從フベシ

第七條 常時月額八百五十噸以上  
ノ石炭ヲ使用スル者(組合員ノ  
使用ニ供スル常時月額八百五  
十噸以上ノ石炭ノ共同購入ヲ爲  
ス法人タル組合ヲ含ム以下同  
ジ)ハ商工大臣ノ許可ヲ受タル  
ニ非ザレバ石炭ヲ購入(本則施  
行前ニ爲シタル契約ニ依リ受入  
ヲ含ム以下同ジ)スルコトヲ得  
ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限  
ニ在ラズ  
一 船舶用品タル石炭ヲ購入ス  
ルトキ  
二 天災事變其ノ他己ムヲ得ザ  
ル事由アリタルニ因リ許可ヲ  
受タルコト能ハザルトキ

第三 天災事變其ノ他己ムヲ得ザ  
ル事由アリタルニ因リ販賣指  
圖書ニ依リコトヲ得ザルトキ  
第四條 別表乙號ニ掲グル株式會  
社又ハ團體ノ株主又ハ團體員タ  
ル石炭ノ販賣業者又ハ其ノ株主タ  
ル株式會社又ハ所屬スル團體ノ  
交付スル販賣指圖書ニ依リニ非  
ザレバ輸入炭及移入炭以外ノ石  
炭ヲ販賣スルコトヲ得ズ

第五條 別表甲號又ハ乙號ニ掲グ  
ル株式會社又ハ團體ハ毎年四月  
一日ヨリ九月三十日及十月一日  
ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル期  
間ニ於ケル株主又ハ團體員タル  
石炭ノ生産業者又ハ販賣業者ノ  
生産又ハ取扱ニ係ル石炭ノ配給  
計畫ヲ定メ四月一日ヨリ九月三  
十日ニ至ル期間ノ計畫ハ二月末

一 別當ヲ爲シタル石炭ノ種類  
別數量  
二 販賣先ニ於ケル用途  
三 引渡ノ時期  
四 販賣指圖書ノ交付先  
第六條 別表甲號又ハ乙號ニ掲グ  
ル株式會社又ハ團體販賣指圖書  
ヲ交付シタルトキハ運浦ナク左  
ニ掲グル事項ヲ販賣指圖書ニ記  
載シタル販賣先ニ通知スベシ通  
知シタル事項ヲ變更シタルトキ  
亦同ジ

第八條 常時月額八百五十噸以上  
ノ石炭ヲ使用スル者則稱ノ許可  
ヲ受ケントスルトキハ四月一日  
ヨリ九月三十日ニ至ル期間ニ購  
入スル石炭ニ付テハ一月三十一  
日迄ニ、十月一日ヨリ翌年三月  
三十一日ニ至ル期間ニ購入スル  
石炭ニ付テハ七月三十一日迄ニ  
許可申請書ヲ商工大臣ニ提出ス  
ルベシ



法律一石炭販賣取締規則

ベシ
前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ
一 使用場所
二 購入セントスル石炭ノ銘柄別及用途別數量
三 受入ノ時期及場所
四 購入先ノ氏名名稱及住所
五 前項許可ヲ受ケテ購入シタル石炭ノ購入先別、銘柄別及用途別數量及價額
六 銘柄別及場所別貯蔵數量
第九條 第七條ノ許可ヲ受ケタル者別第二項第一號及第二號ニ掲グル事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ商工大臣ノ許可ヲ受ケベシ
第十條 常時月額八百五十噸以上ノ石炭ヲ使用スル者ハ第七條ノ許可ヲ受ケテ購入シタル石炭ヲ他人ニ譲渡スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ商工大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第十一條 石炭ノ生産業者又ハ販

賣業者ハ帳簿ヲ備ヘ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ
一 生産シ又ハ購入シタル石炭ノ銘柄別數量及價額、約定及受入ノ年月日並ニ購入先ノ氏名名稱及住所
二 第一條ノ許可ヲ受ケ又ハ販賣指圖書ニ依リ販賣シタル石炭ノ銘柄別及販賣先ニ於ケル用途別數量及價額、約定及引渡ノ年月日、引渡場所並ニ販賣先ノ氏名名稱及住所
三 毎月末ニ於ケル銘柄別及場所別貯蔵數量
第十二條 商工大臣必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ別表甲號若ハ乙號ニ掲グル株式會社若ハ團體、石炭ノ生産業者若ハ販賣業者又ハ常時月額八百五十噸ノ石炭ヲ使用スル者ノ帳簿其ノ他ノ検査ヲ爲サシムルコトアルベシ
地方長官必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ石炭ノ販賣業者又ハ常時月額八百五十噸以上

ノ石炭ヲ使用スル者ノ帳簿其ノ他ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得
第十三條 別表甲號又ハ乙號ニ掲グル株式會社又ハ團體ハ毎月二十日迄ニ前月中ニ其ノ株主又ハ團體員タル石炭ノ生産業者又ハ販賣業者ノ引渡ヲ爲シタル石炭ノ引渡先別及銘柄別數量及價額ヲ商工大臣ニ報告スベシ
第十四條 別表甲號又ハ乙號ニ掲グル株式會社又ハ團體ノ株主又ハ團體員タル石炭ノ生産業者又ハ販賣業者ハ毎月十日迄ニ前月中ニ引渡ヲ爲シタル石炭ノ引渡先別及銘柄別數量及價額並ニ引渡ノ年月日ヲ其ノ株主タル株式會社又ハ所屬スル團體ニ報告スベシ
附 則
本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十三條及第十四條ノ規定ハ昭和十四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス
昭和十四年九月三十日マデハ石炭ノ生産業者若ハ販賣業者又ハ常時

月額八百五十噸以上ノ石炭ヲ使用スル者ハ第一條、第三條、第四條又ハ第七條ノ規定ニ拘ラズ商工大臣ノ許可ヲ受ケズ又ハ販賣指圖書ニ依ラズシテ石炭ヲ販賣シ又ハ購入スルコトヲ得
常時月額八百五十噸以上ノ石炭ヲ使用スル者ハ昭和十四年十月一日ヨリ昭和十五年三月三十一日ニ至ル期間ニ購入スル石炭ニ付テハ昭和十四年八月三十一日迄ニ第八條ノ許可申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ
石炭配給統制規則ハ昭和十四年十月一日ヨリ之ヲ廢止ス但シ同則ニ違反シタル行為ニ付テハ仍舊前ノ例ニ依ル
(別表)
甲號 昭和石炭株式會社
互助會石炭株式會社
常盤炭礦聯合會
常盤無煙炭同業會
乙號 若松合同石炭株式會社

東京石炭統制組合
横濱石炭統制組合
靜岡石炭統制組合
名古屋石炭統制組合
京都石炭統制組合
大阪石炭統制組合
神戸石炭統制組合
【參照】
昭和十二年九月十日公布法律第九十二號ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル件ナリ

石油配給統制規則

(昭和十四年九月二十三日)
(商工省令第五十六號)
第一條 本則ニ於テ石油トハ礦物性ノ揮發油、燈油、輕油、重油及商工大臣ノ指定シタル礦物性ノ有機油ヲ謂フ
第二條 石油精製業者、石油輸入業者又ハ人造石油製造業者ハ商工大臣ノ指定シタル會社(以下統制會社ト稱ス)以外ノ者ニ石油ヲ販賣(本則施行前ニ爲シタル契約ニ依ル引渡ヲ含ム以下同

ジ)スルコトヲ得ズ
但シ特別ノ事情ニ依リ商工大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第三條 石油ノ輸出入(積戻ヲ除ク以下同ジ)、移出又ハ移入ハ統制會社ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ見本、標本又ハ旅客ノ携帶品タル石油ヲ輸出、移出又ハ移入スル場合及特別ノ事情ニ依リ商工大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第四條 統制會社ハ商工大臣ノ指定シタル石油ノ販賣業者(以下指定販賣業者ト稱ス)以外ノ者ニ石油ヲ販賣スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ商工大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第五條 統制會社又ハ指定販賣業者ハ毎月ノ石油ノ配給計畫ヲ定メ該計畫ニ依リテハ商工大臣、指定販賣業者ニ在リテハ地方長官ノ承認ヲ受ケベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ、

統制會社又ハ指定販賣業者前項ノ規定ニ依リ石油ノ配給計畫ノ承認ヲ受ケントスルトキハ申請書ヲ統制會社ニ在リテハ前月十日迄ニ商工大臣ニ、指定販賣業者ニ在リテハ前月二十日迄ニ地方長官ニ提出スベシ
第六條 統制會社又ハ指定販賣業者ハ帳簿ヲ備ヘ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ
一 購入シタル石油ノ種類別數量、價格及購入ノ年月日並ニ其ノ買渡人ノ氏名名稱及住所
二 販賣シタル石油ノ種類別數量、價格及販賣ノ年月日並ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所
三 使用シタル石油ノ種類別數量、用途及使用ノ年月日
統制會社ハ前項ノ帳簿ニ前項各事項ヲ記載スベシ
一 輸出シタル石油ノ種類別數量、價格、輸出先及輸出ノ年月日
二 移出シタル石油ノ種類別數量

一 前月中ニ購入シタル石油ノ種類別數量、價格及購入ノ年月日並ニ其ノ買渡人ノ氏名名稱及住所
二 前月中ニ販賣シタル石油ノ種類別數量、價格及販賣ノ年月日並ニ其ノ買受人ノ氏名名稱及住所
三 前月中ニ使用シタル石油ノ種類別數量、用途及使用ノ年月日
統制會社ハ前項ノ報告書ニ前項各事項ヲ記載スベシ
二六五

法律一石油配給統制規則



法律 明治四十五年法律第二十三號中改正、木炭瓦斯新設生裝置設置獎勵規則中改正

一 前月中ニ輸出シタル石油ノ種類別數量、價格、輸出先及輸出ノ年月日  
二 前月中ニ移出シタル石油ノ種類別數量、價格、移出先及移出ノ年月日  
三 前月中ニ移入シタル石油ノ種類別數量、價格、移入先及移入ノ年月日  
第八條 商工大臣石油ノ需給ヲ調整スル爲メ必要アリト認ムルトキハ石油ノ販賣業者ニ對シ石油ノ販賣ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトアルベシ

明治四十五年法律第二十三號中改正

(昭和十四年三月二十二日) 法律第二十(八)號

第一條 第二項ニ左ノ但書ヲ加フ  
但シ種太ニ於テ人造石油製造事業法第二條ノ規定ニ依リ人造石油製造事業ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シテハ行政官廳其ノ採掘料ヲ定メ之ヲ許可スルコトヲ得

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス (參照)  
明治四十五年六月二十二日公布  
法律第二十三號種太ニ於ケル石油ノ採掘ニ關スル條件抄録

第一條 第一項及第二項  
種太ニ於テハ主務大臣ノ指定シタル區域内ノ石炭採掘ニ付採掘料ヲ徵收ス  
前項ノ區域内ニ於ケル石炭ノ採

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本則施行ノ際現ニ石油精製業、石油輸入業又ハ人造石油製造業ヲ營ム者ハ昭和十四年九月三十日迄ハ第二條及第三條ノ規定ニ拘ラズ石油ノ販賣、輸出、移入又ハ移入ヲ爲スコトヲ得但シ本則施行後昭和十四年九月三十日迄ニ爲シタル約ニ依リ引渡ハ同年十月一日以後之ヲ爲スコトヲ得ス  
統制會社ハ昭和十四年十月三十一日迄ハ第四條ノ規定ニ拘ラズ石油ヲ販賣スルコトヲ得但シ本則施行後昭和十四年十月三十一日迄ニ爲

木炭瓦斯新設生裝置設置獎勵規則中改正

細ハ其ノ採掘料ヲ課税入札ニ付シ落札者ニ之ヲ許可ス  
「木炭瓦斯新設生裝置設置獎勵規則」ニ改ム  
「新設生裝置設置獎勵規則」ニ改ム  
第一條、第二條、第八條及第九條中「木炭瓦斯新設生裝置」ヲ「新設生裝置」ニ改ム

中改正

(昭和十四年四月二十四日) 農林省令第二十號

「木炭瓦斯新設生裝置設置獎勵規則」ニ改ム  
「新設生裝置設置獎勵規則」ニ改ム  
第一條、第二條、第八條及第九條中「木炭瓦斯新設生裝置」ヲ「新設生裝置」ニ改ム

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス (參照)  
昭和十二年七月七日農林省令第二十六號木炭瓦斯新設生裝置設置獎勵規則抄録

第一條 農林大臣ハ木炭瓦斯新設生裝置ノ設置ヲ獎勵スル爲メ本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付ス  
前項ノ木炭瓦斯新設生裝置ハ定置式ニシテ其ノ型式及種類ハ別ニ

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス (參照)  
昭和十二年七月七日農林省令第二十六號木炭瓦斯新設生裝置設置獎勵規則抄録  
第一條 農林大臣ハ木炭瓦斯新設生裝置ノ設置ヲ獎勵スル爲メ本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付ス  
前項ノ木炭瓦斯新設生裝置ハ定置式ニシテ其ノ型式及種類ハ別ニ

二六六

定ムル試驗ニ毎年合格シタルモノニ限ル  
第二條 獎勵金ハ左ニ掲グル費用又ハ補助金ニ對シ府縣、團體其ノ他木炭瓦斯新設生裝置ヲ設置スル者ニ之ヲ交付ス但シ別ニ圖章ヨリ獎勵金又ハ補助金ノ交付ヲ受クベキ場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
一 木炭瓦斯新設生裝置ヲ設置スル爲メ其ノ購入ニ要スル府縣ノ費用又ハ其ノ購入ニ要スル補助金  
二 營林局ヨリ營林ノ指導ヲ受ケタル者ガ營林ニ關シ木炭瓦斯新設生裝置ヲ設置スル爲メ其ノ購入ニ要スル費用  
三 農林大臣ノ適當ト認ムル全額ヲ區域トスル團體ノ木炭瓦斯新設生裝置普及ニ關スル指導獎勵ニ要スル費用  
第八條 第一項  
獎勵金ノ交付ヲ受ケテ設置シタル木炭瓦斯新設生裝置ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三年間農林大臣ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ之ヲ讓渡シ又ハ其ノ使用ヲ廢止スルコトヲ得ス

市街地建築物法

施行令中改正 (昭和十四年一月七日) 勅令第十一號

第一條 第二號ヲ左ノ如ク改ム  
二 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場イ 玩具用普通火工高ノ製造  
ロ 「アセチレンガス」ヲ用フル金屬ノ工作 (溶解「アセチレンガス」ヲ用フルモノヲ除ク)  
ハ 引火性溶劑ヲ用フル「ド」イタリ「ニング」又ハ「ド」イディング  
ニ 「セルロイド」ノ加熱加工又ハ鋳造ヲ用フル加工  
ホ 印刷用「インキ」又ハ繪具ノ製造  
ヘ 塗料ノ製付  
ニ 亞硫酸「ガス」ヲ用フル物品ノ漂白  
チ 骨炭其ノ他動物質炭ノ製造  
リ 羽又ハ毛ノ洗滌、染色又ハ

方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
第六條 業務用ノ原料又ハ材料トシテ用材ヲ使用スル者ハ農林大臣ガ方長官ノ樹種、材種、形質又ハ數量ヲ指定シタルトキハ其ノ指定ニ違反シテ用材ヲ使用スルコトヲ得ス  
附 則  
本令ハ昭和十四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行前生産シタル用材ニシテ付テハ第二條及第三條第二項ノ規定ハ之ヲ適用セズ本令施行前生産シタル用材ノ所有者ガ本令施行後三月以内ニ於テ自ら其ノ用材ノ原料又ハ材料トシテ使用スル場合ニ於テ其ノ樹種、材種、形質又ハ材種ヲ本令施行後二週間以内ニ地方長官ニ届出デタルモノニ付亦同ジ

第九條 農林大臣必要アリト認ムルトキハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ木炭瓦斯新設生裝置ノ使用ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ使用ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第九條 農林大臣必要アリト認ムルトキハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ木炭瓦斯新設生裝置ノ使用ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ使用ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

用材生産統制規則

(昭和十四年九月二十七日) 農林省令第四十五號

第一條 本則ニ於テ用材トハ本邦ニ於テ生産セラレタル木材ニシテ新設ノ用ニ供セザルモノヲ謂フ  
用材ハ素材及製材トシテ素材トハ丸太及枕角ヲ、製材トハ板類、挽割類及挽割類ヲ謂フ  
第二條 素材ハ農林大臣ノ指定スルモノヲ除ク外農林大臣ノ定ムル規格ニ付道府縣ノ行ヲ検査ニ合格シタルモノニ非ザレバ之ヲ讓渡シ又ハ原料若ハ材料トシテ使用スルコトヲ得ズ但シ農林大臣又ハ地方長官ノ指定スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 製材ハ農林大臣ノ指定スルモノヲ除ク外農林大臣ノ定ムル規格ニ依リニ非ザレバ之ヲ生産スルコトヲ得ズ但シ農林大臣又ハ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ  
製材ハ其ノ規格ニ付道府縣ノ行ヲ検査ニ合格シタルモノニ非ザレバ之ヲ讓渡シ又ハ原料若ハ材料トシテ使用スルコトヲ得ズ但シ農林大臣又ハ地方長官ノ指定スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 第一條ノ規格ハ用材ノ樹種、材種、形質又ハ材種ニ付之ヲ定メ告示ス  
第五條 農林大臣又ハ地方長官樹種、材種、形質又ハ材種ニ依リ用材ノ用途ヲ指定シ又ハ特定ノ用途ニ供スル用材ノ範圍ヲ指定シタルトキハ其ノ用途ヲ指定セラレタル用途以外ノ用途ニ供シ又ハ指定セラレタル範圍以外ノ用材ヲ當該用途ニ供スルコトヲ得ズ但シ災害事變ニ際シ緊急ノ必要アル場合又ハ農林大臣若ハ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ

方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
第六條 業務用ノ原料又ハ材料トシテ用材ヲ使用スル者ハ農林大臣ガ方長官ノ樹種、材種、形質又ハ數量ヲ指定シタルトキハ其ノ指定ニ違反シテ用材ヲ使用スルコトヲ得ス  
附 則  
本令ハ昭和十四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行前生産シタル用材ニシテ付テハ第二條及第三條第二項ノ規定ハ之ヲ適用セズ本令施行前生産シタル用材ノ所有者ガ本令施行後三月以内ニ於テ自ら其ノ用材ノ原料又ハ材料トシテ使用スル場合ニ於テ其ノ樹種、材種、形質又ハ材種ヲ本令施行後二週間以内ニ地方長官ニ届出デタルモノニ付亦同ジ

第九條 農林大臣必要アリト認ムルトキハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ木炭瓦斯新設生裝置ノ使用ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ使用ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第九條 農林大臣必要アリト認ムルトキハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ木炭瓦斯新設生裝置ノ使用ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ使用ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第九條 農林大臣必要アリト認ムルトキハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ木炭瓦斯新設生裝置ノ使用ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ使用ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第九條 農林大臣必要アリト認ムルトキハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ木炭瓦斯新設生裝置ノ使用ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ使用ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第九條 農林大臣必要アリト認ムルトキハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ木炭瓦斯新設生裝置ノ使用ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ使用ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第九條 農林大臣必要アリト認ムルトキハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ木炭瓦斯新設生裝置ノ使用ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ使用ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第九條 農林大臣必要アリト認ムルトキハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ木炭瓦斯新設生裝置ノ使用ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ使用ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第九條 農林大臣必要アリト認ムルトキハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ木炭瓦斯新設生裝置ノ使用ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ使用ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第九條 農林大臣必要アリト認ムルトキハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ木炭瓦斯新設生裝置ノ使用ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ使用ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第九條 農林大臣必要アリト認ムルトキハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ木炭瓦斯新設生裝置ノ使用ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ使用ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第九條 農林大臣必要アリト認ムルトキハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ木炭瓦斯新設生裝置ノ使用ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ使用ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第九條 農林大臣必要アリト認ムルトキハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ木炭瓦斯新設生裝置ノ使用ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ使用ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得



法律一市街地建築物法施行令中改正

漂白  
ヌ 檫機、屑紙、屑紙、屑紙ノ類ノ消毒、選別、洗滌又ハ漂白  
ル 製糖、古綿ノ再製、起毛、反毛又ハ「フェルト」ノ製造  
ニシテ原動機ヲ用フルモノ  
ヲ 骨、角、牙、蹄、貝殻ノ挽削若ハ乾燥研削又ハ金屬ノ乾燥研削ニシテ原動機ヲ用フルモノ  
ワ 礦物、粘土、土砂、硫黄、金屬、硝子、煉瓦、陶磁器、骨又ハ貝殻ノ粉碎ニシテ原動機ヲ用フルモノ  
カ 炭、煤、燧石又ハ煉炭ノ製造  
ヨ 活字又ハ金屬工業品ノ製造  
タ 瓦、煉瓦、土器類、陶磁器  
人遺磁石、坩堝又ハ珪藻土器ノ製造  
レ 硝子ノ製造又ハ砂吹  
ソ 動力機ヲ用フルモノ  
第二條第二號ヲ左ノ如ク改ム  
二 前條第二號ニ該當スルモノ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル

事業ヲ營ムモノヲ除ク  
イ 容量三十リットル以下ノ「アセチレンガス」發生器ヲ用フル金屬ノ工作  
ロ 馬力數ノ合計〇・二五以下ノ原動機ヲ用フル燃料ノ吹付ハ原動機ニ依ル金屬ノ乾燥研削  
第三條第一號但書ヲ左ノ如ク改ム  
但シ印刷工場、精密機器製作工場、製水工場及冷凍工場ヲ除ク  
同條第二號中「ト 合成染料若ハ其ノ中間物、原料(漆ヲ除ク)印刷用、インキ又ハ繪具ノ製造」ヲ「ト 合成染料若ハ其ノ中間物原料又ハ燃料ノ製造(漆又ハ水性塗料ノ製造ヲ除ク)」「ニ「アセチレンガス」又ハ液體「ガス」ノ製造」ヲ「アセチレンガス」又ハ液體「ガス」ノ製造(製氷又ハ冷凍目的トスルモノヲ除ク)」「ム金屬ノ熔接又ハ精煉」ヲ「ム金屬ノ熔接又ハ精煉(活字又ハ金屬工業品ノ製造目的トスルモノヲ除ク)」ニ改ム

「アセチレンガス」又ハ液體「ガス」ノ製造  
同條第二項中「前項ヲ」前二項」ニ改ム  
同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ  
行政官廳地城ノ種別、土地ノ状況、事業ノ種別、作業ノ方法、建築物ノ構造設備、除害ノ設備又ハ設備等ヲ審酌シテニ支障ナシト認ムルモノニ付テハ前項第二號乃至第四號ノ制限ヲ輕減スルコトヲ得  
第十二條 削除  
第十四條中「住居地城內ニ於テハ十分ノ六」ヲ「住居地城及商業地城外ニ於テハ十分ノ七」ヲ「商業地城外ニ於テハ十分ノ六」「二」地區」ヲ「區域」ニ改ム

二六八  
第十四條ノ二及第十四條ノ三ヲ削除ク  
第十六條ノ二 建築物ノ敷地ガ二以上ノ地域又ハ地區ニ跨ル場合ニ於テ第一條乃至第三條若ハ第十四條ノ規定又ハ住居專用地區工業地城內特別地區、工業專用地區若ハ空地地區ニ關スル制限ノ適用ニ關シテハ制限ノ最嚴ナルモノニ依ル但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
第十七條中「地城ノ又ハ工業地城內特別地區」ヲ「地城、住居專用地區、工業地城內特別地區又ハ工業專用地區」ニ改ム  
第二十九條ノ二中「市街地建築物法第二十六條第二項ノ道路」ヲ「市街地建築物法第二十六條第二項ノ規定ニ依リ道路ト看做サレタル計畫ノ道路」ニ改ム  
第三十條 幅員四メートル未満ノ七メートル以上ノ道路ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ左ノ市街地建築物法ノ道路ト看做ス

做ス  
一 行政官廳市街地ノ状況ニ依リ特ニ指定シタルモノ  
二 土地區劃整理設計又ハ行政官廳ノ指定シタル建築線ニ基キ築造セラレタルモノ  
幅員四メートル以上ノ道路ノ新設又ハ變更ノ計畫アル場合ニ於テ行政官廳其ノ計畫ヲ告示シタルトキハ其ノ計畫ノ道路ハ之ヲ市街地建築物法ノ道路ト看做ス  
第三十一條ヲ削ル  
附 則  
本令ハ昭和十四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

上巳ムヲ得スト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ  
二 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場イ 玩具用普通火工品ノ製造  
ロ 「アセチレンガス」ヲ用フル金屬ノ工作(單ニ修繕スルモノヲ除ク)  
ハ 「ドライクリーニング(單ニ拭拭スルモノヲ除ク)又ハ「ドライダイナミク」ニ「セルロイド」ノ加熱加工又ハ鋸機ヲ用フル加工  
ホ 塗料ノ吹付  
ヘ 亞硫酸「ガス」ヲ用フル物品ノ漂白  
ト 骨炭其ノ他動物質炭ノ製造  
二 羽又ハ毛ノ洗滌、染色又ハ漂白  
リ 檫機、屑紙、屑紙、屑紙ノ消毒、選別、洗滌又ハ漂白  
ヌ 製糖、古綿ノ再製、起毛反毛又ハ「フェルト」ノ製造ニシテ原動機ヲ用フルモノ

ル 骨、角、牙、蹄、貝殻ノ挽削若ハ乾燥研削又ハ金屬ノ乾燥研削ニシテ原動機ヲ用フルモノ  
ワ 礦物、粘土、土砂、硫黄、金屬、硝子、煉瓦、陶磁器、骨又ハ貝殻ノ粉碎ニシテ原動機ヲ用フルモノ  
カ 煉瓦、土器類、陶磁器、人遺磁石又ハ坩堝ノ製造  
レ 硝子ノ製造又ハ砂吹  
ソ 動力機ヲ用フルモノ  
第二條 建築物左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ左ノ市街地建築物法ノ道路ト看做ス  
一 常時使用スル原動機馬力數ノ合計五十ワ超過スル工場  
二 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場  
ト 合成染料若ハ其ノ中間物原料、燃料(漆ヲ除ク)、印刷用「インキ」又ハ繪具ノ製造  
ニ 印刷「ガス」又ハ液體「ガス」ノ製造  
ム 金屬ノ熔接又ハ精煉

第三條ノ二 前條ノ規定又ハ市街地建築物法第四條第二項ノ規定ニ依リ現在地ニ建築スルコトヲ得ザル種類ニ屬スル建築物ハ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル日ヨリ十五年間ヲ限

【參照】  
大正九年九月三十日公布勅令第四百三十八號市街地建築物法施行令抄録  
第一條 建築物左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ左ノ市街地建築物法ノ道路ト看做ス  
一 行政官廳市街地ノ状況ニ依リ特ニ指定シタルモノ  
二 土地區劃整理設計又ハ行政官廳ノ指定シタル建築線ニ基キ築造セラレタルモノ  
幅員四メートル以上ノ道路ノ新設又ハ變更ノ計畫アル場合ニ於テ行政官廳其ノ計畫ヲ告示シタルトキハ其ノ計畫ノ道路ハ之ヲ市街地建築物法ノ道路ト看做ス  
第三十一條ヲ削ル  
附 則  
本令ハ昭和十四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

上巳ムヲ得スト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ  
二 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場イ 玩具用普通火工品ノ製造  
ロ 「アセチレンガス」ヲ用フル金屬ノ工作(單ニ修繕スルモノヲ除ク)  
ハ 「ドライクリーニング(單ニ拭拭スルモノヲ除ク)又ハ「ドライダイナミク」ニ「セルロイド」ノ加熱加工又ハ鋸機ヲ用フル加工  
ホ 塗料ノ吹付  
ヘ 亞硫酸「ガス」ヲ用フル物品ノ漂白  
ト 骨炭其ノ他動物質炭ノ製造  
二 羽又ハ毛ノ洗滌、染色又ハ漂白  
リ 檫機、屑紙、屑紙、屑紙ノ消毒、選別、洗滌又ハ漂白  
ヌ 製糖、古綿ノ再製、起毛反毛又ハ「フェルト」ノ製造ニシテ原動機ヲ用フルモノ

ル 骨、角、牙、蹄、貝殻ノ挽削若ハ乾燥研削又ハ金屬ノ乾燥研削ニシテ原動機ヲ用フルモノ  
ワ 礦物、粘土、土砂、硫黄、金屬、硝子、煉瓦、陶磁器、骨又ハ貝殻ノ粉碎ニシテ原動機ヲ用フルモノ  
カ 煉瓦、土器類、陶磁器、人遺磁石又ハ坩堝ノ製造  
レ 硝子ノ製造又ハ砂吹  
ソ 動力機ヲ用フルモノ  
第二條 建築物左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ左ノ市街地建築物法ノ道路ト看做ス  
一 常時使用スル原動機馬力數ノ合計五十ワ超過スル工場  
二 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場  
ト 合成染料若ハ其ノ中間物原料、燃料(漆ヲ除ク)、印刷用「インキ」又ハ繪具ノ製造  
ニ 印刷「ガス」又ハ液體「ガス」ノ製造  
ム 金屬ノ熔接又ハ精煉

第三條ノ二 前條ノ規定又ハ市街地建築物法第四條第二項ノ規定ニ依リ現在地ニ建築スルコトヲ得ザル種類ニ屬スル建築物ハ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル日ヨリ十五年間ヲ限



リ行政官廳ノ許可ヲ受ケ左記各  
號ニ規定スル制限内ニ於テ増築  
改築、再築又ハ用途ノ變更ヲ爲  
スコトヲ妨グズ

一 現在地ニ建築スルコトヲ得  
ザルニ至リタル際現ニ存在ス  
ル建築物ノ敷地及之ト一團ヲ  
成ス土地ヲ超エテ増築、改築  
再築又ハ用途ノ變更ヲ爲サザ  
ルコト

二 建築物ノ増築、改築、再築  
又ハ用途ノ變更ニ因リ増加ス  
ベキ建築面積ハ現在地ニ建築  
スルコトヲ得ザルニ至リタル  
際現ニ存在スル建築物ノ建築  
面積ノ二分ノ一ヲ超過セザル  
コト

三 建築物ノ増築、改築、再築  
又ハ用途ノ變更ニ因リ増加ス  
ベキ床面積ハ現在地ニ建築ス  
ルコトヲ得ザルニ至リタル際  
現ニ存在スル建築物ノ床面積  
ヲ超過セザルコト

四 工場ノ常時使用スル原動機  
馬力數ヲ増加スル場合ニ於テ

増加スベキ馬力數ハ現在地ニ  
建築スルコトヲ得ザルニ至リ  
タル際常時使用スル馬力合計  
數ヲ超過セザルコト但シ行政  
官廳土地ノ状況、事業ノ種類  
作業方法又ハ建築物ノ構造設  
備ニ依リ特ニ支障ナシト認め  
ルモノハ此ノ限ニ在ラズ

五 前號ニ掲グルモノヲ除ク  
外用途ノ變更ニ付テハ現在地  
ニ建築スルコトヲ得ザルニ至  
リタル際現ニ存在スル建築物  
ノ用途ニ類似スル用途又ハ設  
備ヲ變更セズ若ハ之ニ些少ノ  
變更ヲ加フルニ依リ覺ムコト  
ヲ得ル用途ニ限ルコト

第二十六條ノ規定ニ依リ建築ノ  
許可ヲ受ケタル建築物ハ前項ノ  
規定ノ適用ニ付テハ之ヲ現在地  
ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リ  
タル際現ニ存在スル建築物ト看  
做ス

第十一條 行政官廳ハ土地ノ状況  
ニ依リ特ニ必要ト認めルモノキハ  
區域ヲ指定シ其ノ區域内ニ於テ

ル建築物ノ高ノ最低限度又ハ最  
高限度ヲ定ムルコトヲ得

第十四條 建築物ノ建築面積ハ建  
築物ノ敷地ノ面積ニ對シ住居地  
域内ニ於テ十分ノ八、商業地  
域内ニ於テ十分ノ八、住居地  
域及商業地域外ニ於テ十分ノ  
七ヲ超過スルコトヲ得ズ但シ行  
政官廳特ニ指定シタル角地其ノ  
他ノ地區ニ於ケル建築物ニ付テ  
ハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條ノ二 行政官廳ハ土地ノ  
状況ニ依リ特ニ必要ト認めル  
モノキハ區域ヲ指定シ其ノ區域内  
ニ於ケル建築物ノ敷地内ニ存セシ  
ムベキ空地ノ最小限度ヲ定ムル  
コトヲ得

第十四條ノ三 都市計畫區域内ニ  
於テ第十一條ノ規定ニ依リ建築  
物ノ最低限度若ハ最高限度ヲ定  
ムル場合又ハ前條ノ規定ニ依リ  
建築物ノ敷地内ニ存セシムベキ  
空地ノ最小限度ヲ定ムル場合ニ  
於テハ行政官廳ハ之ヲ都市計畫  
委員會ノ議ニ付スベシ

第十六條ノ二 建築物ノ敷地ガ二  
以上ノ地域、地區又ハ第十四條  
ノ二ノ規定ニ依リ指定セラレタ  
ル區域ニ跨ル場合ニ於テ第一條  
乃至第三條、第十四條又ハ第十  
四條ノ二ノ規定ノ適用ニ關シテ  
ハ制限ノ最嚴ナルモノニ依ル但  
シ特別ノ事由アル場合ニ於テ行  
政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ  
此ノ限ニ在ラズ

第十七條 市街地建築物法第十八  
條第二項ノ規定ニ依リ損失ヲ補  
償スベキ場合ハ左ノ各號ノ一ニ  
該當スル場合ニ限ル

一 地域ノ又ハ工業地域内特別  
地區ノ指定又ハ變更ニ基キ建  
築物ノ使用禁止又ハ建築物主  
要構造部ノ除却ヲ命ジタル場  
合

第二十九條ノ二 市街地建築物法  
第二十六條第二項ノ道路ノ境域  
内ニ於テ行政官廳支障ナシト認  
ムルトキハ同法第八條、第九條  
及第十一條ノ規定ニ拘ラズ存置  
期限ヲ附シ假設建築物ノ建築ヲ

許可スルコトヲ得

第三十條 市街地建築物法第二十  
六條第一項ノ道路ノ新設又ハ變  
更ノ計畫アル場合ニ於テ行政官  
廳其ノ計畫ヲ告示シタルトキハ其  
ノ計畫ノ道路ハ之ヲ道路ト看做  
ス

市街地建築物法  
施行規則中改正

(昭和十四年一月九日)  
內務省令第一號

第一章ノ二 専用地區及  
特別地區  
第三條ノ二 建築物ニシテ左ノ各  
號ノ一ニ該當セザルモノハ住居  
専用地區内ニ之ヲ建築スルコト  
ヲ得ズ  
一 住宅  
二 住宅ニシテ事務所ノ類ヲ兼

スルモノ

- 三 共同住宅、寄宿舎又ハ下宿
- 四 神社
- 五 學校、圖書館ノ類
- 六 養育院、託兒所ノ類
- 七 寺院、教會所ノ類
- 八 形像、記念塔ノ類
- 九 物品販賣業ヲ營ム店舗(床  
面積十平方メートル以下ノモ  
ノ) 旅館、俱樂部、診療所、  
農業用建築物ノ類ニシテ地方  
長官土地ノ状況ニ依リ支障ナ  
シト認めルモノ
- 十 前各號ノ一ニ該當スル建築  
物ニ附随スルモノニシテ地方  
長官支障ナシト認めルモノ
- 十一 前各號ニ掲グルモノヲ除  
クノ外地方長官支障ナシト認  
メ又ハ公益上已ムヲ得ズト認  
ムルモノ
- 第三條ノ三 山業地域内ニ特別地  
區ヲ指定シタル場合ニ於テ建築  
物左ノ各號ノ一ニ該當スルトキ  
ハ特別地域内ニ非ザレバ之ヲ建

築スルコトヲ得ズ但シ地方長官  
保安上危險ノ又ハ衛生上有害ノ  
虞ナシト認めルモノハ此ノ限ニ  
在ラズ

- 一 銃砲火藥類取締法施行規則  
ノ火藥庫
- 二 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場  
イ 銃砲火藥類取締法ノ火藥類  
ノ製造但シ銃砲火藥類取締法  
施行規則第四十四條第二項ノ  
火工品ヲ除ク
- ロ 硝化纖維素「セルロイド」  
鹽素硝化類、過鹽素硝化類、ピ  
クリン「糖」ビクリン、「醃鹽  
類、黃磷、過酸化カリウム」  
過酸化「ナトリウム」、「酸化炭  
素」、「エーテル」、「アセトン」  
「ベンゾール」、「キシロール」  
「トルオール」又ハ「テレピン」  
油ノ製造
- ハ 石油類、鹽化硫黃、硫酸、  
鹽酸、弗化水素「タロール」  
石灰「チアン」化合物、砒素  
化合物、水銀化合物、亞硫酸  
鹽類及動物質肥料ノ製造運動

物質原料ノ化製

- 三 前各號ニ掲グルモノヲ除ク  
ノ外地方長官著シク保安上危  
險ノ又ハ衛生上有害ノ虞アリ  
ト認め命令ヲ以テ指定スル物  
品ノ製造、貯藏又ハ處理ニ供  
スルモノ
- 第三條ノ四 工業地域内特別地區  
ノ全部又ハ一部ヲ甲種特別地區  
ニ指定シタル場合ニ於テ建築物  
左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ  
甲種特別地區内ニ非ザレバ之ヲ  
建築スルコトヲ得ズ
- 一 前條第一號又ハ第二號イ若  
ハロニ該當スルモノ
- 二 前條ニ掲グルモノヲ除クノ  
外地方長官著シク保安上危險  
ノ虞アリト認め命令ヲ以テ指  
定スル物品ノ製造、貯藏又ハ  
處理ニ供スルモノ
- 第三條ノ五 工業地域内特別地區  
ノ全部又ハ一部ヲ乙種特別地區  
ニ指定シタル場合ニ於テ建築物  
左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ  
乙種特別地區内ニ非ザレバ之ヲ



建築スルコトヲ得ズ

- 一 第三條ノ三第二號ハニ該當スルモノ
- 二 前號ニ掲グルモノヲ除クノ外地方長官若シテ衛生上有害ノ虞アリト認め命令ヲ以テ指定スル物品ノ製造、貯蔵又ハ處理ニ供スルモノ

第三條ノ六 前三條中二條ノ規定ノ適用ヲ併セ受クル建築物ヲ建築セントスル場合ニ在リテハ地方長官其ノ建築スベキ地區ヲ指定ス

第三條ノ七 建築物左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ工業專用地區内ニ之ヲ建築スルコトヲ得ズ但シ地方長官公益上已ムヲ得ズト認めルモノ又ハ下掲、倉庫其ノ他之ニ準ズベキモノニ附随スル建築物ニシテ支障ナシト認めルモノハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 住宅
- 二 共同住宅、寄宿舎、下宿屋又ハ旅館
- 三 物品販賣業ヲ營ム店舗

四 劇場、活動寫眞館、演藝場又ハ觀劇場

- 五 料理屋、飲食店、待合又ハ貨物敷
- 六 學校、圖書館ノ類
- 七 前各號ニ掲グルモノヲ除クノ外地方長官支障アリト認め命令ヲ以テ指定スルモノ

第三條ノ八 市街地建築物法第二條第二項又ハ第四條第二項若ハ第三項ノ規定ニ依リ現在地ニ建築スルコトヲ得ザル種類ニ屬スル建築物ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ左記各號ニ規定スル制限内ニ於テ増築、改築、再築又ハ用途ノ變更ヲ爲スコトヲ妨ケズ

- 一 建築物ノ敷地ヲ擴張セザルコト
- 二 建築物ノ増築、改築、再築又ハ用途ノ變更ニ因リ増加スベキ建築面積ハ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル際現ニ存在スル建築物ノ建築面積ノ二分ノ一ヲ超過セザルコト

三 建築物ノ増築、改築、再築又ハ用途ノ變更ニ因リ増加スベキ建築面積ハ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル際現ニ存在スル建築物ノ建築面積ヲ超過セザルコト

- 四 工場ノ常時使用スル原動機馬力數ヲ増加スル場合ニ於テ増加スベキ馬力數ハ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル際常時使用スル馬力合計數ヲ超過セザルコト
- 五 前號ニ掲グルモノヲ除クノ外用途ノ變更ニ付テハ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタリ際現ニ存在スル建築物ノ用途ニ類似スル用途又ハ設備ヲ變更セズ若ハ之ニ些少ノ變更ヲ加フルニ依リ營ムコトヲ得ル用途ニ限ルコト

行政官廳地區ノ種別、土地ノ状況、事業ノ種類、作業ノ方法、建築物ノ構造設備、除害ノ設備又ハ設置等ヲ審酌シテ支障ナシト認めルモノニ付テハ前項第三號ノ規定ニ依リ增加スベキ建築面積ノ二分ノ一ヲ超過セザルコト

二號乃至第四號ノ制限ヲ輕減スルコトヲ得

市街地建築物法施行令第二十六條ノ規定ニ依リ建築ノ許可ヲ受ケタル建築物ハ前二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル際現ニ存在スル建築物ト看做ス

第六條ノ二 空地地區内ニ於ケル建築物ノ床面積ノ敷地面積ニ對スル割合ノ限度ハ十分ノ二乃至十分ノ七ノ範圍ニ於テ土地ノ状況ニ依リ内務大臣ノ之ヲ定ム

空地地區指定又ハ變更ノ際現ニ存在スル建築物ニシテ其ノ床面積ノ敷地面積ニ對スル割合前項ノ規定ニ依リ制限ヲ超ユルモノハ地方長官ノ許可ヲ受ケ地區指定又ハ變更ノ際ニ於ケル割合ヲ超エザル範圍ニ於テ改築又ハ再築ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ床面積ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ基礎及地階ヲ除キタル部分又ハ第一階ノ部分ニ付

之ヲ算ス

第六條ノ三 空地地區内ニ於ケル建築物ノ其ノ敷地面積ヨリノ距離ノ限度ハ地方ノ状況ニ依リ内務大臣ノ之ヲ定ム

- 左ノ各號ノ一ニ該當スル建築物ニ付テハ地方長官ハ前項ノ規定ニ依リ制限ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得
- 一 道路、公園、廣場、河、海ノ類ニ面スルモノ
- 二 軒高二・五メートル以下ノモノ
- 三 敷地面積二面スル部分ノ長二メートル以下ノモノ

第九條ノ二 高四メートルヲ超ユル近接シテ建築物ヲ建築シ又ハ建築敷地ヲ造成セントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

地方長官ハ前項ノ規定及之ニ接スル建築敷地ニ付保安上必要ト認めルトキハ斜面ノ勾配、擁壁ノ設置、建築物ノ位置等ニ關シ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲

法律一防空建築規則

スルコトヲ得

第三十條第一號ニ左ノ但書ヲ加フ但シ木造又ハ木骨造建築物ニ在リテハ煉瓦造、石造其ノ他之ニ類スル構造ト爲サザルコト

同條ニ左ノ一項ヲ加フ  
木造又ハ木骨造建築物ノ防火壁ニ在リテハ前項第一號ノ規定ニ拘ラス中央ニ金屬板ヲ有スル厚六センチメートル以上ノ鐵網「モルタル」造ノ類ニシテ倒壞ノ虞ナキ構造ト爲スコトヲ得

第三十二條 削除  
第二百二十一條第一項但書中「窓若ハ出入口ニ在リテハ」ヲ「窓若ハ出入口ニシテ地方長官周圍ノ状況ニ依リ防火上支障ナシト認めルモノハ」ニ改ム

第二百二十八條ヲ第二百二十七條トシ同條中「軒」ノ下ニ「庇、」ヲ加ヘ「又ハ被覆スベシ」ヲ「又ハ準耐火構造ト爲スベシ」ニ改ム  
第二百二十七條ヲ第二百二十八條トシ同條中「前條」ヲ「前二條」ニ改ム

第二百二十九條第一項但書中「窓若ハ出入口ニ在リテハ」ヲ「窓若ハ出入口ニシテ地方長官周圍ノ状況ニ依リ防火上支障ナシト認めルモノハ」ニ改ム

第二百三十九條中「主務大臣ノ認可ヲ受クベシ」ヲ「美觀審査委員會ノ意見ヲ徵スベシ」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

美觀審査委員會ニ關スル規程ハ地方長官ノ之ヲ定ム  
第四百十五條ニ左ノ一項ヲ加フ  
地方長官ハ前項ノ建築認可證ノ交付ニ際シ建築物使用認可證ヲ受クルニ非ザレバ使用シ得ザル建築物ヲ指定スルコトヲ得

第四百十七條 地方長官ハ第四百十五條第二項ノ規定ニ依リ指定シタル建築物ニ付成功ノ届出ヲ受ケタル場合ニ於テ支障ナシト認めタルトキハ運搬ナク建築物使用認可證ヲ交付スベシ

地方長官ハ申請者ノ請求ニ依リ前項ノ建築物ノ成功セル部分ニ對シ建築物使用認可證ヲ交付ス

ルコトヲ得

附 則  
本令ハ昭和十三年法律第二十九號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
市街地建築物法第四條第二項ノ規定ニ依リ工業地域内特別地區規則ハ之ヲ廢止ス

防空建築規則

(昭和十四年二月十七日 內務省令第五號)

第一條 市街地建築物法第十二條ノ規定ニ依リ建築物ノ構造、設備又ハ敷地ニ關シ防空上必要ナル事項ハ本令ノ定ムル所ニ依ル  
第二條 本令ハ内務大臣ノ指定スル區域ニ之ヲ適用ス

第三條 本令ニ於ケル用語ハ左ノ例ニ依ル  
一 耐火木材トハ耐火液ヲ注入シタル木材ニシテ内務大臣ノ定ムル規格ニ適合シタルモノヲ謂フ  
二 床又ハ屋根ノ耐震構造トハ鐵筋「コンクリート」造(鐵



法律一防空建築規則

件鐵筋「コンクリート」造ヲ  
含ム以下之ニ同ジ)ニシテ左  
ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ  
謂フ  
イ 版ノ厚ハ四十センチメー  
トル以上ニシテ各部分ニ於  
ケル鐵筋「コンクリート」  
トノ容積比ハ〇・〇四以上  
且複筋及繫筋ヲ配置シ主筋  
ノ間隔ハ十五センチメー  
トル以下ト爲シ上下ノ鐵筋ハ  
千鳥ニ配シ適當ニ接合シタ  
モノ  
ロ 版ノ厚特ニ大ナルモノ等  
ニシテ地方長官(東京府ニ

イ	鐵筋「コンクリート」ニシテ厚二種以上ノモノ	水平距離二米未満ノトキ 以上ノトキ
ロ	煉土、漆喰等ニシテ厚二種以上ノモノ	煉土、漆喰等
ハ	耐火木材ニシテ厚一種以上ノモノ(水平距離〇・五米未満ノトキヲ除ク)	耐火木材
ニ	石綿製又ハ金屬板ニシテ木部ト適當ニ隔離セルモノ(水平距離〇・五米未満ノトキヲ除ク)	石綿製又ハ金屬板
ホ	其ノ他地方長官前各號ニ準ズト認ムルモノ	同上

在リテハ警視總監以下之ニ  
同ジ)前號ト同等以上ノ耐  
弾効力アリト認ムルモノ  
三 防護扉トハ左ノ各號ノ一ニ  
該當スルモノヲ謂フ  
イ 鐵製ニシテ鐵板ノ厚ノ合  
計三ミリメートル以上且防  
毒上有効ナル構造ヲ有スル  
モノ  
ロ 木造ニシテ厚六センチメ  
ートル以上且防毒上有効ナ  
ル構造ヲ有スルモノ  
ハ 其ノ他地方長官前各號ニ  
準ズト認ムルモノ  
第四條 木造(鐵骨木造ヲ含ム以  
下之ニ同ジ)建物ニシテ隣地  
境界又ハ幅員四メートル未満ノ  
道路ノ中心線ヨリノ水平距離三  
メートル未満ノ位置ニ在ル部分  
ニ付テハ左ノ構造ト爲スベシ  
一 外壁、軒、庇、軒庇ノ類  
又ハ出格子、肘掛、戸袋其ノ  
他建物ノ突出部ハ耐火構造  
ト爲シ又ハ左ニ掲グルモノヲ  
以テ構成若ハ被覆スルコト  
二 窓又ハ出入口ニハ防火戸又  
ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル戸  
ヲ設ケ其ノ周圍部ハ前號ニ規  
定スル構造ト爲スコト  
イ 耐火木材、金屬板、石綿  
製又ハ網入ガラスノ類ヲ以  
テ構成シタルモノ  
ロ 其ノ他地方長官前各號ニ準  
ズト認ムルモノ  
三 金屬板ヲ以テ被覆シタル屋  
根ノ野地ハ適當ナル厚ノ不燃  
材料又ハ耐火木材ヲ以テ之ヲ  
構成スルコト  
地盤面ヨリノ高四メートルヲ超  
スル木造建物ノ部分ニシテ隣地

二七四

境界又ハ幅員六メートル未満  
ノ道路ノ中心線ヨリノ水平距離  
五メートル未満ノ位置ニ在ルモ  
ノニ付テハ前項ノ規定ヲ適用ス  
同一敷地内ニ於テ隣接スル木造  
建物ニ在リテハ互ニ相面スル外  
壁間ノ中心線ヲ以テ隣地境界線  
ト看做シ前二項ノ規定ヲ適用ス  
但シ建築面積ノ合計六百平方メ  
ートル以下ノ建物ニ付テハ此ノ  
限ニ在ラズ  
第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル  
モノニ付テハ地方長官前各號ノ制  
限ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得  
一 建物ノ層階及地階ヲ除キタ  
ル部分ノ床面積ノ敷地面積ニ  
對スル割合ノ限度十分ノ五以  
下ノ空地敷地内ニ在ル建物  
二 床面積四平方メートル以下  
ノ平家建ノ建物  
三 公園、廣場、河、海ノ類ニ  
面スル建物ノ部分  
四 煙囪、防火壁又ハ防火上有  
効ナル階梯ノ類ニ面スル建物  
ノ部分

五 防火上有効ナル袖壁ノ類ヲ  
設ケタル場合ニ於ケル其ノ後  
方ノ建物ノ部分  
六 適當ニ「ドレンチャイ」ヲ  
設備スル建物ノ部分  
七 前條第一項第一號ニ規定ス  
ル構造ヲ有スルモノニ依リ絶  
緣セラルル建物ノ突出部  
八 柱、桁其ノ他木材ヲ使用ス  
ル建物ノ部分  
九 其ノ他地方長官防火上支障  
ナシト認ムル建物又ハ建物ノ  
部分  
第六條 木造ノ長屋ニ在リテハ地  
盤ヨリ屋根ニ連スル土壁又ハ  
ハ金屬板ノ類ヲ以テ各戸ヲ區劃  
スベシ  
木造ノ長屋ニシテ其ノ建築面積  
百五十平方メートルヲ超ユルモ  
ノハ百五十平方メートル以内毎  
ニ準防火壁ヲ設クベシ  
第七條 準防火壁ノ構造ハ左ノ規  
定ニ依ルベシ但シ準防火壁ノ壁  
面ヨリ一・五メートル以上二・五  
リ建物ノ外周部又ハ野地ヲ第四

條第一項ノ構造ト爲シタルトキ  
ハ第二號又ハ第三號ノ規定ニ依  
ラザルコトヲ得  
一 厚三センチメートル以上ノ  
鐵筋「コンクリート」造ノ壁ニシ  
テ倒壊ノ虞ナキモノト爲スコ  
ト  
二 兩端ハ之ニ近接スル木部ヨ  
リ三センチメートル(地盤  
面上二・五メートル以内ノ部  
分ハ十五センチメートル)以  
上突出セシムルコト  
三 上端ハ屋根面ニ直内ニ測リ  
四十五センチメートル以上層  
上ニ突出セシムルコト  
第八條 木造建物ノ開口ニシテ隣  
地境界線ニ面シ且其ノ水平距離  
一メートル未満ノモノニ付テハ  
地方長官防火上ノ必要ニ依リ其  
ノ大サヲ制限スルコトヲ得  
第九條 鐵筋「コンクリート」造  
ノ建物又ハ建物ノ部分ニシテ附  
數六以上ノモノ又ハ附數五且其  
ノ床面積三千平方メートルヲ超  
ユルモノニ在リテハ其ノ屋根ヲ

耐火構造ト爲スベシ但シ最上階  
ニ集會室ノ類アル爲其ノ屋根ヲ  
耐火構造ト爲シ難キ場合ニ於テ  
ハ其ノ部分ニ付テハ床ヲ耐火構  
造ト爲シ之ニ代フルコトヲ得  
前項ノ建物又ハ建物ノ部分ニハ  
其ノ居室ノ床面積ノ十分ノ一以  
上ノ收容面積ヲ有スル防護室ヲ  
設クベシ  
第十條 鐵筋「コンクリート」造  
ノ建物又ハ建物ノ部分ニシテ附  
數三以上且其ノ床面積六百平方  
メートルヲ超ユルモノニ在リテ  
ハ其ノ居室ノ床面積ノ十分ノ一  
以上ノ收容面積ヲ有スル防護室  
又ハ準防護室ヲ設クベシ  
第十一條 外壁又ハ屋根木造若ハ  
鐵造ノ建物又ハ建物ノ部分ニシ  
テ附數二以上且其ノ床面積六百  
平方メートルヲ超ユルモノニ在  
リテハ左ノ各號ノ一ニ依リ防護  
ノ施設ヲ爲スベシ  
一 居室ノ床面積ノ十分ノ一以  
上ノ面積ヲ有シ且圓壁及屋根  
又ハ上階ノ床鐵筋「コンクリ

一ト」造若ハ之ト同等以上ノ  
耐火効力ヲ有スル室ヲ設ケル  
コト  
二 前號ニ相當スル防護ノ施設  
ヲ爲シ得ベキ空地ヲ設ケタルコ  
ト  
前項ノ室又ハ空地ハ地方長官ノ  
許可ヲ受ケ建物ノ敷地外ニ之ヲ  
設ケタルコトヲ得  
第十二條 壁體ヲ以テ遮斷セラル  
ル建物ニ付テハ前三條ノ規定ハ  
其ノ區劃セラルル部分ニ付之ヲ  
適用ス  
第十三條 地方長官ハ左ノ各號ノ  
一ニ該當スル建築物ニ付テハ防護  
室其ノ他防護ノ施設又ハ防護ノ  
施設ヲ爲シ得ベキ空地ニ附シ第  
十條又ハ第十一條ノ規定ニ準ジ  
必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得  
一 公共團體ノ公用ニ供スルモ  
ノ  
二 學校  
三 病院  
四 停車場、停留場又ハ航空機  
若ハ汽船ノ發着場  
二七五



法律一防空建築規則

- 五 卸賣市場
- 六 常時五十人以上ノ職工ヲ使  
用スル工場
- 七 劇場、映画館、演藝場、觀  
物場、公會堂又ハ集會場
- 八 前各號ニ掲グルモノノ外地  
方長官命令ヲ以テ指定スルモ  
ノ
- 第十四條 防護室ノ構造設備ハ左  
ノ規定ニ依ルベシ
- 一 收容室ト前室トニ區別シ又  
ハ臨時區別ノ設備ヲ爲シ得ル  
モノト爲スコト但シ地方長官  
防護室ノ位置其ノ他ノ狀況ニ  
依リ支障ナシト認ムルトキハ  
此ノ限ニ在ラズ
- 二 收容室ノ床面積ハ百平方メ  
ートルヲ超エザルコト但シ地  
方長官建物ノ用途其ノ他ノ狀  
況ニ依リ已ムヲ得ズト認メ又  
ハ支障ナシト認ムルトキハ此  
ノ限ニ在ラズ
- 三 上部ノ床又ハ屋根ハ耐震構  
造ト爲スコト但シ防護室ノ上  
ニ二以上ノ版アル場合ニ於テハ

- 地方長官支障ナシト認ムルト  
キハ耐震構造ノ條件ヲ輕減ス  
ルコトヲ得
- 四 周壁ハ鐵筋「コンクリー  
ト」造ト爲スコト但シ建物ノ  
外壁ニ接シ且第一階以下ノ階  
ニ防護室ヲ設クル場合ニハ其  
ノ部分ノ周壁ハ特ニ堅固ナル  
構造ト爲スベシ
- 五 防護ニ際シ使用スル出入口  
ニハ防護扉ヲ設クルコト
- 六 外壁ニ設クル開口ハ其ノ面  
積ヲ三平方メートル以下ト爲  
シ且第二階以上ノ階ニ在ルモ  
ノニ付テハ防護扉ノ類ヲ設ケ  
又ハ之ニ代ル臨時設備ヲ爲シ  
得ルモノト爲シ其ノ他ノ階ニ  
在ルモノニ付テハ耐震設備ヲ  
爲シ又ハ之ニ代ル臨時設備ヲ  
爲シ得ルモノト爲スコト
- 七 外壁ニ非ザル周壁ノ開口ニ  
シテ面積四平方メートルヲ超  
ユルモノニハ防護扉ノ類ヲ設  
クルコト
- 八 出入口一ナル場合ニ於テハ
- 適當ナル位置ニ非常脱出口ヲ  
設クルコト
- 九 防毒上有効ナル構造ト爲ス  
コト
- 第十五條 準防護室ノ構造設備ハ  
左ノ規定ニ依ルベシ
- 一 收容室ノ床面積ハ五十メー  
ートルヲ超エザルコト但シ地方  
長官建物ノ用途其ノ他ノ狀況  
ニ依リ已ムヲ得ズト認メ又ハ  
支障ナシト認ムルトキハ此ノ  
限ニ在ラズ
- 二 上部ノ床又ハ屋根及周壁ハ  
鐵筋「コンクリート」造又ハ  
之ト同等以上ノ耐震效力アル  
モノト爲スコト
- 三 防護ニ際シ使用スル出入口  
ニハ防護上支障ナキ位置ニ在  
ルモノヲ除ク外防護扉ヲ設  
クルコト
- 四 外壁ニ設クル開口ハ其ノ面  
積ヲ三平方メートル以下ト爲  
シ且防護扉ノ類ヲ設ケ又ハ之  
ニ代ル臨時設備ヲ爲シ得ルモ  
ノト爲スコト
- 五 外壁ニ非ザル周壁ノ開口ニ  
シテ面積四平方メートルヲ超  
ユルモノニハ防護扉ノ類ヲ設  
クルコト
- 六 出入口一ナル場合ニ於テハ  
適當ナル位置ニ非常脱出口ヲ  
設クルコト
- 七 防毒上有効ナル構造ト爲ス  
コト
- 第十六條 地方長官ハ建物ノ用途  
其ノ他ノ狀況又ハ特別ナル事由  
ニ因リ已ムヲ得ズト認メ又ハ支  
障ナシト認ムルトキハ第九條乃  
至第十一條ノ耐震構造、防護室  
準防護室其ノ他防護ノ施設又ハ  
空地ニ關スル制限ヲ輕減スルコ  
トヲ得
- 第十七條 地方長官ハ第九條乃至  
第十一條ノ防護室、準防護室其  
ノ他防護ノ施設又ハ空地ノ配置  
ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコト  
ヲ得
- 第十八條 地方長官ハ偽裝ノ爲難  
藥物ノ形、色彩又ハ偽裝準備  
裝置ニ關シ必要ナル命令ヲ爲ス

コトヲ得

- 第十九條 石油「タンク」ニシテ  
其ノ容積三千キロリットルヲ超  
ユルモノハ之ヲ地下ニ設ケベシ  
但シ地方長官土地ノ狀況又ハ適  
當ナル防護施設ノ設置ニ依リ支  
障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ  
在ラズ
- 第二十條 一時ノ使用ニ供スル建  
築物ニシテ地方長官支障ナシト  
認ムルモノニ付テハ本令ノ規定  
ニ拘ラズ存置期間ヲ附シ其ノ建  
築ヲ許可スルコトヲ得
- 附 則
- 本令ハ昭和十四年四月一日ヨリ之  
ヲ施行ス
- 米穀配給統制法
- (昭和十四年四月十一日)  
法律第八十一號
- 第一條 米穀ノ買入若ハ賣渡又ハ  
其ノ代理若ハ媒介ノ業務ヲ行ハ  
ントスル者ハ勅令ノ定ムル所ニ  
依リ政府ノ許可ヲ受クベシ但シ  
勅令ヲ以テ定ムル者ハ此ノ限ニ

在ラズ

- 第二條 前條ノ許可ヲ受ケタル者  
命令ノ定ムル所ニ依リ正當ノ事  
由ナクシテ業務ヲ開始セザルト  
キ又ハ其ノ業務ヲ休止シタルト  
キハ政府ハ其ノ許可ヲ取消スコ  
トヲ得
- 第三條 政府第一條ノ許可ヲ受ケ  
タル者ノ行爲ガ本法若ハ本法ニ  
基キテ發スル命令又ハ之ニ基キ  
テ爲ス處分ニ違反シ又ハ公益ヲ  
害シ若ハ害スルノ虞アリト認ム  
ルトキハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ  
其ノ業務ヲ制限シ若ハ停止スル  
コトヲ得
- 第四條 政府ハ特ニ必要ナル場合  
米穀ノ買入若ハ賣渡又ハ其ノ代  
理若ハ媒介ヲ爲ス者ニ對シ勅令  
ノ定ムル所ニ依リ米穀ノ配給統  
制ニ關スル命令ヲ爲スコトヲ得  
政府必要ト認ムルトキハ何時ニ  
テモ第一條ノ許可ヲ受ケタル者  
ニ對シ其ノ業務ニ關スル諸般ノ  
報告ヲ命ジ又ハ其ノ帳簿物件ヲ  
検査スルコトヲ得
- 第五條 米穀市場ハ日本米穀株式  
社ニ限リ之ヲ開設スルコトヲ得  
日本米穀株式會社米穀市場ヲ開  
設セントスルトキハ命令ノ定ム  
ル所ニ依リ市場毎ニ政府ノ認可  
ヲ受クベシ
- 第六條 米穀市場ニ類似ノ商  
設ヲ爲シ又ハ其ノ施設ニ依リ取  
引ヲ爲スコトヲ得ズ
- 第七條 米穀市場ノ買賣取引ハ差  
金ノ授受ニ依リ其ノ決済ヲ爲ス  
コトヲ得ズ但シ履行期ニ於ケル  
決済ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモ  
ノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 第八條 日本米穀株式會社ハ命令ノ定ム  
ル所ニ依リ米穀市場ノ買賣取引  
ニ付擔據金ヲ納メシメ又ハ手數  
料ヲ徵收スルコトヲ得
- 第九條 米穀市場ノ買賣取引ノ方  
法其ノ他買賣取引ニ關シ必要ナル事項  
ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十條 米穀市場ノ買賣取引ノ價  
格ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ米穀  
統制法第二條ノ最低價格及最高  
價格ニ準據シテ定ムル價格ノ範  
圍
- 第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル  
者ハ前條第二項ノ免許ヲ受ケル  
コトヲ得ズ但シ勅令ヲ以テ定ム  
ル者ハ此ノ限ニ在ラズ
- 一 帝國臣民又ハ帝國法令ニ依  
リ設立シタル法人ニ非ザル者
- 二 破産者ニシテ復權ヲ得ザル  
モノ
- 三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ其  
ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受ケ  
ルコトナキニ至リタル後三年  
ヲ經過スルニ至ル迄ノ者
- 四 米穀市場ノ市場員ニシテ除  
名セラレ除名ノ日ヨリ三年ヲ  
經過セザルモノ
- 五 第二十條ノ規定ニ依リ免許  
ヲ取消サレ取消ノ日ヨリ三年



六 營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者又ハ禁治産者ニシテ其ノ法定代理人ガ前各號ノ一ニ該當スルモノ

七 法人ニシテ其ノ業務ヲ執行スル役員中第一號乃至第五號ノ一ニ該當スル者アルモノ

第十條 米穀市場ノ市場員前條第一號乃至第四號、第六號若ハ第七號ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ日本米穀株式會社ノ役員ト爲リタルトキハ勅令ノ定ムル所リ依リ免許ハ其ノ效力ヲ失フ政府ハ不正ノ手段ニ依リ第八條第二項ノ免許ヲ受ケタル者アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十一條 本法ニ規定スルモノノ外市場員ノ資格其ノ他市場員ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 市場員ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ日本米穀株式會社ニ身

元保證金ヲ納付スベシ

第十三條 日本米穀株式會社ハ米穀市場ノ秩序ヲ保持スル爲定款ノ定ムル所ニ依リ市場員ノ業務ヲ停止シ千圓以内ノ過剰金ヲ課シ又ハ政府ノ認可ヲ受ケ市場員ヲ除名スルコトヲ得

第十四條 市場員ハ業務ヲ廢止シタル後ト雖モ米穀市場ノ買賣取引ノ終了及監督ノ目的ノ範圍内ニ於テハ取引終了後二週間ヲ經過スル迄仍業務ヲ廢止セザルモノト看做ス

市場員死亡シ若シ解散シ又ハ其ノ免許ガ取消サレ若ハ効力ヲ失ヒタル場合ニ於テハ米穀市場ノ買賣取引ノ終了ニ至ル迄亦前項ニ同ジ

第十五條 市場員ハ其ノ米穀市場ニ依ラズシテ米穀ノ買賣取引ヲ

爲スコトヲ得ズ但シ勅令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 市場員ハ委託ヲ受ケタル米穀市場ノ買賣取引ニ付米穀市場ニ於テ其ノ賣付、買付又ハ受渡ヲ爲サズシテ之ヲ爲シタルト同一又ハ類似ノ計算ヲ以テ委託者ニ對シ其ノ決済ヲ爲スコトヲ得ズ

第十七條 日本米穀株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ米穀市場ノ買賣取引ノ業務ヲ行ハズル限ニ付賠償ノ責任ヲ負フコトヲ得

第十八條 日本米穀株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ米穀市場ノ買賣取引ノ業務ヲ行ハズル限ニ付賠償ノ責任ヲ負フコトヲ得

第十九條 政府ハ市場員ニ對シ米穀市場ノ買賣取引ニ關シ米穀ノ配給統制上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十八條 日本米穀株式會社ハ保證金及身元保證金ニ付他ノ債權者ニ對シ優先權ヲ有ス

市場員ニ對シ米穀市場ノ買賣取引ノ委託ヲ爲シタル者ハ委託契約ニ基キテ生ズル債權ニ關シ其ノ市場員ノ身元保證金ニ付他ノ債權者ニ對シ優先權ヲ有ス

第一項ノ優先權ハ前項ノ優先權ニ對シ優先ノ效力ヲ有ス

第十九條 政府ハ市場員ニ對シ米穀市場ノ買賣取引ニ關シ米穀ノ配給統制上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條 政府市場員ノ行爲ガ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ルトキハ其ノ免許ヲ取消シ又ハ其ノ業務ヲ制限シ若

ハ停止スルコトヲ得

第二十一條 日本米穀株式會社ハ米穀ノ配給ノ統制ヲ圖ル爲必要ナル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル株式會社トス

第二十二條 日本米穀株式會社ノ資本ハ三千萬圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ得

第二十三條 日本米穀株式會社ノ株式ハ記名式トシ政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人又ハ外國法人ニ屬セザルモノニ限リ之ヲ所有スルコトヲ得

第二十四條 政府ハ千五百萬圓ヲ限リ日本米穀株式會社ニ出資スベシ

前項ノ規定ニ依リ出資額込金ハ米穀供給調節特別會計ノ歳出トシ該出資ニ因リ政府ノ取得シタル株式ハ同特別會計ノ所屬物件トス

政府所有ノ株式ノ株金拂込ハ其ノ他ノ株式ノ株金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ得

第二十五條 日本米穀株式會社ニ非ザルモノハ日本米穀株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第二十六條 日本米穀株式會社ニ役員トシテ理事長副理事長各一人、理事五人以上及監事三人以上ヲ置ク

理事長ハ日本米穀株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

副理事長ハ理事長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ理事長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

第二十七條 理事長及副理事長ハ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ五年トス

理事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受タルモノトシ其ノ任期ヲ四年トス

監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ三年トス

日本米穀株式會社ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ其ノ職ヲ退キタル後五箇年間日本米穀株式會社ノ役員ト爲ルコトヲ得ズ但シ主務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十八條 理事長、副理事長及業務ヲ分掌スル理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條 日本米穀株式會社ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

- 一 米穀市場ノ開設
- 二 政府ノ委託ニ依リ米穀ノ買入又ハ賣渡
- 三 前二號ノ事業ニ附帶スル事業
- 四 其ノ他本會社ノ目的達成上

必要ナル事業

日本米穀株式會社前條第三號又ハ第四號ノ事業ヲ營マントスルトキハ政府ノ認可ヲ受タベシ

日本米穀株式會社ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受タベシ

第三十條 日本米穀株式會社ノ役員又ハ使用人ハ勅令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ米穀市場ノ買賣取引ヲ爲シ又ハ其ノ委託ヲ爲スコトヲ得ズ

日本米穀株式會社ノ役員又ハ使用人ハ市場員トノ間ニ資金ノ供與、損益ノ分配其ノ他市場員ノ業務ニ付特別ノ利害關係ヲ有スルコトヲ得ズ

第三十一條 政府ハ日本米穀株式會社ノ業務ヲ監督ス



法律—米穀配給統制法

ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第三十三條 政府ハ日本米穀株式會社監理官ヲ置キ日本米穀株式會社ノ業務ヲ監視セシム

日本米穀株式會社監理官ハ何時ニテモ日本米穀株式會社ノ金庫帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

日本米穀株式會社監理官必要ト認ムルトキハ何時ニテモ日本米穀株式會社ニ命ジ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

日本米穀株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十四條 日本米穀株式會社ハ毎營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セス日本米穀株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額

ガ政府以外ノ者ニ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スル利益配當ヲ爲サントスルトキハ其ノ超過スル利益金額ハ利益配當ガ總株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ一ト四トノ割合ヲ以テ之ヲ配當スベシ

第三十五條 政府ハ日本米穀株式會社ニ對シ米穀ノ配給統制上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

政府ハ日本米穀株式會社ニ對シ其ノ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ、検査ヲ爲シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十六條 政府ハ日本米穀株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ

定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ決議ノ取消、役員ノ解任又ハ事業ノ停止若ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第三十七條 米穀市場ニ類似ノ施設ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 米穀市場ニ類似ノ施設ニ依リ取引ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第三十條第一項ノ規定ニ違反シタル者又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ同條第二項ノ特別ノ利害關係ヲ生ズルコトヲ目的トスル行爲ヲ爲シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 第一條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ米穀ノ買入若ハ賣渡又ハ其ノ代理若ハ媒介ノ業務ヲ行ヒタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

二八〇

一 第三條ノ規定ニ依リ制限又ハ停止ノ處分ニ違反シタル者

二 第四條第一項又ハ第十九條第一項ニ依リ命令ニ違反シタル者

第四十二條 第四條第二項又ハ第十九條第二項ノ規定ニ依リ検査ヲ拒ミ、妨ケ又ハ隠蔽シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 日本米穀株式會社ノ役員又ハ使用人米穀市場ノ買賣取引又ハ政府ノ委託ニ依リ米穀ノ買入若ハ賣渡ニ關スル職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若ハ約束シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 前條第一項ニ掲グル前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

者ニ賄賂ヲ交付シ又ハ之ヲ提供シ若ハ約束シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除スルコトヲ得

第四十五條 米穀市場ニ於ケル相場ノ變動ヲ圖ル目的ヲ以テ虚偽ノ風説ヲ流布シ、偽計ヲ用ヒ又ハ暴行若ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 米穀市場ニ於ケル相場ヲ偽リテ公示シタル者

二 公示若ハ頒布ノ目的ヲ以テ虚偽ノ相場ヲ記載シタル文書ヲ作成シ又ハ之ヲ頒布シタル者

第四十七條 米穀市場ニ依ラズシテ米穀市場ノ相場ニ依リ差金ノ授受ヲ目的トスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千

圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第百八十六號ノ規定ノ適用ヲ妨ケズ

第四十八條 米穀ノ買入若ハ賣渡又ハ其ノ代理若ハ媒介ノ業務ヲ行フ者其ノ代理人、戶主、家族同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第四十條又ハ第四十一條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指擯ニ出テザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ガルルコトヲ得ズ

第四十九條 第四十條及第四十一條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第五十條 日本米穀株式會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ理事、長又ハ理事長ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副理事長ヲ五千圓以下

ノ過料ニ處ス副理事長又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副理事長又ハ理事ノ過料ニ處スルコト亦同ジ

一 本法又ハ本法ニ基キテ設スル命令ニ依リ認可ヲ受ケベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二 第二十九條第一項ノ規定ニ依ラズシテ業務ヲ營ミタルトキ

三 第三十五條ノ規定ニ依リ命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

日本米穀株式會社ノ理事長、副理事長又ハ理事第二十八條ノ規定ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第五十一條 第二十五條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第五十二條 非訟事件手続法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

第五十三條 本法施行ノ期日ハ各

規定ニ付命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十四條 政府ハ設立委員ヲ命ジ日本米穀株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受ケタル後株式總數ヨリ政府ニ相當ツベキ株式ヲ除シタル後餘額ノ株式ニ付命令ヲ定ムル所ニ依リ株主ヲ募集スベシ

株式申込證ニハ定款認可ノ年月日並ニ本法第二百六條第二項第二號、第四號及第五號ニ規定スル事項ヲ記載スベシ

設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ其ノ検査ヲ受ケベシ

設立委員ハ前項ノ検査ヲ受ケタル後連帶ナク各株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ

前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ連帶ナク創立總會ヲ招集スベシ

創立總會ニ於テハ第二十七條ノ規定ニ準ジ理事及監事ノ選任ヲ行フベシ



創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ日本米穀株式會社理事長ニ引渡スベシ

第五十五條 取引所法ハ米穀ニ關シテハ之ヲ適用セズ  
前項ノ規定施行前米穀ノ賣買取引ヲ爲ス取引所ニ於テ爲シタル米穀ノ賣買取引ニ付テハ仍従前ノ例ニ依リ其ノ取引ヲ結了スルコトヲ得

第五十六條 日本米穀株式會社ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ米穀ヲ賣買取引スル取引所又ハ正米市場開設者ガ本法公布ノ際現ニ所有スル土地、建物其ノ他ノ設備ヲ其ノ申込ニ應ジ買取ルモノトス

日本米穀株式會社ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ本法公布ノ際現ニ存スル米穀ヲ賣買取引所ノ使用人及取引員

ニシテ前條ノ規定施行ノ日迄引續キ其ノ業務ニ従事スルモノニ關シ必要ナル措置ヲ爲スモノトス

政府前二項ノ認可ヲ爲サントスルトキハ米穀取引事業審議委員會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第五十七條 日本米穀株式會社前條第一項ニ規定スル買取ニ基ク不動產ニ關スル權利ノ取得ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登録稅ノ額ハ不動產ノ價格ノ千分ノ三トス但シ登録稅法ニ依リ算出シタル登録稅ノ額ガ本法ニ依リ算出シタル稅額ヨリ少キトキハ其ノ稅額ニ依ル

北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ日本米穀株式會社ニ對シ前條第一項ニ規定スル買取ニ基ク不動產ニ關スル權利ノ取得ニ關シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第五十八條 第二十五條ノ規定施行ノ際現ニ日本米穀株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ商號ト爲ス會社ハ同條ノ規定施行後六月以内ニ其ノ商號ヲ變更スルコトヲ要ス

第五十九條 昭和十四年四月一日現ニ第一條ノ許可ヲ受ケベキ米穀ノ買入若ハ賣渡又ハ其ノ代理若ハ媒介ノ業務ヲ行フ者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ同條ノ規定施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第六十條 取引所稅法中第二十一條ノ次ノ左ノ一條ヲ加フ

第二十一條ノ二 日本米穀株式會社ノ米穀市場ニ於ケル賣買取引ニシテ差金ノ授受ニ依リテ決済ヲ爲シ得ルモノニ付テハ命令ヲ以テ定ムル賣買取引ヲ除クノ外日本米穀株式會社及其ノ米穀市場ヲ取引所、其ノ市場員ヲ取引員ト看做シ本

法中取引稅ニ關スル規定ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ第五條第一項ノ規定ニ拘ラズ賣買各約定金高ニ對シ百分ノ二・二五ノ稅率ニ依ル

米穀配給統制法第十六條ノ規定ニ違反シタル行爲アリタルトキハ第十七條ノ例ニ依リ日本米穀株式會社ノ米穀市場ニ於ケル賣買取引ニシテ第一項ニ規定スル賣買取引ニ該當セザルモノニ付差金ノ授受ニ依リテ決済ヲ爲シタルトキハ第十七條ノ二ノ例ニ依ル

【參照】  
昭和八年三月二十九日公布法律第二十四號米穀統制法抄錄  
第二條 政府勅令ノ定ムル所ニ依リ毎年米穀ノ最低價格及最高價格ヲ公シ之ヲ告示ス

前項ノ最低價格及最高價格ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ米穀生産費、家計費及物價其ノ他ノ經濟事情ヲ參酌シテ之ヲ定ム  
政府ハ第一項ノ最低價格ノ決定

臺灣米穀移出管理特別會計法

(昭和十四年三月二十七日) 法律第三十五號

ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ金利及保管料ヲ加算スルコトヲ得  
前二項ノ規定ニ依リ定メタル最低價格又ハ最高價格ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ物價ノ變動著シキ場合又ハ米穀ノ需給狀況ニ著シキ變動ヲ生ジ若ハ生ズルノ虞アル場合ニ於テハ之ヲ改定スルコトヲ得

昭和十四年四月十七日勅令第二百十二號  
米穀配給統制法第二十一條乃至第二十九條、第五十一條、第五十四條及第五十八條ノ規定ハ昭和十四年四月二十日ヨリ、同法第五十條及第五十二條、同法第二十二條、第二十七條乃至第二十九條及第五十一條ノ規定ニ關係アル範圍内ニ於テ同日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 臺灣總督府ニ於テ米穀ノ移出ヲ管理スル爲メ特別會計ヲ設置シ其ノ收入ヲ以テ其ノ歳出入充ツ

第二條 本會計ニ掲出運轉資本ヲ置キ其ノ金額ハ五百萬圓トシ漸次臺灣總督府特別會計ヨリ繰入ルルモノトス  
第三條 本會計ニ關スル經費ヲ支辨スル爲メ必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ金額ハ二千五百萬圓ヲ超ニルコトヲ得ズ

第四條 本會計ニ於テハ米穀ノ賣渡代金、積立金ヨリ生ズル收入、借入金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歳入トシ米穀ノ買入代金、米穀ノ買入賣渡加工貯蔵及運搬ニ關スル諸費、借入金ノ償還金及利子、一時借入金ノ利子其ノ他

諸費ヲ以テ其ノ歳出トス  
第五條 米穀ノ買入數量ノ増加其ノ他諸タベカラザル事由ニ因リ生ジタル歳算ノ不足ヲ補フ爲メ歳出歳算ニ豫備費ヲ設タルコトヲ得

第六條 本會計ノ歳出額ハ其ノ實際ノ歳入及掲出運轉資本ノ合計額ヲ超過スルコトヲ得ズ  
第七條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルベシ

第八條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ一時借入ヲ爲スコトヲ得前項ノ規定ニ依リ一時借入金ハ當該年度内ニ之ヲ納還スベシ  
第九條 本會計ニ於テ決算上過剩生ジタルトキハ之ヲ積立ツベシ  
本會計ニ於テ決算上不足ヲ生ジタルトキハ前項ノ規定ニ依リ積立金ヨリ之ヲ補足スベシ

第十條 本會計ノ積立金ハ之ヲ臺灣ニ於ケル農業ノ開發開發及助長ノ爲メ必要ナル用途ニ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ本會計ノ積立金ヲ使用セントスルトキハ其ノ金額ヲ臺灣總督府特別會計ノ歳入ニ繰入レ臺灣總督府特別會計ノ歳出トシテ提出スベシ  
第十一條 本會計ノ積立金ハ總督府以テ保有シ又ハ大藏省預金部ニ預入レ之ヲ運用スルコトヲ得  
第十二條 本會計ノ毎年度歳出歳算ニ於ケル支出殘額ハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第十三條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出總算ヲ調整シ歳入歳出ノ總算算ト共ニ帝國議會ニ之ヲ提出スベシ  
第十四條 本會計ノ收支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則  
本法ハ昭和十四年度ヨリ之ヲ施行ス



森林法中改正

(昭和十四年三月十七日)

第三條中「地租條例」ヲ「地租法」ニ改ム

第九條 命令ヲ以テ定ムル公有林

社寺有林又ハ私有林ノ所有者ハ其ノ所有スル森林又ハ遺林ノ用ニ供スル土地ニ付命令ヲ定ムル

所ニ依リ施業案ヲ編成シ地方長官ノ認可ヲ受クベシ認可ヲ受ケタル施業案ヲ變更セントストキ亦同ジ地方長官必要アリト認ムルトキハ前項ノ施業案ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ施業案ヲ編成スルコトヲ要スル者又ハ前項ノ規定ニ依リ施業案ノ變更ヲ命セラレタル者之ヲ編成セズ又ハ變更セザルトキハ地方長官ハ其ノ者ニ代リテ之ヲ編成シ又ハ變更スルコトヲ得

第十條 地方長官森林生産ノ保護ヲ圖ル爲メ必要アリト認ムルトキハ公有林、社寺有林ノ所有者ニ對シ其ノ森林ニ付區域又ハ箇所及期間ヲ定メ伐採方法又ハ遺林其ノ他伐採ニ伴フ必要ナル事項ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ施業案ノ編成アリタル森林及第六十九條ノ三ノ規定ニ依リ森林組合ノ施業案ノ編成アリタル森林ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十一條 公有林、社寺有林又ハ私有林ノ所有者第九條ノ規定ニ依リ施業案ニ定メタル伐採、遺林其ノ他ノ施業要件ニ準據セズ又ハ前項ノ規定ニ依リ指定ニ從ハザルトキハ行政官廳ハ伐採ノ停止ヲ命ジ又ハ其ノ者ニ代リテ自ら伐採、遺林其ノ他施業上必要ナル行爲ヲ爲シ若ハ公共團體ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ伐採停止ニ關スル規定ハ森林所有者若ハ其ノ生活ヲ維持スル爲己ムヲ得ザルニ出テタル伐

採ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十二條ノ二 第九條第三項ノ規定ニ依リ施業案ヲ編成シ若ハ變更スルニ要シタル費用又ハ前項ノ規定ニ依リ伐採、遺林其ノ他施業上必要ナル行爲ヲ爲シ又ハハ爲サシムルニ要シタル費用ハ行政官廳ニ於テ執行法第六條ノ例ニ定リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十一條ノ三 地方長官國土保安其ノ他公益上特ニ必要アリト認ムルトキハ公有林、社寺有林又ハ私有林ノ所有者ニ對シ命令ヲ定ムル所ニ依リ其ノ所有スル森林ニ付施業技術者ノ雇入ヲ命ズルコトヲ得

第十三條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第十三條ノ二 行政官廳必要アリト認ムルトキハ森林生産物ノ生産若ハ取引又ハ森林生産物ノ原料トスル物品ノ製造ヲ爲ス者ニ對シ森林生産物ノ需給ノ狀況ニ關スル事項ノ報告ヲ命ジ又ハ之ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ニ付必

要ナル調査ヲ爲スコトヲ得

第十三條ノ三 二以上ノ府縣ニ亘ル事項ニ關シテハ本章ニ規定シタル地方長官ノ職權ニ付命令ヲ以テ別段ノ定メ爲スコトヲ得

第十八條及第二十三條中「市町村役場」ノ下ニ「(町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ之ニ準ズベキ區所)」ヲ加フ第三十四條中「第十條ノ下ニ」及第十一條ノ二ヲ加フ

第四十條、第四十九條、第五十條、第五十八條及第六十二條中「御料局」ヲ「皇室林野局」ニ改ム

「第五章 森林組合」ヲ「第五章 森林組合及森林組合聯合會」ニ改ム

第六十二條 森林組合ハ組合員ノ所有スル森林ニ付自ら施業ヲ爲シ又ハ組合員ノ施業ヲ調整シ以テ森林生産ノ促進ヲ圖ルヲ目的トス

組合ハ前項ノ目的ヲ達スル爲メ定メタル所ニ依リ左ノ各號ノ一ノ事業ヲ行フ

要ナル調査ヲ爲スコトヲ得

第十三條ノ三 二以上ノ府縣ニ亘ル事項ニ關シテハ本章ニ規定シタル地方長官ノ職權ニ付命令ヲ以テ別段ノ定メ爲スコトヲ得

第十八條及第二十三條中「市町村役場」ノ下ニ「(町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ之ニ準ズベキ區所)」ヲ加フ第三十四條中「第十條ノ下ニ」及第十一條ノ二ヲ加フ

第四十條、第四十九條、第五十條、第五十八條及第六十二條中「御料局」ヲ「皇室林野局」ニ改ム

「第五章 森林組合」ヲ「第五章 森林組合及森林組合聯合會」ニ改ム

第六十二條 森林組合ハ組合員ノ所有スル森林ニ付自ら施業ヲ爲シ又ハ組合員ノ施業ヲ調整シ以テ森林生産ノ促進ヲ圖ルヲ目的トス

組合ハ前項ノ目的ヲ達スル爲メ定メタル所ニ依リ左ノ各號ノ一ノ事業ヲ行フ

一 組合員ノ所有スル森林ニ付施業案ヲ編成シ之ニ基キ施業ヲ爲スコト

二 組合員ノ爲ニ施業案ヲ編成シ之ニ基キ組合員ノ爲ニ施業ヲ調整シ及地區内森林ノ施業ニ必要ナル共同施設ヲ爲スコト

第六十四條 一定ノ地區内ニ於ケル森林ヲ所有スル者ハ定數ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ得テ森林組合ヲ設立スルコトヲ得

組合ノ地區ハ市町村又ハ之ニ準ズベキモノノ區域ニ依リ但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第六十五條 森林組合ハ其ノ名稱中ニ森林組合ナル文字ヲ用フベシ

森林組合ニ非ザルモノハ六ノ名稱中ニ森林組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ス

第六十六條ノ二 地方長官森林生産ノ保護ヲ圖ル爲メ必要アリト認ムルトキハ命令ヲ定ムル所

第六十九條ノ四 第十一條及第十

二依リ地區ヲ指定シタル組合員タルノ資格ヲ有スル者ニ對シ森林組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者ハ前項ノ條件ニ從ヒ定數其ノ他必要ナル事項ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第六十九條ノ二 森林組合ハ定數ノ定ムル所ニ依リ其ノ經費ヲ組合員ニ分配スルコトヲ得

第七十條第一項ノ規定ニ依リ組合員ニ出資ヲ爲サシムル森林組合ニ付テハ前項ノ規定ニ依リ經費分賦ハ第六十二條第二項ニ規定スル事業ニ關シ命令ヲ以テ定ムル經費ニ限ル

第六十九條ノ三 森林組合員ノ所有スル森林ニ付命令ヲ定ムル所ニ依リ施業案ヲ編成シ地方長官ノ認可ヲ受クベシ認可ヲ受ケタル施業案ヲ變更セントストキ亦同ジ

第九條第二項及第三項ノ規定ハ組合ニ之ヲ適用ス

第六十九條ノ四 第十一條及第十

一 條ノ二ノ規定ハ第六十二條第一項第一號ノ事業ヲ行フ森林組合ノ組合員ニ之ヲ適用ス

第六十九條ノ五 第十一條ノ三ノ規定ハ森林組合ニ之ヲ適用ス

第六十九條ノ六 第六十二條第二項第一號ノ事業ヲ行フ森林組合ハ定數ニ別段ノ定メタル場合ヲ除ク外組合員ノ所有スル森林ニ付組合ノ施業ノ範圍ニ於テ使用及収益ヲ爲スノ權利ヲ有ス

前項ノ規定ニ依リ組合ノ収益ハ定數ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ所有スル森林ノ評價額其ノ他命令ヲ以テ定ムル標準ニ依リ之ヲ組合員ニ分配スベシ

第七十條 森林組合ハ定數ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ組合員ニ出資ヲ爲サシムル組合ハ第二項ニ規定スル事業ノ外定數ノ定ムル所ニ依リ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

一 組合員ハ組合員ノ生産シタル森林生産物ノ運搬、加工保管

及販賣ニ關スル施設ヲ爲スコト

二 組合員ノ森林ノ維持又ハ施業ニ必要ナル資金ノ貸付ヲ爲スコト

三 地區内ニ居住スル森林所有者ヲ創設スル爲メ地區内ノ森林ヲ取得スルコト

四 第六十二條第二項第一號ノ事業ヲ行フ組合員ニ在リテハ組合員ノ委託ニ依リ其ノ森林ノ施業ヲ爲スコト

第七十條ノ二 前項第一項ノ規定ニ依リ組合員ニ出資ヲ爲サシムル森林組合ニ在リテハ組合員ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハザル場合ニ於テ組合員ノ全員ハ其ノ出資額及第六十九條ノ二ノ規定ニ依リ費用負擔ノ



外定款ノ定ムル一定ノ金額(追補金額)ヲ限度トシテ組合ニ對シ責任ヲ負擔ス  
前項ノ組合ハ拂込未済出資額及追補金額ニ付組合員ノ所有スル地區内ノ森林ノ上ニ先取特權ヲ有ス  
前項ノ先取特權ハ其ノ優先權ノ順位ニ付テハ之ヲ不動産賣買ノ先取特權ト看做シ其ノ效力ニ付テハ民法中不動産賣買ノ先取特權ニ關スル規定ヲ準用ス  
第七十三條ヲ削リ第七十四條ヲ第七十三條トス  
第七十四條 森林組合聯合會ハ所屬ノ森林組合及森林組合聯合會ノ共同ノ目的ヲ達スル爲メ之ヲ設立スルコトヲ得  
聯合會ハ森林組合又ハ森林組合聯合會ヲ以テ之ヲ組織ス  
聯合會ヲ設立セントスルトキハ定款ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ  
第七十四條ノ二 森林組合聯合會ハ其ノ名稱中ニ森林組合聯合會

ナル文字ヲ用フベシ  
森林組合聯合會ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ森林組合聯合會ナル文字ヲ用フルコトヲ得ズ  
第七十四條ノ三 森林組合聯合會ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ所屬組合又ハ聯合會ニ出資ヲ爲サシムルコトヲ得  
前項ノ聯合會ノ所屬組合又ハ聯合會ノ責任ハ第七十四條ノ五ニ於テ準用シタル第六十九條ノ二第一項ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度トス  
第七十四條ノ四 森林組合聯合會ハ主務大臣ノ監督ス  
前項ノ規定ニ依ル主務大臣ノ職權ノ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得  
第七十四條ノ五 第六十三條、第十八條、第六十九條、第六十九條ノ二第一項、第七十條ノ二、第七十一條第二項及第七十二條ノ規定、ハ森林組合聯合會ニ之ヲ準用ス

第七十五條中「森林組合」ノ下ニ「及森林組合聯合會」ヲ「其ノ他組合」ノ下ニ「及聯合會」ヲ加フ  
第七十五條ノ次ニ左ノ三條ヲ加フ  
第七十五條ノ二 森林組合又ハ森林組合聯合會ニ於テ本章ノ規定(第六十九條ノ四ニ於テ準用シタル第十一條及第六十九條ノ五ニ於テ準用シタル第十一條ノ三ノ規定ヲ除ク)又ハ之ニ基キテ設立ル命令ニ違反シタルトキハ其ノ役員ヲ百圓以下ノ過料ニ處ス  
第七十五條ノ三 第六十五條第二項及第七十四條ノ二第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ過料ニ處ス  
第七十五條ノ四 罪狀事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス  
第八十三條中「重禁錮」ノ「懲役」ニ、「監禁以上禁錮二倍」ヲ「千圓」ニ改ム  
第八十四條中「二月以上三年以下

ノ重禁錮及禁錮以上禁錮二倍以下ノ罰金ニ處ス」ヲ「五年以下ノ懲役若ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ又ハ其ノ刑ヲ併科ス」ニ改ム  
第八十七條 森林組合ノ盜物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス  
森林組合ノ盜物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役若ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ又ハ其ノ刑ヲ併科ス  
第八十八條 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス  
自己ノ森林ニ放火シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ニ延焼シタルトキハ七年以下ノ懲役ニ處ス  
第八十九條 火ヲ失シテ他人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス  
火ヲ失シテ自己ノ森林ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生ゼシメタル者亦前項ニ同ジ

第九十條中「前條第二項ノ罪ヲ犯サントシテ未ダ爲ケザル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス」ヲ「第八十八條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス」ニ改ム  
第九十一條中「三十圓」ヲ「百圓」ニ改メ同條但書ヲ削ル  
第九十二條中「二十圓」ヲ「百圓」ニ改ム  
第九十三條第一項中「二百圓」ニ「三百圓」ニ、同條第二項中「禁錮及二百圓」ヲ「懲役及三百圓」ニ改ム  
第九十四條中「五十圓」ヲ「百圓」ニ改ム  
第九十四條ノ二 第十一條第一項(第六十九條ノ四ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル伐採停止ノ命令ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス  
第九十五條中「二十圓」ヲ「五十圓」ニ改ム  
第九十五條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又

ハ科料ニ處ス  
一 第十三條ノ二ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者  
二 第十三條ノ二ノ規定ニ依ル調査ヲ拒ミタル者  
第九十六條中「百圓」ヲ「二百圓」ニ改ム  
第九十七條中「二百圓」ヲ「三百圓」ニ改ム  
第九十八條中「三十圓」ヲ「五十圓」ニ改ム  
第九十九條ヲ削ル  
第一百條ヲ第九十九條トシ同條中「二十圓」ヲ「五十圓」ニ改ム  
第一百一條ヲ第一百條トシ同條中「五十圓」ヲ「百圓」ニ、「二百圓」ヲ「三百圓」ニ改ム  
第一百二條ヲ第一百二條トス  
第一百三條 法人又ハ代理人、戶主家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者若シテ人又ハ人ノ業務ニ關シ第九十四條ノ二又ハ第九十

五條ノ二第一號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ  
第九十五條ノ二 第九十四條ノ二又ハ第九十五條ノ二第一號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事取替役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス、但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ  
第一百六條 北海道ニ於テ本法ヲ適用スルニ付必要ナル事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得  
第七十七條第二項中「第十一條」ノ下ニ「及第十一條ノ二」ヲ加フ  
附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
公有林又ハ社寺有林ニ付本法施行前地方長官ノ認可ヲ受ケタル營業案又ハ商業案領ハ本法ニ依リ認可ヲ受ケタル營業案ト看做ス從前ノ規定ニ依リ設立セララル森林組合ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ仍從前ノ例ニ依ル前項ノ組合ハ前項ノ期間内ニ命令ノ定ムル所ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ得テ改正規定ニ依ル組合ト爲ルコトヲ得  
第三項ノ組合ニシテ同項ノ期間内ニ改正規定ニ依ル組合ト爲ラザルモノハ其ノ期間満了ノ日ニ於テ解散ス  
本法施行前從前ノ罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル  
【參照】  
明治四十年四月二十三日公布法律第四十三號森林法抄錄  
第三條 本法ニ於テ開墾ト稱スルハ地租條例ニ規定スルモノノ外燒畑切替畑其ノ他土地ノ形質ヲ變更スル行爲ヲ謂フ  
第九條 地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ公共團體又ハ社



寺ノ代表者ヲシテ森林又ハ森林トシテ管理スベキ土地ニ付施業案又ハ施業要領ヲ定メ其ノ認可ヲ受ケシムルコトヲ得

地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ施業案又ハ施業要領ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十條 公有林、社寺有林又ハ私有林ニシテ荒廢ノ虞アルトキハ地方長官ニ於テ施業ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十八條第一項 保安林ノ編入解除ヲ爲サムトスルトキ又ハ地方長官其ノ申請ヲ受理シタルトキハ地方長官ニ於テ其ノ旨ヲ森林所有者、土地所有者其ノ他土地ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ニ通知シ且償行ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示シ森林所在ノ市町村役場ニ之ヲ揭示スベシ

條ニ依リ造林ノ命令ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十條第一項 森林ヨリ其ノ產物ヲ運搬スル爲メ又ハ運搬ニ關スル設備ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得但シ御料局又ハ政府ノ使用ニ係ルトキハ當該官廳ハ之ヲ地方長官ニ協議スベシ

提供ヲ要セス

第五十八條第一項 森林ヨリ其ノ產物ヲ運搬スルメ又ハ運搬ニ關スル設備ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ水流ニ於ケル他人ノ工作物ヲ使用シ、變更シ又ハ除却スルコトヲ得但シ御料局又ハ政府ガ之ヲ行フトキハ地方長官ニ協議スベシ

第六十條第一項 森林又ハ森林ノ事業ニ關シ實地調査ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り目標ヲ設置シ又ハ支障木竹ヲ伐採スルコトヲ得但シ御料局又ハ政府ニ於テハ地方長官ニ通知シテ之ヲ行フコトヲ得

前項指定ノ方法ニ違反シ伐木ヲ爲シタル者ニハ地方長官其ノ伐採ヲ停止シ伐木跡地ニ造林ヲ命ズルコトヲ得

第二十五條第二項ノ規定ハ第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 前條第二項ニ依リ造林ノ命令ヲ受ケタル者造林ヲ怠リタルトキハ行政官廳ニ於テ自ら義務者ノ爲スベキ行爲ヲ爲シ又ハ公共團體ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

前項造林ニ要シタル費用ハ行政官廳ニ於テ國稅徵收法ノ例ニ依

第二十二條第一項 主務大臣ニ於テ保安林ノ編入解除ニ關スル處分ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示シ地方長官ヲシテ其ノ森林所有者ニ其ノ旨ヲ通知シ且所在ノ市町村役場ニ揭示セシムベシ

第三十三條 第二十六條ノ規定ニ違反シ、第二十七條又ハ前條ノ制限禁止若ハ指定ニ違反シタル者アルトキハ地方長官ハ造林其ノ他復舊ニ必要ナル行爲ヲ命ズルコトヲ得

第三十四條 第十一條ノ規定ハ前

第五十條 第五十五條第一項ノ裁決アリタルトキハ土地ノ使用者又ハ其ノ裁決ニ依リ補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供シテ土地ヲ用ウルコトヲ得但シ土地ノ使用者又ハ收用者ガ御料局、政府、府縣市町村及之ニ準ズベキモノナルトキハ補償金ノ供託及擔保ノ

第六十二條 森林組合ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ必要ナル事業ヲ爲ス爲一定ノ地區ヲ限リ之ヲ設立スルコトヲ得

一 國土保安ノ爲又ハ森林ノ荒廢ヲ防止シ若ハ荒廢セル森林ヲ回復スル爲必要ナルトキ

二 森林ガ所有者ヲ異ニシ協同シテ施業ヲ爲スニ非ザレバ其ノ利用ノ目的ヲ達スルニ困難ナルトキ

三 森林產物ノ運搬ニ必要ナル工事ヲ爲シ又ハ之ヲ維持スル爲關係者ノ協同ヲ必要トスルトキ

四 森林ノ危害防止ニ付關係者ノ協同ヲ必要トスルトキ

第六十四條 森林組合ヲ設立スルニハ定款ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

第六十五條 森林組合ノ組合員ハ其ノ地區内ニ於ケル森林ノ所有者ニ限ル

第七十條 組合員ハ組合ノ承諾ヲ得ルニ非ザレバ新ニ地區内ノ森林又ハ森林產物ニ付組合ノ事業ヲ妨グベキ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第七十三條 森林組合ニ於テ本章又ハ之ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ役員ヲ二圓以上百圓以下ノ過料ニ處

ス

前項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第七十五條 本法ニ規定スルモノノ外森林組合ノ設立、管理、解散、清算其ノ他組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十三條 森林ニ於テ其ノ產物ヲ切取シタル者ハ森林切取トシ三年以下ノ重禁錮又ハ禁錮以上禁錮二倍以下ノ罰金ニ處ス其ノ產物ニシテ人工ヲ加ヘタルモノニ係ルトキ亦同シ

第八十四條 森林切取ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ二月以上三年以下ノ重禁錮及禁錮以上禁錮二倍以下ノ罰金ニ處ス

(左記略ス)

第八十七條 森林切取ノ產物ナルコトヲ知リテ之ヲ受ケ又ハ密藏故買シ若ハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮及禁錮以上禁錮二倍以下ノ罰金ニ處ス

第八十八條 第八十三條、第八十四條及前條ノ罰額ノ二倍ガ二圓ニ滿タザルトキト雖其ノ罰金ハ二圓以下ニ下スコトヲ得ズ

第八十九條 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ輕懲役ニ處ス因テ生産物ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス

自己ノ森林ニ放火シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮又ハ二圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ノ主產物ヲ燒燬シタル者ハ五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第九十條 第八十三條、第八十四條及前條第二項ノ罪ヲ犯サムトシテ未ダ過ケザル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第九十一條 森林ノ爲設ケタル標識ヲ移轉、再損シ又ハ毀壞シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第四百二十條ノ適用ヲ妨ケズ

第九十二條 立木竹、木材又ハ根號ニ附シタル他人ノ記號印章ヲ變更又ハ消除シタル者ハ二十圓

以下ノ罰金ニ處ス

第九十三條 他人ノ森林内ニ工作物ヲ設ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス他人ノ森林ヲ開墾シタル者亦同シ

前項ノ犯罪ニシテ保安林、開墾禁止ノ森林ニ係ルトキハ六月以下ノ重禁錮及二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十四條 他人ノ森林内ニ於テ放牧シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十五條 第十三條ノ制限又ハ禁止ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十六條 第二十二條ニ違反シ又ハ第二十五條第一項ノ停止ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十七條 第二十六條ニ違反シ又ハ第三十二條ノ制限若ハ禁止ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十八條 第二十七條ノ制限、禁止又ハ指定ニ違反シタル者ハ



三十圓以下ノ罰金ニ處ス  
第九十九條 前三條ノ場合ニ於テ  
木竹ヲ伐採又ハ傷害シタル者ニ  
對スル罰金ハ其ノ伐採又ハ傷害  
シタル木竹ノ價格ノ二倍ニ違セ  
シムルコトヲ得

第百條 第七十六條第二號又ハ第  
三號ニ依ル命令又ハ處分ニ違反  
シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ  
處ス

第百一條 第七十七條ノ検査ヲ拒  
ミタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ  
處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ  
刑法ニ依ル

第百二條 第七十八條又ハ第七十  
九條ニ違反シタル者ハ五十圓以  
下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林  
ヲ燒燬シタル者ハ二百圓以下ノ  
罰金ニ處ス他人ノ森林内ニ於テ  
焚火ヲ爲シタル者亦同シ

第百六條 北海道、沖縄縣其ノ他  
勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ付テ  
ハ本法中保安林ニ關スル規定ニ  
限リ之ヲ施行ス  
前項ノ外本法ノ規定ヲ施行スル

ノ必要アルモノハ勅令ヲ以テ之  
ヲ定ム  
前二項ノ場合ニ於テハ勅令ヲ以  
テ特例ヲ設クルコトヲ得  
第百七條 本法施行前森林タリシ  
モノニシテ本法施行以前ヨリ荒  
廢ニ屬シタルモノハ地方長官ニ  
於テ造林ヲ命ズルコトヲ得  
前項ニ依リ造林ノ命令ヲ受ケタ  
ル者ガ造林ヲ怠リタル場合ニ付  
テハ第十一條ノ規定ヲ準用ス

林業種苗法

(昭和十四年三月十七日)  
法律第十六號

第一條 本法ニ於テ種苗トハ林業  
ノ用ニ供スル樹木ノ種子及苗ヲ  
謂フ  
第二條 本法ヲ適用スル種苗ノ樹  
種ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 行政官廳ハ命令ノ定ムル  
所ニ依リ優良ナル種苗ヲ採取ニ  
適スル樹木又ハ其ノ集積場母樹  
又ハ母樹林トシテ指定スルコト  
ヲ得

前項ノ規定ニ依ル指定ヲ受ケタ  
ル母樹又ハ母樹林又ハ行政官廳ノ  
許可ヲ受ケタルニ非ザレバ之ヲ伐  
採スルコトヲ得ス  
第四條 行政官廳前條第一項ノ規  
定ニ依リ母樹又ハ母樹林ノ指定  
ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ其ノ  
樹木又ハ樹木ノ集積場ノ所有者ニ  
通知シ且命令ノ定ムル所ニ依リ  
之ヲ公示スベシ

第五條 行政官廳ハ母樹又ハ母樹  
林ノ所有者ニ對シ母樹又ハ母樹  
林ノ保護又ハ管理ニ關シ必要ナ  
ル處置ヲ命ズ又ハ有害ナル行爲  
ヲ制限シ若ハ禁止スルコトヲ得  
第六條 行政官廳ハ母樹又ハ母樹  
林ノ所有者ニ對シ母樹又ハ母樹  
林ニ關シ必要ナル事項ノ報告ヲ  
命ズルコトヲ得

第七條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ  
依リ母樹又ハ母樹林ノ所有者ニ  
對シ伐採ヲ停止セラレタルニ因  
ル直接ノ損失ヲ補償ス  
前項ノ規定ニ依リ補償金額ニ付  
不服アル者ハ其ノ補償金額ノ通

知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ  
通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
第八條 行政官廳母樹又ハ母樹林  
トシテ存置スルノ必要ナシト認  
ムルトキハ母樹又ハ母樹林ノ指  
定ヲ解除スルコトヲ得  
第四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之  
ヲ準用ス

第九條 行政官廳ハ配付ノ目的ヲ  
以テスル種苗ヲ採取ニ關シ命令  
ノ定ムル所ニ依リ採取時期ヲ指  
定シ又ハ採取ニ適セザル樹木若  
ハ其ノ集積場ヨリノ採取ヲ禁止ス  
ルコトヲ得

第十條 行政官廳必要アリト認ム  
ルトキハ種苗ノ種類ニ應ジ之ニ  
適スル配付區域ヲ指定シ又ハ勅  
令ノ定ムル所ニ依リ種苗ノ輸出  
若ハ輸入ヲ制限シ若ハ禁止スル  
コトヲ得

第十一條 種苗ノ販賣ヲ業トスル  
者ハ其ノ業務ニ關シ命令ノ定ム  
ル事項ヲ行政官廳ニ届出ヅベシ  
第十二條 行政官廳必要アリト認  
ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依

リ種苗ノ販賣ヲ業トスル者ヲシ  
テ其ノ販賣スル種苗ニ保證票ヲ  
添附セシムルコトヲ得

第十三條 行政官廳必要アリト認  
ムルトキハ種苗ノ販賣ヲ業トス  
ル者ニ對シ種苗ノ配給ノ狀況ニ  
關スル事項ノ報告ヲ命ズ又ハ之  
ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件  
ニ付必要ナル調査ヲ爲スコトヲ  
得

第十四條 母樹又ハ母樹林ニ關シ  
本法又ハ本法ニ基キテ殺スル命  
令ニ依リテ爲シタル手續其ノ他  
ノ行爲ハ母樹又ハ母樹林ノ所有  
者ノ承認人ニ對シテモ其ノ効力  
ヲ有ス

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當ス  
ル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科  
料ニ處ス  
一 第三條第二項ノ規定ニ違反  
シ許可ヲ受ケズシテ母樹又ハ  
母樹林ヲ伐採シタル者  
二 第五條ノ規定ニ依ル命令又  
ハ制限若ハ禁止ニ違反シタル  
者

第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當ス  
ル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科  
料ニ處ス  
一 第十三條ノ規定ニ依ル報告  
ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲  
シタル者  
二 第十三條ノ規定ニ依リ調査  
ヲ拒ミ、妨ケ又ハ怠避シタル  
者

第十七條 種苗ノ販賣ヲ業トスル  
者ハ其ノ代理人、戸主、家族、  
同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ  
其ノ業務ニ關シ第十五條第二號  
第三號、第五號若ハ第六號又ハ  
前條第一號ノ違反行爲ヲ爲シタ  
ルトキハ自己ノ指揮ニ出デザル  
ノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコ  
トヲ得ス

第十八條 第十五條第二號、第三  
號、第五號及第六號並ニ第十六  
條第一號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人  
ナルトキハ理事、取締役其ノ他  
ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ  
未成年又ハ禁治產者ナルトキハ  
其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但  
シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能  
力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此  
ノ限ニ在ラズ

第十九條 第十一條ノ規定ニ依ル  
届出ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ届出ヲ  
爲シタル者ハ三百圓以下ノ過料ニ  
處ス  
罪訟事件手續法第二百六條乃至  
第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料

ニ之ヲ準用ス  
附 則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ  
定ム

酪農業調整法

(昭和十四年三月二十四日)  
法律第二十七號

第一條 本法ハ牛乳ノ供給ノ潤滑  
及取引ノ公正ヲ圖リ且ニ牛乳ノ  
生産業及乳製品ノ製造業ヲ調整  
シ以テ畜産ノ健全ナル發達ヲ期  
スルコトヲ目的トス  
第二條 行政官廳ノ指定スル地域  
内ニ於テ牛乳ノ生産ヲ業トスル  
者ノ組織スル法人ニシテ勅令ヲ  
以テ定ムルモノ牛乳ノ販賣ニ關  
スル施設ヲ行フ場合ニ於テハ命  
令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ニ  
届出ヲ爲スベシ

第三條 行政官廳牛乳ノ取引上ノ  
弊害ヲ豫防シ又ハ矯正スル爲メ  
ニ必要アリト認ムルトキハ命令  
ノ定ムル所ニ依リ前條ノ法人ニ  
對シ牛乳ノ販賣ノ統制ニ關スル







引續キ其ノ取引ヲ爲シ又ハ其ノ事  
業ヲ爲スコトヲ得  
前項ニ掲グル者前項ノ期間内ニ第  
四條第一項又ハ第五條ノ許可ヲ申  
請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對  
スル許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄  
亦前項ニ同ジ

臨時陸軍材料資  
金特別會計法

(昭和十四年三月三十一日)  
法律第五十四號

第一條 支那事變ニ際シ勅令ノ定  
ムル所ニ依リ事變地ニ在ル軍需  
品ノ材料及原料ヲ取得スル爲其  
ノ資本トシテ臨時陸軍材料資金  
ヲ置キ其ノ購入及貸出ハ一般ノ會  
計ト區別シ事件ノ終局迄一會  
計年度トシテ特別會計ヲ設置ス  
第二條 臨時陸軍材料資金ハ千萬  
圓トシ一一般會計ヨリ繰入ルルモ  
ノトス  
第三條 臨時陸軍材料資金ニ不足  
ヲ生ジタルトキハ借入金ヲ爲シ  
一時之ヲ補足スルコトヲ得但シ

其ノ金額ハ五千圓ヲ超過スル  
コトヲ得ス  
前項ノ規定ニ依リ一時借入金ニ  
代ヘ國庫條裕金ヲ繰替使用スル  
コトヲ得  
第四條 本會計ニ屬スル材料及原  
料ヲ使用スルトキハ陸軍省所管  
經費ヲ以テ之ヲ購入スベシ但シ  
必要アル場合ニ於テハ政府以外  
ノ者ニ對シ之ヲ買拂フコトヲ妨  
ゲズ  
第五條 本會計ノ收入支出ニ關ス  
ル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
附 則  
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

海軍工廠資金會  
計法中改正

(昭和十四年三月十五日)  
法律第四號

第二條中「二千萬圓」ヲ「五千萬  
圓」ニ改ム  
第三條中「此ノ場合ニ於テハ則金  
拂ヲ爲スコトヲ得」ヲ削ル

職員健康保險法

(昭和十四年四月五日)  
法律第七十二號

第一章 總則

第一條 職員健康保險ニ於テハ被  
保險者ノ疾病、負傷、死亡、又  
ハ分娩ニ關シ保險給付ヲ爲スモ  
ノトス  
保險者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ  
被保險者ニ依リ生計ヲ維持スル  
者(以下世帯員ト稱ス)ノ疾病  
又ハ負傷ニ關シ保險給付ヲ爲ス  
コトヲ得  
第二條 本法ニ於テ報酬ト稱スル  
ハ事業ニ使用セラレル者ガ勞務  
ノ對價トシテ受ケル俸給、給料  
又ハ賃金及之ニ準ズベキモノヲ  
謂フ  
第三條 報酬ノ額ニ基キ保險料又  
ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ  
於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定

本法ハ昭和十四年度ヨリ之ヲ施行  
ス  
政府ハ昭和十四年度ニ限り海軍工  
廠資金會計法第二條ノ改正規定ニ  
依リ一一般會計ヨリ繰入ニ代ヘ支  
那事變ニ關スル臨時軍需費ヲ以テ  
購入シタル材料物品ヲ海軍工廠資  
金會計ノ材料物品ニ組入レ其ノ價  
額ヲ以テ海軍工廠資金ヲ増加ニ充  
ツルコトヲ得但シ其ノ額ハ二千萬  
圓ヲ超ユルコトヲ得ズ  
【參照】  
明治三十八年二月十六日公布法  
律第十五號海軍工廠資金會計法  
抄錄

第二條 海軍工廠資金ハ二千萬圓  
トシ漸次一一般會計ヨリ繰入ス  
第三條 海軍工廠資金會計ニ屬ス  
ル材料物品ヲ使用スルトキハ海  
軍省所管經費ヲ以テ之ヲ購入ス  
ベシ此ノ場合ニ於テハ前項ヲ爲  
スコトヲ得

ス  
標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ  
以テ之ヲ定ム

第四條 保險料其ノ他本法ニ依ル  
徵收金ヲ徵收シ又ハ其ノ還付ヲ  
受ケル權利及保險給付ヲ受ケル  
權利ハ一年ヲ經過シタルトキハ  
時効ニ因リテ消滅ス  
前項ノ時効ノ中断、停止其ノ他  
ノ事項ニ關シテハ民法ノ時効ニ  
關スル規定ヲ準用ス  
命令ノ定ムル所ニ依リ保險者ノ  
爲ス保險料其ノ他本法ニ依ル徵  
收金ノ徵收ノ告知ハ民法第百五  
十三條ノ規定ニ拘ラス時効中断  
ノ効力ヲ有ス  
第五條 本法又ハ本法ニ基キテ設  
スル命令ニ規定スル期間ノ計算  
ニ付テハ民法ノ期間ノ計算ニ關  
スル規定ヲ準用ス  
第六條 職員健康保險ニ關スル書  
類ニハ印紙稅ヲ課セズ  
保險給付トシテ支給ヲ受ケタル  
金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ  
公課ヲ課セズ

法律一職員健康保險法

第七條 保險給付ヲ受ケル權利ハ  
之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ  
得ス

第八條 保險者又ハ保險給付ヲ受  
ケル者ハ被保險者又ハ被保險  
者タリシ者ノ戶籍ニ關シ戶籍事  
務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者  
ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコ  
トヲ得  
前項ノ規定ハ第一條第二項ノ保  
險給付ヲ爲ス場合ニ於テハ世帯  
員又ハ世帯員タリシ者ノ戶籍ニ  
關シ之ヲ準用ス  
第九條 保險者ハ命令ノ定ムル所  
ニ依リ被保險者ヲ使用スル事業  
主ヲシテ其ノ使用スル者ノ異動  
及報酬ニ關シ報告ヲ爲サシメ、  
文書ヲ提出セシメ其ノ他職員健  
康保險ノ施行ニ必要ナル事務ヲ  
行ハシムルコトヲ得  
第十條 行政官廳ハ必要アリト認  
ムルトキハ被保險者ノ異動及報  
酬並ニ保險給付ノ決定ニ關シ當  
該官吏ヲシテ被保險者又ハ被保  
險者タリシ者ノ勤務場所ニ就キ

關係者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ帳  
簿書類其ノ他ノ検査ヲ爲サシム  
ルコトヲ得

第十一條 主務大臣ハ本法ニ規定  
スル其ノ職權ノ一部ヲ命令ヲ以  
テ行政官廳ニ委任スルコトヲ得  
第十二條 保險料其ノ他本法ニ依  
ル徵收金ヲ納付スル者アルトキ  
ハ保險者ハ期限ヲ指定シテ之ヲ  
督促スベシ  
前項ノ規定ニ依リ督促ヲ爲シタ  
ル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所  
ニ依リ督促手數料及延滞金ヲ徵  
收ス  
第十三條 前條ノ規定ニ依ル督促  
ヲ受ケタル者其ノ指定ノ期限迄  
ニ保險料其ノ他本法ニ依ル徵收  
金ヲ納付セザルトキハ保險者ハ  
國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處  
分シ又ハ滯納者若ハ其ノ者ノ財  
產ノ在ル市町村ニ對シ之ガ處分  
ヲ請求スルコトヲ得但シ職員健  
康保險組合ガ保險者ナル場合ニ  
於テ國稅滯納處分ノ例ニ依リ處  
分スルコトヲ得ルハ市町村ニ對

シ處分ヲ請求スルモ市町村ガ其  
ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ三十日  
以内ニ其ノ處分ニ着手セズ又ハ  
九十日以内ニ之ヲ結了セザル場  
合ニ限ル

前項但書ノ規定ニ依リ職員健康  
保險組合ガ國稅滯納處分ノ例ニ  
依リ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ主  
務大臣ノ認可ヲ受ケタルコトヲ要  
ス  
保險者ガ第一項ノ規定ニ依リ市  
町村ニ對シ處分ヲ請求シタルト  
キハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處  
分ス此ノ場合ニ於テハ保險者ハ  
徵收金額ノ百分ノ四ニ相當スル  
金額ヲ當該市町村ニ交付スベシ  
第十四條 保險料其ノ他本法ニ依  
ル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市  
町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ  
徵收金ニ次ギ他ノ公課ニ充ツモ  
ノトス  
第十五條 保險料其ノ他本法ニ依  
ル徵收金ニ關スル書類ノ送達ニ  
付テハ國稅徵收法第四條ノ七及  
第四條ノ八ノ規定ヲ準用ス



法律一 職員健康保險法

第十六條 本法ハ國、北海道、府、縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ事業ニ使用セラルル者ニ之ヲ適用セズ

第十七條 本法中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス

第二章 被保險者

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ノ事業所ニシテ市又ハ主務大臣ノ指定スル町村(以下指定町村ト稱ス)ニ在ルモノニ使用セラルル者ハ職員健康保險者トス

- 一 物ノ販賣ニ關スル事業
- 二 金融又ハ保險ニ關スル事業
- 三 物ノ保管又ハ賃貸ニ關スル事業
- 四 媒介開庭ニ關スル事業
- 五 集金、案内又ハ廣告ニ關スル事業
- 六 前各號ニ掲グルモノノ外勅令ヲ以テ指定スル事業

前項第一號乃至第五號ニ掲グル事業ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ規定ニ拘ラズ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ職員健康保險ノ被保險者トセズ

- 一 第一項ニ規定スル者ヲ常時十人未満使用スル事業所ニ使用セラルル者
- 二 健康保險ノ被保險者及健康保險法第十四條第一項ノ規定ニ依リ健康保險ノ被保險者ト爲ルコトヲ得ル者
- 三 一年ノ報酬千二百圓ヲ超ユル者
- 四 前各號ニ掲グル者ノ外勅令ヲ以テ指定スル者

第十九條 健康保險ノ被保險者タル職員ヲ使用スル事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ職員ヲ事業所毎ニ包括シテ職員健康保險ノ被保險者ト爲スコトヲ得

前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ト爲ルベキ者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第二十條 前條ノ認可アリタルトキハ其ノ事業所ニ使用セラルル職員ハ職員健康保險ノ被保險者トス

職員ハ職員健康保險ノ被保險者トス

第十八條第三項第三號及第四號ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル事業所ノ事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業所ニ使用セラルル者ヲ包括シテ職員健康保險ノ被保險者ト爲スコトヲ得

- 一 第十八條第一項第一號乃至第六號ニ掲グル事業ノ事業所ニシテ市又ハ指定町村以外ノ地ニ在ルモノ
- 二 第十八條第一項ニ規定スル者ヲ常時十人未満使用スル事業所ニシテ市又ハ指定町村ニ在ルモノ
- 三 前二號ニ掲グルモノノ外勅令ヲ以テ指定スル事業ノ事業所

第十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第二十二條 前條ノ認可アリタルトキハ其ノ事業所ニ使用セラルル職員ハ職員健康保險ノ被保險者トス

二九六

職員ハ職員健康保險ノ被保險者トス

第十八條第三項第二號乃至第四號ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第二十三條 第十八條ニ規定スル事業所ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ事業所ニ付第二十一條ノ認可アリタルモノト看做ス

- 一 第十八條第一項ニ規定スル者ヲ常時十人未満使用スル事業所ト爲ルニ至リタルトキ
- 二 市又ハ指定町村以外ノ地ニ在ルニ至リタルトキ
- 三 第二十一條第一項第三號ノ規定ニ依リ指定スル事業ノ事業所ト爲ルニ至リタルトキ

第二十四條 第十八條、第二十條及第二十二條ノ規定ニ依リ被保險者ハ其ノ業務ニ使用セラルルニ至リタル日又ハ第十八條第三項第二號第四號第二十條第二項若ハ第二十二條第二項ノ規定ニ該當セザルニ至リタル日ヨリ其

ノ資格ヲ取得ス

第二十五條 第十八條、第二十條及第二十二條ノ規定ニ依リ被保險者ハ死亡シタル日、其ノ業務ニ使用セラレザルニ至リタル日又ハ第十八條第三項第二號乃至第四號、第二十條第二項若ハ第二十二條第二項ノ規定ニ該當スルニ至リタル日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス但シ其ノ事實アリタル日ニ更ニ前條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十六條 第二十條又ハ第二十二條ノ規定ニ依リ被保險者ヲ使用スル事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ被保險者ノ全部ヲシテ其ノ資格ヲ喪失セシムルコトヲ得

前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第一項ノ認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタル日ヨリ

法律一 職員健康保險法

日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十七條 第二十五條ノ規定ニ依リ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル者ニシテ喪失ノ日ヨリ二月以上引續キ被保險者タリシモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ繼續シテ被保險者ト爲ルコトヲ得

第二十八條 前條ノ規定ニ依リ被保險者ハ前條ノ規定ニ依リ被保險者ト爲リタル日ヨリ六月ヲ經過シタルトキ其ノ他勅令ヲ以テ定ムル事由ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十五條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依リ被保險者ガ死亡シタル場合ニ之ヲ適用ス

第三章 保險者

第二十九條 職員健康保險ノ保險者ハ政府及職員健康保險組合トス

第三十條 政府ハ職員健康保險組合ノ組合員ニ非ザル被保險者ノ保險ヲ管掌ス

第三十一條 職員健康保險組合ハ其ノ組合員タル被保險者ノ保險

ヲ管掌ス

第三十二條 職員健康保險組合ハ事業主及其ノ事業所ニ使用セラルル被保險者ヲ以テ之ヲ組織ス職員健康保險組合ハ法人トス

第三十三條 一又ハ二以上ノ事業所ニ付被保險者常時三百人以上ヲ使用スル事業主ハ職員健康保險組合ヲ設立スルコトヲ得

第三十四條 職員健康保險組合ヲ設立セントスルトキハ組合員タル資格ヲ有スル被保險者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得規約ヲ作り主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二十五條ノ規定ニ於テ

被保險者トアルハ第十九條第一項又ハ第二十一條第一項ノ規定ニ依リ認可ノ申請ト同時ニ職員健康保險組合ノ設立認可ノ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ被保險者ト爲ルベキ者トス

第三十六條 主務大臣ハ一又ハ二以上ノ事業所ニ付第十八條ノ規定ニ依リ被保險者常時五百人以上ヲ使用スル事業主ニ對シ職員健康保險組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

第三十七條 前條ノ規定ニ依リ職員健康保險組合ノ設立ヲ命ゼラレタル事業主ハ規約ヲ作り設立ニ付主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第三十八條 職員健康保險組合ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時ニ成立ス

第三十九條 職員健康保險組合成立シタルトキハ事業主及其ノ事業所ニ使用セラルル被保險者ハ總テ之ヲ組合員トス

第四十條 職員健康保險組合ノ規約ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受



クルニ非ザレバ其ノ効力ヲ生ゼズ

第四十一條 主務大臣ハ職員健康保險組合ニ對シ其ノ事業及財産ニ關シ報告ヲ爲サシメ其ノ狀況ヲ検査シ規則ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十二條 職員健康保險組合ノ役員ニ缺員若ハ故障アルトキ又ハ組合ノ役員方保險給付其ノ他ノ執行スベキ職務ヲ執行セザルトキハ主務大臣ハ官吏其ノ他ノ者ヲ指定シテ其ノ職務ヲ執行セシムルコトヲ得

第四十三條 主務大臣ハ職員健康保險組合ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令規則若ハ主務大臣ノ命令若ハ處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキ又ハ組合ノ事業若ハ財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員ヲ解職シ又ハ組合ノ解散ヲ命ズルコトヲ得

第四十四條 解散ニ因リテ消滅シタル職員健康保險組合ノ權利義務ハ政府之ヲ承認ス

第四十五條 本法ニ規定スルモノノ外職員健康保險組合ノ管理財産ノ保管及利用方法、分合、解散其ノ他職員健康保險組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 同時ニ二以上ノ事業所ニ使用セラルル被保險者ノ保險者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ

第四十七條 被保險者ガ其ノ疾病又ハ負傷ニ關シ療養ヲ受ケタルトキハ療養費ヲ支給ス

第四十八條 療養費ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ關シ其ノ療養ヲ始メタル日より起算シ六日ヲ超過シタル後ノ療養ニ付テハ之ヲ支給セズ

第四十九條 被保險者ガ療養ノ爲メ引續キ勞務ニ服スルコト能ハザルトキハ勞務ニ服スルコト能ハザルニ至リタル日ヨリ起算シ三月ヲ經過シタル日ヨリ其ノ後ニ於ケル勞務ニ服スルコト能ハザル期間傷病手當金トシテ一日ニ

トキ、勅令ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ給付ヲ受ケザルトキハ至リタル日從三月以内ニ死亡シタルトキ又ハ其ノ他ノ被保險者タリシ者ガ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日從三月以内ニ死亡シタルトキハ被保險者タリシ者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノハ最後ノ保險者ヨリ埋葬料ノ支給ヲ受ケルコトヲ得

第五十一條 規定ハ前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受ケタル者ナキ場合及前項ノ埋葬料ノ金額ニ之ヲ準用ス

第五十二條 被保險者タリシ者ガ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日從勅令ヲ以テ定ムル期間内ニ二分燒シタルトキハ分燒ニ關シ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得ベカ

第五十三條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ他ノ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

第五十四條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ他ノ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

第五十五條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ他ノ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

第五十六條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ他ノ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

第五十七條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ他ノ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

第五十八條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ他ノ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

第五十九條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ他ノ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

第六十條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ他ノ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

第六十一條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ他ノ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

第六十二條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ他ノ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

ノ疾病又ハ負傷ニ關シ療養費ノ支給ニ代ヘテ療養ノ給付ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ者ヨリ費用ノ一部ヲ徴收スルコトヲ得

第四十八條 療養費ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ關シ其ノ療養ヲ始メタル日より起算シ六日ヲ超過シタル後ノ療養ニ付テハ之ヲ支給セズ

第四十九條 被保險者ガ療養ノ爲メ引續キ勞務ニ服スルコト能ハザルトキハ勞務ニ服スルコト能ハザルニ至リタル日ヨリ起算シ三月ヲ經過シタル日ヨリ其ノ後ニ於ケル勞務ニ服スルコト能ハザル期間傷病手當金トシテ一日ニ

トキ、勅令ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ給付ヲ受ケザルトキハ至リタル日從三月以内ニ死亡シタルトキ又ハ其ノ他ノ被保險者タリシ者ガ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日從三月以内ニ死亡シタルトキハ被保險者タリシ者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノハ最後ノ保險者ヨリ埋葬料ノ支給ヲ受ケルコトヲ得

第五十一條 規定ハ前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受ケタル者ナキ場合及前項ノ埋葬料ノ金額ニ之ヲ準用ス

第五十二條 被保險者タリシ者ガ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日從勅令ヲ以テ定ムル期間内ニ二分燒シタルトキハ分燒ニ關シ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得ベカ

第五十三條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ他ノ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

第五十四條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ他ノ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

第五十五條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ他ノ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

第五十六條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ他ノ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

第五十七條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ他ノ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

第五十八條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ他ノ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

第五十九條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ他ノ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

第六十條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ他ノ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

第六十一條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ他ノ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

第六十二條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ他ノ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

第六十三條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ他ノ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

第六十四條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ他ノ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

第六十五條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ他ノ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

第六十六條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ他ノ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

第六十七條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ他ノ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

第六十八條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ他ノ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

第六十九條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ他ノ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

第七十條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者ガ其ノ他ノ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

付報日額ノ百分ノ五十二相當スル金額ヲ支給ス但シ日給ヲ受ケタル被保險者ニ付テハ勞務ニ服スルコト能ハザルニ至リタル日ヨリ算起シ十日ヲ超過シタル日ヨリ之ヲ支給ス

第五十條 傷病手當金ノ支給期間ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ關シテハ三月ヲ以テ限度トス但シ日給ヲ受ケタル被保險者ニ付テハ六月ヲ以テ限度トス

第四十八條 第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

傷病手當金ハ其ノ支給期間ヲ經過セザルトキト雖モ療養費ノ支給ヲ爲シ得ル期間ヲ經過スルニ至リタルトキハ之ヲ支給セズ

第六十一條 疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分燒シタル場合ニ於テ療養料ノ全部又ハ一部ヲ受ケタルコトヲ得ベキ者ニ對シテハ之ヲ受ケタルコトヲ得ベキ期間勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病手當金又ハ出產手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セズ

第六十二條 勅令ニ掲グル者ガ其ノ受ケタルコトヲ得ベカリシ期間ノ全部又ハ一部ヲ受ケタルコト能ハザリシトキハ保險者ハ之ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病手當金又ハ出產手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給ス

第六十三條 被保險者又ハ被保險者ノ遺族ニ對シテ支給

第六十四條 被保險者又ハ被保險者ノ遺族ニ對シテ支給

第六十五條 被保險者又ハ被保險者ノ遺族ニ對シテ支給

第六十六條 被保險者又ハ被保險者ノ遺族ニ對シテ支給

第六十七條 被保險者又ハ被保險者ノ遺族ニ對シテ支給

第六十八條 被保險者又ハ被保險者ノ遺族ニ對シテ支給

第六十九條 被保險者又ハ被保險者ノ遺族ニ對シテ支給

第七十條 被保險者又ハ被保險者ノ遺族ニ對シテ支給

第七十一條 被保險者又ハ被保險者ノ遺族ニ對シテ支給

第七十二條 被保險者又ハ被保險者ノ遺族ニ對シテ支給

第七十三條 被保險者又ハ被保險者ノ遺族ニ對シテ支給

第七十四條 被保險者又ハ被保險者ノ遺族ニ對シテ支給

第七十五條 被保險者又ハ被保險者ノ遺族ニ對シテ支給

第七十六條 被保險者又ハ被保險者ノ遺族ニ對シテ支給

第七十七條 被保險者又ハ被保險者ノ遺族ニ對シテ支給

第七十八條 被保險者又ハ被保險者ノ遺族ニ對シテ支給

第七十九條 被保險者又ハ被保險者ノ遺族ニ對シテ支給

第八十條 被保險者又ハ被保險者ノ遺族ニ對シテ支給



者タリシ者ガ自己ノ故意ノ犯罪  
行爲ニ因リ又ハ故意ニ事故ヲ生  
ゼシメタルトキハ保險給付ヲ爲  
サズ

第六十四條 被保險者ガ闘争、泥  
醉若ハ著シキ不行跡ニ因リ又ハ  
故意ニ危害防ニ關スル業務上  
ノ監督者ノ指揮ニ從ハザルニ因  
リ事故ヲ生ゼシメタルトキハ傷  
病手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給  
セザルコトヲ得

第六十五條 被保險者又ハ被保險  
者タリシ者ガ左ノ各號ノ一ニ該  
當スル場合ニ於テハ疾病、負傷  
又ハ分娩ニ關シ其ノ期間ニ係ル  
保險給付ハ之ヲ爲サズ

一 陸海軍ニ徴集又ハ召集セラ  
レタルトキ  
二 本法施行區域外ニ在ルトキ  
三 矯正院其ノ他之ニ準ズベキ  
モノニ入院セシメラレタルトキ  
四 監獄、留置場又ハ勞務場ニ  
拘禁又ハ留置セラレタルトキ  
他ノ法令ニ依リ國又ハ公共團體  
ノ負擔ニ於テ診療所ニ收容セラ

レタル者ニ對シテハ療養費ヲ支  
給セズ

第四十九條 第二項及第五十三條  
第二項ノ規定ハ前項ニ掲グル者  
ニ之ヲ準用ス

被保險者ハ被保險者又ハ被保險者  
タリシ者ガ第一項各號ノ一ニ該  
當スル場合ト雖モ第一條第二項  
ノ保險給付ヲ爲スコトヲ妨グズ

第六十六條 保險者ハ正當ナ理由  
ナクシテ廢止ニ關スル指揮ニ從  
ハザル者ニ對シ之ニ給スベキ傷  
病手當金ノ一部ヲ支給セザルコ  
トヲ得

第六十七條 保險者ハ詐欺其ノ他  
不正ノ行爲ニ依リ保險給付ヲ受  
ケ又ハ受ケントシタルニ對シ勅  
令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ定メ  
保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲サ  
ザルコトヲ得

第六十八條 保險者ハ必要アリト  
認ムルトキハ保險給付ヲ受ケル  
者ノ診斷ヲ行フコトヲ得  
保險者ハ正當ノ理由ナクシテ前  
項ノ診斷ヲ受ケザル者ニ對シ保

險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲サザ  
ルコトヲ得

第六十九條 保險者ハ事故ガ第三  
者ノ行爲ニ因リテ生ジタル場合  
ニ於テ保險給付ヲ爲シタルトキ  
ハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ  
被保險者又ハ被保險者タリシ者  
ガ第三者ニ對シテ有スル損害賠  
償請求ノ權利ヲ取得ス

第七十條 保險者ハ被保險者ノ健  
康ヲ保持増進スル爲メ左ノ施設ヲ  
爲スコトヲ得  
一 疾病又ハ負傷ノ豫防ニ關ス  
ル施設  
二 健康診断ニ關スル施設  
三 保養ニ關スル施設  
四 其ノ他健康ノ保持増進ニ關  
スル施設

第七十一條 保險者ハ事業ニ支障  
ナキ場合ニ限り被保險者ニ非ザ  
ル者ヲシテ保險者ノ施設ヲ利用  
セシムルコトヲ得

保險者ハ其ノ施設ヲ利用スル者  
ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ利  
用料ヲ請求スルコトヲ得

第七十二條 第六十三條、第六十  
五條第一項及第二項、第六十八  
條及第六十九條ノ規定ハ世帯員  
ニ之ヲ準用ス

第五十六條ノ規定ハ第一條第二  
項ノ保險給付ニ之ヲ準用ス

第七章 費用ノ負擔  
第七十三條 國庫ハ勅令ノ定ムル  
所ニ依リ毎年度算算ノ範圍内ニ  
於テ職員健康保險事業ニ要スル  
費用ノ一部ヲ負擔ス

第七十四條 保險者ハ職員健康保  
險事業ニ要スル費用ニ充ツル爲  
保險料ヲ徵收ス

保險料ノ算定ニ關スル事項ハ勅  
令ヲ以テ之ヲ定ム  
第七十五條 被保險者及被保險者  
ヲ使用スル事業主ハ各保險料額  
ノ二分ノ一ヲ負擔ス但シ第二十  
七條ノ規定ニ依リ被保險者ハ其  
ノ全額ヲ負擔ス

第七十六條 少額ノ報酬ヲ受ケル  
被保險者ニ關スル保險料ニ付テ  
ハ勅令ヲ以テ事業主ノ負擔スベ  
キ割合ヲ増加スルコトヲ得

第七十七條 職員健康保險組合ハ

第七十五條ノ規定又ハ前條ニ基  
キテ設ケタル勅令ノ規定ニ拘ラズ  
其ノ規約ヲ以テ事業主ノ負擔ス  
ベキ保險料額ノ負擔ノ割合ヲ増  
加スルコトヲ得

第七十八條 被保險者ガ第六十五  
條第一項各號ノ一ニ該當スル場  
合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依  
リ其ノ期間保險料ヲ徵收セズ

第七十九條 事業主ハ其ノ使用ス  
ル被保險者ノ負擔スベキ保險料  
ヲ納付スル義務ヲ負フ但シ第二  
十七條ノ規定ニ依リ被保險者ノ  
負擔スル保險料ニ付テハ此ノ限  
ニ在ラズ

第八十條 事業主ハ勅令ノ定ムル  
所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ納付  
スベキ保險料被保險者ニ支拂フ  
ベキ報酬ヨリ控除スルコトヲ得

第六章 審査ノ請求、訴  
願及訴訟  
第八十一條 保險給付ニ關スル決  
定ニ不服アル者ハ第一次職員健  
康保險審査會ニ審査ヲ請求シ其

法律—職員健康保險法

ノ決定ニ不服アルトキハ第二次  
職員健康保險審査會ニ審査ヲ請  
求シ其ノ決定ニ不服アルトキハ  
通常裁判所ニ訴ヲ提起スルコト  
ヲ得

前項ノ審査ノ請求ハ時効ノ中斷  
ニ關シテ之ヲ裁判上ノ請求ト看  
做ス

第八十二條 保險料其ノ他本法ニ  
依リ徵收金ノ賦課若ハ徵收ノ處  
分又ハ第十三條ノ規定ニ依リ處  
分ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴  
願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スル  
コトヲ得

前項ノ規定ニ依リ訴願ニ關シテ  
ハ職員健康保險組合ヲ訴訟法ノ  
規定ニ依リ行政裁判所ト看做ス

第八十三條 保險料其ノ他本法ニ  
依リ徵收金ノ賦課又ハ徵收ノ處  
分ニ關シ訴願ノ提起アリタルト  
キハ主務大臣ハ第二次職員健康  
保險審査會ノ審査ヲ經テ裁決ヲ  
爲スベシ

第八十四條 本法ニ規定スルモノ  
ノ外職員健康保險審査會ニ關シ

必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ  
定ム

第八十五條 審査ノ請求、訴ノ提  
起又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起  
ハ處分ノ通知又ハ決定書ノ交付  
ヲ受ケタリヨリ三十日以内ニ之  
ヲ爲スベシ此ノ場合ニ於テ審査  
請求ニ付テハ訴訟法第八條第三  
項ノ規定ヲ、訴ノ提起ニ付テハ  
民事訴訟法第五百五十八條第二項  
及第五百五十九條ノ規定ヲ準用ス

第七章 罰則  
第八十六條 正當ノ理由ナクシテ  
第十條ノ規定ニ依リ當該官吏ノ  
賞罰ニ對シ各號ヲ爲サズ若ハ處  
罰ノ各號ヲ爲シ又ハ其ノ検査ヲ  
拒ミ、妨グ若ハ隠蔽シタル者ハ  
三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十七條 第九條ノ規定ニ依リ  
保險者ノ請求アリタル場合ニ於  
テ正當ノ理由ナクシテ報告ヲ爲  
サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ文  
書ノ提示ヲ爲サザル者ハ百圓以  
下ノ罰金ニ處ス

第八十八條 事業主ハ其ノ代理人

戸主、家族、同居者、雇人其ノ  
他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ罰  
條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ  
自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以  
テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第八十九條 第八十七條ノ罰則ハ  
其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、  
取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執  
行スル役員ニ、未成年者又ハ業  
治業者ナルトキハ其ノ法定代理  
人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ  
成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未  
成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第九十條 職員健康保險組合ノ設  
立ヲ命ゼラレタル事業主ガ正當  
ノ理由ナクシテ主務大臣ノ指定  
スル期日迄ニ設立ノ設立ノ認可  
ヲ申請セザルトキハ其ノ手續ヲ  
遅延シタル期間其ノ負擔スベキ  
保險料額ノ二倍ヲ相當スル金額  
以下ノ過料ニ處ス

第九十一條 職員健康保險組合ガ  
第四十一條ノ規定ニ依リ命令ニ  
違反シ又ハ處分ヲ拒ミ、妨グ若  
ハ隠蔽シタルトキハ其ノ役員ヲ



百圓以下ノ過料ニ處ス

附 則

本法施行ノ期日ハ保險給付、保健施設及費用ノ負擔ニ關スル規定並ニ其ノ他ノ規定ニ付各別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

【參照】

明治三十年三月二十九日公布法律第二十一號國稅徵收法抄録

第四條ノ七 納稅ノ告知、督促及滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ居所ニ送達ス名宛人カ相續財產ニシテ財產管理人アルトキハ財產管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス

納稅管理人アルトキハ納稅ノ告知及督促ニ關スル書類ニ限リ其ノ住所又ハ居所ニ送達ス

第四條ノ八 書類ノ送達ヲ受ケベキ者其ノ住所又ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ帝國内ニ住所、居所アラザルトキ若ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公告ノ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經タルトキ

ハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

大正十一年四月二十二日公布法律第七十號健康保險法抄録

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル工場、事業場又ハ事業ニ使用セラルル者ハ健康保險ノ被保險者トス但シ臨時ニ使用セラルル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ及一年ノ報酬千二百圓ヲ超ユル職員ハ此ノ限ニ在ラズ

一 工場法第一條ノ規定ニ依リ同法ノ適用ヲ受ケル工場

二 鑛業法ノ適用ヲ受ケル事業場又ハ工場

三 左ニ掲グル事業ニシテ常時五人以上ノ労働者ヲ使用スルモノ

(イ) 物ノ製造、加工、選別、包裝、修理又ハ解體ノ事業

(ロ) 鑛物ノ採掘又ハ採取ノ事業

(ハ) 電氣ノ傳導又ハ動力ノ發生若ハ傳導ノ事業

(ニ) 地方鐵道又ハ軌道法ノ適用ヲ受ケル事業

用ヲ受ケル事業

(ホ) (ニ)ニ掲グルモノヲ除クノ外陸上ニ於テ爲ス貨物又ハ旅客ノ運送ノ事業ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

第十四條 第一項

罰項ノ工場、事業場又ハ事業ヲ除クノ外左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ノ事業主又ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業及之ニ附屬スル事業ニ使用セラルル者ヲ包括シテ健康保險ノ被保險者ト爲スコトヲ得罰項ノ工場、事業場又ハ事業ニ附屬スル事業ニ付亦同シ

一 罰項第三號ノ事業ニシテ常時五人未満ノ労働者ヲ使用スルモノ

二 土木工事又ハ工物ノ建設保存、修理若ハ破壊ノ工事ニシテ主務大臣ノ指定スルモノ

三 貨物積卸ノ事業

四 罰各號ニ掲グルモノノ外勅令ヲ以テ指定スル事業

失シ引續キ船舶内ニ在ル者ガ船舶航行中進行不明ト爲リタル場合ニ於テ三月間生死分明ナラザルトキニ之ヲ準用ス

第十二條 保險料ヲ滯納スル者アルトキハ行政官廳ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スベシ

罰項ノ規定ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手数料及延滞金ヲ徵收ス

第一項ノ規定ニ依ル督促ヲ受ケタル者其ノ指定ノ期限迄ニ保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ヲ納付セザルトキハ行政官廳ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分シ又ハ滯納者若ハ其ノ者ノ財產ノ在ル市町村ニ對シ之ガ處分ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ市町村ニ對シ處分ノ請求ヲ爲シタルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ徵收金額ノ百分ノ四ニ相當スル金額ヲ該市町村ニ交付ス

第十三條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ケ他ノ公課ニ先ツモノトス

第十四條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ニ關スル書類ノ送達ニ付テハ國稅徵收法第四條ノ七及第四條ノ八ノ規定ヲ準ス

第十五條 國、北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ所有ニ關スル船舶ニ乗組ム船員ニ關シテハ本法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十六條 本法中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス

第十七條 船員保險法第一條ニ規定スル帝國臣民タル船員ニシテ本法施行地ニ船籍ヲ定ムル船舶ニ乗組ムモノハ船員保險ノ被保險者トス但シ左ニ掲グル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第二章 被保險者

第八條 行政官廳又ハ保險給付ヲ受ケベキ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第九條 行政官廳ハ命令ノ定ムル法律ニ船員保險法

第五條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ヲ徵收シ又ハ其ノ還付ヲ受ケル權利及處置費、傷病手當金、療養手當金又ハ死亡手當金ヲ受ケル權利ハ一年ヲ經過シタルトキ、養老年金、療養年金、脫退手當金又ハ第三十六條、第三十七條、第四十二條若ハ第四十九條ノ規定ニ依リ一時金ヲ受ケタル權利ハ五年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第六條 本法又ハ本法ニ基キテ設ケタル命令ニ規定スル期間ノ計算ニ付テハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外民法ノ期間ノ計算ニ關スル規定ヲ準用ス

第七條 船員保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セズ

第八條 行政官廳又ハ保險給付ヲ受ケベキ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第九條 行政官廳ハ命令ノ定ムル法律ニ船員保險法

所ニ依リ被保險者ヲ雇傭スル船舶所有者ヲシテ其ノ雇傭スル者ノ異動及報酬ニ關シ報告ヲ爲サシメ、文書ヲ提示セシメ其ノ他船員保險ノ施行ニ必要ナル事務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十條 本法又ハ本法ニ基キテ設ケタル命令中船舶所有者トアルハ船舶共有ノ場合ニ在リテハ船舶管理人、船舶賃借ノ場合ニ在リテハ船舶賃借人トス

第十一條 船舶ガ滅失又ハ沈没シタル際現ニ其ノ船舶ニ乗組ム被保險者又ハ其ノ船舶ニ乗組中或被保險者ノ資格ヲ喪失シ引續キ船舶内ニ在ル者ガ滅失又ハ沈没ノ日ヨリ三月間其ノ生死分明ナラザルトキハ本法ノ適用ニ付テハ其ノ期間満了ノ日ニ死亡シタルモノト推定ス

船舶ノ存否ガ一月間分明ナラザルトキハ船舶ハ滅失シタルモノト推定ス

第一項ノ規定ハ被保險者又ハ船舶ニ乗組中或被保險者ノ資格ヲ喪

失シ引續キ船舶内ニ在ル者ガ船舶航行中進行不明ト爲リタル場合ニ於テ三月間生死分明ナラザルトキニ之ヲ準用ス

第十二條 保險料ヲ滯納スル者アルトキハ行政官廳ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スベシ

罰項ノ規定ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手数料及延滞金ヲ徵收ス

第一項ノ規定ニ依ル督促ヲ受ケタル者其ノ指定ノ期限迄ニ保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ヲ納付セザルトキハ行政官廳ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分シ又ハ滯納者若ハ其ノ者ノ財產ノ在ル市町村ニ對シ之ガ處分ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ市町村ニ對シ處分ノ請求ヲ爲シタルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ徵收金額ノ百分ノ四ニ相當スル金額ヲ該市町村ニ交付ス

第十三條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ケ他ノ公課ニ先ツモノトス

第十四條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ニ關スル書類ノ送達ニ付テハ國稅徵收法第四條ノ七及第四條ノ八ノ規定ヲ準ス

第十五條 國、北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ所有ニ關スル船舶ニ乗組ム船員ニ關シテハ本法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十六條 本法中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス

第十七條 船員保險法第一條ニ規定スル帝國臣民タル船員ニシテ本法施行地ニ船籍ヲ定ムル船舶ニ乗組ムモノハ船員保險ノ被保險者トス但シ左ニ掲グル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第二章 被保險者

第八條 行政官廳又ハ保險給付ヲ受ケベキ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第九條 行政官廳ハ命令ノ定ムル法律ニ船員保險法

所ニ依リ被保險者ヲ雇傭スル船舶所有者ヲシテ其ノ雇傭スル者ノ異動及報酬ニ關シ報告ヲ爲サシメ、文書ヲ提示セシメ其ノ他船員保險ノ施行ニ必要ナル事務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十條 本法又ハ本法ニ基キテ設ケタル命令中船舶所有者トアルハ船舶共有ノ場合ニ在リテハ船舶管理人、船舶賃借ノ場合ニ在リテハ船舶賃借人トス

第十一條 船舶ガ滅失又ハ沈没シタル際現ニ其ノ船舶ニ乗組ム被保險者又ハ其ノ船舶ニ乗組中或被保險者ノ資格ヲ喪失シ引續キ船舶内ニ在ル者ガ滅失又ハ沈没ノ日ヨリ三月間其ノ生死分明ナラザルトキハ本法ノ適用ニ付テハ其ノ期間満了ノ日ニ死亡シタルモノト推定ス

船舶ノ存否ガ一月間分明ナラザルトキハ船舶ハ滅失シタルモノト推定ス

第一項ノ規定ハ被保險者又ハ船舶ニ乗組中或被保險者ノ資格ヲ喪

船員保險法

(昭和十四年四月五日) (法律第七十三號)

第一章 總則

第一條 船員保險ニ於テハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ疾病、老弱、廢疾、脫退又ハ死亡ニ關シ保險給付ヲ爲スモノトス

第二條 船員保險ハ政府之ヲ管掌ス

第三條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ船員ガ職務執行ノ對價トシテ船舶所有者ヨリ受ケル給料及之ニ準ズベキモノヲ謂フ

給料ニ準ズベキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス

標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ船員ガ職務執行ノ對價トシテ船舶所有者ヨリ受ケル給料及之ニ準ズベキモノヲ謂フ

給料ニ準ズベキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス

標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ船員ガ職務執行ノ對價トシテ船舶所有者ヨリ受ケル給料及之ニ準ズベキモノヲ謂フ

給料ニ準ズベキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス

標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ船員ガ職務執行ノ對價トシテ船舶所有者ヨリ受ケル給料及之ニ準ズベキモノヲ謂フ

給料ニ準ズベキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス

標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ船員ガ職務執行ノ對價トシテ船舶所有者ヨリ受ケル給料及之ニ準ズベキモノヲ謂フ

給料ニ準ズベキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス

標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ船員ガ職務執行ノ對價トシテ船舶所有者ヨリ受ケル給料及之ニ準ズベキモノヲ謂フ

給料ニ準ズベキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス

標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ船員ガ職務執行ノ對價トシテ船舶所有者ヨリ受ケル給料及之ニ準ズベキモノヲ謂フ

給料ニ準ズベキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス

標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ船員ガ職務執行ノ對價トシテ船舶所有者ヨリ受ケル給料及之ニ準ズベキモノヲ謂フ

給料ニ準ズベキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス

標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ船員ガ職務執行ノ對價トシテ船舶所有者ヨリ受ケル給料及之ニ準ズベキモノヲ謂フ

給料ニ準ズベキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス

標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ船員ガ職務執行ノ對價トシテ船舶所有者ヨリ受ケル給料及之ニ準ズベキモノヲ謂フ

給料ニ準ズベキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス

標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ船員ガ職務執行ノ對價トシテ船舶所有者ヨリ受ケル給料及之ニ準ズベキモノヲ謂フ

給料ニ準ズベキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス

標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ船員ガ職務執行ノ對價トシテ船舶所有者ヨリ受ケル給料及之ニ準ズベキモノヲ謂フ

給料ニ準ズベキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス

標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ船員ガ職務執行ノ對價トシテ船舶所有者ヨリ受ケル給料及之ニ準ズベキモノヲ謂フ

給料ニ準ズベキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス

標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ船員ガ職務執行ノ對價トシテ船舶所有者ヨリ受ケル給料及之ニ準ズベキモノヲ謂フ

給料ニ準ズベキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス

標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ船員ガ職務執行ノ對價トシテ船舶所有者ヨリ受ケル給料及之ニ準ズベキモノヲ謂フ

給料ニ準ズベキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス

標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ船員ガ職務執行ノ對價トシテ船舶所有者ヨリ受ケル給料及之ニ準ズベキモノヲ謂フ

給料ニ準ズベキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム



法律一 船員保險法

一 船舶所有者ニ雇傭セラレザル者  
二 官吏又ハ待僱官吏(海給給料ヲ受ケザル者ヲ除ク)  
三 前二號ニ掲グル者ノ外勅令ヲ以テ指定スル者

第十八條 被保險者ハ船舶ニ乗組ミタル日、前條各號ノ規定ニ該當セザルニ至リタル日又ハ日本ノ國籍ヲ取得シタル日ヨリ其ノ資格ヲ取得ス

第十九條 被保險者ハ死亡シタル日、船舶ニ乗組マザルニ至リタル日、第十七條各號ノ規定ノ一ニ該當スルニ至リタル日又ハ日本ノ國籍ヲ失ヒタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス但シ其ノ事實アリタル日ニ更ニ前條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十條 十年以上十五年未満被保險者タリシ者ガ被保險者タラザルニ至リタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ繼續シテ被保險者ト爲ルコトヲ得但シ其ノ

者ガ日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
前項ノ規定ニ依ル被保險者ニシテハ老齡又ハ脱退ニ關スル保險給付ニ限リ之ヲ爲スモノトス

第二十一條 前條ノ規定ニ依ル被保險者ハ第十七條ノ規定ニ依ル被保險者タリシ期間ト前條ノ規定ニ依ル被保險者タリシ期間トヲ合算シテ十五年ニ達シタルトキ其ノ他勅令ヲ以テ定ムル事由ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ資格ヲ喪失ス

第十九條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依ル被保險者死亡シタル場合及日本ノ國籍ヲ失ヒタル場合ニ之ヲ適用ス

第三章 保險給付  
第一節 總則  
第二十二條 被保險者タリシ期間ハ被保險者ノ資格ヲ取得シタル月ヨリ之ヲ起算シ其ノ資格ヲ喪失シタル月ノ前月ヲ以テ終ル但シ十六日以後ニ於テ被保險者ノ資格ヲ取得シタルトキハ其ノ月

ハ半月トシテ之ヲ計算ス  
十六日以後ニ於テ被保險者ノ資格ヲ喪失シタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ其ノ月ハ半月トシテ之ヲ被保險者タリシ期間ニ加算ス

被保險者ノ資格ヲ喪失シタル後更ニ其ノ資格ヲ取得シタル者ニ對シテ保險給付ヲ爲ス場合ニ於テハ前項ノ被保險者タリシ期間ハ之ヲ合算ス但シ脱退手續金ノ支給ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ計算ノ基礎ト爲リタル期間ハ之ヲ合算セズ

前項但書ノ規定ハ第四十九條ノ規定ニ依リ差額ノ支給ヲ受ケタル場合ニ之ヲ適用ス

第二十三條 第三十六條、第三十七條若ハ第四十二條ノ規定ニ依リ一時金又ハ死亡手續金ヲ受ケベキ遺族ノ範圍及順位ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條 養老年金及養老年金ノ支給ハ之ヲ支給スベキ事由ノ生ジタル月ノ翌日ヨリ之ヲ始メ

三〇四

權利消滅ノ月ヲ以テ終ル  
第二十五條 政府ハ事故ガ第三者ノ行爲ニ因リテ生ジタル場合ニ於テ保險給付ヲ爲シタルトキハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ保險給付ヲ受ケベキ者ガ第三者ニ對シテ有スル損害賠償請求ノ權利ヲ取得ス

第二十六條 保險給付トシテ支給ヲ受ケタル金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セズ但シ養老年金ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十七條 保險給付ヲ受ケタル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ抵押アルコトヲ得ズ

第二節 傷病ノ給付及傷病手續金  
第二十八條 被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ疾病又ハ傷病ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ給付ヲ爲ス但シ被保險者ノ資格喪失前ノ疾病又ハ傷病ニ因リ發シタル疾病ヲ除クノ外被保險者ノ資格喪失後ニ發シタル疾病又ハ傷病ニ關シテハ此ノ限ニ

在ラズ  
前項ノ規定ハ報酬年額千八百圓ヲ超ユル船舶職員、被保險者ノ資格喪失當時報酬年額千八百圓ヲ超ユル船舶職員タリシ者及勅令ヲ以テ指定スル者ノ疾病又ハ傷病ニハ之ヲ適用セズ

第一項ノ場合ニ於テ療養上必要アリト認めタルトキハ被保險者タリシ者ヲ診療所ニ收容スルコトヲ得

第二十九條 療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナル場合又ハ被保險者若ハ被保險者タリシ者ノ申請アリタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得

第三十條 被保險者タリシ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルトキハ其ノ期間傷病手續金トシテ一日ニ付被保險者ノ資格喪失當時ノ報酬日額ノ百分ノ六十二相當スル金額ヲ支給ス

一 療養ノ給付ヲ受クルトキ  
法律一 船員保險法

二 船員法第十七條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ疾病又ハ傷病ニ關シテ扶助ヲ受クルトキ

第二十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第三十一條 診療所ニ收容シタル被保險者タリシ者ニ對シテ支給スベキ傷病手續金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得

第三十二條 療養ノ給付及傷病手續金ノ支給ハ同一ノ疾病又ハ傷病及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ保險給付ヲ始メタル日ヨリ起算シ六月ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲サズ

主務大臣ノ指定スル疾病ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ期間ヲ超エ尚六月以内繼續シテ療養ノ給付及傷病手續金ノ支給ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ保險給付ヲ始メタル日勅令ノ定ムル期間引續キ被保險者タリシ者ニ限ル

第三十三條 船員法第十七條又ハ第二十九條ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ扶助又ハ手續ノ支給ヲ受ケタル被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ疾病又ハ傷病ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ受ケタルコトヲ得ベキ期間經過後療養ノ給付又ハ傷病手續金ノ支給ヲ開始ス

第三十四條 十五年以上被保險者タリシ者ガ其ノ資格ヲ喪失シタル後五十歳ヲ超エタルトキ又ハ五十歳ヲ超エ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ其ノ者ノ死亡ニ至ル迄養老年金ヲ支給ス

第三十五條 養老年金ノ額ハ被保險者タリシ期間十五年以上十六年未満ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ二ニ相當スル金額トシ被保險法第十五條ニ相當スル金額トシ被保險法

第三十六條 養老年金ノ支給ヲ受ケタル者ガ死亡シタル場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル養老年金ノ總額ガ養老年金ノ五分ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

第三十七條 十五年以上被保險者タリシ者ガ養老年金ノ支給ヲ受ケタルコトナクシテ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ者ガ支給ヲ受ケタルコトヲ得ベカリシ養老年金ノ五分ニ相當スル金額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

第三十八條 傷病手續金又ハ船員法第十七條若ハ第二十九條ノ規定



第三十九條 養老年金ノ支給ヲ受クル者被保險者ト爲リタルトキハ其ノ月ヨリ養老年金ノ支給ヲ停止ス

第四十條 被保險者ノ資格喪失前六年間ニ三年以上被保險者タリシ者ノ資格喪失前ニ設ケタル既得ノ養老年金ノ額トス

第四十一條 被保險者ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬額ノ百分ノ二十五ニ相當スル金額トシ被保險者タリシ期間十五年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬額ノ百分ノ一二ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

第四十二條 養老年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタル場合ニ於テハ左ノ區別ニ依リ金額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス  
一 被保險者タリシ期間ガ十五年未満ナル場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル養老年金ノ總額ガ被保險者ノ資格喪失ノ際支給ヲ受ケタルコトヲ得ベカリシ額トシテ其ノ遺族ニ支給ス  
二 被保險者タリシ期間ガ十年以上ナル場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル養老年金ノ總額ガ被保險者ノ資格喪失ノ際支給ヲ受ケタルコトヲ得ベカリシ額トシテ其ノ遺族ニ支給ス

第四十三條 養老年金及養老年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ一ヲ支給ス  
第四十四條 養老年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ガ養老年金ヲ受ケル時ニ於テ其ノ遺族ニ支給ス

第四十五條 養老年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ養老年金ヲ支給セズ  
第四十六條 三年以上十五年未満被保險者タリシ者ガ死亡シタルトキ又ハ其ノ資格ヲ喪失シタル後更ニ被保險者ト爲ルコトナクシテ一年六月ヲ經過シタルトキハ既得手當金ヲ支給ス但シ其ノ資格喪失手當金ヲ受クル權利ヲ有スルトキハ一年六月ヲ經過セザル場合ト雖モ之ヲ支給ス  
第四十七條 既得手當金ノ額ハ左ノ區別ニ依リ但シ養老手當金ノ支給ヲ受クル者ニ支給スベキ額ハ既得手當金ノ額ト合算シテ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬額ノ百分ノ三十分ニ相當スル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ  
一 被保險者タリシ期間三年以上四年未満ナル者ニ對シテハ

被保險者タリシ全期間ノ平均報酬額ノ百分ノ一ノ半分ニ相當スル金額  
二 被保險者タリシ期間四年以上九年未満ナル者ニ對シテハ其ノ期間三年以上一年ヲ増ス毎ニ前號ノ金額ニ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬額ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額  
三 被保險者タリシ期間九年以上ナル者ニ對シテハ其ノ期間八年以上一年ヲ増ス毎ニ前號ノ規定ニ依リ其ノ期間八年以上九年未満ノ者ノ支給ヲ受ケベキ金額ニ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬額ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額  
第四十八條 養老年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ既得手當金ヲ支給セズ  
第四十九條 養老年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ガ第四十四條ノ規定ニ依リ養老年金ノ支給ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ於テ既ニ

支給ヲ受ケタル養老年金ノ總額ガ其ノ者ガ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル際支給ヲ受ケタルコトヲ得ベカリシ既得手當金ノ額ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トシテ其ノ遺族ニ支給ス  
第六節 死亡手當金  
第五十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ三年以上被保險者タリシトキハ其ノ遺族ニ對シテ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬額ノ三分ノ二ニ相當スル死亡手當金ヲ支給ス但シ其ノ金額ガ百圓ニ滿ザルトキハ之ヲ百圓トス  
一 被保險者ガ死亡シタルトキ  
二 被保險者タリシ者ガ其ノ資格喪失後三月以内ニ死亡シタルトキ  
三 被保險者タリシ者ニシテ養老金ヲ受ケタルモノガ死亡シタルトキ  
第七節 保險給付ノ制限  
第五十一條 被保險者又ハ被保險

者タリシ者ガ自己ノ故意ノ犯罪行爲ニ因リ又ハ故意ニ事故ヲ生ゼシメタルトキハ養老金ノ給付又ハ既得手當金、養老年金、養老手當金若ハ死亡手當金ノ支給ヲ爲サズ  
第三十六條、第三十七條若ハ第四十二條ノ規定ニ依リ一時金又ハ死亡手當金ノ支給ヲ受ケベキ者ガ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ故意ニ死ニ致シタルトキハ其ノ者ニ對シテハ支給ヲ爲サズ此ノ場合ニ於テ後順位者アルトキハ其ノ者ニ支給ヲ爲ス  
第五十二條 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ闘争、泥酔若ハ著シキ不行跡ニ因リ、故意ニ危害防禦ニ關スル業務上ノ監督者ノ指揮ニ従ハザルニ因リ又ハ正當ノ理由ナクシテ被保險者ニ關スル指揮ニ従ハザルニ因リ事故ヲ生ゼシメタルトキハ既得手當金、養老年金又ハ養老手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得  
第五十三條 被保險者又ハ被保險

者タリシ者ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間養老金ノ給付又ハ既得手當金ノ支給ヲ爲サズ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
一 陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ  
二 本法施行地外ニ在ルトキ  
三 矯正院其ノ他之ニ準ズベキモノニ入院セシメラレタルトキ  
四 監獄、留置場又ハ勞務場ニ拘禁又ハ留置セシメラレタルトキ  
五 健康保險又ハ職員健康保險ニ於テ之ニ相當スル保險給付ヲ受ケタルトキ  
他ノ法令ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ診療所ニ收容セラレタル者ニ對シテハ養老金ノ給付ヲ爲サズ第三十一條ノ規定ハ前項ニ據ル者ニ之ヲ準用ス  
第五十四條 正當ノ理由ナクシテ養老金ノ給付ニ従ハザル者ニ對シテハ既得手當金ノ一部ヲ



支給セザルコトヲ得

第五十五條 詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ依リ保險給付ヲ受ケ又受ケントシタル者ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ定メ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲サザルコトヲ得

第五十六條 療養ノ給付又ハ傷病手當若ハ廢疾年金ノ支給ヲ受ケル者ニ付必要アリト認ムルトキハ診斷ヲ行フコトヲ得

第五十七條 養老年金又ハ廢疾年金ヲ受ケル者ニ付必要アリト認ムルトキハ其ノ身分關係ノ異動及廢疾狀態ノ繼續ノ有無ニ關シ其ノ若シテ必要ナル書類ヲ提出セシムルコトヲ得

第六十條 被保險者及被保險者ノ屬屬スル船舶所有者ハ各被保險料額ノ二分ノ一ヲ負擔ス但シ第二十條ノ規定ニ依リ被保險者ハ其ノ全部ヲ負擔ス

廢疾年金ノ支給ヲ一時停止ムルコトヲ得  
第四條 費用ノ負擔  
第五十八條 國庫ハ療養ノ給付及傷病手當金ヲ除ク外保險給付ニ要スル費用ノ五分ノ一ヲ負擔ス  
國庫ハ前項ニ規定スル費用ノ外毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ船員保險事業ノ事務ヲ執行ニ要スル費用ヲ負擔ス  
第五十九條 政府ハ船員保險事業ニ要スル費用ニ充ツル爲メ保險料ヲ徵收ス  
第六十條 被保險者及被保險者ノ屬屬スル船舶所有者ハ各被保險料額ノ二分ノ一ヲ負擔ス但シ第二十條ノ規定ニ依リ被保險者ハ其ノ全部ヲ負擔ス  
第六十一條 船舶所有者ハ其ノ屬屬スル被保險者ノ負擔スベキ保險料ヲ納付スル義務ヲ負フ但シ第二十條ノ規定ニ依リ被保險者

ノ負擔スル保險料ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ  
第六十二條 船舶所有者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ納付スベキ保險料ヲ被保險者ニ支拂フベキ報酬ヨリ控除スルコトヲ得  
第五章 審査ノ請求、訴訟  
第六十三條 保險給付ニ關スル決定ニ不服アル者ハ第一次船員保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アルトキハ第二次船員保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アルトキハ通常裁判所ニ訴テ提起スルコトヲ得  
第六十四條 保險料其ノ他本法ニ依リ徵收金ノ賦課若ハ徵收ノ處分又ハ第十二條ノ規定ニ依リ處分ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六十五條 保險料其ノ他本法ニ依リ徵收金ノ賦課又ハ徵收ノ處分ニ關シ訴願ノ提起アリタルトキハ主務大臣ハ第二次船員保險審査會ノ審査ヲ經テ裁決ヲ爲スベシ  
第六十六條 本法ニ規定スルモノノ外船員審査會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第六十七條 審査ノ請求、訴ノ提起又ハ訴訟若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分ノ通知又ハ決定書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スベシ此ノ場合ニ於テ審査ノ請求ニ付テハ訴訟法第八條第三項ノ規定ヲ訴ノ提起ニ付テハ民事訴訟法第五百五十八條第二項及第五百五十九條ノ規定ヲ準用ス  
第六章 罰則  
第六十八條 第九條ノ規定ニ依リ命令ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ文書ヲ提出シ爲サザル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十九條 船舶所有者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同業者、雇人其ノ他ノ従業者若其ノ業務ニ關シ則條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第七十條 第六十八條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第七十一條 本法ヲ朝鮮又ハ臺灣ニ施行スル場合ニ於テ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十二條 關東州船員令ニ依リ船員タリシ者ガ被保險者ト爲リタル場合又ハ被保險者タリシ者ガ關東州船員令ニ依リ船員ト爲リタル場合ノ保險給付ニ關シテハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第七十三條 關東州船員令ニ依リ船員タリシ者ガ被保險者ト爲リタル場合又ハ被保險者タリシ者ガ關東州船員令ニ依リ船員ト爲リタル場合ノ保險給付ニ關シテハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

法律一 健康保險法中改正

附則

トヲ得  
本法施行ノ期日ハ保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定ニ付各別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
勅令ヲ以テ規定スル日則十五年間ニ於テ第十七條ノ規定ニ依リ被保險者ト爲ルベキ資格ヲ有スル船員トシテ五年以上船舶ニ乗組ミタル者ガ四十五歳ヲ超エ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テ同日以前十五年間ニ於テ船舶ニ乗組ミタル期間ト被保險者タリシ期間トヲ合算シ十五年以上ニ達スルモ十五年以上被保險者タリシ者ニ非ザルトキハ其ノ者ニ對スル脱退手當金ノ支給條件及其ノ額ニ付テハ第四十六條及第四十七條ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

【參照】

昭和十二年八月十四日公布法律第七十九號船員法抄錄  
第一條 本法ニ於テ船員トハ日本船舶ニシテ左ニ掲グル船舶以外ノモノニ乗組ム船長及海員ヲ謂フ  
一 船舶法第二十條ニ規定スル船舶  
二 平水區域ヲ航行スル船舶  
三 總噸數三十噸未満ノ漁船  
前項ノ海員トハ左ニ掲グル者以外ノ乗組員ヲ謂フ  
一 船舶所有者以外ノ者ニ屬セザルル者  
二 何人ニモ屬セザラズシテ業務ヲ營ム者  
三 其ノ他勅令ヲ以テ定ムル者  
第十七條 第二十一條第二十二條第二十九條、第三十條及第三十二條ノ規定ハ船長之ヲ準用ス  
第二十九條 船舶所有者ハ海員ガ疾病ニ罹リ若ハ傷病ヲ受ケタルトキ、雇入契約終了シタルトキ又ハ死亡シタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ扶助シ、之ニ手當ヲ支給シ又ハ之ガ葬祭ノ費用ヲ負擔スルコトヲ得

健康保險法中改正

（昭和十四年四月五日）  
法律第七十四號  
第一條ニ左ノ一項ヲ加フ  
保險者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ保險者ト同一ノ世帯ニ屬シ被保險者ニ依リ生計ヲ維持スル者（以下世帯員ト稱ス）ノ疾病又ハ傷病ノ療養ニ要シタル費用ニ付補給金ヲ支給スルコトヲ得  
第七條ニ左ノ一項ヲ加フ  
前項ノ規定ハ第一條第二項ノ補給金ヲ支給スル場合ニ於テハ世帯員又ハ世帯員タリシ者ノ戶籍ニ關シ之ヲ準用ス  
第九條 行政官廳ハ必要アリト認ムルトキハ被保險者ノ異動及報酬額ニ保險給付ノ決定ニ關シ當該官吏ヲシテ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ勤務場所ニ就キ被保險者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ帳簿書類其ノ他ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得  
第十條中「保險官署」ヲ「行政官



第一二改ム

第十二條ノ二 前條ノ規定ニ依ル  
督促ヲ受ケタル者其ノ指定ノ期  
限迄ニ保險料其ノ他本法ノ規定  
ニ依ル徵收金ヲ納付セザルトキ  
ハ保險者ハ國稅滯納處分ノ例ニ  
依リ之ヲ處分シ又ハ滯納者若ハ  
其ノ者ノ財産ノ在ル市町村ニ對  
シ之ガ處分ヲ請求スルコトヲ得  
但シ健康保險組合ガ保險者ナル  
場合ニ於テ國稅滯納處分ノ例ニ  
依リ處分スルコトヲ得ルハ市町  
村ニ對シ處分ヲ請求スルモ市町  
村ガ其ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ  
三十日以内ニ其ノ處分ニ着手セ  
ザル場合ニ限ル

第三改ム

當該市町村ニ交付スベシ  
第一項及前項ノ規定ニ於テ町村  
トアルハ町村制ヲ施行セザル地  
ニ在リテハ之ニ準ズベキモノト  
ス  
第十三條但書ヲ左ノ如ク改ム  
但シ臨時ニ使用セラルル者ニシ  
テ勅令ヲ以テ指定スルモノ、一  
年ノ報酬千二百圓ヲ超ユル職員  
及職員健康保險法第二十條ノ規  
定ニ依ル被保險者ハ此ノ限ニ在  
ラズ  
第十七條ニ左ノ一項ヲ加フ  
職員健康保險法第二十條ノ規定  
ニ依ル被保險者ハ同法第二十六  
條第一項ノ認可アリタル場合ニ  
於テハ其ノ認可アリタル日ノ翌  
日ヨリ健康保險ノ被保險者ノ資  
格ヲ取得ス  
第十八條 但書中「前條」ヲ「前  
條第一項」ニ改ム  
第二十條ニ左ノ但書ヲ加フ  
但シ職員健康保險又ハ船員保險  
ノ被保險者タル者ハ此ノ限ニ在  
ラズ

第二十一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

前條ノ規定ニ依ル被保險者ハ前  
條ノ規定ニ依リ被保險者ト爲リ  
タル日ヨリ百八十日ヲ経過シタ  
ルトキ、保險料ヲ納付セズシテ  
命令ヲ以テ定ムル猶豫期間ヲ經  
過シタルトキ、第十三條若ハ第  
十五條ノ規定ニ依ル被保險者ト  
爲リタルトキハ又ハ職員健康保  
險若ハ船員保險ノ被保險者ト爲  
リタルトキハ其ノ資格ヲ喪失ス  
第二十三條ノ二 保險者ハ事業ニ  
支障ナキ場合ニ限り被保險者ニ  
非ザル者ヲシテ保險者ノ施設ヲ  
利用セシムルコトヲ得  
保險者ハ其ノ施設ヲ利用スル者  
ニ對シ命令ヲ定ムル所ニ依リ利  
用料ヲ請求スルコトヲ得  
第四十七條ニ左ノ二項ヲ加フ  
主務大臣ノ指定スル疾病ニ關シ  
テハ保險者ハ命令ヲ定ムル所ニ  
依リ前項ノ期間ヲ超エ通ジテ一  
年ニ至ル迄繼續シテ療養ノ給付  
及傷病手当金ノ支給ヲ爲スコト  
ヲ得但シ其ノ保險給付ヲ始メタ

ル日勅令ノ定ムル期間引續キ  
被保險者タリシ者ニ限ル  
傷病手当金ハ其ノ支給期間ヲ經  
過セザルトキト雖モ療養ノ給付  
ヲ爲シ得ル期間ヲ経過スルニ至  
リタルトキハ之ヲ支給セズ  
第五十三條 削除  
第五十七條ノ二 第三條ノ規定ニ  
拘ラズ被保險者タリシ者職員健  
康保險又ハ船員保險ノ被保險者  
ト爲リタルトキハ勅令ヲ定ムル  
所ニ依リ保險給付ヲ爲サズ  
第六十二條第一項ヲ左ノ如ク改ム  
被保險者又ハ被保險者タリシ者  
左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ  
於テハ疾病、百傷又ハ分娩ニ關  
シ其ノ期間ニ係ル保險給付ハ之  
ヲ爲サズ  
一 離海軍ニ徵集又ハ召集セラ  
レタルトキ  
二 本法施行區域外ニ在ルトキ  
三 矯正院其ノ他之ニ準ズベキ  
モノニ入院セシメラレタルト  
キ  
四 監獄、留置場又ハ勞務場ニ

拘禁又ハ留置セラレタルトキ

同條第三項中「第四十六條」ノ下  
ニ「及第五十一條第二項」ヲ加フ  
同條ニ左ノ一項ヲ加フ  
保險者ハ被保險者又ハ被保險者  
タリシ者第一項各號ノ一ニ該當  
スル場合ト雖モ第一條第二項ノ  
補助金ヲ支給スルコトヲ妨ゲズ  
第六十九條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ  
第六十九條ノ二 第六十條、第六  
十二條第一項及第二項、第六十  
五條及第六十七條ノ規定ハ世  
帯員ニ之ヲ準用ス  
第五十五條ノ規定ハ第一條第二  
項ノ補助金ニ之ヲ準用ス  
第七十六條 被保險者第六十二條  
第一項各號ノ一ニ該當スル場合  
ニ於テハ其ノ期間保險料ヲ徵收  
セズ  
第八十條ニ左ノ一項ヲ加フ  
前項ノ審査ノ請求ハ時效ノ中斷  
ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト  
看做ス  
第八十五條第三項但書中「罰金ノ  
徵收ヲ爲シ」ヲ「過料ニ處シ」

ニ改ム

第八〇條 正當ノ理由ナクシテ  
第九條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ  
質問ニ對シ答辭ヲ爲サズ若ハ虛  
偽ノ答辭ヲ爲シ又ハ其ノ検査ヲ  
拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ  
三百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第九十一條 削除  
附 則  
本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令  
ヲ以テ之ヲ定ム  
分條ニ關スル保險給付ニシテ第五  
十三條ノ改正規定施行ノ日前ニ爲  
シタルモノ及同規定施行ノ日ノ前  
後ニ跨ルモノニ關スル費用ノ分擔  
ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル  
【參照】  
大正十一年四月二十二日公布法  
律第十號健康保險法抄錄  
第七條 保險者又ハ保險給付ヲ受  
クベキ者ハ被保險者又ハ被保險  
者タリシ者ノ戸籍ニ關シ戶籍事  
務ヲ管理スル者又ハ其ノ代理者  
ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコ  
トヲ得

第九條 保險官署ハ必要アリト認

ムルトキハ當該官吏又ハ吏員ヲ  
シテ保險事故ノ生ジタル作業ノ  
場所ニ臨檢セシムルコトヲ得  
第七條 主務大臣ハ本法ニ規定ス  
ル其ノ職權ノ一部ヲ命令ヲ以テ  
保險官署ニ委任スルコトヲ得  
第十一條 保險料其ノ他本法ノ規  
定ニ依ル徵收金ヲ滯納スル者ア  
ルトキハ保險者ハ期限ヲ指定シ  
テ之ヲ督促スベシ  
前項ノ規定ニ依リ督促ヲ爲シタ  
ル場合ニ於テハ勅令ヲ定ムル所  
ニ依リ督促手數料及延滞金ヲ徵  
收ス  
第十一條ノ二 前條ノ規定ニ依ル  
督促ヲ受ケタル者其ノ指定ノ期  
限迄ニ保險料其ノ他本法ノ規定  
ニ依ル徵收金ヲ納付セザルトキ  
ハ保險者ハ國稅滯納處分ノ例ニ  
依リ之ヲ處分シ又ハ滯納者若ハ  
其ノ者ノ財産ノ在ル市町村ニ對  
シ之ガ處分ヲ請求スルコトヲ得  
但シ保險者ガ國稅滯納處分ノ例  
ニ依リ處分スルコトヲ得ルハ政

府ガ保險者ナル場合ニ限ル

保險者ガ前項ノ規定ニ依リ市町  
村ニ對シ處分ヲ請求ヲ爲シタル  
トキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ  
依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ  
ハ保險者ハ徵收金額ノ百分ノ四  
ヲ當該市町村ニ交付スベシ  
前二項ノ規定ニ於テ市町村トアル  
ハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リ  
テハ之ニ準ズベキモノトス  
第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當ス  
ル工場事業場又ハ事業ニ使用セ  
ラルル者ハ健康保險ノ被保險者  
トス但シ臨時ニ使用セラルル者  
ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ  
及一年ノ報酬千二百圓ヲ超ユル  
職員ハ此ノ限ニ在ラズ  
（左記略ス）  
第十八條 第十三條及第十五條ノ  
規定ニ依ル被保險者ハ死亡シタ  
ル日、其ノ業務ニ使用セラレザ  
ルニ至リタル日又ハ第十三條但  
書若ハ第十五條第二項ノ規定ニ  
該當スルニ至リタル日ノ翌日ヨ  
リ其ノ資格ヲ喪失ス但シ其ノ事



實アリタル日ニ更ニ前條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

キハ之ヲ爲サズ  
第五十三條 分曉ノ前後ニ保險者ニ變更アリタル場合ニ於テハ分曉ニ關スル保險給付ニ要スル費用ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ關係アル保險者之ヲ分擔ス

トヲ得  
前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受クル者ナキ場合及前項ノ埋葬料ノ金額ニ付テハ第四十九條ノ規定ヲ準用ス

公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舎又ハ療養所ニ收容セラレタル者ニ對シテハ療養ノ給付ヲ爲サズ  
前項ニ掲グル者ニ付テハ第四十六條ノ規定ヲ準用ス

第二十條第一項  
前條ノ規定ニ依リ被保險者ハ前條ノ規定ニ依リ被保險者ト爲リタル日ヨリ百八十日ヲ經過シタルトキ保險料ヲ納付セズシテ命令ヲ以テ定ムル猶豫期間ヲ經過シタルトキ又ハ第十三條若ハ第十五條ノ規定ニ依リ被保險者ト爲リタルトキハ其ノ資格ヲ喪失ス

第五十六條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受クル者死亡シタルトキ前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者其ノ給付ヲ受ケザルニ至リタル日從九十日以内ニ死亡シタルトキ又ハ其ノ他ノ被保險者トシテ保險者ノ資格ヲ喪失シタル日從九十日以内ニ死亡シタルトキハ被保險者トシテ受ケタルトキハ其ノ資格ヲ喪失ス

第五十七條 被保險者トシテ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日從勅令ヲ以テ定ムル期間内ニ分曉シタルトキハ分曉ニ關シ被保險者トシテ受クルコトヲ得ベカリシ保險給付ヲ最後ノ被保險者ヨリ受クルコトヲ得

第七十六條 被保險者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間保險料ヲ徵集セズ  
一 傷病手當金又ハ出產手當金ノ支給ヲ受クルトキ  
二 第六十二條第一項各號ノ一ニ該當スルトキ

第四十七條 療養ノ給付及傷病手當金ノ支給ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ保險給付ヲ始メタル日ヨリ起算シ百八十日ヲ經過シタルトキ

第五十八條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受クル者死亡シタルトキ前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者其ノ給付ヲ受ケザルニ至リタル日從九十日以内ニ死亡シタルトキ又ハ其ノ他ノ被保險者トシテ保險者ノ資格ヲ喪失シタル日從九十日以内ニ死亡シタルトキハ被保險者トシテ受ケタルコトヲ得

第十二條 保險給付ヲ受クベキ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間保險給付ヲ爲サズ  
一 陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ  
二 本法施行區域外ニ在ルトキ  
三 感化院其ノ他之ニ準スベキモノニ入院セシメラレタルトキ  
四 監獄、留置場又ハ勞務場ニ拘禁又ハ留置セラレタルトキ  
他ノ法令ノ規定ニ依リ國又ハ

第八十條 保險給付ニ關スル決定ニ不服アル者ハ第一次健康保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アル者ハ第二次健康保險審査會ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アル者ハ通常裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得

險審査會ノ爲ス應據調ニ關シテハ罰金ノ言渡ヲ爲シ又ハ勾引ヲ命ズルコトヲ得ズ

役員ヲ百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得

第九十一條 前二條ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

險ニ之ヲ準用ス  
第四十七條第二項ヲ削リ同條ニ左ノ二項ヲ加フ

第八十七條 正當ノ理由ナクシテ第九條ノ規定ニ依リ當該官吏又ハ吏員ノ職務ヲ拒ミ若ハ妨ケ又ハ罰問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ違背ノ答辯ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十二條 前二條ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第九十五條 舊法第六百三十六條、第六百四十三條、第六百五十八條、第六百六十二條及第六百六十三條ノ規定ハ本法ニ依リ家畜再保險ニ之ヲ準用ス

第八十九條 健康保險組合ノ設立ヲ命ゼラレタル事業主正當ノ理由ナクシテハ主務大臣ノ指定スル期日迄ニ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ其ノ手續ノ遲延シタル期間其ノ負擔スベキ保險料額ノ二倍ニ相當スル金額以下ノ過料ニ處ス

第九十條 健康保險組合ガ第三十七條ノ規定ニ依リ命令ニ違反シ又ハ處分ニ拒ミ若ハ妨ケタルトキハ其ノ役員ヲ百圓以下ノ過料ニ處ス

第九十五條 舊法第六百三十六條、第六百四十三條、第六百五十八條、第六百六十二條及第六百六十三條ノ規定ハ本法ニ依リ家畜再保險ニ之ヲ準用ス

本法ニ基キテ設スル健康保險組合ニ關スル勅令ニ於テハ組合ガ之ニ違反シタル場合ニ於テ其ノ

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 舊法第六百三十六條、第六百三十七條、第六百三十八條第二項、第六百三十九條、第六百四十四條、第六百四十三條乃至第六百四十九條第一項、第六百五十八條、第六百六十二條及第六百六十三條ノ規定ハ本法ニ依リ家畜再保險ニ之ヲ準用ス

第三條 簡易生命保險法中左ノ通改正ス











法律—朝鮮事業公債中改正

「商法第三百一十一條第二項第一號及第三號乃至第五號ニ掲ゲタル事項並ニ債券ノ番號」ニ、同條第四項中「商法第二百四十四條第三項」ヲ「商法第三百五十三條第一項」ニ、「商法第七十三條第四號乃至第六號」ヲ「商法第三百一十一條第二項第三號乃至第五號」ニ改ム

ハ定數ノ規定ニ違反スルコトヲ理由トスルトキニ限り前項ノ派ヲ提起スルコトヲ得  
「商法第八十八條、第九十五條第三項、第九十九條及第二百五十一條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ適用ス  
第三十四條 無擔票法中左ノ通改正ス  
第二十一條ノ二中「商法第七十八條第二項」ヲ「商法第一百條第一項」ニ改ム  
第二十一條ノ三中「商法第七十八條第二項但書」ヲ「商法第一百條第一項但書」ニ、「商法第二百二十條ノ二但書」ヲ「商法第三百七十七條第一項但書」ニ改ム  
第三十五條 礦業法中左ノ通改正ス  
第十九條第二項中「商法第二百九條」ヲ「商法第三百四十三條」ニ改ム  
第三十六條 臨時資金調整法中左ノ通改正ス  
第九條第一項中「商法第二百九條」ヲ「商法第三百四十三條」ニ改ム

ノ規定ニ依ル制限」ヲ「商法ニ規定スル制限」ニ改ム  
第十五條中「第五條」ヲ削リ同條ニ左ノ一項ヲ加フ  
「商法第二百九十六條乃至第二百九十八條ノ規定ハ貯蓄債券ニハ之ヲ適用セス  
第三十七條 大正十年法律第八十號中左ノ通改正ス  
第三條中「商法第七十八條第二項」ヲ「商法第一百條第一項」ニ改ム  
第四條中「商法第七十八條第二項但書」ヲ「商法第一百條第一項但書」ニ、「商法第二百二十條ノ二但書」ヲ「商法第三百七十七條第一項但書」ニ改ム  
第三十八條 大正十四年法律第五十二號中左ノ通改正ス  
第一項中「株式會社」ノ下ニ「及有價會社」ヲ加フ  
第三十九條 昭和七年法律第十六號中左ノ通改正ス  
第一項中「商法第二十六條第二項ノ規定」ヲ「商法第三十四條」ニ改ム

三二八  
第一項及第二百八十五條ノ規定並ニ其ノ適用規定」ニ改ム  
附 則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
「商法中改正法律施行法」ニ依リ同法第一條ニ於テ「商法」ヲ適用スベキ場合ニ付テハ從前ノ規定ハ仍其ノ効力ヲ有ス  
【參照】  
大正十年四月二十二日公布法律第八十號ハ日本勸業銀行及農工銀行ノ合併ニ關スル件同十四年十二月二十一日公布法律第五十二號ハ支那ニ於ケル帝國法人ノ所有スル船舶等ニ關スル件昭和七年七月一日公布法律第十六號ハ國債ノ價格計算ニ關スル件ナリ  
朝鮮事業公債中改正  
（昭和十四年三月三十一日）  
（法律第六十二號）  
第一條中「八億九千三百五十萬

圓」ヲ「十億六千六百十萬圓」ニ改ム  
附 則  
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
【參照】  
昭和二年三月二十九日公布法律第十一號朝鮮事業公債法抄錄  
第一條 朝鮮ニ於ケル事業費又ハ事業費補助ニ要スル經費ヲ支辨シ且ツ煙草專賣制度ノ實施又ハ私設鐵道買収ニ要スル交付金トシテ交付スル爲メ政府ハ從前募集シタルモノヲ通シテ八億九千三百五十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之ガ繰替支辨ノ爲メ借入ヲ爲スコトヲ得

朝鮮總督府ノ定ムルモノノ建設又ハ修繕ニ要スル材料並ニ其ノ設備ニ裝置スル器具、機械及其ノ部分品、附屬品但シ朝鮮總督ノ指定シタルモノニ限ル  
附 則  
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
【參照】  
大正九年八月七日公布法律第五十三號國稅法關稅定率法及保稅倉庫法等ノ朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル件抄錄  
第二條 朝鮮ニ輸入スル左ノ物品ニハ輸入稅ヲ免除ス  
（左記略ス）

大正九年法律第五十三號中改正

（昭和十四年四月十九日）  
（法律第八十五號）  
第二條第九號ヲ第十號トシ同條第八號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ  
九 國境河川ニ跨ル橋梁、水力發電設備其ノ他ノ設備ニシテ

法律—大正九年法律第五十三號中改正、朝鮮私設鐵道補助法中改正

朝鮮私設鐵道補助法中改正

（昭和十四年三月十六日）  
（法律第十四號）  
第一條第一項中「十五年ヲ限リ」ノ下ニ「豫算ノ範圍内ニ於テ」ヲ加ヘ同條第二項中「五年」ヲ「十年」ニ改ム  
朝鮮總督ハ必要アリト認ムルト

第二條 前條ノ補助金ハ每營業年度ニ於ケル建設費ニ對シ年五分ノ割合ニ相當スル金額ヲ限度トス但シ每營業年度ニ於ケル益金カ建設費ニ對シ年一分ノ割合ニ相當スル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ補助金額ヨリ控除ス  
附 則  
本法ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行ノ際現ニ補助ヲ受ケル鐵道ニ對スル補助ニ付テハ各現土ノ補助期間満了ノ日ノ屬スル營業年度ノ末日迄ハ改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル

キハ更ニ五年ヲ限リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得  
第二條 前條ノ補助金ハ左ノ各號ニ依ル金額ヲ限度トス  
一 前條第一項ノ期間中ハ每營業年度ニ於ケル建設費ニ對シ年五分ノ割合ニ相當スル金額但シ每營業年度ニ於ケル益金カ建設費ニ對シ年一分五厘ノ割合ニ相當スル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ補助金額ヨリ控除ス  
二 前條第二項ノ期間中ハ每營業年度ニ於ケル建設費ニ對シ年五分ノ割合ニ相當スル金額但シ每營業年度ニ於ケル益金カ建設費ニ對シ年一分五厘ノ割合ニ相當スル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ補助金額ヨリ控除ス  
第五條 補助金ノ年總額ハ最高五百萬圓トス



法律 朝鮮銀行券及ヒ臺灣銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル法律、臺灣事業公債法  
中改正、中支那振興株式會社法中改正、昭和十三年法律第二十三號中改正

朝鮮銀行券及ヒ臺灣銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル法律

(昭和十四年三月三十一日) 法律第五十九號

朝鮮銀行法第二十二條第二項中一億圓トアルハ當分ノ内之ヲ一億六千萬圓トス  
臺灣銀行法第九條第二項中五千圓トアルハ當分ノ内之ヲ八千萬圓トス

附 則

勅令第二百十四號  
昭和十四年法律第五十九號ハ昭和十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本法ハ支那事變終了後一年內ニ之ヲ廢止スルモノトス

【參照】  
明治四十四年三月二十九日公布 法律第四十八號朝鮮銀行法抄錄  
第二十二條 第一項及第二項  
朝鮮銀行ハ銀行券發行高ニ對シ同額ノ金貨、地金銀又ハ日本銀

臺灣事業公債法 中改正

(昭和十四年三月三十一日) 法律第六十三號

第一條中「一億五千四百六十萬圓」ヲ「一億七千二百九十萬圓」ニ改ム

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

【參照】

大正十一年三月二十八日公布 法律第十三號臺灣事業公債法抄錄  
第一條 臺灣ニ於ケル事業費又ハ事業費補助ニ要スル經費ヲ支拂シ且專賣制度若ハ租稅權讓渡製造事業ノ實施又ハ私設鐵道買收ニ要スル交付金トシテ交付スル爲政府ハ從前募集シタルモノヲ通ジテ一億五千四百六十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之ガ續替支辨ノ爲借入ヲ爲スコトヲ得

中支那振興株式會社法中改正

(昭和十四年三月二十九日) 法律第四十六號

第三條ノ二 政府ハ金貨以外ノ財產ヲ以テ其ノ所有スル株式ノ第二回以後ノ株金拂込ニ充ツルコトヲ得

附 則

第三十八條ノ二 政府第三條ノ二ノ規定ニ依リ金貨以外ノ財產ヲ以テ其ノ所有スル株式ノ株金拂込ニ充ツル場合ニ於テハ其ノ財產ノ價額ニ付政府出資財產評價委員會ノ議ヲ經ベシ

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

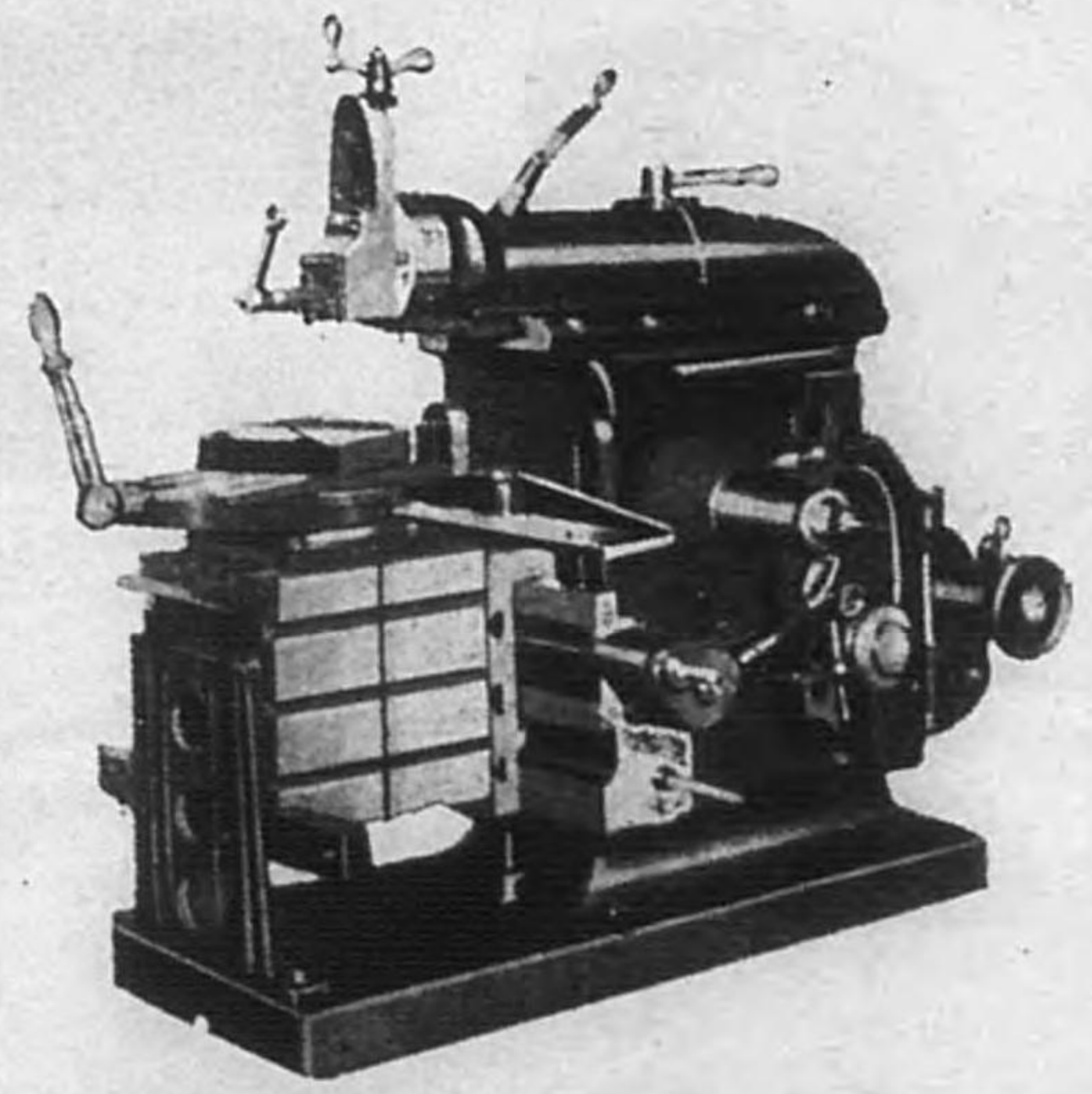
昭和十三年法律第二十三號中改正

(昭和十四年三月二十七日) 法律第三十四號

第一條 關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計

# 小原のセーパ

## 16吋 20吋 直結專門製作



英式二重バック大型旋盤  
サーキュレーター製作  
外各種工具製作

# 會 商 德 芳 會 社

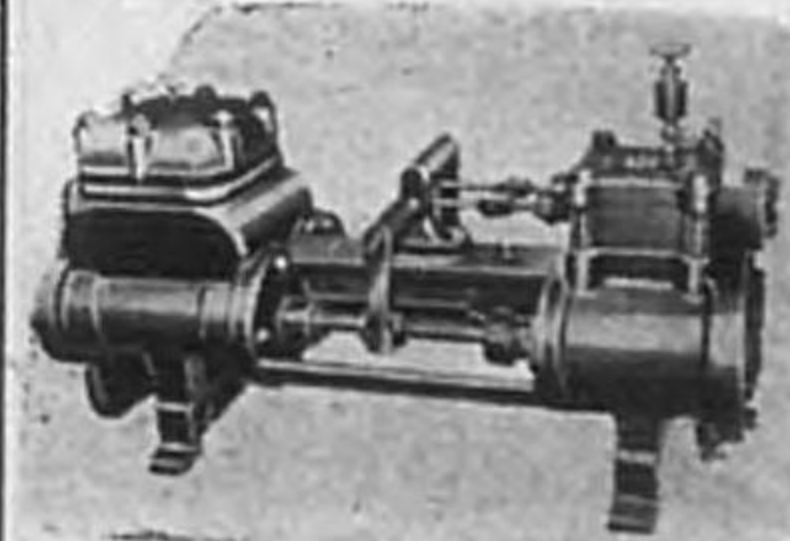
本 社 埼玉縣川口市榮町三(川口驛前) 電話川口2861番  
第一工場 川口市本町三丁目四三 電話川口2668番  
第二工場 川口市並木町一〇七番地 電話川口3505番  
第三工場 川口市並木町

御照會ヲ乞フ



誇る 科學的經營 良品廉價

タナカ  
汽働唧筒



横型ウオシントン唧筒



堅型ウオシントン唧筒



ウエヤース式給水唧筒

工材  
作料  
精嚴  
巧選



汽働遠心唧筒

營業品目

特許學氣  
船工  
野用業風揚壓  
ト各用  
製作種補  
發接機  
元手機械機機筒機

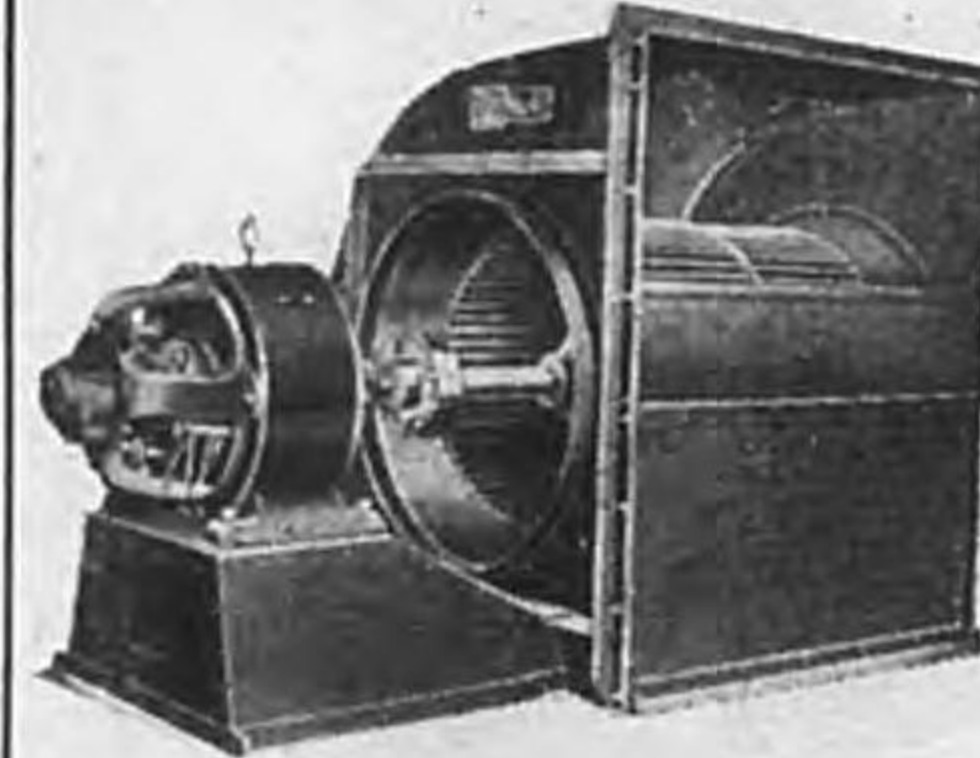
株式會社 田中鐵工所

本社 東京市本所區壓川三丁目六番地 電話本所 6113-6153-7157  
 東京營業所 東京市日本橋區橫山町十(兩國ビル) 電話浪花 1151-1153  
 大阪營業所 大阪市西區靱南通り四丁目九番地 電話土佐堀 6144  
 鑄造部 第一鑄造部 電話本所 6194  
 製造部 第二鑄造部 電話墨田 1147  
 製罐部 電話墨田 5113-2435

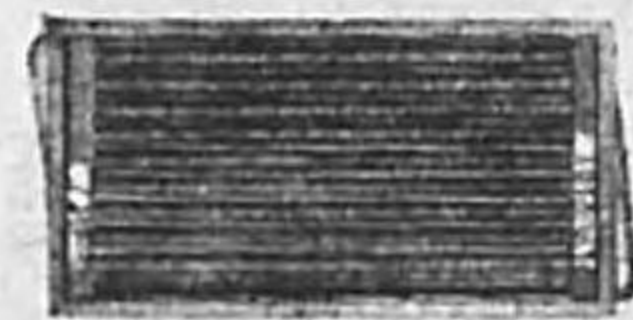
中三五

煖房 工場 換氣

川島式 多翼 送風機



川島式 高壓 エロフィン ヒーター

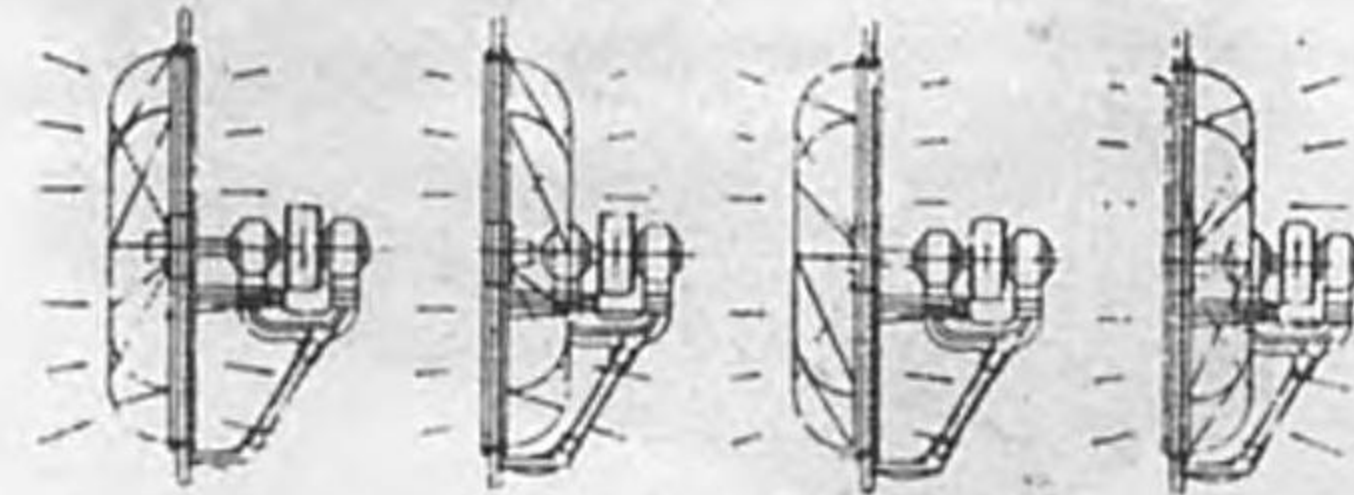


常用壓力150封度に耐へ得る  
高壓エロフィンヒーター



工場用エロフィンユニットヒーター  
(煖房 冷房用)

兩面吸込 シロツコファン



左廻リ 左廻リ 右廻リ 標準型右廻リ  
吸勝手 吹勝手 吸勝手 吹勝手

多年ノ經驗・獨特ノ廉價

(特許) 高溫低溫空氣乾燥機・煖房換氣  
設計工事請負納期確實

專賣特許第七六三三六號エロフィンヒータークーラー  
各種送風機排風機各種乾燥機}設計製作

合資會社 川島鐵工所

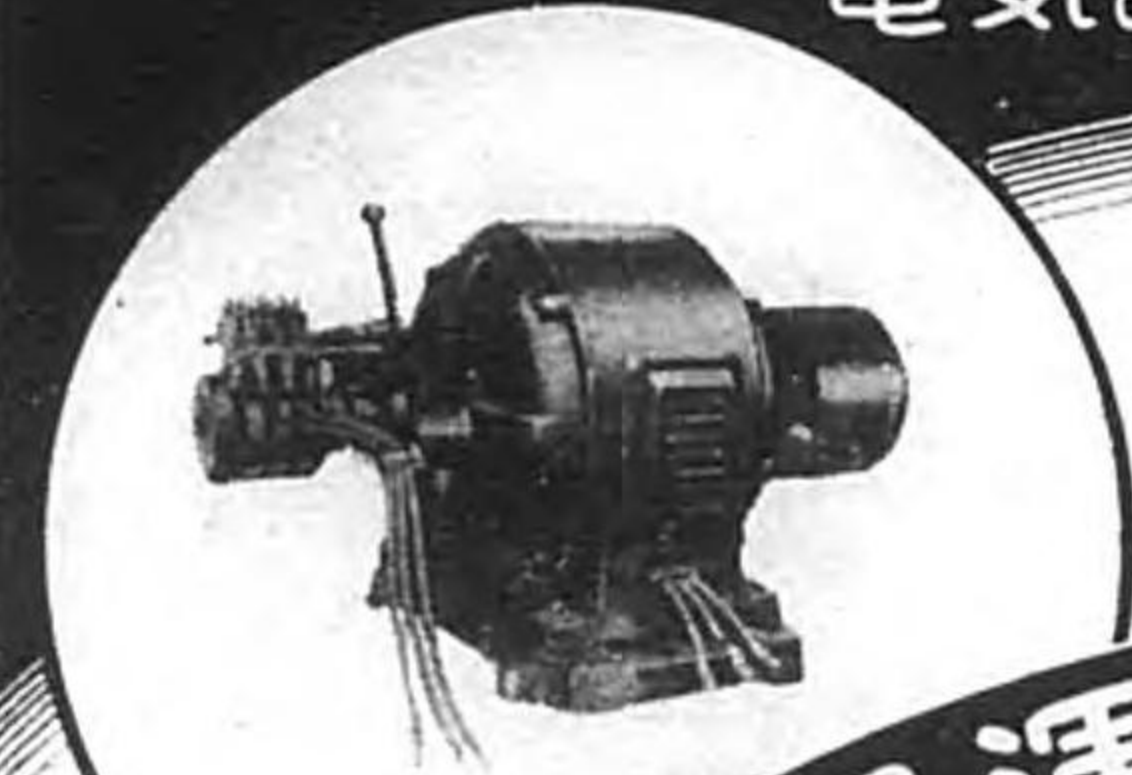
本社及工場 東京市板橋區志村町一二六番地  
電話赤羽 二六四七・二八六五・二三五五番

中三四



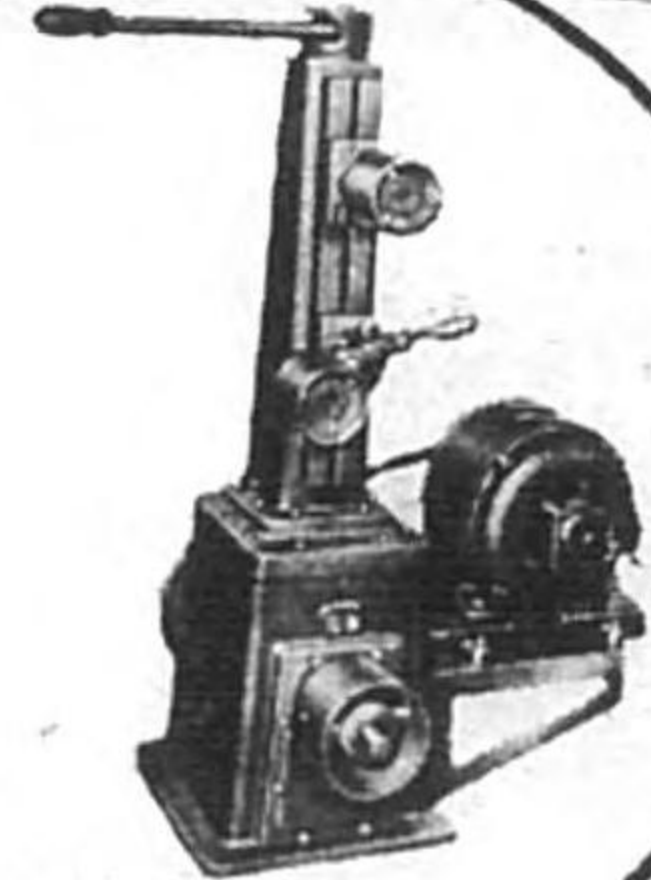
# 日立モートル

## 電気諸機械製造



門本式 Y 開閉器  
可逆開閉器  
工業用電熱器及電気爐  
起重機用抵抗器制御器  
其他電動機電気機械  
修理

### 機轉運獨



工作機械用  
變速單獨運轉機  
1.-1.-2.-3.-4.-5.HP用  
工業能率の  
一大革命

日立製作所 特約店

## 門本商店

營業所 大阪市南區北桃谷町一七 電話東1414・5478番  
工場 大阪市東成區大今里町本町六丁目 電話南4380番

中三六

イマシロード電気被覆棒製造販賣  
電 氣 製 罐 工 事

高溫高壓用鐵管製作加工配管請負  
イマシウエルダー製造販賣

イマシロード

# イマシウエルダーインダストリー商會

大阪市西淀川區佃町六丁目二〇番地

電話 福島 ④ 一五八四三七番

中三七

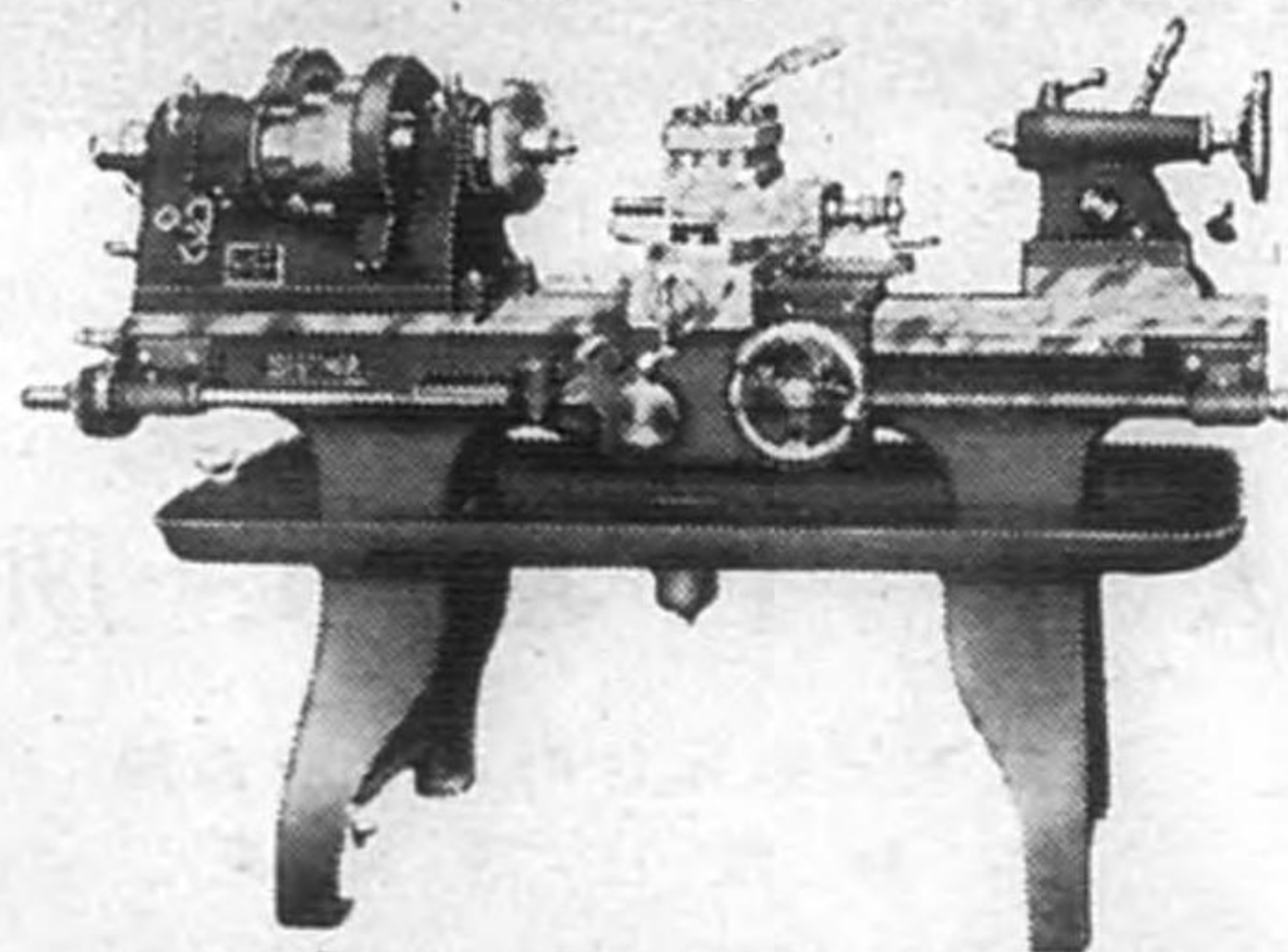


製圖機械・事務用器・文房具

# 篠田商會

名古屋市中區榮町電停東  
電話東局④12番・13番・315番

## 高級精密旋盤



會社 正和製作所  
名古屋市中區高岳町二 電話東④三二三五番  
工場 名古屋市中區高岳町二ノ二九

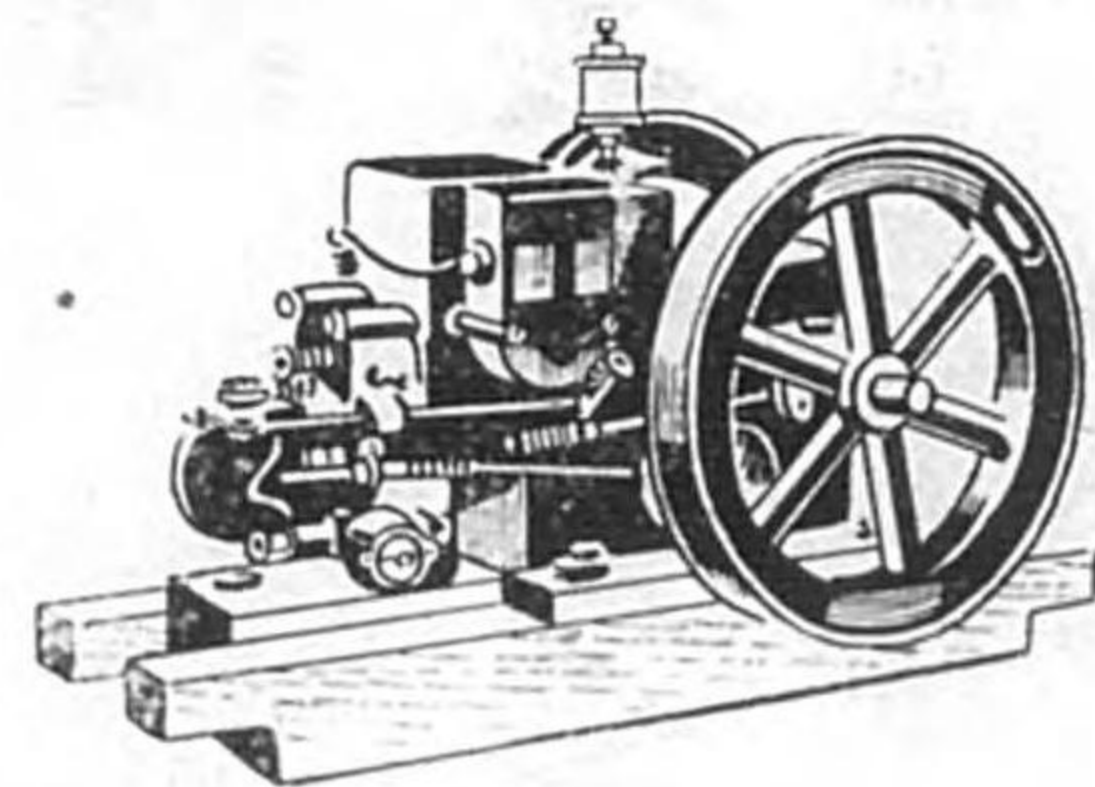
中三九



何でも揃ふ

陸 舶

發動機用品と  
機械工具



# ネリ才商店

大阪市西區北堀江二番町三二番地  
電話新町④四〇六四番  
振替大阪一〇九六二番・神戸八六一五番

中三八



鳥印  
エナメル・ワニス  
カボライトラッカー、  
グロメル類料、



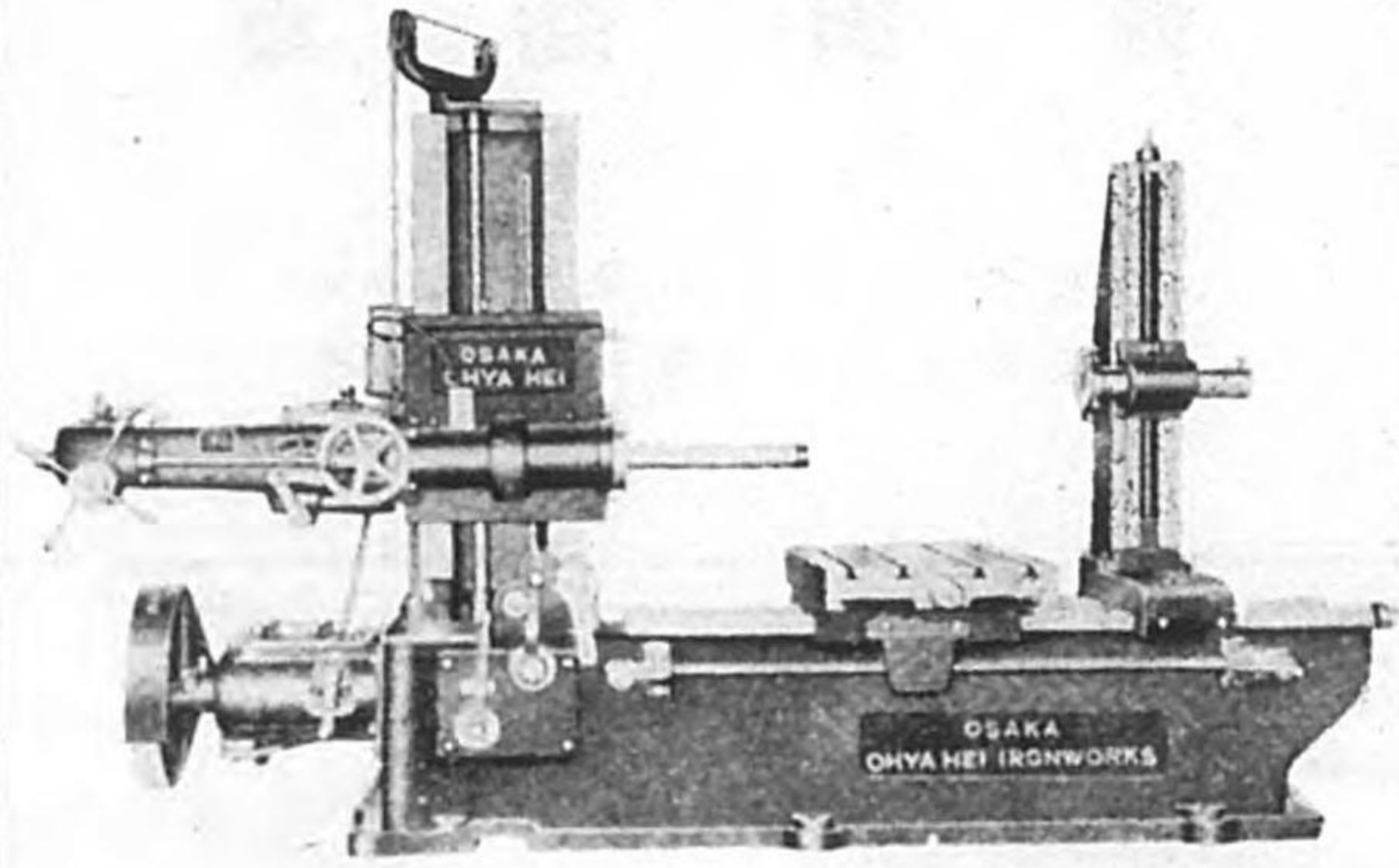
販大 元造製  
所造製料塗上川 各合  
社

海外主要地一手販賣  
三井物産株式會社

中四一

ホリゾンタルボーリングマシン

2<sup>1</sup>/<sub>2</sub>" . 2<sup>3</sup>/<sub>4</sub>" . 3H.P



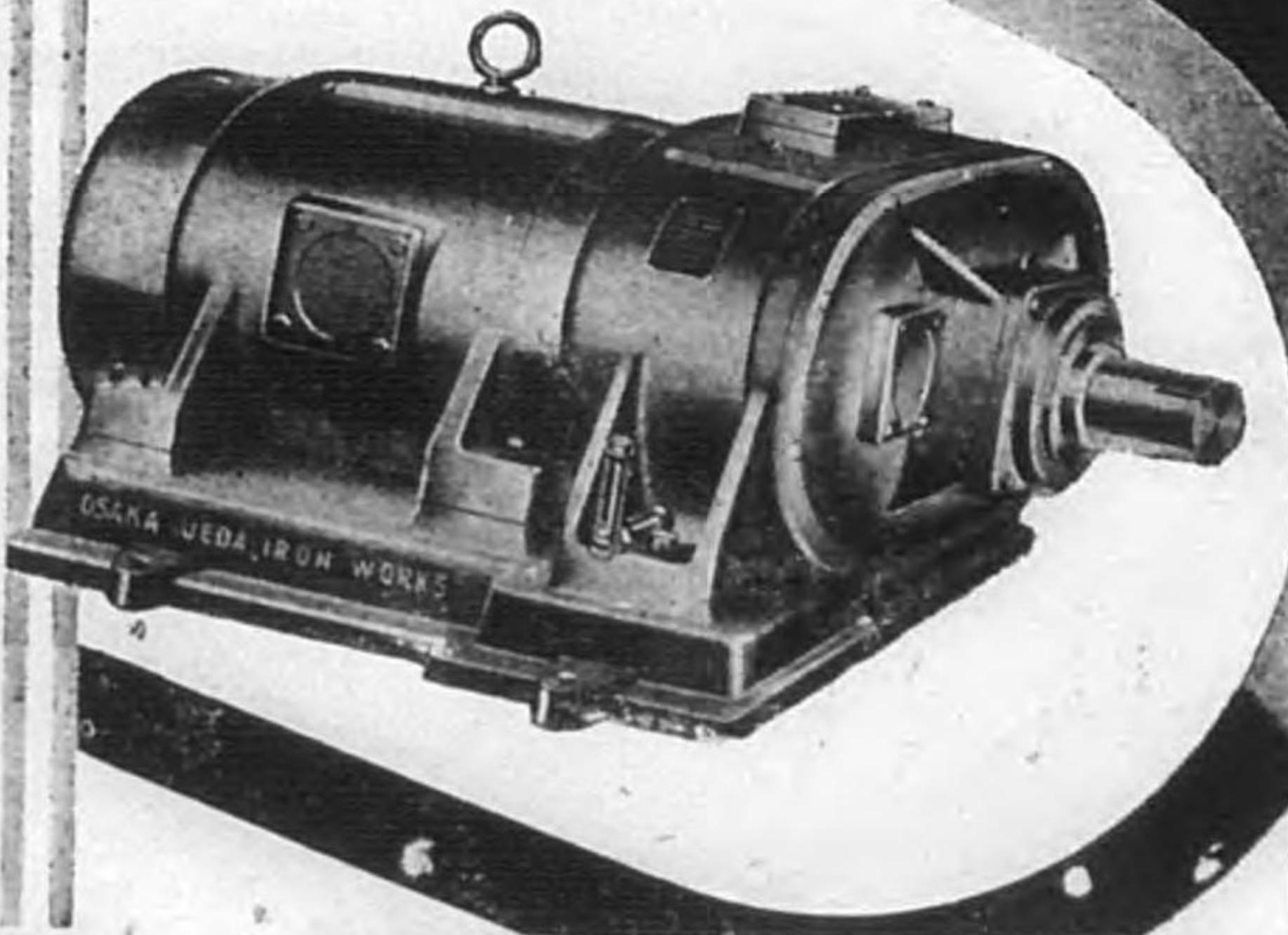
大 矢 平 鐵 工 所

大阪市旭區關目町四〇一番地  
(京阪野江電停東)  
電話旭 ⑦ 二九四六番

中四〇



# 式置 植田式 減速機



陸海軍省認定工場

## 植田鐵工合名會社


營業所	大阪市浪速區草町一丁目二八番地
機械工場	電話櫻川④六八七・五〇二五番 振替大阪一一一五八番地
精機工場	大阪市浪速區草町一丁目二八番地
製鐵工場	大阪市浪速區芹原町一丁目九三番地

中  
四  
三

### 營業課目

機械、工具、鐵材、鋼、銅、真鍮、地金類、引拔鋼管、瓦斯管  
 繼手、バルブ、コック、水道用品、傳動機用品  
 ボールトナツト類、特殊捻子並ニナツト製作

特許エスペロバルブ代理店



## 森田商店

神戸市葺合區脇濱町二丁目一〇一  
 電話葺合②五三六〇番

商標



製造並ニ修繕迅速  
 大阪市北花區江成町九〇番地

## 竹本總製造所

電話土佐堀④四五六七番  
 振替口座大阪四八五五六番

# ヤスリ専門





營業種目

鋼・鋳造・鑄山  
 建築用鋼金物  
 リベット・ボルト  
 ナット・各種工具  
 品質第一・在庫豊富

## 岩田商會

合名會社  
 神戸市葺合區北本町通三ノ一七  
 電話葺合②1344・7673番  
 振替口座神戸2249番

中  
四  
二



日本製鐵株式會社熔接棒指定販賣店  
 日立製作所電氣熔接機特約販賣店  
 タセト特殊被覆電極棒發賣元  
 熔接線熔光發賣元

## 公文商事部

本店 大阪市西區本田町通二丁目四八  
 電話西三三九一・三三八九番  
 出張所 小倉市勝山町三四二  
 電話小倉三六二番  
 研究所 大阪府豊能郡箕面村一九五  
 電話箕面一六五番  
 滿洲國代理店 大連市監部通り四九番地  
 大信洋行  
 支店 奉天、新京、ハルビン、撫順、鞍山

## 各種ボルト

日本規格 ウィット規格



大阪市港區寿町二ノ一八

### 吉岡金属製作所

電話西 7931 番

中  
四  
五

# 電氣爐

### 製作種目

抵抗式電氣爐  
 炭素粒電氣爐  
 (クリプトル)  
 炭素管電氣爐  
 (タンマン式)  
 非金属抵抗式電氣  
 爐(特許エレマ抵  
 抗體使用)



車台型電氣炉

## 奥谷製作所

本店及工場 大阪市東淀川區堀上通三丁目三九 電話北 3730・4827 番  
 東京出張所 東京市日本橋區本町三丁目五番地 電話日本橋一八九一番

中  
四  
四



TRADE MARK

特許高圧ポンプ  
各種高圧機・高圧ポンプ  
各種特殊高圧機・各種高圧ポンプ

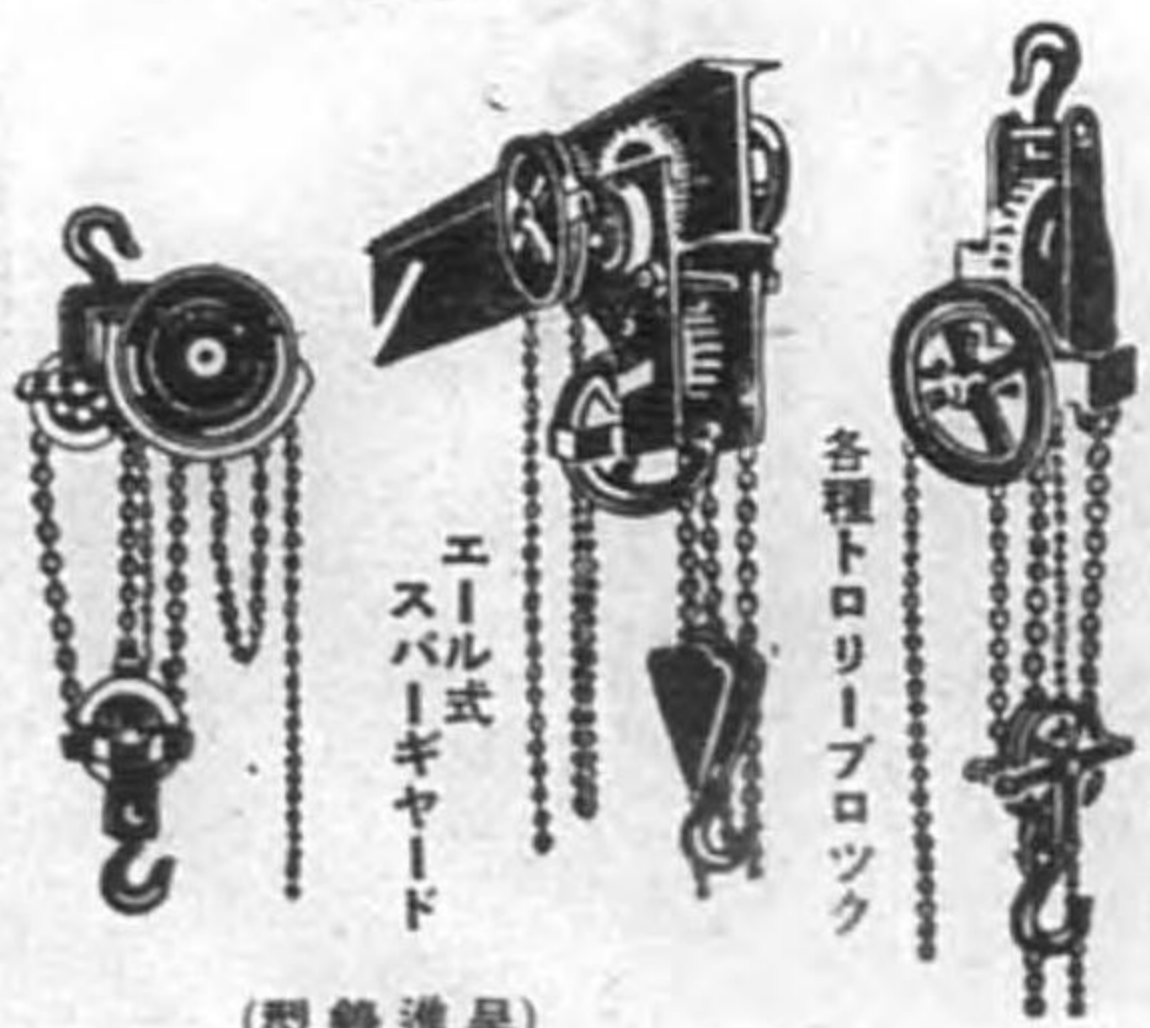
# 日本水壓機製作所

大阪市西區島津町十番  
電話新町 〇一五二

優秀 國産 **朝日印**



ウオームギヤ式  
高速度三重式  
各種トロリー  
製造元



(型録進呈)

大阪市浪速區反物町一三二一  
合名 中元鐵工所  
電話 櫻川三〇六九・五七〇三  
振替口座 大阪一六二七九番

中四七

・營業種目・

暖房・冷房・換氣 諸機械材料  
蒸汽・衛生・水道

放熱器並附屬弁類  
低壓用シルホントラップ類  
高壓用鑄鋼製諸弁類  
ピストン式減壓弁  
空氣液體溫度調節器  
エロフィンヒーター  
コンデンセイションポンプ  
高級米式旋盤四呎六吋

專門設計製作販賣

大阪市港區三先町四丁目五三



阿波田工商合資會社

電話 築港(八六三)番  
振替口座 大阪一八二七九番

# 精密ネジ



モクネジ ナット  
製造販賣  
阪尾信太郎商店

大阪市西區北堀江通六丁目一番地  
電話新町 〇三四九三番

中四六



# 鐵 鋼

## 小倉商事株式會社

大阪市西區西道頓堀通り二丁目十番地  
 電話 櫻川 (一三三八・一三三九・一二〇五)  
 二一〇九・三四二〇  
 振替口座大阪五八六八二  
 受信略號(堀江局)オサカテツヤオグラ  
 發信略號(オ)又ハ(オク)

### 營業種目

ボールドナツト 其他各種機械工具製作販賣  
 自動車部分品・各種架線金物類  
 各種セロハン・食料品

日本工具製作株式會社代理店  
 株式會社 牧田製作所代理店

## 上 神 洋 行

小倉商事株式會社上海出張所  
 上海北四川路六四〇番  
 電話 (02) 2 8 8 1

## 青 神 洋 行

小倉商事株式會社青島出張所  
 青島滄口路第五十九號  
 電話 二二一一番

# 火 造

## 株式會社大阪鍛鋼所

鐵鋼及特殊鋼鍛延  
 クランク其他鍛造品一式

備	裝
反	スチムハンマー
射	2. 1. 1/2
爐	9.0 × 20.0
	三基
	三臺

姫島工場 大阪市西淀川區福町一〇七  
 電話 福島 ④ 四三一〇番  
 營業所 大阪市港區九條中通三丁目五八四  
 電話 西 ④ 一〇三九  
 ④ 一〇三六  
 ④ 一〇一六  
 ④ 一〇一六番





**営業種目**  
 ニュマチツケツール  
 ス ナ ツ プル  
 チ ゼ ト ン  
 ビ ス ト ン

**スナップ** は日満  
 登録商標 **NS**



**日満スナップ製作所**  
 大阪市東淀川区元今里北通三丁目三〇  
 電話北 二七一六番

**オ切は竹島へ**

銅、真鍮、パイプ、棒  
 板、線、燐銅、ニッケル  
 アルミ、建築金物一切

**竹島三郎商店**  
 大阪市港區北境川町二丁目二八  
 (市電境川交又點半丁西)  
 電話西 6886・4971番

中五一

輸出向内地向錠前及附屬品製造

**大阪錠前製造工業組合**

工場 共同鑄造所

理事長 西田清一郎  
 専務理事 竹田安雄  
 書記長 阪田安雄

所長 里井表次郎  
 布施市岸田堂三三番  
 電話天王寺三〇四四番

大阪市東區小橋西之町一  
 電話南 一八〇〇九四二四番

中五〇



# 関西伸銅品販賣株式會社

大阪市西區立賣堀北通三丁目十四番地  
 電話新町 〇三  
 五五五  
 八一  
 四五五  
 五九八  
 番番番

中五三

## 化學工業用機械各種タンク類



### 營業課目

NK式安全革命器  
 攪拌機・乾燥機・輸送機  
 蒸發罐各種鐵槽  
 一般諸機械設計製作



## 野江工業所

大阪市西淀川區野里町七九四番地  
 電話福島 〇一八五・五二五四番

## F.K.式 鑿岩機 シャーナー



型録送呈



## 栗田鑿岩機製作所

大阪營業所 大阪市西區西長堀北通五丁目六  
 (手造橋北品車側)  
 電話新町二二三七番五六一二番

中五二



**目 課 業 營**  
 工販電自充各設製配電  
 機動電種計作電氣  
 車用車及蓄及盤諸  
 材分修監修各機  
 式賣料品理池督理種械

工 營  
 場 業所  
 東京市品川區東品川五丁目  
 東京市品川區東品川五丁目  
 電話高輪④三三五五七番



松崎工業所

マガール自動車方向指示器元賣捌店  
 G・S 蓄電池元賣捌店  
 H・M・S 蓄電池賣捌店



美馬商店  
 大阪市西區本田三番町六八番地  
 電話西區三番振替大阪三〇番  
 工場 港區石田橋町

鉛管 鉛線 鉛板

事工接鎔鉛

鉛	鉛	錫
テ	ハツ	
ー	キン	
ブ	ダ	管

中五五



電動機直結  
**耐酸遠心ポンプ**



耐酸バルブ・コック  
 耐酸フートバルブ  
 (合理的標準新製品)

松田ポンプ製作所

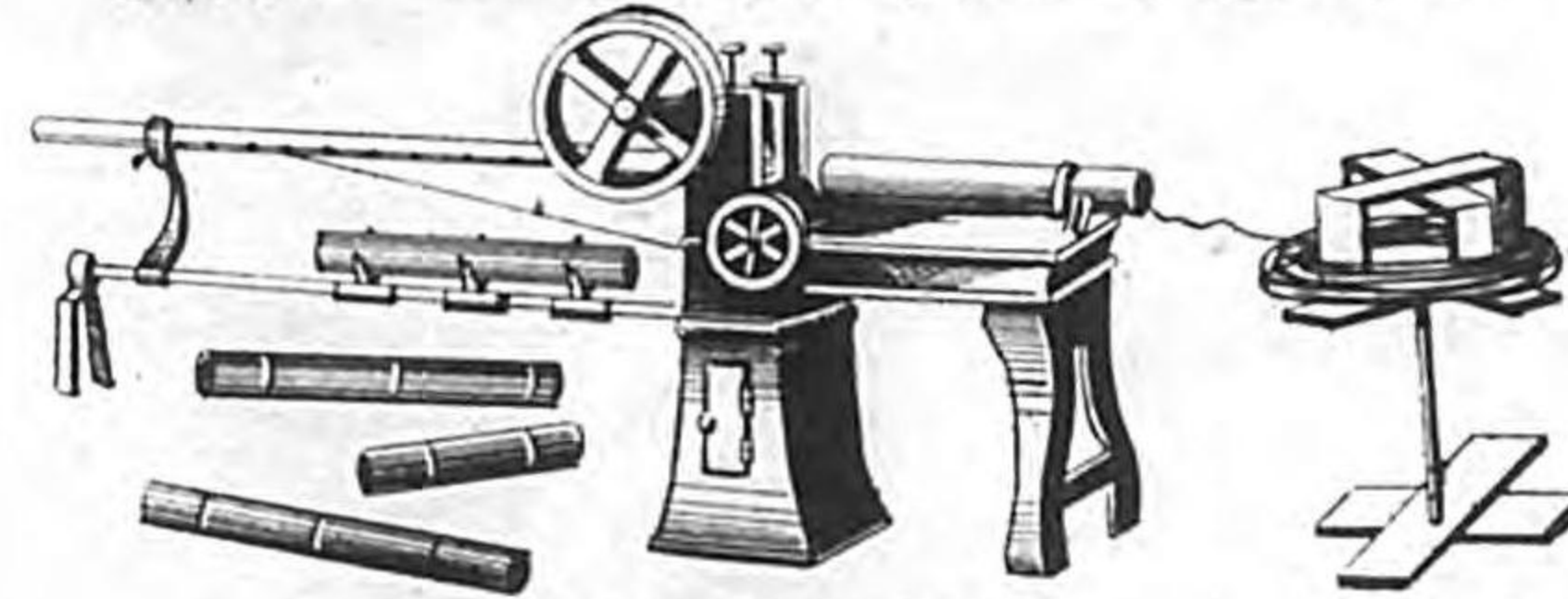
大阪市西淀川區浦江北四丁目一番地 電話福島⑤2228番

使用材料スワイゼン(高硅素鑄鋼)硬鉛

如何ナル酸類藥品ノ  
 揚液ニ就イテモ御相談ニ應ズ

るあ評定に界斯

機斷切働自線直金針



賣販作製門專  
 商斷切法寸ト線鐵種各

所 作 製 轟

○一日丁三町深魚區所本市京東 店支 日丁一町野平東區寺王天市阪大  
 番一九五一所本話電 番九二六五⑤兩話電

(製線進呈)  
 (在庫豊富)

中五四







TRADE MARK TRADE MARK

印山 印  
才一 印

# SCREWS



株式會社 片山近市商店

本 社 東京市芝區金杉町二丁目二番地  
電話三田一七五八・二七三六・三四六五番

第一工場 東京市蒲田區東六郷町一丁目  
第二工場 川崎市上丸子古川通リ一・二・一三  
第一工場 川崎市上丸子古川通リ一・二・一三  
分 工場

中五九

## 東滿洲産業株式會社

本 社	東京市麹町區丸ノ内三丁目二番地 電話丸ノ内四〇二五・五六五九	取締役會長	増 田 次 郎
新 京 支 店	新 京 中 央 通 四 一 電話大和三八三六・六一九六番	取締役社長	中 村 直 三 郎
北 京 出 張 所	北京市内二區東堂子胡同五三號 電話東局二五五〇番	專務取締役	黒 川 正 太 郎
		常務取締役	山 本 高 次
		支 配 人	山 田 茂 太

## 超硬質合金工具

營業種目 カタログ進呈

タンガロイ・チップ・バイト・カッター  
ダイヤモンド・ダイス  
ダイヤモンド・ダイス  
ドリル・高級ハガネ



芝浦マツダ工業株式會社特殊合金工具製作所

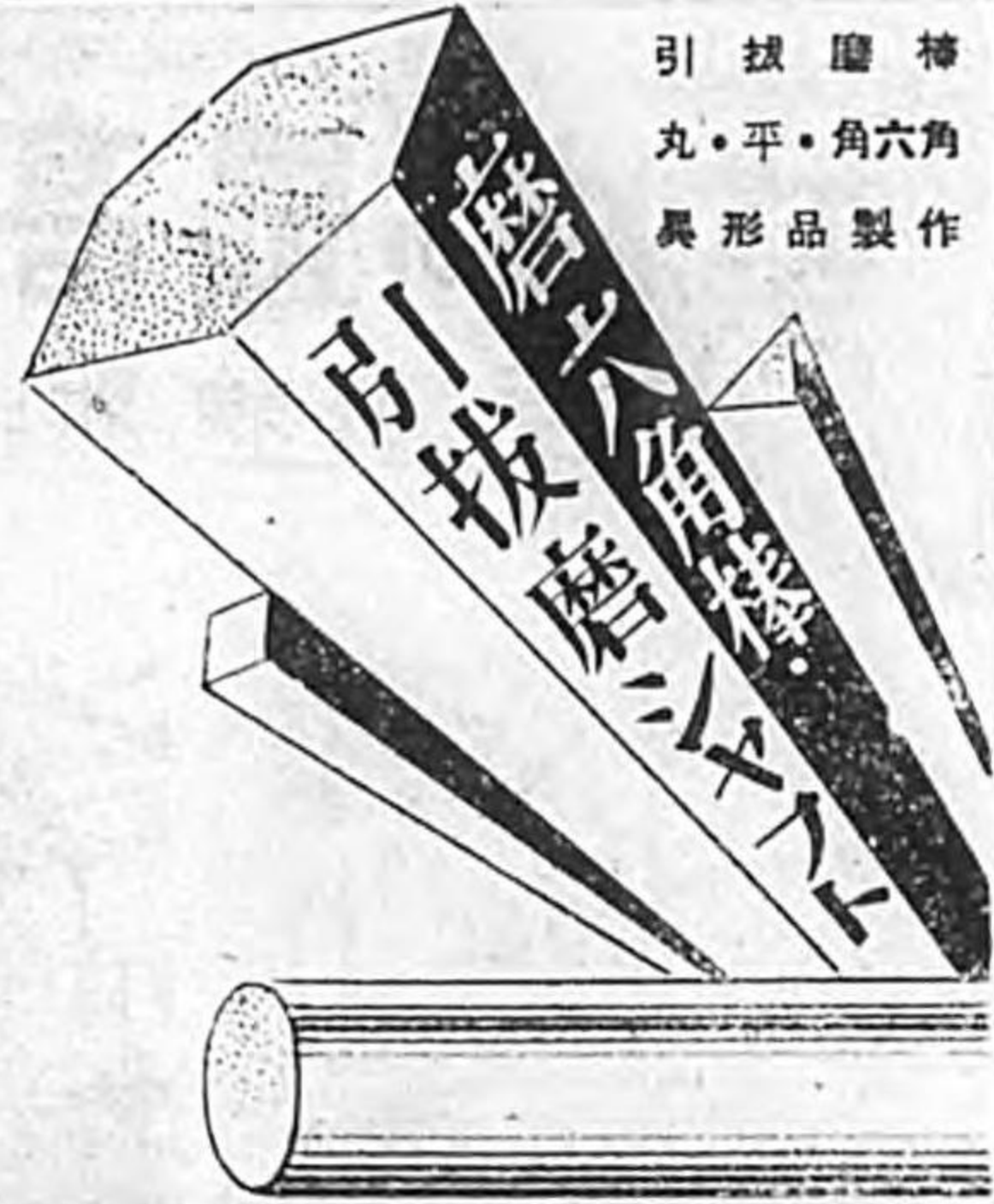
### 代理店 旭タイス工業所

東京市芝區田村町三丁目四番地・南櫻ビル・電話芝(43)一七五八番

中五八



引 拔 磨 棒  
丸・平・角六角  
異形品製作



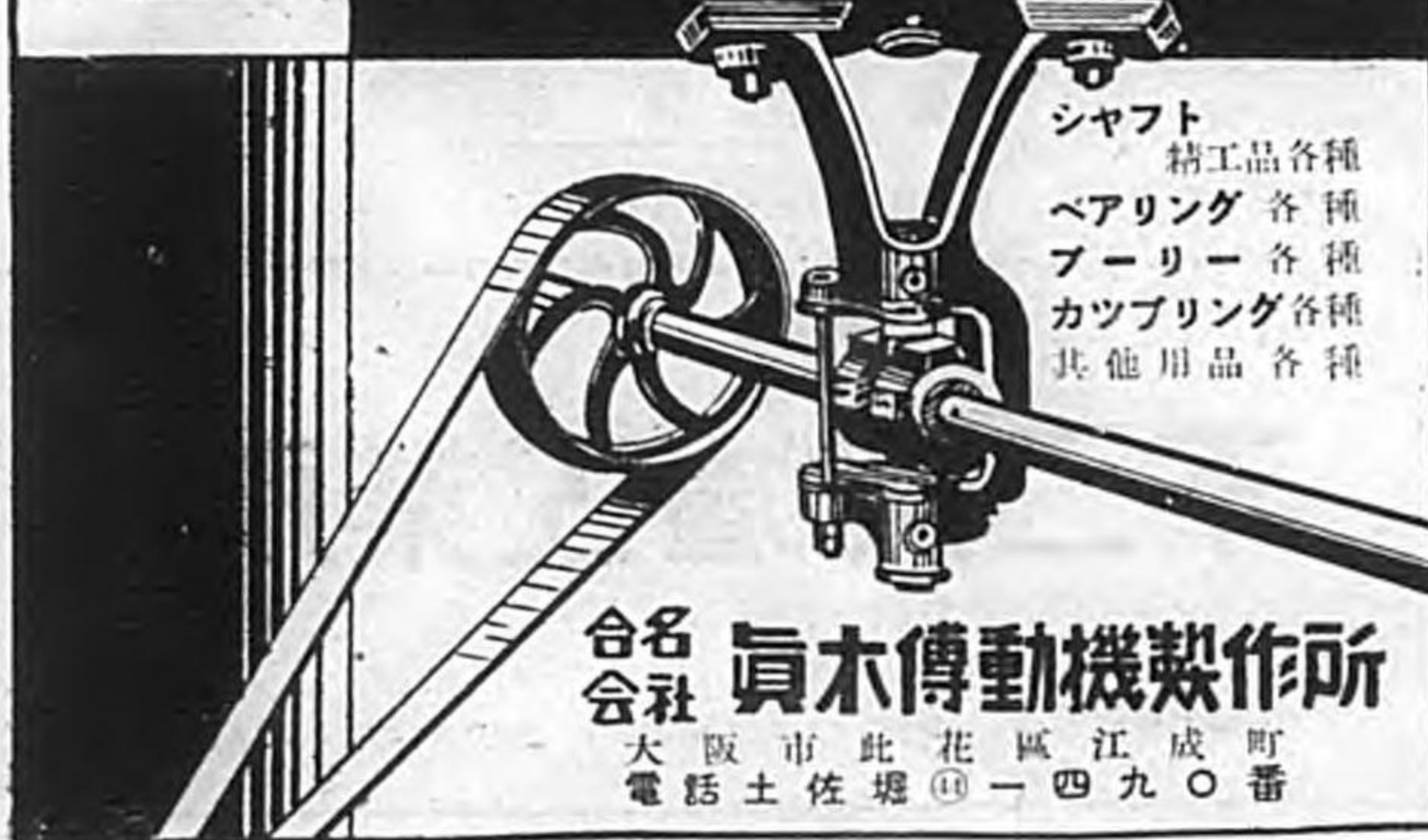
東海管棒製作所

大阪市浪速區木津川町三丁目十五番地  
電話 堀川 ④ 四五九五番



動力傳導裝置

中六一

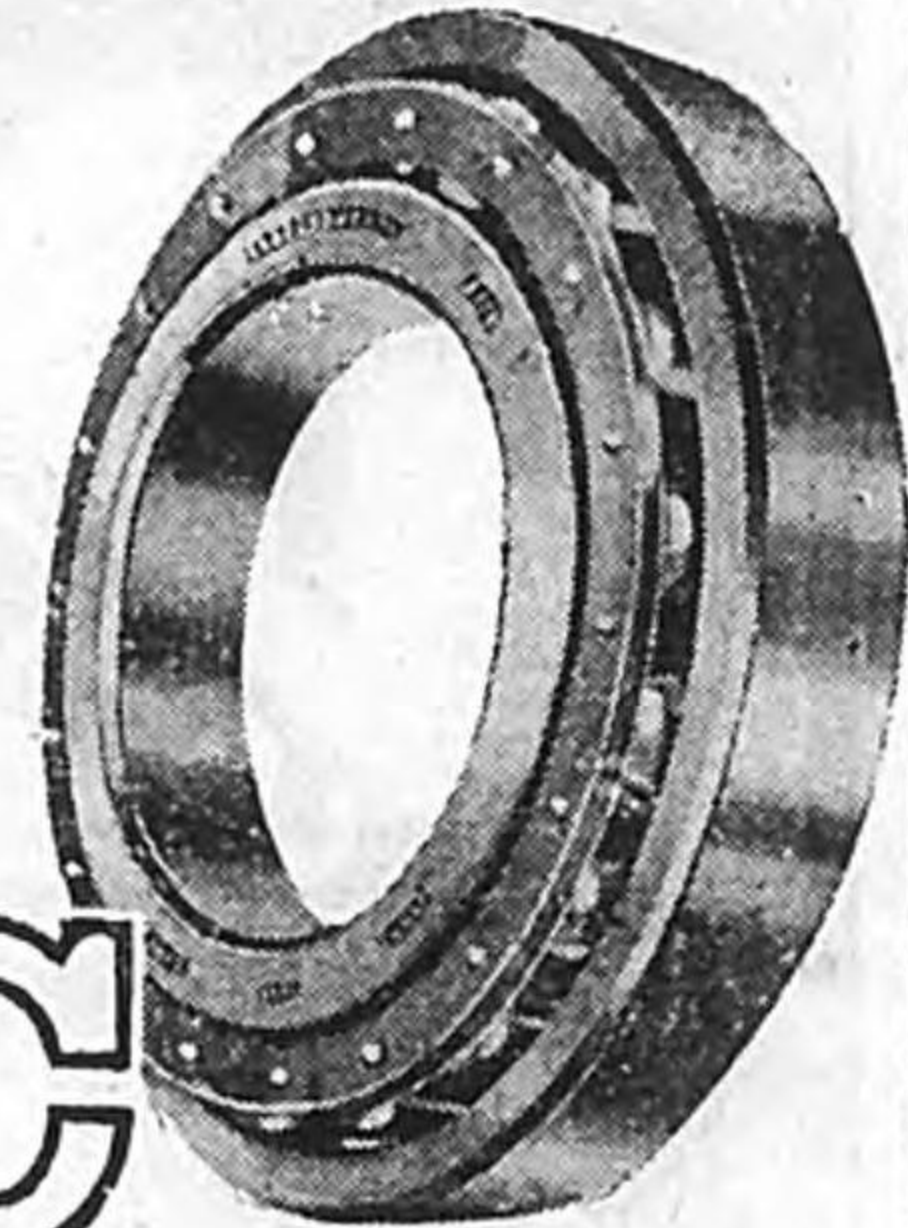


シャフト 精工品各種  
ベアリング 各種  
プーリー 各種  
カツプリング 各種  
其他用品 各種

合名 眞木傳動機製作所  
会社

大阪市此花區江成町  
電話土佐堀 ④ 一四九〇番

ローラーベアリング  
大型専門



HMC

大阪市旭區生江町五三八番地

大阪旋盤學校研究部

電話 堀川 4683 5543 6437 番

中六〇





發動機部分品  
機械工具一式  
株式會社

小林弘之介商店

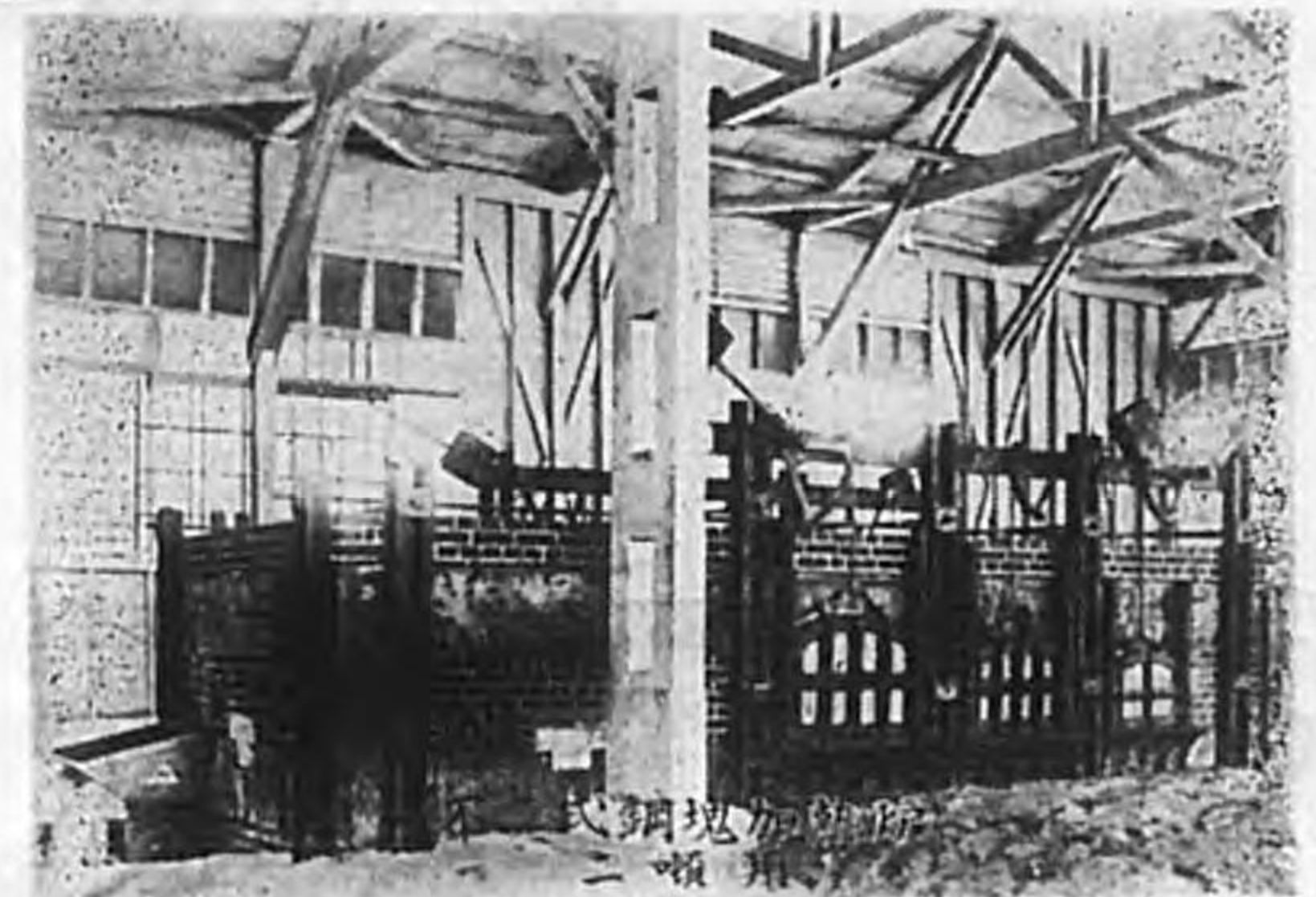
大阪營業所  
大阪市西區新町通三丁目二九番  
私書函大阪西局60番  
電話新町③3628番  
振替口座大阪8244番

岡山營業所  
岡山市下田町三八番地  
私書函岡山29番  
電話6245番・6246番  
振替口座岡山705番

中六三

# 築爐の最高權威

古イ經驗 新シイ技術



營業課目

自働粉炭燃焼機・石炭爐・重油バーナー……重油爐  
瓦斯バーナー 瓦斯爐・ロータリーブローワ……各種耐火煉瓦  
各種燃焼裝置……各種斷熱煉瓦・設計製作・工事請負

## 不二築爐工業所

所主 星加清松

大阪市東區京橋二丁目四八(販勝聯ビル) 電話東5253・5715番

中六二



# 交流アーク熔接万能時代

製	高	ス	ア	ブ	ジ	ク	ニ	マ	純	汎	軟	切
造	級	アル	ロ	ワイ	ユ	ウ	ツ	ケ	ニ	輪	鋼	鋼
品	造	ン	ミ	ト	ラ	イ	ケ	ル	ガ	ケ	用	用
目	造	レ	ニ	ブ	ル	ミ	ム	ル	ク	ル	鋼	鋼
	造	ス	エ	ズ	ン	ズ	ン	ン	鋼	鋼	鋼	鋼
	造	ム	ズ	ン	ズ	ン	ン	ン	鋼	鋼	鋼	鋼
	造	ム	ズ	ン	ズ	ン	ン	ン	鋼	鋼	鋼	鋼

## 特殊高級電極

# ARC アーク商會

東京市下谷區竹町一二ノ七  
電話下谷 〇〇四一・〇八三八番

中六四

ニ於ケル所得税、法人資本税、清涼飲料税、砂糖消費税、取引所税、出港税、印紙税又ハ臨時利得税ノ昭和十三年度以降ノ増徴ニ因ル増収額及利益配當税、公債及社債利子税、通行税、入場税、特別入場税、物品税、建

築税、遊興飲食税又ハ遊興税ノ創設ニ因ル収入額中勸令ノ定ムル金額ハ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該特別會計ヨリ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルベシ

附 則  
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 康徳六年度公布 滿洲國產業新法規

#### 國家總動員法中 改正ノ件

(康徳六年九月二十三日)  
勸令第二百三十一號

一 第二十七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三十五條ノ二 第二十七條ノ二ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者又ハ當該官吏ノ職務ノ執行ヲ阻障シタル者ハ六月以下ノ徒刑

法律ニ滿洲國國家總動員法中改正ノ件、職業登録令

五百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

附 則  
本法ハ康徳六年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

#### 職業登録令

(康徳六年九月二十三日)  
勸令第二百三十二號

第一條 國家總動員法第二十五條ノ規定ニ基ク技能者、労働者其ノ他ノ労働者ノ登録(以下登録ト稱ス)ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 登録ハ帝國領土内ニ居住シ年齢十四年以上五十五年未満ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者(以下登録者ト稱ス)ニ付之ヲ爲ス

一 國務總理大臣ノ定ムル職業ニ従事スル者

二 前號ノ職業ヲ罷メタル日ヨリ五年ヲ經過セザル者

三 國務總理大臣ノ定ムル大學學校又ハ特別教育施設ニ於テ

國務總理大臣ノ定ムル學科ヲ修メ其ノ大學、學校又ハ特別教育施設ヲ卒業シタル者

四 國務總理大臣ノ定ムル技術傳習施設ニ於テ所定ノ課程ヲ修了シタル者

五 國務總理大臣ノ定ムル試験ニ合格シタル者又ハ國務總理大臣ノ定ムル免許ヲ受ケタル者

六 前各號ノ外國國務總理大臣ノ定ムル者

第三條 前條ノ規定ハ左ニ掲グル者ニハ之ヲ適用セズ

一 外國ノ官署ニ使用セララルル者

二 軍人ニシテ現役中ノ者及職時又ハ事變ニ際シ召集中ノ者

三 軍醫

四 軍需徵發法ノ規定ニ依リ徵用中ノ者及國家總動員法第二十一條ノ規定ニ依リ政府ノ指定スル労働ニ従事スル者

五 國務總理大臣ノ指定スル官署又ハ會社ニ使用セラレ國務

三三二



法律—滿洲國職能登錄票記入心得

- 總理大臣ノ定ムル職掌ニ從事スル者
- 六 勅令各號ノ外國務總理大臣ノ定ムル者
- 第四條 登錄ハ左ニ掲グル事項ニ付之ヲ爲ス
  - 一 氏名
  - 二 男女ノ別
  - 三 出生ノ年月日
  - 四 民族ノ別又ハ國籍
  - 五 本籍
  - 六 居住ノ場所
  - 七 兵役關係
  - 八 學歷
  - 九 就業箇所ノ所在地、名稱及業務ノ種類
  - 十 職業及職業上ノ身分又ハ地位
  - 十一 第二條第一號ニ該當スル者ニ在リテハ其ノ業務ノ内容
  - 十二 第二條第一號又ハ第二號ニ該當スル者ニ在リテハ其ノ職業ノ經歷及技能程度
  - 十三 第二條第四號ニ該當スル者ニ在リテハ其ノ修了シタル
- 十四 課程ニ關スル事項
- 十五 精神又ハ身體ノ障礙ニ因リ勞務ニ阻ヘ難キ者ニ在リテハ其ノ狀況
- 十六 配偶者ノ有無及現ニ扶養スル者ノ數
- 十七 法令ニ依ル賞罰
- 十八 給料又ハ賞金ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ額
- 十九 勅令各號ノ外國務總理大臣ノ定ムル事項

職能登錄票記入心得

- 第八條 登錄官署ハ國務總理大臣ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ヲシテ要登錄者ニ就キ技能其ノ他ノ職掌能力ニ關シ検査ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第九條 本令ニ規定スルモノノ外登錄ニ關シ必要ナル事項ハ國務總理大臣之ヲ定ム
- 附 則
  - 本令ハ康徳六年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 一 一般ノ注意
  - (一) 使用主アルトキハ本人ト使用主共同シテ記入スルコト
  - (二) 縦書ノ各欄ニ限リ記入スルコト、横書ノ欄ハ記入シナイコト
  - (三) 各欄共其ノ記入心得ヲ熟讀シテ誤謬ヲ脱漏ノナイヤウニ記入スルコト
  - (四) 國語(滿語、蒙古語、日本語)ヲ記入スルコト
  - (五) 借書デ可呼ニ記入スルコト
  - (六) 屬又ハ背インキデ記入スルコト
- 一 氏名(第一欄)
  - 一 戶籍、戶口調査簿其ノ他ノ公簿上ノ氏名ヲ記入スルコト
  - 二 別名アル者ハ別名ヲ併記スルコト
  - 三 日本内地人ハ氏名ノ右側ニ片假名ヲ附ケルコト
  - 四 民族ノ別又ハ國籍(第二欄)
    - 一 滿人ハ漢、滿、蒙、回等ノ別ヲ記入スルコト
    - 二 日本人ハ内地、朝鮮、臺灣等ノ別ヲ記入スルコト
    - 三 其ノ他ノ者ハ其ノ國籍ヲ記入スルコト
  - 五 國籍ノ別又ハ國籍(第三欄)
    - 一 男女ノ別
    - 二 男女ノ別

出生ノ年月日(第四欄)

- 一 戶籍、戶口調査簿、其ノ他ノ公簿上ノ年月日ヲ記入スルコト
- 二 年號ヲ忘レナイコト
- 本 籍(第五欄)
  - 一 戶籍、戶口調査簿、其ノ他ノ公簿上ノ本籍ヲ番地又ハ門牌號數マデ詳シク記入スルコト
  - 二 居住ノ場所(第六欄)
    - 一 平常居住スル場所ヲ番地又ハ門牌號數マデ詳シク記入スルコト
- 兵役關係(第七欄)
  - 一 兵役關係ノ無イ者ハ「無」ト記入スルコト
  - 二 徵兵検査ノ済マナイ者ハ記入セズ空白トスルコト
  - 三 兵役關係ヲ免除サレタ者ハ「免除」ト記入スルコト
  - 四 其ノ他ノ者ハ左ニ依リ記入スルコト
    - 兵科(部)官等級(第七欄ノ1)
    - 一 陸軍ナラバ砲兵中尉、歩兵軍曹、砲兵一等兵ノ如ク記入スル

職 種(第七欄ノ2)

- 一 豫備役、後備役、第一補充兵役、第二補充兵役、第一國民兵役ノ區別ヲ豫「備」「後備」「一補」「二補」「一國」ノ如ク略記スルコト
- 徵集年又ハ任官年(第七欄ノ3)
  - 一 兵ハ徵集年ヲ、下士官以上ハ任官年ヲ例ヘバ大正一二年、昭和六年ノ如ク記入スルコト

初等學校(第八欄ノ1)

- 一 國民學校、尋常小學校等ノ卒業者ハ「卒業」中途退學者ハ「中途退學」ト記入スルコト
- 二 前記ノ學校ニ入學シナカッタ者テ私塾、家庭等ニ於テ讀書シタ者ハ「讀書」其ノ他ノ者ハ「讀書セズ」ト記入スルコト
- 所定ノ學校及學科(第八欄ノ2)
  - 一 所定ノ學校ノ内自分ノ卒業シタ最上級ノ學校ニ付イテ其ノ校名ト本科、別科、選科等ノ區別ガアレバ其ノ區別ト採掘冶金科、機械科、土木科等ノ所定學科名トヲ記入スルコト
  - 二 括弧内ニハ卒業ノ年ヲ記入スルコト
  - 第一例 哈爾濱工業大學(別科)

科(康徳六年卒)

- 第一例 濱松高等工業學校(本科) 機械科(昭和五年卒)
- 其ノ他ノ學校(第八欄ノ3)
  - 一 所定ノ學校以外ノ學校ノ内自分ノ卒業シタル最上級ノ學校ニ付イテ(2)ノ注意ニ依リテ記入スルコト
  - 第一例 新東京市立第二國民高等學校(康徳二年卒)
  - 第二例 福島縣立安積中學校(昭和八年卒)
- 所定ノ技術傳習施設(第九欄)
  - 一 所定ノ技術傳習施設ヲ修了シタ者ハ其ノ施設ノ名稱ト土木科、電氣科、機械科等ノ區別トヲ記入スルコト
  - 二 括弧内ニハ修了ノ年ヲ記入スルコト
  - 第一例 安東鐵工技術員養成所採掘科(康徳三年了)
  - 第二例 東京機械工業成所仕上科(昭和十三年了)
  - 所定ノ試験又ハ免許(第十欄)



法律—滿洲國職能登錄登記心得

- 一 所定ノ試験ニ合格シタ者又ハ所定ノ免許ヲ受ケタ者ハ其ノ試験又ハ免許ノ詳細ノ種別ヲ記入シ括弧内ニハ合格ノ年ヲ記入スルコト
- 二 免許ヲ受タタ者ハ更ニ其ノ登録番号ヲ記入スルコト
- 第一例 民生部醫學檢定試験 (露語三等) (康徳六年)
- 第二例 醫師免許 (限地) (康徳三年)
- 登録番号三五號
- 所定職業ノ經歷及技能程度 (第十一欄)
- 一 所定ノ職業ニ從事シ又ハ從事シタ者ハ現ニ從事シテキル所定ノ職業ト最近五年以内ニ從事シタ所定ノ職業ニ付イテ職業、技能程度、期間 (年月) 及就業箇所 (名稱) ヲ記入スルコト
- 二 同シ職業デモ就業箇所ガ違ハバ行ヲ改メテ記入スルコト
- 職業 (第十一欄ノ一)

三三四

ナイ者ハ最後ノ經歷ニ付イテハ龍メタ年月日ヲ併記スルコト

就業箇所 (第十一欄ノ四)

就業場 (勤務先又ハ自營ノ仕事)

第一例 (現在所定ノ職業ニ從事シテキル者)

職業名	技能程度	期	就業箇所 (名稱)
旋盤工	申告算定檢査	五年二月月	〇〇會社
旋盤工		二年三月月	△△會社
機械檢査工		二年	××工場
機械檢査工		康徳六、五、三	現在ノ就業箇所

第二例 (現在所定ノ職業ニ從事シテキナイ者)

職業名	技能程度	期	就業箇所 (名稱)
木型工	申告算定檢査	三年十月月	〇〇工場
木工		八年二月月	〇〇組

就業箇所 (第十二欄)

- 一 就業アル者ハ就業場ノ所在地ト名稱ト業務ノ種類トヲ記入スルコト
- 二 就業先ノ二ツ以上アル者ハ主ナ就業先ニ付イテ記入スルコト
- 三 就業先ノ一定シテキナイ者ハ「不定」ト記入スルコト

- 一 例ハハ形削工、彫削工、シエパー工、スロッター工等ハ「形削工」、鋸工金屬ハツリ工等ハ「仕上工」、氣力職、製鐵氣力職、板金工、氣力鋸等ハ「板金工」等ノ如ク所定ノ職業ノ名稱ヲ記入スルコト
  - 技能程度 (第十一欄ノ二)
  - 一 裏面ノ技能程度申告標準ニ定メテアル職業ニ付テハ其ノ等級ヲ「申告欄」ニ記入スルコト「算定」欄ト「檢査」欄ニハ記入セズ空白トスルコト
  - 二 一級ノ者デ特ニ優秀ナ技能ヲ有スル者ハ特ニ一級ト記入スルコト
  - 三 醫師又ハ獸醫師ニ在リテハ其ノ最モ特長トスル診療科名又ハ獸醫業務ノ種類ヲ記入スルコト
  - 期間 (第十一欄ノ三)
  - 一 就業ノ年月數ヲ記入スルコト
  - 二 現在所定ノ職業ニ從事スル者ハ現在ノ職業ニ從事シ始メタ年月日ヲ記入スルコト
  - 三 現在所定ノ職業ニ從事シテキ
- 「ガス機切」等ノ如ク「熔接」
- 「鋼物工ナラバ」「鋼型」「混砂」「鋼物ハツリ」等ノ如ク、旋盤工ナラバ「普通旋盤」「正面旋盤」「工具旋盤」等ノ如ク記入スルコト
- 醫師ナラバ「現ニ標榜スル専門科名ヲ」「内科及小兒科」「内科外科及産婦人科」等ノ如ク、獸醫師ナラバ「馬及牛ノ診療」「細菌檢査及血清製造」等ノ如ク記入スルコト
- 電氣事業ニ從事スル者ハ電壓又ハ出力ヲ記入スルコト
- 内容多數ニ亙ルトキハ主ナモノ三ツヲ記入スルコト
- 職業上ノ身分又ハ地位 (第十五欄)
- 一 自ラ業ヲ營ンデキル者デ業務上雇人ヲ使ツテキル者「雇主」雇人ヲ使ハナイデ家族ノ手助ヲ受ケテキル「雇主」雇人モ使ハナイシ又家族ノ手助ヲ受ケテキナイ者ハ「單獨」ト記入スルコト
  - 二 家族ノ業ヲ手助ヲシテキル者ハ「手助」ト記入スルコト
  - 三 業務上他ニ備ハレテキル者デ支配、指導、監督等ノ地位ニアル者ハ「支配人」「何課長」「何主任」「何組長」等ト記入シ其ノ他ノ者ハ記入シナイコト但シ「兄弟又ハ兄弟」「兄弟又ハ兄弟」ト記入スルコト
  - 給料又ハ賃金 (第十六欄)
  - 一 他ニ備ハレテキル者デ年俸、月給又ハ日給月給ヲ給料ヲ得テキル者ハ月額ヲ記入シ日額ノ二字ヲ抹消スルコト
  - 二 日給、時給、稼高又ハ調賃ニ依ツテ賃金ヲ得テキル者ハ最近三箇月ノ實収入ノ九十分ノ一ノ金額ヲ記入シ (實與ヲ除クコト) 月額ノ二字ヲ抹消スルコト
  - 配偶ノ有無 (第十七欄)
  - 一 配偶者ノ有ル者ハ「有」無イ者ハ「無」ト記入スルコト
  - 扶養者數 (第十八欄)
  - 一 扶養者ノアル者ハ「基」ノ人數ヲ記入スルコト
  - 二 扶養者ノ無イ者ハ「無」ト記入スルコト
  - 三 一時的ニ扶養シキル者ノ數ハ記入シナイコト
  - 精神又ハ身體ノ障礙ニ因リ業務ニ堪ヘ難キ者ニ在リテハ其ノ狀況 (第十九欄)
  - 一 「兩眼失明」「右腕ナシ」等ノ如ク記入スルコト
  - 法令ニ依ル賞罰 (第二十欄)
  - 一 法令ニ依ツテ定メラレタ褒賞又ハ刑罰ノ種類ニ記入スルコト
  - 申告ノ年月日 (欄外)
  - 一 申告ノ年月日ヲ記入スルコト
  - 使用主氏名 (欄外)
  - 一 支所、支店其ノ他之ニ準ズル箇所ニ於テハ其ノ支所、支店等ノ長又ハ管理入ノ氏名ヲ記入スルコト
  - 捺印
  - 一 氏名ト使用主氏名トノ下ニ夫夫ノ捺印ヲスルコト
  - 二 印鑑ノナイトキハ捺印ヲ捺捺シテモ宜シイ
- 法律—滿洲國職能登錄登記心得
- 三三五



重要特產物專管法

(康德六年十月十七日勅令第二百六十九號)

第一條 本法ハ重要特產物ノ價格及配給ヲ管理統制シ其ノ生産ノ助長及輸出ノ増進ヲ圖リ併セテ之ガ利用加工業ノ發達ニ資スルヲ以テ目的トス
第二條 本法ノ適用ヲ受クル重要特產物ノ種類ハ主管部大臣之ヲ定ム
第三條 重要特產物ノ鐵道輸送又ハ保管ヲ混合保管以外ノ方法ニ依リ滿洲鐵道株式會社ニ委託セントスル者ハ主管部大臣ノ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ許可ヲ受クベシ
第四條 重要特產物ノ混合保管ヲ滿洲鐵道株式會社ニ委託シタル者ハ運送ナク其ノ重要特產物ヲ滿洲特產專管公社ニ賣渡スベシ
第五條 主管部大臣必要アリト認ムルトキハ混合保管以外ノ方法

ニ依リ重要特產物ノ鐵道輸送若ハ保管ヲ滿洲鐵道株式會社ニ委託セントスル者又ハ鐵道輸送以外ノ方法ニ依リ重要特產物ヲ輸送セントシ若ハ輸送ヲ委託セントスル者ニ對シ其ノ重要特產物ヲ滿洲特產專管公社ニ賣渡スベキ旨ヲ命ズルコトヲ得
第六條 滿洲特產專管公社ハ主管部大臣ノ定ムル配給計畫ニ從ヒ重要特產物ヲ販賣スベシ
第七條 滿洲特產專管公社ハ重要特產物ノ收買價格及販賣價格ニ付主管部大臣ノ認可ヲ受クベシ
第八條 主管部大臣ハ滿洲特產專管公社又ハ重要特產物ノ輸出業者、加工業者若ハ國內配給業者其ノ他重要特產物ヲ占有スル者ニ對シ統制上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
第九條 主管部大臣必要アリト認ムルトキハ重要特產物ノ輸出業者、加工業者若ハ國內配給業者其ノ他重要特產物ヲ占有スル者ヲシテ其ノ業務ニ付報告ヲ爲サ

滿洲特產專管公社

(康德六年十月十七日勅令第二百七十號)

第一條 政府ハ重要特產物ノ價格及配給ヲ管理統制シ其ノ生産ノ助長及輸出ノ増進ヲ圖リ併セテ之ガ利用加工業ノ發達ニ資スル爲滿洲特產專管公社ヲ行立セシム
第二條 本公社ハ株式會社トシ左

ノ事業ヲ營ムコトヲ目的トス
一 重要特產物ノ收買及販賣
二 重要特產物加工業ニ對スル投資
三 重要特產物及其ノ加工品ノ品質改善、新規用途、販賣擴張等ニ關スル調査研究及助成
四 第一號ニ附帶スル事業
五 前各號ノ外主管部大臣ノ特ニ命ズル事業
本公社前項第二號及第四號ノ事業ヲ營マントストキハ主管部大臣ノ認可ヲ受クベシ
第三條 本公社ハ本店ヲ新京特別市ニ置ク
第四條 本公社ノ資本ノ額ハ三千萬圓トス
第五條 本公社ノ株式ハ記名方式トシ一株ノ金額ヲ百圓トス
第六條 本公社ノ株式ハ政府及主管部大臣ノ許可ヲ受ケタル者ノ外之ヲ所有スルコトヲ得ズ
第七條 本公社ニ理事長一人副理事長二人以内理事五人以上及監事三人以上ヲ置ク
法律—滿洲特產專管公社法

理事長、副理事長、理事及監事ハ政府之ヲ任命ス
理事長、副理事長、理事及監事ノ任期ハ四年トス
第八條 理事長ハ本公社ヲ代表シ其ノ業務ヲ綜理ス
理事長事故アルトキハ副理事長其ノ職務ヲ行フ
理事長及副理事長共ニ事故アルトキハ理事中ノ一人理事長ノ職務ヲ行フ
副理事長及理事ハ理事長ヲ補佐シ理事長ノ命ヲ承ケテ本公社ノ業務ヲ掌理ス
監事ハ本公社ノ業務ヲ監査ス
第九條 理事長、副理事長及理事ハ主管部大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ他ノ業務ニ從事スルトヲ得ズ
第十條 本公社ハ持込ミタル株金額ノ十倍迄社債ヲ募集スルコトヲ得
第十一條 本公社ハ毎營業年度ニ於テ利益ヲ生ジタルトキハ主管部大臣ノ定ムル所ニ依リ一定金額

シメ又ハ所部ノ官吏ヲシテ其ノ營業所、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ金庫、帳簿其ノ他諸般ノ文書物件ヲ検査シ若ハ關係人ヲ尋問セシムルコトヲ得
第十二條 本法ニ於テ主管部大臣ト稱スルハ產業部大臣及經濟部大臣ヲ謂フ
第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第三條又ハ第四條ノ規定ニ違反シタル者
二 第五條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザル者
罰則
第十四條 前項ニ於テ犯罪ニ係ル重要特產物ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收スルコトヲ得其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴スル事ヲ得
第十五條 重要特產物ノ輸出業者加工業者又ハ國內配給業者其ノ他重要特產物ヲ占有スル者第八條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
第十六條 資金トシテ積立ツベシ
第十七條 本公社ノ每營業年度ニ於ケル利益ノ配當ハ年四分五厘ヲ超ユルコトヲ得ズ
第十八條 本公社ノ每營業年度ニ於テ生ジタル損失ニシテ平衡資金、法定準備金其ノ他之ニ類スル積立金ヲ以テ填補スルコト能ハザルモノハ政府之ヲ補償ス
第十九條 本公社ハ營業年度毎ニ事業計畫ヲ定メ豫メ主管部大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ
第二十條 本公社ハ主管部大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ重要財產ヲ他人ニ讓渡シ又ハ之ヲ擔保ニ供スルコトヲ得ズ
第二十一條 定款ノ變更、利益金ノ處分、平衡資金ノ支出、社債ノ募集並ニ合併及解散ノ決議ハ主管部大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ
第二十二條 主管部大臣ハ本公社ノ業務ニ關シ監督上又ハ公益上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
附則
第二十一條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第二十二條 政府ハ設立委員ヲ命ジ本公社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム
第二十三條 設立委員ハ定款ヲ作



法律 滿洲國重要特產物專管法施行規則

成シ主管部大臣ノ認可ヲ受クベシ  
第二十四條 株式總數ノ引受アリタルトキハ設立委員ハ運送ナク株金ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ運送ナク創立總會ヲ召集スベシ  
前項ノ場合ニ於テハ會社法第八十七條第一項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得  
第二十五條 設立委員本公社ノ設立登記ヲ完了シタルトキハ運送ナク其ノ事務ヲ理事長ニ引渡スベシ

重要特產物專管

法施行規則

第一條 重要特產物專管法第二條ノ重要特產物ノ種類左ノ如シ  
黃大豆(白眉大豆、改良大豆及間島大豆ヲ除ク)

第二條 重要特產物專管法第三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケズシテ  
一 見本、標本、試驗、調査若ハ種子ノ用ニ供シ又ハ博覽會共進會、品評會等ニ出品スル重要特產物ニシテ官公署ノ證明アルモノノ運送輸送ヲ委託スルトキ  
二 軍用重要特產物ニシテ軍ノ證明アルモノノ運送輸送ヲ委託スルトキ  
三 小口扱、小荷物扱又ハ手荷物ノ方法ニ依リ運送輸送ヲ委託スルトキ  
四 重要特產物ヲ滿洲國特產物專管公社ニ賣渡スベキコトヲ條件トシ混合保管受寄託ニ非ザルニ於テ著者混合保管ノ方法ニ依リ輸送ノ委託ヲ爲ストキ  
第三條 重要特產物專管法第三條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ主管部大臣ニ提出スベシ

一 申請者ノ氏名又ハ名稱及住所  
二 荷受人ノ氏名又ハ名稱及住所  
三 種類別等級別數量  
四 運送輸送ハ又保管委託ノ理由  
五 仕出縣  
六 仕向縣  
七 鐵道輸送又ハ保管委託ノ時期  
重要特產物專管法第三條ノ許可ヲ受ケタル者前項ノ許可申請事項ヲ變更セントスルトキハ主管部大臣ノ許可ヲ受クベシ  
第四條 滿洲國特產物專管公社重要特產物專管法第七條ノ規定ニ依リ重要特產物ノ收買價格又ハ販賣價格ニ付認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ價格及價格算定ノ理由ヲ記載シタル認可申請書ヲ主管部大臣ニ提出スベシ  
第五條 滿洲國特產物專管公社ハ滿洲國鐵道株式會社混合保管受寄託所在地及其ノ他ノ主管部大臣ノ

命ズル場所ニ於テ重要特產物ノ收買價格ヲ公示スベシ  
第六條 滿洲國特產物專管公社重要特產物專管法第四條ノ規定ニ依リ重要特產物ヲ買受ケタルトキハ直ニ營該混合保管會證券面記載ノ日附當日ノ收買價格ヲ以テ計算シタル金額ヲ支拂フベシ  
前項ノ支拂ハ滿洲國鐵道株式會社ニ委任シ其ノ履行スル特約銀行宛代金支拂指圖證券ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得  
第七條 滿洲國特產物專管公社ハ重要特產物ニ付十月一日ヨリ翌年九月三十日ニ至ル年間事業計畫書ヲ九月十五日迄ニ、十月一日ニ始マル毎二月間ノ期間事業計畫書ヲ其ノ前月十五日迄ニ主管部大臣ニ提出スベシ  
前項ノ事業計畫書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ  
一 種類別及收買豫定數量  
二 種類別、仕向先別販賣豫定數量  
三 所要資金並ニ其ノ調達及償

還ノ方法

四 收支概算  
五 前各項ノ外主管大臣ノ特ニ命ジタル事項

第八條 滿洲國特產物專管公社ハ重要特產物ニ付四年十月一日ヨリ九月三十日ニ至ル年間事業報告書ヲ十一月三十日迄ニ、十月一日ニ始マル毎二月間ノ期間事業報告書ヲ其ノ翌月末日迄ニ主管部大臣ニ提出スベシ

前項ノ事業報告書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ  
一 種類別手持數量  
二 種類別、地域別收買數量  
三 種類別、仕向先別販賣數量  
四 所要資金並ニ其ノ調達及償還ノ方法  
五 收支計算  
六 前各號ノ外主管部大臣ノ特ニ命ジタル事項

第九條 本令ニ於テ主管部大臣ト稱スルハ產業部大臣及經濟部大臣ヲ謂フ  
附 則  
法律 滿洲國貿易統制法ニ基ク自動車シヤシノ輸入稅輕減ニ關スル件、勞働統制法

貿易統制法ニ基ク自動車シヤシノ輸入稅輕減ニ關スル件

本令ハ康徳六年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
貿易統制法第一條ノ規定ニ依リ關稅別表輸入稅率表第千五百五十九號ノ(甲)ノ内自動車シヤシノ輸入稅ハ康徳七年十二月三十一日迄之ヲ從價百分ノ十五ニ輕減ス  
附 則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勞働統制法

第一條 本法ハ勞働力ノ有效ナル使用ヲ圖ル爲勞働資源ヲ保護  
第五條 民生部大臣必要アリト認ムルトキハ統制協定ヲ變更又ハ

法律 滿洲國貿易統制法ニ基ク自動車シヤシノ輸入稅輕減ニ關スル件、勞働統制法

保シ勞働者ヲ保護輔導シ勞働力ノ供給ヲ調整スルヲ目的トス

第二條 勞働者ヲ使用又ハ供給スル事業者ニシテ民生部大臣ノ定ムルモノハ其ノ認可ヲ得テ勞働者ノ使用若ハ雇入又ハ勞働ノ對價若ハ條件ニ關シ統制協定ヲ締結スルコトヲ得  
第三條 統制協定ノ變更、廢止、加入及脫退ハ民生部大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第四條 第二條ノ事業者統制協定ヲ締結セザル場合ニ於テ民生部大臣必要アリト認ムルトキハ當該事業者ニ對シ勞働者ノ使用若ハ雇入又ハ勞働ノ對價若ハ條件ニ關シ統制協定ヲ締結スベキコトヲ命ズルコトヲ得  
前項ノ事業者前項ノ命令ニ從ハザルトキハ民生部大臣ハ前項ノ事項ニ付統制上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第五條 民生部大臣必要アリト認ムルトキハ統制協定ヲ變更又ハ

廢止スルコトヲ得  
第六條 民生部大臣必要アリト認ムルトキハ第二條ノ事業者ニシテ統制協定ニ加入セザル者ニ對シ統制協定ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第七條 民生部大臣ハ勞働者ヲ使用又ハ供給スル事業者ニ對シ勞働者ノ募集又ハ供給ニ關シ統制上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得  
第八條 民生部大臣ハ勞働者ヲ使用又ハ供給スル事業者ニ對シ勞働者ノ保護又ハ輔導ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第九條 民生部大臣ハ前二條ノ權限ノ一部ヲ省長又ハ新京特別市長ニ委任スルコトヲ得  
第十條 民生部大臣勞働者ヲ確保スル爲必要アリト認ムルトキハ第二條ノ事業者ニ對シ勞働者ノ保有ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ處分ニ因リ生ジタル損失ハ民生部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ補償スルコトヲ得



第十一條 公共ノ事業ヲ行フ爲メ  
急已ムヲ得ザル場合ハ滿洲勞工  
協會ハ該事業地ヲ管轄スル省  
長又ハ新京特別市長ニ對シ勞働  
者ノ募集ノ斡旋ヲ申請スルコト  
ヲ得

省長前項ノ申請ヲ受ケタルトキ  
ハ管内ノ市長、縣長又ハ旗長ニ  
對シ募集ニ應ゼシムベキ勞働者  
ノ員數ヲ適當テ募集ノ斡旋ヲ爲  
スベキコトヲ命ズルコトヲ得  
新京特別市長第一項ノ申請ヲ受  
ケタルトキ又ハ市長、縣長若ハ  
旗長前項ノ命令ヲ受ケタルトキ  
ハ民生部大臣ノ定ムル所ニ依リ  
管内ノ勞働者ニ對シ募集ニ應ズ  
ベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十二條 前條第一項ノ場合ニ於  
テ管内ノ勞働者ノ不足其ノ他ノ  
事由ニ因リ當該事業地ヲ管轄ス  
ル省長又ハ新京特別市長所屬ノ  
勞働者ヲシテ募集ニ應ゼシムル  
コト能ハザルトキハ民生部大臣  
ハ其ノ申請ニ依リ事業地外ノ省  
長又ハ新京特別市長ニ對シ募集

ニ應ゼシムベキ勞働者ノ員數ヲ  
適當テ募集ノ斡旋ヲ爲スベキコ  
トヲ命ズルコトヲ得  
前條第二項及第三項ノ規定ハ前  
項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 前二條ノ場合ニ於テ省  
長又ハ新京特別市長ハ滿洲勞工  
協會ニ對シ募集ニ應ジタル勞働  
者ノ員數其ノ他ノ待遇ニ關シ保  
護上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ  
得

第十四條 勞働者ノ供給ヲ業トセ  
ントスル者ハ其ノ主タル事務所  
ノ所在地ヲ管轄スル省長又ハ警  
察總監ノ許可ヲ受ケルベシ

第十五條 勞働市場ハ地方團體又  
ハ滿洲勞工協會ニ非ザレバ之ヲ  
管理又ハ經營スルコトヲ得ズ  
第十六條 外國勞働者ハ治安部大  
臣ノ指定スル外國ノ勞働者ニシ  
テ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ  
ニ非ザレバ入國スルコトヲ得ズ  
但シ條約ニ依リ入國ニ付旅券査  
證ヲ要セザル者ハ此ノ限ニ在ラ  
ズ

一 當該國政府ノ發給スル身分  
證明書ヲ有スル者  
二 治安部大臣ノ指定スル者ノ  
發給スル身分證明書ヲ有スル  
者

第十七條 前條第二號ノ身分證明  
書ヲ發給スル者ハ治安部大臣ノ  
定ムル所ニ依リ其ノ許可ヲ得テ  
手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第十八條 民生部大臣ノ定ムル勞  
働者ニ付テハ本人又ハ使用者ハ  
民生部大臣ノ定ムル所ニ依リ勞  
働者登録及勞働票ノ發給ヲ受ケ  
ルベシ

第十九條 民生部大臣ハ勞働者ヲ  
使用スル事業者ニ對シ民生部大  
臣ノ定ムル所ニ依リ定期又ハ臨  
時ニ勞働者ノ使用計畫書ヲ提出  
ヲ命ズルコトヲ得  
第二十條 民生部大臣ハ第二條ノ  
事業者ニ對シ民生部大臣ノ定ム  
ル所ニ依リ定期又ハ臨時ニ勞働  
者ニ關シ必要ナル事項ノ報告ヲ  
命ズルコトヲ得  
第二十一條 統制協定ニ違反シタ

ル者又ハ第四條第二項若ハ第六  
條ノ命令ニ違反シタル者ハ五千  
圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 第七條、第八條又ハ  
第十條ノ命令ニ違反シタル者ハ  
三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 左ノ各號ノ一ニ該當  
スル者ハ三百圓以下ノ罰金、拘  
留又ハ科料ニ處ス  
一 第十四條ノ許可ヲ受ケズシ  
テ勞働者ノ供給ヲ業ト爲シタル  
者  
二 第十五條ノ規定ニ違反シタ  
ル者  
三 第十九條ノ規定ニ違反シ使  
用計畫書ヲ提出セズ又ハ虛偽  
ノ使用計畫書ヲ提出シタル者  
四 第二十條ノ規定ニ違反シ必  
要ナル事項ノ報告ヲ爲サズ又  
ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者

第二十四條 前三條ノ規定ヲ適用  
ニ付テハ慶應五年勅令第二百二  
十五號行政法規ノ罰則適用ニ關  
スル件ニ依ル

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ  
定ム  
本法施行ノ際現ニ勞働者ノ供給ヲ  
業トスル者本法施行ノ日ヨリ一月  
以内ニ其ノ主タル事務所ノ所在地  
ヲ管轄スル省長又ハ警察總監ニ届  
出タルトキハ本法ニ依ル許可ヲ受  
ケタルモノト看做ス

勞働統制法施行  
規則

（民國二十六年一月三十日  
治安部令第三號）

第一條 勞働統制法第二條ニ於テ  
勞働者ヲ使用スル事業者ト稱ス  
ルハ林業、鑛業、工業、交通業  
ノ管理者又ハ經營者ヲ謂フ  
勞働統制法第二條ニ於テ勞働者  
ヲ供給スル事業者ト稱スルハ前  
項ニ掲グル事業者ニ勞働者ヲ供  
給スル事業者ヲ謂フ  
第二條 勞働統制法第二條ニ依リ  
勞働者ヲ使用又ハ供給スル事業

者統制協定ヲ締結セントスルト  
キハ該協定ニ加入セントスル  
者ノ中ヨリ代表者ト爲ルベキ者  
一人ヲ選定シ左ノ事項ヲ具シ省  
長又ハ新京特別市長ヲ經テ民生  
部大臣ニ認可ヲ申請スベシ  
一 協定加入者ノ代表者ノ氏名  
及住所  
二 協定加入者一覽表  
三 協定事項  
前項第二號ニ掲グル加入者一覽  
表ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ  
一 加入者ノ氏名及住所（法人  
ニ在リテハ其ノ名稱、主たる  
事務所ノ所在地及代表者名又  
ハ代理者名）  
二 加入者ノ工場又ハ事業場ノ  
位置  
三 加入者ノ事業ノ種類  
四 加入者ノ使用勞働者數

第三條 統制協定ノ全部又ハ一部  
ヲ變更セントスルトキハ代表者  
ハ加入者全員ノ同意ヲ得タル後  
其ノ事項ニ付理由ヲ附シ省長又  
ハ新京特別市長ヲ經テ民生部大

臣ニ認可ヲ申請スベシ  
統制協定ヲ廢止セントスルトキ  
又ハ統制協定ニ加入若ハ之ヨリ  
脫退セントスル者アルトキ亦前  
項ニ同ジ  
第四條 勞働統制法第四條第一項  
ノ規定ニ依リ統制協定ノ締結ヲ  
命ゼラレタル者ハ命令ヲ受ケタ  
ル日ヨリ一月以内ニ第二條ニ定  
ムル事項ヲ具シ省長又ハ新京特  
別市長ヲ經テ民生部大臣ニ統制  
協定ノ認可ヲ申請スベシ

第五條 統制協定ノ加入者ハ其ノ  
管理又ハ經營スル工場又ハ事業  
場ノ位置、事業ノ種類又ハ本人  
ノ事務所ニ付異動アリタルトキ  
ハ異動アリタル日ヨリ七日以内  
ニ其ノ代表者ニ届出ツベシ

第六條 代表者ハ第一號様式ニ依  
ル加入者名稱ヲ作成スベシ  
代表者前條ノ届出ヲ受ケタルト  
キハ其都度加入者名稱ノ訂正ヲ  
爲スベシ  
第七條 勞働統制法第六條ニ依リ  
統制協定ニ從フベキコトヲ命ゼ

ラレタル者アルトキハ代表者ハ  
之ヲ加入者名稱ニ記入シ協定ニ  
從フベキコトヲ命ゼラレタル旨  
ヲ附記スベシ  
第五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之  
ヲ準用ス  
第八條 勞働者ヲ使用又ハ供給ス  
ル事業者勞働者ヲ募集セントス  
ルトキハ第二號様式ニ依リ申請  
書ヲ募集地ヲ管轄スル市長、縣  
長又ハ旗長ヲ經テ省長ニ提出シ  
其ノ認可ヲ受ケルベシ募集地外  
京特別市内ニ在ルトキハ新京特  
別市長ノ認可ヲ受ケルベシ認可ヲ  
受ケタル事項ヲ變更セントスル  
トキ亦同ジ

第九條 省長又ハ新京特別市長前  
條ノ認可ヲ爲シタルトキハ第三  
號様式ニ依リ募集認可證ヲ交付  
スベシ  
第十條 募集從事者タラントスル  
者ハ左ノ事項ヲ具シ寫眞二葉  
（プロニ半紙）ヲ添ヘ本人ノ住  
所ヲ管轄スル警察總監、警察廳  
長、縣長又ハ旗長ノ許可ヲ受ク

三三一



法律一滿洲國勞務統制法施行規則

- 一 氏名及生年月日
- 二 出生地又ハ本籍地及住所
- 三 職業及經歷
- 四 勞働者ヲ使用又ハ供給スル事業者トノ關係

第十一條 警察總監、警察廳長、縣長又ハ旗長前條ノ許可ヲ爲シタルトキハ第四號様式ニ依ル募集從事者許可證ヲ交付スベシ

第十二條 警察總監、警察廳長、縣長又ハ旗長ハ募集從事者ニシテ不都合ノ行爲アリ又ハ不適當ト認メタルトキハ許可ヲ取消スコトヲ得

第十三條 勞働者ノ募集ニ從事スルトキ第八條ノ認可ヲ受ケタル者ニ在リテハ募集認可證募集從事者ニ在リテハ募集認可證又ハ其ノ罰及募集從事者許可證ヲ携帶スルニ非ザレバ募集ニ從事スルコトヲ得ズ

第十四條 募集ノ認可ヲ受ケタル者其ノ募集ヲ終リタルトキハ募集地ヲ管轄スル市長、廳長又ハ

旗長ヲ經テ運送ナク左ノ事項ヲ省長ニ届出ヅベシ募集地ガ新京特別市内ニ在ルトキハ新京特別市長ニ届出ヅベシ

- 一 募集勞働者實數
- 二 募集ノ開始及終了ノ年月日
- 三 募集地及就勞地又ハ供給先

第十五條 勞働者ヲ使用又ハ供給スル事業者國外ニ於テ勞働者ヲ募集セントスルトキハ第二號様式ニ依ル申請書ヲ民生部大臣ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ

第十六條 勞務統制法第十條第二項ニ規定スル補償ハ補償審査委員會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第十七條 補償審査委員會ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第十七條 滿洲勞工協會勞務統制法第十一條ニ依リ勞働者募集ノ幹旋ヲ申請セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ該事業地ヲ管轄スル省長又ハ新京特別市長ニ申請スベシ

- 一 勞働者ヲ使用スル事業者ノ氏名及住所(法人ニ在リテハ

其ノ名稱及代表者又ハ代理者名)

- 二 募集員數
- 三 募集勞働者ノ就勞スベキ作業ノ種類
- 四 就勞場ノ名稱及位置
- 五 就勞ノ日時及期間
- 六 勞働條件

第十八條 新京特別市長、市長、縣長又ハ旗長勞務統制法第十一條ニ依リ管内ノ勞働者ニ對シ募集ニ應ズベキコトヲ命ゼントスルトキハ左ノ各號ニ掲グル者ヲ除キ之ヲ爲スベシ

- 一 年齢十三歳以下ノ者
- 二 不具廢疾者
- 三 現ニ服役ニ從事スル者

第十九條 勞働者ノ供給ヲ業トセントスル者左ノ事項ヲ具シ其ノ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル省長又ハ警察總監ニ許可ヲ申請スベシ

- 一 氏名及生年月日(法人ニ在リテハ其ノ名稱及代表者名又ハ代理者名)

三三二

- 二 出生地又ハ本籍地及住所
  - 三 經歷
  - 四 事務所所在地
- 前項第四號ノ事項ヲ變更シタルトキハ當該地ヲ管轄スル省長又ハ警察總監ニ届出ヅベシ
- 第二十條 省長又ハ警察總監前條第一項ノ許可ヲ爲シタルトキハ募集許可證ヲ交付スベシ

第二十一條 地方團體又ハ滿洲勞工協會勞働市場ヲ管理又ハ經營セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ省長又ハ新京特別市長ヲ經テ民生部大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更又ハ廢止セントスルトキ亦同シ

- 一 位置及名稱
- 二 施設
- 三 事業經營ニ關スル規定
- 四 經費
- 五 其ノ他必要ナル事項

第二十二條 勞務統制法第十六條第二號ノ治安部大臣ノ指定スル者ハ外國勞働者ニ對シ其ノ入國前第五號様式ニ依ル身分證明書ヲ發給スベシ

ヲ發給スベシ

前項ノ身分證明書ニハ本人ノ寫眞ヲ貼附シ之ニ捺印ヲ爲スベシ但シ已ムヲ得ザル事由アルトキハ右捺印指紋ヲ以テ寫眞ノ貼附ニ代フルコトヲ得

第二十三條 治安部大臣ノ指定スル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ身分證明書ヲ發給スルコトヲ得ズ

- 一 身元確實ナラザル者
- 二 身體強健ナラザル者
- 三 就勞ノ見込ナキ者
- 四 入國又ハ本邦居住ヲ禁止セラレタルコトアル者

第二十四條 外國勞働者ハ入國ノ際治安部大臣ノ指定スル者ノ發給スル身分證明書ヲ當該警察官吏ニ提示シ入國許可ノ捺印ヲ受クベシ

第二十五條 外國勞働者身分證明書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ第六號様式ニ依ル申請書ヲ治安部大臣ノ指定スル者ニ提出シ其ノ再發給ヲ受クベシ但シ第三十

七條ノ規定ニ依リ滿洲勞工協會ノ捺印ヲ受ケタル身分證明書ニ付テハ第四十一條ノ規定ニ依ル

第二十六條 治安部大臣ノ指定スル者前條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ調査ノ上運送ナク身分證明書ヲ再發給ヲ爲スベシ

第二十七條 治安部大臣ノ指定スル者ハ其ノ取扱ヒタル外國勞働者ニ對シテ左ノ義務ヲ負フモノトス

- 一 入國及歸還ノ周旋
- 二 官廳ノ命令ニ依ル送還
- 三 病災救助

第二十八條 警察總監、警察廳長、縣長、旗長又ハ警察隊長ハ外國勞働者ニシテ安寧秩序ヲ紊リ又ハ風俗ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ退去ヲ命ズルコトヲ得

第二十九條 治安部大臣ハ其ノ指定スル者ノ行爲ニシテ本令又ハ本令ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ其ノ指定ヲ取消スコトヲ得

治安部大臣ノ指定スル者前項ノ

規定ニ依リ其ノ指定ヲ取消サレタル場合ト雖モ既ニ入國シタル外國勞働者ニ對スル義務ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十條 治安部大臣ノ指定ヲ受ケタル者ニ非ザレバ外國勞働者ニ對シ身分證明書ヲ發給スルコトヲ得ズ

第三十一條 常時三十人以上ノ勞働者ヲ使用スル森林伐採業、工場、礦山、土木建築業及交通通信業ノ管理者及ハ經營者ハ其ノ使用スル勞働者(日傭勞働者ヲ除ク)ノ食糧備ノ日ヨリ十日以内ニ勞働者登錄ヲ受ケ勞働票ノ發給ヲ受クベシ

第三十二條 左ノ各號ニ掲グル勞働者ハ前條ノ規定ニ該當スル勞働者ヲ除クノ外就勞ノ日ヨリ七日以内ニ勞働者登錄ヲ受ケ勞働票ノ發給ヲ受クベシ

- 一 伐木夫
- 二 炭燒夫
- 三 採金工
- 四 採礦勞働者
- 五 瓦、煉瓦、土管製造工
- 六 陶磁器製造工
- 七 硝子、硝子製品製造工
- 八 木型工
- 九 磁器製品製造工
- 十 鑄工
- 十一 鍛工
- 十二 機械工
- 十三 銅工
- 十四 機械器具裝置工
- 十五 電機用品製造工
- 十六 電工
- 十七 發火物製造工
- 十八 油房工
- 十九 船大工
- 二十 大工
- 二十一 左官
- 二十二 石工
- 二十三 屋根職
- 二十四 高職
- 二十五 靴製造工

法律一滿洲國勞務統制法施行規則



- 二十六 製革工
- 二十七 皮革製造工
- 二十八 鑿工
- 二十九 製糖工及製粉工
- 三十 製材工
- 三十一 合板製造工
- 三十二 土石採取労働者
- 三十三 鑛工
- 三十四 乘用馬車夫（自家用ヲ除ク）
- 三十五 人力車夫（自家用ヲ除ク）
- 三十六 荷馬車夫
- 三十七 船夫
- 三十八 日傭労働者
- 三十九 労働者登録及労働票ノ發給ハ滿洲勞工協會ヲシテ之ヲ行ハシム
- 四十 前項ノ事務ニ要スル經費ハ滿洲勞工協會ノ負擔トス
- 四十一 滿洲勞工協會ハ民生部大臣ノ許可ヲ受テ労働票ノ發給ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得
- 四十二 労働者登録及労働票ノ發給ヲ受ケンストスル者ハ第七

- 一 出生地又ハ本籍地
- 二 現住所
- 三 性別
- 四 氏名
- 五 年齢
- 六 民族別
- 七 産業中分類
- 八 職業小分類
- 九 職能
- 十 現職
- 十一 労働者（日傭労働者ヲ除ク）ノ雇主ノ氏名及事業ノ種類
- 十二 写真（已ムヲ得ザル場合ハ右食指指紋）
- 十三 十本指紋
- 十四 前各號ニ掲グル事項ノ外特ニ指定スル事項
- 十五 前項第十三號ノ實施ニ關シテハ

別ニ之ヲ定ム

第三十六條 滿洲勞工協會前條ノ規定ニ依リ労働者登録ヲ爲シタルトキハ直ニ第八號様式ニ依ル労働票ヲ發給スベシ

労働票ニハ本人ノ写真ヲ貼付シ之ニ製印ヲ爲スベシ但シ已ムヲ得ザル事由アルトキハ右食指指紋ヲ以テ写真ノ貼附ニ代フルコトヲ得

第三十七條 第三十一條又ハ第三十二條ニ規定スル労働者ガ外國労働者ナルトキハ滿洲勞工協會ハ前條ノ規定ニ拘ハラズ該外國労働者ノ有スル身分證明書ニ檢印ヲ爲シ労働票ノ發給ニ代フルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ檢印ヲ受ケタル身分證明書ハ之ヲ労働票トシテ

第三十八條 労働票ハ當時之ヲ携帶シ他人ニ貸與又ハ譲渡スルコトヲ得ス

第三十九條 労働票ノ有効期間ハ労働票發給ノ日ヨリ滿三年トス

但シ一年ヲ經過スル毎ニ檢印ヲ受クルニ非ザレバ當該労働票ハ之ヲ無効トス

第四十條 滿洲勞工協會ハ民生部大臣ノ許可ヲ受ケ前條ニ規定スル労働票ノ檢印ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第四十一條 労働票ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ運部ナク第九號様式ニ依ル申請書ヲ滿洲勞工協會ニ提出シ労働票ノ再發給ヲ受ケベシ毀損ノ場合ニ在リテハ當該労働票ヲ申請書ニ添付スルコトヲ要ス

第四十二條 滿洲勞工協會前條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ調査ノ上運部ナク労働票ノ再發給ヲ爲スベシ

第四十三條 労働票ノ發給ヲ受ケタル者登録事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ運部ナク其ノ旨ヲ滿洲勞工協會ニ提出スベシ

滿洲勞工協會前項ノ提出アリタルトキハ登録事項及労働票ノ修正ヲ爲スベシ

- 第四十四條 労働票ハ左ノ各號ノ失フ
- 一 毀損又ハ亡失セラレタルトキ
- 二 他人ニ貸與又ハ譲渡セラレタルトキ
- 三 有効期間満了シタルトキ
- 四 登録申請ニ付不正ノ事實アリタルトキ
- 五 偽造變造セラレタルトキ
- 第四十五條 労働者國外ニ出デントスルトキハ労働票ヲ滿洲勞工協會ニ返納スベシ但シ關東州ニ出デントスル場合又ハ雇主ノ證明アリ且其ノ國外滞在期間三月以内ノ場合ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ
- 第四十六條 民生部大臣ノ指定スル労働票類似ノ證票ヲ所持スル労働者ハ滿洲勞工協會ニ提出テ労働者登録ヲ受ケ該證票ニ檢印ヲ受クベシ

労働票類似ノ證票ハ之ヲ滿洲勞工協會ノ發給シタル労働票トシテ

第四十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

- 一 第五條又ハ第六條ノ規定ニ違反シタル者
- 二 第八條又ハ第十五條ノ認可ヲ受ケズシテ労働者ヲ募集シタル者
- 三 第十條ノ許可ヲ受ケズシテ労働者ヲ募集ニ從事シタル者
- 四 第十三條又ハ第十四條ノ規定ニ違反シタル者
- 第四十八條 第三十條ノ規定ニ違反シタル者ハ二月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第四十九條 第三十一條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ二月以下ノ禁錮、百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス
- 第五十條 第三十二條ノ規定ニ違反シタル労働者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附 則

第五十一條 本令ハ勞務統制法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十二條 康德二年民政部令第一號外國労働者取締規則及康德五年民生部令第六十三號暫行労働票發給規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行前暫行労働票發給規則ニ依リ爲シタル労働者登録及労働票ノ發給ハ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノトシテ

第五十三條 本令中労働者登録及労働票ノ發給ニ關スル規定ハ當分ノ間別表ニ掲グル地域ニ限り之ヲ施行ス（別表省略）

勞務統制法施行ニ關スル件

（民生部令第二二號）  
（治安部令第五號）

一 勞務統制法ニ依ル統制協定ニハ滿洲勞工協會支部長又ハ出張所長ヲ加入セシメタル上當該協定代表者ニ充ツル如ク措置スベシ但シ未ダ滿洲勞工協會支部長又ハ出張所ノ設置ヲ見ザル地ニ在リテハ適當ト認ムル代表者ヲ以テ之ニ充ツル如ク措置スベシ

二 統制協定ノ締結、變更若ハ廢止ノ認可申請アリタルトキハ省長又ハ新京特別市長ハ協定事項ニ付其ノ意見ヲ具申スベシ

三 統制協定加入者ノ異動ニ關スル事項ハ代表者ヲシテ提出シメ毎月一回十日迄ニ前月分ノ異動ヲ取覽メ民生部大臣宛報告スベシ

四 省長又ハ新京特別市長ハ労働者ノ募集ヲ認可シタルトキハ労働統制法施行規則第八條ニ依ル認可事項ヲ其ノ都府民生部大臣宛報告スベシ

五 労働者募集認可申請書ハ滿洲勞工協會出張所ノ設置シアル市縣又ハ旗ニ在リテハ該出張所ヲ經テ之ヲ市長、縣長又ハ旗長ニ提出セシムル如ク轉令スベシ



新設特別市ニ在リテハ滿洲勞工協會支部ヲ提出セシムベシ  
六 労働者募集ノ認可申請ヲ受ケタル省長又ハ新設特別市長ハ之ヲ認可シ得スニ當リテハ該メ滿洲勞工協會支部長ニ協議スベシ尙新設特別市長ニ在リテハ該メ警察總監ニモ協議シ置クコトヲ要ス

省長ハ警察總監、縣長又ハ旗長ヲシテ滿洲勞工協會出張所長ニ協議セシムベシ  
労働者供給者ノ許可ニ付テハ滿洲勞工協會ヲ經テ許可申請書ヲ提出セシムベシ  
此ノ場合亦前項ヲ準用スルモノトス

所ノ設置シアル市、縣又ハ旗ニ在リテハ該出張所ヲ經テ市長、縣長又ハ旗長ニ提出セシムル如ク轉令スベシ  
新設特別市ニ在リテハ滿洲勞工協會支部ヲ經テ提出セシムベシ  
前各項ノ提出ヲ受理シタル省長又ハ新設特別市長ハ提出事項ヲ其ノ都府民生部大臣宛報告スベシ

康德五年勅令第三百四十號學校卒業者ノ使用制限ニ關スル件施行ニ關スル件

(康德六年四月二十八日) 陸軍部令第十一號

省長労働者募集ノ認可事務ヲ市長、縣長又ハ旗長ニ委任シタルトキハ労働者募集認可申請書ヲ受理シタル警察市長、縣長又ハ旗長ヲシテ認可事務ヲ爲スニ際シ滿洲勞工協會出張所長ニ協議セシムベシ  
尙市長ニ在リテハ所在地ノ警察總監ニ豫メ協議セシムルコトヲ要ス

但シ省長又ハ其ノ事務ノ一部ヲ警察總監、縣長又ハ旗長ニ委任スルコトヲ得  
新設特別市ニ在リテハ前各項ノ許可ニ當リテハ滿洲勞工協會支部ヲ經テ警察總監ニ許可申請書ヲ提出セシムベシ此ノ場合警察總監ハ該メ滿洲勞工協會支部長ニ協議スルニ要ス

九 省長ハ労働市場ヲ有スル地域ニ在リテハ一定地域ヲ指定シ其ノ地域内ニ於ケル日傭労働者外ニ於ケル雇入及集合ヲ禁止スベシ但シ新設特別市ニ在リテハ警察總監ハ日傭労働者ノ労働市場外ニ於ケル雇入及集合ヲ禁止スベシ  
労働市場ト稱スルハ日傭労働者ノ求職ヲ目的トシテ集合スル一定ノ場所及施設ヲ謂フ

七 募集従事者ノ許可ニ付テハ滿洲勞工協會出張所ノ設置シアル市、縣又ハ旗ニ在リテハ轉令シテ該出張所ニ經テ警察總監、縣長又ハ旗長ニ許可申請書ヲ提出セシムベシ之ガ許可ニ當リテハ

第一項及第二項ノ場合警察總監縣長又ハ旗長ニ轉令シテ其ノ事務ヲ下級警察官署長ニ委任セシムルコトヲ得第三項ノ場合警察總監ハ其ノ事務ヲ下級警察官署長ニ委任スルコトヲ得

第一條 康德五年勅令第三百四十號學校卒業者ノ使用制限ニ關スル件(以下勅令ト稱ス)第一條ノ認可ヲ受ケントスル者ハ三月ニ於テ卒業スル者ノ使用ニ付テハ前年五月末日迄ニ十二月ニ於テ卒業スル者ノ使用ニ付テハ其ノ年ノ五月末日迄ニ第一號ニ依リ産業部大臣ニ申請スベシ

第二條 勅令第一條ノ認可ノ申請ヲ申請セシムルコトアルベシ  
第三條 勅令第一條ノ認可ノ申請ハ工場、事業場又ハ事務所別ニ

第四條 勅令第一條ノ認可ヲ受ケタル者卒業後ノ使用シ又ハ使用セザルニ至リタルトキハ該勅令ノ様式第二號ニ依リ産業部大臣ニ報告スベシ

附 則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(様式省略)

學工學部第四部類ヲ含ム  
(六) 應用化學科(工業化學科及化學工業科及電氣化學科ヲ含ム)  
(七) 探礦冶金科(鑛山及冶金學科、探礦學科、冶金學科、金屬工業科、應用金屬學科及北海道帝國大學學工學部第二部類甲ヲ含ム)

ルモノヲ含ム  
(一) 機械工學科(精密機械科及鑛山機械科ヲ含ム)  
(二) 造船工學科  
(三) 航空工學科  
(四) 電氣工學科  
(五) 應用化學科(電氣化學科ヲ含ム)  
(六) 探礦冶金科(探礦學科、鑛山工學科、鑛山學科、冶金學科、冶金工學科及探礦工學科ヲ含ム)

度ヲ入學資格トスルモノニシテ修業年限ヲ三年(夜間授業ニアリテハ四年)以上トスルモノ  
(八) 前二號ト同等以上ノモノ  
(九) 日本國ノ工業學校規程第十條ノ二ノ規定ニ依リ設ケタル第二部及之ニ準ズルモノ  
(一) 機械科(計器科、原動機科、探礦機械科、電氣機械科、機械電氣科、化學機械科、木型科、鑛工科、鑛工科其ノ他機械科ニ準ズベキ學科ヲ含ム)

康德六年四月二十八日産業部佈告第二〇號  
康德五年勅令第三百四十號學校卒業者使用制限ニ關スル件第一條ノ學校ヲ左ノ通指定ス  
日本國ノ大學

(八) 化學學科  
(九) 燃料化學科(北海道帝國大學學工學部第三部類乙ヲ含ム)  
(一) 及(五)乃至(七)ノ學科ノ中早稻田大學ノ工業經營分科ハ之ヲ除ク

(七) 燃料學科  
日本國ノ實業學校  
日本國ノ工業學校(大正十年文部省令第五號第二種以上ノ實業學校ノ學科ヲ置ク學校ニ關スル規程第一條ノ規定ニ依リ設ケタル實業學校ニシテ工業學校ノ學科ヲ置クモノ及之ニ準ズルモノヲ含ム)ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ  
(イ) 日本國ノ尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスルモノニシテ修業年限ヲ五年以上トスルモノ  
(ロ) 日本國ノ高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスルモノ

(二) 造船科  
(三) 航空科(機體製作科及航空機關科ヲ含ム)  
(四) 電氣科  
(五) 應用化學科(工業化學科、化學工業科、電氣化學科其ノ他應用化學科ニ準ズベキ學科ヲ含ム)  
(六) 探礦冶金科(探礦科及冶金科其ノ他之ニ準ズベキ學科ヲ含ム)

日本國ノ法令ニ依リ設置セラレタル大學ノ工學部及理工學部並ニ工業ニ關スル大學  
(一) 機械工學科(北海道帝國大學學工學部第三部類ヲ含ム)  
(二) 船舶工學科(造船學科ヲ含ム)  
(三) 航空學科  
(四) 造船學科  
(五) 電氣工學科(北海道帝國大學)

大學及日本國ノ專門學校  
一 國立大學新設工業技術院(土木科及建築科ヲ除ク)  
二 國立大學奉天工業技術院(土木科及建築科ヲ除ク)  
三 日本國ノ法令ニ依リ設置セラレタル工業ニ關スル專門學校  
(專門學校ニ非ザル私立學校ニシテ中學校卒業程度ヲ入學資格トシ且修業年限ヲ三年以上トス

日本國ノ工業學校(大正十年文部省令第五號第二種以上ノ實業學校ノ學科ヲ置ク學校ニ關スル規程第一條ノ規定ニ依リ設ケタル實業學校ニシテ工業學校ノ學科ヲ置クモノ及之ニ準ズルモノヲ含ム)ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ  
(イ) 日本國ノ尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスルモノニシテ修業年限ヲ五年以上トスルモノ  
(ロ) 日本國ノ高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスルモノ

各種學校  
一本 本溪湖工業實習所  
三三七



法律—滿洲國工場取締規則施行細則

二 日本國ノ工業學校ニ準ズベキ日本國ノ私立學校ニシテ中學校卒業程度ヲ入學資格トシ修業年限ヲ一年以上トスルモノ又ハ同等以上ノモノ(夜間授業ノモノヲ除ク)

工場取締規則施行細則

(康徳五年十月二十九日) 奉天省令第四十號

第一條 工場取締規則(以下單ニ規則ト稱ス)第一條ノ規定ニ依ル原動機トハ汽機、蒸氣機、内燃機、電動機、各種タービシ、水車トス

ハ特ニ許可スルコトアルベシ 第四條 規則第二條第一項ノ願書ニハ同條規定事項ノ外左ノ事項ヲ記載スベシ 一 都邑計畫法ニ依ル地域並ニ地區 二 建物ノ名稱(用途)層數、建築面積及棟數並ニ其ノ建築許可又ハ建築物ノ使用認可番號年月日 三 職工ノ國籍別ニ依ル男女ノ區別 第五條 規則第二條第一項第三號及第八號乃至第十號ニ規定スル圖面ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ調製スベシ但シ地方ノ狀況ニ因リ酌量スルコトアルベシ

テハ此ノ限ニ在ラズ 三 建物及附屬設備ノ配置圖(二百分ノ一以内) 建物ノ名稱、建築面積(コンクリート若ハ煉瓦造等ハ除外、木造ハ柱心)並ニ相互間ノ距離ヲ記入ノコト 四 建物ノ構造圖 各建物ノ立面、平面及斷面圖(縮尺百分ノ一以内) 並ニ主ナル部分ノ詳細圖(縮尺二十百分ノ一)ヲ添附ノコト 五 主ナル機械設備ノ配置圖(縮尺六百分ノ一以内) 各種機械設備ノ名稱並ニ相互間ノ距離及容量ヲ記入ノコト 第六條 規則第二條第一項及第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル工場ノ工事ニシテ一部竣功シタルトキハ其ノ部分ニ付届出テ検査ヲ受ケ之ヲ使用スルコトヲ得 前項ノ検査ニ合格シタルトキハ別記第一號様式ノ工場假使用認可證ヲ交付ス 第七條 前條第二項ノ假使用認可

證ヲ亡失、毀損又ハ記載事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ事由ヲ具シ運轉ナク届出テ再交付又ハ書換ヲ受クベシ 第八條 規則第三條ノ規定ニ依ル工場使用認可證(別記第二號様式)ハ工事竣工検査ニ合格シタルモノニ限り之ヲ交付ス 前項ノ工場使用認可證ノ交付ヲ受ケタルトキハ運轉ナク工場假使用認可證ヲ返納スベシ 第九條 工場使用認可證又ハ工場假使用認可證ハ之ヲ工場ノ見易キ場所ニ掲示スベシ 第十條 規則第二條第一項及第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル工場ノ工事、竣功期日迄ニ竣功セザルトキハ左ノ事項ヲ具シ甲種工場ニ在リテハ省長ニ乙種工場ニ在リテハ警察長又ハ警察廳長ニ届出テ認可ヲ受クベシ 一 本籍、住所、氏名及生年月日(法人ニ在リテハ其ノ名稱事務所所在地、代表者ノ氏名)

二 工場ノ位置及名稱

三 許可指令番號 四 變更事由

第十一條 工場主又ハ其ノ從業者ハ規則第七條ニ定ムル規定ノ外左ノ各號ヲ遵守スベシ 一 動力傳導裝置ノ帶車帶ノ繼目ニハ突出セル金具ヲ使用セザルコト但シ露出面ガ強面ヲ危険ナキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ適當ナル措置若ハ被覆ニ依リ又ハ接觸ノ虞ナク且運轉中手ニテ取扱フコトナキ帶又ハ動力弱小ニシテ危険ナキ帶ニ付テハ之ヲ適用セズ

二 動力傳導裝置ノカツブリンダ、カラ、クラツチ、帶車其ノ他轉動部ニ附屬セルセツトスクリュー、ボルト、ナツト及螺絲ノ頭部ハ突出セザルモノヲ用フルコト但シ露出面ガ強面ヲ爲シ危険ナキトキ、適當ナル被覆ノ設ケアルトキ

又ハ作業(掃除、注油、検査修繕等ヲ含ム)若ハ通行ニ際シ運轉中接觸ノ虞ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ

三 遊輪ヲ使用スルモノニ在リテハ帶車移動裝置ヲ設ケタルコト但シ作業上已ムヲ得ザルモノ又ハ危険ノ虞ナキモノハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ帶車移動裝置ニハ帶車帶ガ不意ニ定軸ニ移ルコトヲ防止スル裝置ヲ爲スコトヲ要ス 四 帶車ト接觸滑車、軸承、カツブリンダ等トノ間隔狹安ニシテ其ノ間ニ帶車ガ脱落シ危害ヲ生ズル虞アル場合又ハ車輪ノ運轉中帶車帶車ヨリ時時取外シ置ク場合ニハ適當ナル帶車受ケ裝置ヲ設ケタルコト

五 注油ノ爲接近スルコト危険ナル動力裝置ニハ安全ナル給油裝置ヲ設ケタルコト

六 作業場所ニハ事故發生ノ場合ニ於テ速カニ原動機又ハ動力傳導裝置ノ運轉ヲ停止シ得

ベキ裝置ヲ設ケタルコト但シ作業場所ヨリ原動機轉動部所ニ直ニ到達シ得ル場合又ハ係員ヲ當置セル原動機並ニ通ズル應急停止ノ付號ヲ定メアル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

七 動力ニ依リ運轉スル機械ノ危害ヲ生ズル虞アル部分ニハ已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外構圍、被覆其ノ他適當ナル危害防禦裝置ヲ設ケタルコト

八 左ノ各號ノ一ニ該當スル機械ノ部分ハ運轉ガ停止スルニ非ザレバ開放スルコト能ハザル裝置ト爲スコト (一) 綿絲紡績機械ニ於ケル荒打綿機ノフアンドア、打綿機ノビーターカバア及ダイトドア、攪綿機ノシリンドアノフフロントフレイト(但シ真空掃除機ヲ使用スルモノヲ除ク) 練蠶機若ハ粗紡機ノヘツドストツクノギヤリリンドカバア

(二) 綿絲紡績機械ニ於ケル

切綿機ノシリンドアカバア (三) 其ノ他前二號ニ準ズルモノ

九 動力ニ依リ運轉スル機械ニハ各機械毎ニ速ニ運轉ヲ停止シ得ル裝置ヲ設ケタルコト但シ運轉セル一層ノ機械ニシテ共通ノ動力運轉ノ裝置ヲ有スルモノ又ハ危険ノ虞ナキ機械ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

十 粘性物質ヲ練製スルローラ一ニシテ危険ヲ生ズル虞アルモノニ付テハ事故發生ノ場合ニ於テ被害者ガ直ニ運轉ヲ停止シ得ベキ裝置ヲ設ケタルコト

十一 原動機及動力傳導裝置ノ運轉ヲ開始スル際ニハ之ヲ關係職工(徒弟ヲ含ム以下之ニ同ジ)ニ周知セシムル爲メ一定ノ合圖ヲ爲スコト

原動機、動力傳導裝置又ハ機械ノ運轉ヲ停止シテ掃除、注油、検査、修繕ヲ爲シツツアル際ニ他人ガ之ヲ運轉シ危害ヲ生ズル虞アルトキハ之ヲ防



止スル爲適當ナル設置又ハ處置ヲ爲スコトヲ要ス

十二 運轉中原動機、動力傳導裝置若ハ動力ニ依リ運轉スル機械ヲ取扱ヒ又ハ之ニ接近シテ作業ニ従事スル爲頭髪又ハ被服ガ之ニ捲込マレ危害ヲ受クル虞アル者ニハ危害ヲ防止スルニ適當ナル帽子又ハ作業服ヲ着用セシムルコト

十三 物品ノ揚卸口、槽、車輛道、階段其ノ他從業者ノ墜落シ危害ヲ生ズル虞アル箇所ニハ柵欄、手摺、蓋等適當ナル危害豫防裝置ヲ設クルコト但シ作業上已ムヲ得ザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

十四 作業用可搬椅子ニハ滑止其ノ他轉倒ヲ防止スルニ適當ナル裝置ヲ爲スコト但シ床面其ノ他ノ關係上危險ノ虞ナキ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

十五 機械間又ハ之ト他ノ設備トノ間ニ設クル通路ハ本令施行前既ニ設ケタルモノヲ除ク

ノ外職員八〇割以上ニスルコト但シ已ムヲ得ザルモノニシテ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

十六 蓋ニ危害豫防裝置ヲ取外シ又ハ其ノ效力ヲ失ハシムル行爲ヲ爲サシメザルコト

十七 爆発性、發火性若ハ引火性物品ノ製造、取扱若ハ貯蔵ヲ爲ス場所及瓦斯、蒸氣若ハ粉塵ヲ發散シ爆発ノ虞アル場所其ノ他火災ノ危險著シキ場所ニ於テハ直接作業ニ必要ナル場合ノ外火氣ヲ使用シ又ハ火花ヲ發シシメザルコト但シ安全燈、電燈其ノ他危險ナキモノノ使用ハ此ノ限ニ在ラズ

十八 電氣接ヲナス場合ニ於テハ他人ニ危害ヲ及ボス虞ナキ設備ヲナスコト

十九 油又ハ印刷用インキ類ニ依リ浸染シタル襪履、紙屑等

ハ不燃性ノ容器ニ收メ其ノ他適當ナル構造ヲ爲スコト

二十 爆発性、發火性若ハ引火性物品ノ製造若ハ取扱ヲ爲ス作業場又ハ常時五十人以上ノ職工ノ就業スル作業場ニハ火災等ノ場合ニ於テ容易ニ安全ナル場所ニ避難シ得ル二以上ノ出口ヲ適當ニ設クルコト

二十一 常時二十人以上ノ職工ガ二階以上ニ於テ就業スル場合ニハ各階ニ適當ニ配置セラレ容易ニ屋外ノ安全ナル場所ニ通ズル二以上ノ階段ヲ設クルコト

二十二 二階以上ニ於テ就業スル職工ガ常時五十人以上ナルトキハ前段ノ階段ハ左ノ條件ニ依リ設備ヲ爲スコト但シ作業ノ性質建築物ノ構造設備等ノ關係上其ノ必要ナキ場合又ハ本令施行前既ニ設ケタル建築物ニ付已ムヲ得ザルモノニシテ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

- 三四〇
- (一) 階面二一割以上階上二一割以下ト爲スコト
  - (二) 勾配ヲ平面ニ對シ四十度以内ト爲スコト
  - (三) 高さ三・六四米ヲ超ユル場合ニハ高さ三・六四米以内毎二階場ヲ設クルコト
  - (四) 幅内法一・〇六米以上ト爲スコト
  - (五) 階段ヲ設ケザルコト
  - (六) 外側ニハ高さ八二割以上ノ手摺ヲ設クルコト但シ作業ノ性質、建築物ノ構造設備等ノ關係上其ノ必要ナキ場合又ハ本令施行前既ニ設ケタル建築物ニ付已ムヲ得ザルモノニシテ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
  - (七) 各段ヨリ高さ一・七三米以内ニ障礙物ナキコト
  - (八) 第十九條ノ規定ニ依リ出口、規則第十二條ニ依リ設ケタル通路若ハレラレタル出口及之ニ通ズル通路若ハ階段ニシテ常時使用セザルモノニハ適

當ナル標示ヲ爲シ非常ノ際ニハ何時ニテモ避難シ得ル様保持スルコト

二十三 瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散シ衛生上有害ナル場所又ハ爆発ノ虞アル場所ニハ之ガ危害ヲ豫防スル爲其ノ排出密閉其ノ他適當ナル設備ヲ爲スコト

二十四 左ノ場所ニハ必要アル以外ノ者ノ立入ヲ禁止シ其ノ旨標示スルコト

イ 爆発性、發火性又ハ引火性物品ノ製造、取扱又ハ貯蔵ヲ爲ス場所

ロ 毒劇藥、毒劇物又ハ其ノ他ノ有害物品ノ製造又ハ取扱ヲ爲ス場所

ハ 瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散シ衛生上有害ナル場所

ニ 多量ノ高熱物體ヲ取扱フ場所

二十五 研磨機ニ依リ金屬研磨炭酸含有清涼飲料水ノ罐詰其ノ他物體飛來ノ虞アル作業、

高熱物體又ハ毒劇藥、毒劇物ノ製造又ハ取扱ヲ爲ス作業、有害光線ニ曝露スル作業、多量ノ粉塵又ハ有害ノ瓦斯、蒸氣若ハ粉塵ヲ發散スル場所ニ於ケル作業其ノ他危害ノ虞アリ又ハ衛生上有害ナル作業ニ於テハ之ニ從事スル職工ニ使用セシムル適當ナル保護具ヲ備ヘ作業中ノ職工ニ使用セシムルコト

二十六 衛生上有害ナル瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散スル工場ニ於テハ該職工ノ爲適當ナル食事ノ場所ヲ設クルコト但シ該職工ガ工場内ニ於テ食事ヲ爲サザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

二十七 毒劇物其他有害物品ノ取扱ヲ爲ス工場、多量ノ粉塵ヲ發散スル工場其他ノ工場ニシテ作業ノ爲身體ヲ汚染スル工場ニ於テハ適當ナル洗面設備ヲ設ケ必要物品ヲ備フルコト

二十八 鐵機ノ杆ヲ移動ノ爲鐵

ヲ吸出ス必要アルモノニ在リテハ引出具ヲ備フルコト

二十九 食堂、炊事場及食器ハ常ニ清潔ニ保チ傳染病者又ハ疾病ニ罹レル者ヲ使用セザルコト

三十 更衣、浴場及便所等ハ之ヲ男女別ニスルコト

第十二條 規則第十條ノ規定ニ依リ職工其ノ他從業者名簿ハ別記第三號様式ニ依ルベシ

第十三條 工場ニハ從業者名簿ノ外關係書類等ヲ備置クベシ

第十四條 從業者名簿ハ從業者ノ死亡又ハ解雇後三年間之ヲ保存スベシ

第十五條 工場ニ於テ災害事故發生シタルトキハ規則第八條ノ規定ニ依リ即時届出ヲ爲スノ外更ニ別記様式ニ依リ甲種工場ニ在リテハ省長ニ乙種工場ニ在リテハ縣長又ハ警察廳長ニ届出ツベシ

第十六條 工場取締規則及本令ニ依リ提出スル關係書類ハ所轄警

察官署ヲ經由スベシ

第十七條 第八號第二項、第九條乃至第十五條ノ規定ニ違反シタ者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十八條 工場取締規則及本令ニ依リ所定ノ關係書類ハ別記第四號乃至第二十五號様式ニ定ムル所ニ依ルベシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(様式略ス)

**貿易統制法ニ基ク組合ノ設立ニ關スル件**

(昭和六年二月十五日) (經濟部令第六號)

第一條 貿易統制法第四條第一項ノ規定ニ依リ組合ノ設立ヲ命ズル場合ニ於テハ經濟部大臣ハ該組合ニ於テ輸出又ハ輸入ヲ統制スベキ物品ノ種類及組合員タルベキ者ノ資格ヲ告示ス

第二條 前條ノ告示ニ於テ指定セ

三四一



法律 滿洲國貿易統制法ニ基ク人造纖維業ノ輸入税低減、康徳四年勅令第四百四十六號貿易統制法ニ基ク輸入制限改正、對日期待重要物資ノ發注統制ニ關スル件

第五條 經濟部大臣必要アリト認ムルトキハ組合ノ理事又ハ監事ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ  
第六條 組合ニ於テ組合員ノ營業ニ關スル輸出又ハ輸入ノ統制ヲ行ハントスルトキハ其ノ方法及内容ニ付總督ノ議決ヲ經タル上經濟部大臣ノ承認ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

貿易統制法ニ基ク人造纖維業ノ輸入税ノ低減ニ關スル件  
(康徳六年六月二十九日) 勅令第四百六十二號

第四條 組合ハ其ノ設立後連續ナク左ニ掲グル事項ヲ記載シタル報告書ニ定數及前立總督ノ決議ノ照本ヲ添附シ之ヲ經濟部大臣ニ提出スベシ  
一 事業計畫  
二 組合ノ負擔ニ關スベキ創立費及其ノ償却方法  
三 經費ヲ組合員ニ分賦スル組合ニ在リテハ其ノ經費ノ初年度ノ收支豫算及分賦收入方法  
四 理事及監事ノ氏名及住所  
五 組合員ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ主事務所ノ所在地

康徳四年勅令第四百四十六號貿易統制法ニ基ク輸出及輸入ノ制限ニ關スル件第一條第二十二號ノ次ニ左ノ十號ヲ加フ  
二十三 大豆  
二十四 落花生  
二十五 荳蔻子  
二十六 大豆油  
二十七 落花生油  
二十八 荳蔻子油  
二十九 昆麻子油  
三十 梓蠶絲、梓蠶附絲及梓蠶繭  
三十一 ヘツシヤン・クロース  
三十二 麻絲、麻線、麻繩及麻綱

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

康徳四年勅令第四百四十六號貿易統制法ニ基ク輸出及輸入ノ制限ニ關スル件第一條及第二條中「二年」ヲ「二年内」ニ改ム  
(康徳五年十二月八日) 勅令第四百八十二號  
康徳四年勅令第四百四十六號貿易統制法ニ基ク輸出及輸入ノ制限ニ關スル件第一條及第二條中「二年」ヲ「二年内」ニ改ム

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

對日期待重要物資發注統制ニ關スル件  
(康徳六年八月十一日) 產業部佈告第三三號

一 物資名  
(一) 鐵鐵  
(二) 普通鋼材  
(三) 特殊鋼

(四) 銅鋼  
(五) 鉛  
(六) 亞鉛  
(七) 亞鉛  
(八) 錫  
(九) アンチモン  
(一〇) アルミニウム  
(一一) マグネシウム  
(一二) 石棉  
(一三) 皮革  
(一四) ゴム  
(一五) 棉花  
(一六) マニラ麻  
二 提出スベキ書類  
(一) 發注證明書  
(二) 需要票(別ニ定ムル様式ニ依ル)正副各一通寫三通各主要施行工事別ニ區分整理シ且ツ一括點綴シ一連番號ヲ附スルコト  
(三) 添附書類  
(イ) 需要證明書(企業自論見事業計畫ヲ含ム)  
(ロ) 臨時資金統制法、警察取締等ニヨリ許可ヲ得タルモノハ許可書寫

法律 滿洲國對日期待重要物資發注統制ニ關スル件

(ハ) 再申請ニアリテハ返付サレタル需要票  
但シ繼續セル需要ニシテ需要内容ヲ別途詳細ニ説明セルモノハ添附書類ヲ簡略化スルコトヲ得  
三 提出時間  
毎月一日ヨリ十日迄ノ間トス但シ康徳六年七月分及八月分ハ同年八月二十五日迄ニ提出スルコト  
四 需要票記載上ノ注意  
(一) 發注者、製造者印ハ正及副本ノミトス  
前項ノ場合ニ於テハ發注者ハ附屬原動機連絡番號欄ニ該原動機需要票番號ヲ記載シ其ノ聯關ヲ明カナラシムルモノトス  
(二) 需要票ノ大サハA列四號、紙質ハ模造紙ノ五〇ポンドトス  
(三) 價格ハCIF價格トス  
(四) 需要期ハ機器類ニアリテハ攝附時期其ノ他ハ實需時期トス  
(五) 素材所要量中ニハ製造者ガ他製造者ニ委託加工セシムルニ要スル素材ヲモ含ム但シ附屬原動機製作ニ要スル素材ハ該附屬原動機所要量欄ノ素材所要量中ニ含メズ附屬原動機ニ所定事項ヲ記入シタル上別途其ノ素材ノ需要票ヲ作成提出スルモノトス  
(六) 鐵鐵ニ付テハ新銑ノミヲ記入シ、鋼ニ付テハ電氣鋼、附鋼、ゴムニ付テハ生ゴム、附ゴムヲ區別シ記入スルモノトス  
(七) 棉花ニ付テハ編糸又ハ編布ヲ原棉ニ換算シタル數量ヲ記載スルモノトス但シ日本内地ニ於テ編糸又ハ編布ヲ取得ノ上他製品ニ再加工スル場合ニ所要スル棉花ニ付テハ之ヲ記入シ編糸又ハ編布ノ原形ニ於テ輸入スルモノニ付テハ需要票ノ提出ヲ要セザルモノトス  
(八) 皮革ニ付テハ皮ベルト及パツキング用ノミ記入スルモノトス  
(九) 其他需要票備考欄参照スルモノトス  
五 其他  
(一) 本佈告發布前既ニ發注セルモノニシテ普通鋼材又ハ鐵鐵ノ一部ノ配給證明ヲ受ケタルモノニ付テハ其ノ數量ヲ「所要素材概算全量欄」概算全量ノ下ニ朱書スルコト  
(二) 既ニ製造者ノ素材見積書ヲ添附産業部ニ申請中ニシテ未ダ素材ノ配給ナキモノニ付テハ「見積書提出欄」ト需要票必要理由欄ニ朱書シ且發注者ニ於テ製造者記入ノ所定欄ニ製造者記入事項ヲ記入ノ上提出アルトキハ製造者ニ於テ所定ノ事項ヲ記入捺印シタルモノト見做ス  
(三) 既ニ製造者ノ素材見積書ヲ徵セルモ未ダ申請ナキモノハ該見積書ヲ添附シ且發注者ニ於テ製造者記入ノ所定欄ニ製造者記入事項ヲ記入ノ上提出アルトキハ製造者ニ於テ所定ノ事項ヲ記入捺印シタルモノト見做ス  
(四) 本佈告發布前「日本機械製

三四三



- 一 蒸汽機
- 二 瓦斯發生裝置
- 三 蒸汽機
- 四 蒸汽タービン
- 五 内燃機
- 六 水車
- 七 電氣機器
- 八 通信機器
- 九 農業用機器
- 十 土木建築用機器

- 十一 鑛山用機器(鑛山ボートルヲ含ム)
- 十二 製鐵用機器
- 十三 工作機械
- 十四 製材及木工機械
- 十五 化學工業用機器
- 十六 窯業機械(硝子、耐火煉瓦製造用)
- 十七 食料品製造用機器
- 十八 製革機器
- 十九 昇降機
- 二十 輸送機(起重機、コンベヤ)
- 二十一 ボンプ
- 二十二 壓力機器(送風機、排風機、氣體壓縮機、水壓機)
- 二十三 試驗機及學術用機器
- 二十四 醫療機械
- 二十五 機關車、客車及貨車、電車(軌レモ産業用)
- 二十六 木造船
- 二十七 鋼索

シ且ツ可ニ付テノミ證明番號ヲ記入ノ上需要者ニ返付スルモノトシ右副本ヲ以テ發註證明書ノ正本トス

(二) 可ノ査定ヲ受ケタル需要者ハ右發註證明書ヲ日本製造業者ニ支給シ製造業者ハ發註證明書ヲ添附シ素材供給制機關ニ素材ノ供給ヲ申請スルモノトス證明書ハ發行日附從三月以内ニ製造業者所屬ノ組合ニ提出スルニ非ザレバ其ノ効力ヲ失フモノトス

(三) 「日本機械製造工業組合聯合會」所屬「日本電氣機器工業組合」所屬製造者

株式會社芝浦製作所、三菱電機株式會社、株式會社日立製作所、富士電機製造株式會社、株式會社明電會、株式會社安川電機製作所、株式會社小穴製作所、東洋電機製造株式會社、株式會社神戸製鋼所、大阪製鐵株式會社、株式會社高島製作所、株式會社川崎造

關稅法中改正ノ件

(康德六年六月二十九日) 勅令第六十二號

關稅法別表輸出稅率第十六號ヲ削リ以下逐條繰上テ

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關稅法中改正ノ件

(康德六年六月一日) 勅令第六十五號

關稅法中左ノ通改正ス

一 別表輸入稅率表第二百七十二號及第二百七十三號ヲ左ノ如ク改ム

二七二 味 淋 每百斤(容器共)二四・〇〇

二七三 紹興酒 每百斤(容器共)一八・七〇

二 別表輸入稅率表第二百七十五號乃至第二百七十八號ヲ左ノ如ク改ム

二七五 麥酒

(甲) 燻詰ノモノ 每百斤(容器共)一一・三〇

(乙) 其ノ他 從價九〇・〇%

(丙) 葡萄酒 從價九〇・〇%

(丁) 葡萄酒ノ天然釀成ノミニ依リ釀造シタル非酒精製ノモノ 從價九〇・〇%

(戊) 其ノ他

(一) ポート、シエリー、ヴェルモット其ノ他ノ甘味葡萄酒 從價九〇・〇%

(二) 其ノ他 從價九〇・〇%

(三) ウイスキー、ブランデー、燒酎其ノ他ノ蒸溜酒 從價九〇・〇%

(四) 稅額ハ百立ニ付三十圓ヲ下ルコトヲ得ズ

二七八 別號ニ掲ゲザル酒精含有飲料 從價九〇・〇%

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

國 價 法

(康德六年五月二十日) 勅令第六十五號

第一條 國價ニ對シテハ無記名證券ヲ發行ス國價ノ發給ハ法律ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外價權者ノ請求ニ因リ之ヲ爲ス此ノ場合ニハ證券ヲ發行セズ

第二條 發給國價ノ移轉ハ發給者受クルニ非ザレバ之ヲ以テ政府其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ發給國價ヲ以テ實權ノ目的ト爲シタルトキ亦同ジ

第三條 判決、訴訟上ノ和解、調停法ニ依リ調停、競買、相續又ハ遺贈ニ因リ發給ノ場合ヲ除クノ外國價ノ發給ハ其ノ利子支拂期前一月ヲ超エザル期間之ヲ停止スルコトヲ得國價ノ發給除却ニ付亦同ジ

第四條 國價證券又ハ其ノ利札ヲ亡失シタル者ハ經濟部大臣ノ定ムル所ニ依リ擔保ヲ供シ又ハ保認人ヲ立テ其ノ元金ノ償還又ハ

利子ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得亡失シタル許券又ハ利札ノ持參人ガ元金ノ償還又ハ利子ノ支拂ヲ受ケタルトキハ前項ノ規定ニ依リ償還又ハ支拂ヲ受ケタル者ハ其ノ金額及償還又ハ支拂ヲ受ケタル日以後ノ利子ヲ辨償スルコトヲ要ス

第五條 國價證券ニ對シ元金ヲ償還スル場合ニ於テ其ノ證券ノ利札中利子支拂期ノ開始セザルモノ欠缺セルトキハ其ノ利札ニ相當スル金額ヲ元金ノ中ヨリ控除ス

第六條 民法第五百十二條ノ規定ニ依リ准用セラルル第五百九條ノ規定ハ國價證券及其ノ利札ニ

ハ之ヲ適用セズ

第七條 政府ハ國價ヲ銷却スル爲隨意契約ヲ以テ之ガ買入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ買入ノ價格ハ發給國價ノ價格ノ超過スルコトヲ得ズ

第八條 政府ニ對スル保證金、供託金其ノ他ノ擔保ニ供スル國價ノ價格ハ價權金額ニ依リ

擔保ニ供スル國價ガ外貨國價ナル場合ノ其ノ國幣換算率ハ經濟部大臣ノ定ムル所ニ依リ

第一項ノ規定ニ依リ價權金額ヲ以テ擔保ニ供シタル國價ガ公賣セラルベキ場合ニ於テハ政府ハ其ノ金額ヲ以テ之ガ買入銷却ヲ爲スコトヲ得

第九條 外國ノ法令ニ於テ其ノ國ノ政府ニ對スル保證金、供託金其ノ他ノ擔保ニ供スル帝國國價ノ價格ニ付價權金額ニ依ルベキ旨ヲ規定セル場合ニ於テ其ノ規定ニ依リ價權金額ヲ以テ擔保ニ供シタル帝國國價ガ其ノ外國政府ニ歸屬シ又ハ公賣セラルベキ



トキハ政府ハ其ノ金額ヲ以テ之ガ買入額ヲ爲スコトヲ得

第十條 法令ノ規定ニ依リ國債證券ヲ擔保ニ供スベキ場合ニ於テハ登錄國債ニ付擔保ノ登錄ヲ受ケ之ニ代フルコトヲ得

第十一條 國債ノ元金ノ請求權ハ十年間、利子ノ請求權ハ五年間之ヲ行ハザルニ因リテ其ノ消滅時効完成ス

第十二條 國債ニ關スル事務ハ經濟部大臣ノ定ムル所ニ依リ滿洲中央銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム

第十三條 國債ノ募集、元金償還利子支拂、買入額却、證券又ハ登錄ニ關シ無能力者ノ滿洲中央銀行ニ對シ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

附則 本法ハ廣徳六年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

廣徳二年勅令第三十七號政府ニ納ムル保證金、供託金其ノ他ノ擔保ニ充用スル國債ノ價格及之ガ買入額却ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

國債規則

（廣徳六年五月二十日）  
（經濟部令第十五號）

第一章 總則

第一條 國債ニ關スル事項ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 國債證券ノ取扱行（以下取扱行ト稱ス）ハ滿洲中央銀行總行、分行、支行、代理店トシ其ノ名稱及位置ハ別ニ之ヲ告示ス

第三條 本令第二章及第三章ノ規定ハ外國ニ於テ發行スル國債ニハ之ヲ適用セズ

第二章 國債證券

第四條 國債證券及利札ノ見本ハ之ヲ取扱行ニ配屬シ其ノ旨ヲ告示ス但シ其ノ様式ノ要項ヲ告示シ見本ノ 置ニ代フルコトアルベシ

第五條 國債證券及利札ニハ名稱、記號及番號ヲ附シ國債證券ニハ

經濟部大臣ノ印章ヲ刷入ス

第六條 國債證券ノ額面金額ノ種類ハ五十圓、一百圓、一千圓及一萬圓ノ四種トス但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 國債證券ガ汚染又ハ毀損シタルトキハ其ノ所持人ハ之ガ引換ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ニ該國債證券ヲ添ヘ之ヲ取扱行ニ提出スベシ

一 國債ノ名稱

二 國債證券ノ記號

三 國債證券ノ額面金額ノ種類及枚數

四 請求ノ年月日

五 請求者ノ住所

第六條 國債證券ノ所持人ハ額面金額ノ種類ニ從ヒ國債證券ノ分割又ハ併合ヲ請求スルコトヲ得但シ國債ノ名稱、國債證券ノ記號、發行年又ハ償還期限ノ異ナルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ請求ヲ爲スニハ左ノ事項

一 國債ノ名稱

二 國債證券ノ記號

三 國債證券ノ額面金額ノ種類及枚數

四 請求ノ年月日

五 請求者ノ住所

第七條 國債ノ認購者又ハ引受人國債ノ認購ヲ請求スルニハ其ノ募入決定後又ハ引受ノ際左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ヲ取扱行ニ提出スベシ

一 國債ノ名稱及登錄金額

二 登錄スベキ氏名又ハ名稱及前條第二項ニ該當スル場合ニハ其ノ資格（以下記名ト稱ス）

三 元利金ノ支拂場所

四 請求ノ年月日

五 請求者（請求者ト記名者トガ異ナルトキハ請求者及記名者）ノ住所

ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ニ該國債證券ヲ添ヘ之ヲ取扱行ニ提出スベシ

一 國債ノ名稱

二 原國債證券ノ記號

三 原國債證券ノ額面金額ノ種類及枚數

四 代國債證券ノ額面金額ノ種類及枚數

五 請求ノ年月日

六 請求者ノ住所

第九條 汚染又ハ毀損シタル國債證券ノ引換ヲ請求スル場合ニ於テ該國債證券ノ附屬利札又ハ添附利札中ノアルトキハ其ノ欠缺利札ノ金額ニ相當スル金額ヲ取扱行ニ納付スベシ

第十條 國債證券ノ附屬利札ニ關シテ

一 國債ノ名稱

二 國債證券ノ記號、額面金額ノ種類及枚數

三 登錄金額

四 登錄スベキ記名

五 元利金ノ支拂場所

六 請求ノ年月日

七 請求者（請求者ト記名者トガ異ナルトキハ請求者及記名者）ノ住所

第九條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ請求ノ場合ニ之ヲ適用ス

第二十一條 前二條ノ規定ニ依リ國債ノ認購ヲ請求スル場合ニ於テ共有者ノ持分相均シカラザルトキハ登錄ノ請求書ニ各持分金額及氏名ヲ記載シ又ハ之ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

前項ノ場合ニ於テハ共有人名簿ニ其ノ持分金額ヲ記載ス

第二十二條 登錄ノ變更ヲ請求スルニハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ヲ取扱行ニ提出

シタルトキハ之ト引換ニ次期以降ノ利札ノ附屬セル國債證券ヲ交付シ又ハ次期以降ノ利札ノミヲ交付ス

前項ノ規定ニ依リ國債證券又ハ利札ノ交付ヲ請求スルニハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ニ附屬利札蓋シタル國債證券ヲ添ヘ之ヲ取扱行ニ提出スベシ

一 國債ノ名稱

二 原國債證券ノ記號

三 原國債證券ノ額面金額ノ種類及枚數

四 請求ノ年月日

五 請求者ノ住所

第十一條 國債證券又ハ利札ノ交付ヲ受クベキ者ハ書面ヲ以テ其ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ送付ノ費用及危險ハ請求者ノ負擔トス

第十二條 消滅時効ノ完成シタル國債證券又ハ利札ヲ所持スル者ハ直チニ之ヲ取扱行ニ返還スベシ

第三章 登錄簿

第十三條 國債ノ認購ハ國債證券簿ニ記載スルニ依リテ之ヲ爲ス

第十四條 國債證券簿ハ之ヲ滿洲中央銀行總行ニ置キ其ノ副本ヲ滿洲中央銀行奉天分行ニ置ク

第十五條 國債證券簿ノ様式ハ別ニ之ヲ告示ス

第十六條 國債證券簿ハ國債ノ名稱及國債證券ノ記號毎ニ口座ヲ分ツ登錄簿ニハ記號及番號ヲ附ス

第十七條 國債ノ登錄金額ハ當該國債證券ニ於ケル額面金額ニ相當スルモノ又ハ額面金額ニ分割スルコトヲ得ベキモノニ限ル

第十八條 國債ノ認購ハ自然人ニ在リテハ其ノ氏名ヲ法人ニ在リテハ其ノ名稱ヲ以テ之ヲ爲ス

法人ニ認購スベキ團體ノ代表者又ハ管理人ガ其ノ資格ニ於テ登錄ヲ受クルトキハ前項ニ依リノ外

其ノ資格ヲ表示ス

共有ニ係ル登錄簿ニ付テハ請求書ニ掲ゲタル筆頭者ノ氏名及他ノ人員ヲ登錄シ其ノ氏名ハ別ニ共有人名簿ニ記載ス

共有人名簿ハ國債證券簿ノ一部ト看做ス



スベシ

- 一 國債ノ名稱
- 二 登錄國債ノ記號及番號
- 三 記名者變更ノ場合ニ在リテハ原記名及新記名連ニ新記名者ノ登錄金額、共有者ノ持分變更ノ場合ニ在リテハ其ノ持分金額及氏名
- 四 登錄變更ノ事由
- 五 請求ノ年月日
- 六 請求者(請求者ト新記名者トガ異ナルトキハ請求者及新記名者)ノ住所

前項ノ場合ニ於テ請求者ハ登錄ノ變更ノ事由ヲ證明スルニ足ルベキ書類ヲ提出スルコトヲ要ス但シ權利ノ移轉ニ因リ登錄ノ變更ヲ請求スル場合當事者雙方ガ其ノ請求書ニ記名捺印シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 國債ノ名稱
- 二 登錄國債ノ記號及番號
- 三 記名者
- 四 質權ノ目的ト爲シタル登錄金額
- 五 債權ノ金額及辨濟期ノ定アルトキハ其ノ期日
- 六 質權ニ依リ擔保セラルル債權ニ付利息、違約金又ハ賠償額

第二十五條 登錄國債ニ付テ質權設定又ハ轉賣ノ登錄ヲ請求スルニハ左ノ事項ヲ記載シ且當事者雙方ノ記名捺印シタル書面ヲ取

- 一 國債ノ名稱
- 二 登錄國債ノ記號及番號
- 三 記名者
- 四 質權ノ目的ト爲シタル登錄金額
- 五 債權ノ金額及辨濟期ノ定アルトキハ其ノ期日
- 六 質權ニ依リ擔保セラルル債權ニ付利息、違約金又ハ賠償額

第二十六條 前條ノ規定ハ登錄國債ニ附スル質權ノ登錄ノ變更又ハ抹消ヲ請求スル場合ニ之ヲ準用ス但シ抹消ノ事由ヲ證明スルニ足ルベキ書類ヲ提出スル場合又ハ質權者ガ抹消ヲ請求スル場合ニ於テハ請求者一方ノ記名捺印シタル書面ヲ提出シ以テスルコトヲ得

三三八

者ノ住所及氏名連ニ第二十五條第一項各號ニ準ジタル事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ヲ取

第二十八條 前條ノ規定ハ質權ニ非ザル擔保ノ登錄ノ變更又ハ抹消ヲ請求スル場合ニ之ヲ準用ス但シ擔保者ガ抹消ヲ請求スル場合ヲ除クノ外變更若ハ抹消ノ事由ヲ證明スルニ足ルベキ書類ヲ提出シ又ハ當事者雙方ガ其ノ請求書ニ記名捺印スルコトヲ要ス

第二十九條 本章ノ規定ニ依リ登錄ヲ爲シタルトキハ取投行ハ登錄ノ要件ヲ記載シタル登錄簿通知書ヲ請求者ニ交付ス

第三十條 登錄國債ノ元金償還又ハ買入額卸アリタルトキハ取投行ニ於テ該元金又ハ代金ノ領收證書ニ依リ之ニ對スル國債ノ登錄ヲ除却ス

第三十一條 登錄國債ノ記名者其ノ他ノ利害關係人ハ何時ト雖モ利害ノ關係アル部分ニ限リ國債登錄簿ノ閲覧又ハ其ノ原本若ハ抄本ノ交付ヲ取投行ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ハ書面ヲ以テ之ヲ爲シ且他人ノ記名ニ係ル部分ノ閲覧又ハ原本若ハ抄本ノ交付ニ付テハ其ノ利害關係ヲ證明スルニ足ルベキ書類ヲ提出スルコトヲ要ス但シ請求書ニ該記名者ノ記名捺印アルトキハ證據書類ノ提出ヲ要セス

第三十二條 登錄國債ノ記名者ノ法定代理人、記名者ノ爲ニ同意ヲ爲ス權限アル者其ノ他記名者ノ爲ニ權利ヲ行使スル者ニ付テハ其ノ資格ヲ證明スル書類ヲ取投行ニ提出スベシ

前項ノ法定代理人、記名者ノ爲ニ同意ヲ爲ス權限アル者其ノ他記名者ノ爲ニ權利ヲ行使スル者ニ變更アリタルトキハ委任者又ハ記名者ヨリ連帶ナク證明書類

ヲ添附シテ其ノ旨ヲ届出ツベシ

前項ノ規定ハ法人ノ代表者ニ變更アリタルトキニ之ヲ準用ス

第三十三條 登錄國債ノ記名者及其ノ權利ヲ行使スル者ハ印鑑ヲ取投行ニ届出デ置クコトヲ要ス改印ノトキ又同ジ

前項ノ印鑑ニ依リ請求者ハ記名者又ハ其ノ權利ヲ行使スル者ト看做ス

取投行ハ其ノ必要ニ因リ關係人ノ印鑑ヲ撤スルコトヲ得

第三十四條 登錄國債ノ記名者其ノ住所ノ表示ニ變更ヲ生ジタルトキハ直ニ之ヲ取投行ニ届出ツベシ

第四章 元金償還及利子支拂

第三十五條 國債元金ノ全部償還ヲ爲ストキハ其ノ償還期日ヲ定メ之ヲ公告ス但シ償還期限満了ノ日ニ於テ償還スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十六條 國債ノ元金償還スル爲抽籤ヲ執行スルトキハ其ノ

償還額、償還期日、抽籤執行日及抽籤ノ方法ヲ定メ之ヲ公告ス

第三十七條 抽籤ハ滿洲中央銀行總行ニ於テ經濟部官吏立會ノ下ニ之ヲ行フ

第三十八條 當籤シタル國債證券ノ額面金額ノ種類、記號及番號連ニ國債登錄簿ノ登錄金額、記號及番號ハ滿洲中央銀行之ヲ廣告ス

第三十九條 國債ノ買入額卸ヲ爲シタルトキハ國債ノ名稱、記號及番號及總額ヲ公告ス

第四十條 政府ニ對スル保證金、供託金其ノ他ノ擔保ニ供シタル國債ガ公賣セラルベキ場合ニ於テ該國債ノ買入額卸ヲ求ムルニハ請求官署ハ左ノ事項ヲ記載シタル請求書ヲ經濟部大臣ニ提出スベシ

一 國債ノ名稱及總額金額並ニ國債證券ニ在リテハ其ノ額面金額ノ種類、枚數、記號及番號、登錄國債ニ在リテハ登錄金額、記號及番號

二 國債ガ擔保ニ供セラレタル年月日、目的、提供者及之ヲ取扱官署

三 國債ノ處分ヲ爲ス事由

四 外貨國債ニ在リテハ之ヲ擔保ニ供シタルトキノ國幣換算率

五 請求ノ年月日

第四十一條 國債ノ利子ハ發行ノ翌日ヨリ元金償還ノ日迄之ヲ附ス

第四十二條 國債利子ノ支拂期ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外毎年三月一日及九月一日ノ二回トシ各其ノ日迄ノ前半年分ヲ支拂フ但シ前期ノ利子支拂ノ翌日ヨリ起算シ半年ニ滿タザル日ニ於テ元金ノ償還ヲ爲ス場合ニ於ケル利子ハ其ノ半年ノ日割ヲ以テ計算シ元金ト同時ニ之ヲ支拂フ

第一回ノ利子支拂期ガ起價ノ翌日ヨリ起算シ半年ニ滿タザル場合ノ利子ハ起價ノトキ之ヲ定ム

第四十三條 證券ヲ發行シタル國



價ノ元金又ハ利子ハ國債證券又ハ利札ニ對シ其ノ證券又ハ利札ト引換ニ之ヲ支拂フ且シ則條ノ規定ニ依リ元金ト同時ニ支拂フベキ利子ハ當該國債證券ニ對シ之ヲ支拂フ

第四十四條 登錄國債ノ元金及利子ハ第三十三條第一項ノ規定ニ依リ届出テタル印鑑ニ依リ請求者ニ對シ領收證書ヲ發シ之ガ支拂ヲ爲ス

第四十五條 取扱行ハ國債證券又ハ利札ノ所持人ノ請求ニ依リ元金償還期又ハ利子支拂期ノ開始期該國債證券又ハ利札ノ密記ヲ受クルコトヲ得

第四十六條 登錄國債ニ付テ元利金支拂場所ノ變更ヲ請求スルニハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ヲ取扱行ニ提出スベシ

五 請求ノ年月日

六 請求者ノ住所

第四十七條 國債ノ元金又ハ利子ノ支拂ヲ受クベキ者ハ書面ヲ以テ其ノ送付ヲ請求スルコトヲ得前項ノ規定ニ依リ送金ノ費用及危險ハ請求者ノ負擔トス

第四十八條 亡失シタル國債證券又ハ利札ニ對スル元金ノ償還又ハ利子ノ支拂ヲ請求スルニハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ヲ取扱行ニ提出スベシ

一 國債ノ名稱

二 國債證券ノ額面金額ノ種類

三 國債證券又ハ利札ノ枚數

四 國債證券又ハ利札ノ記號及番號

五 支拂ヲ受クベキ元金額又ハ利子金額

六 元金償還期又ハ利子支拂期

七 提供スベキ擔保ノ種類及數

八 擔保人ノ住所及氏名

九 請求者ノ住所

前項ノ規定ニ依リ元金償還ノ請求ヲ爲ス者ハ

請求者ハ其ノ住所ニ於テ其ノ請求ノ利札中利子支拂期ノ開始セザルモノヲ所持スルトキハ其ノ請求ノ際之ヲ取扱行ニ提出スベシ此ノ場合ニ於テハ其ノ利札ノ枚數及利札面ニ記載スル利子支拂期ヲ請求者ニ附記スルコトヲ要ス

第一項ノ規定ニ依リ請求アリタル元金又ハ利子ハ請求者ニ對シ領收證書ヲ發シ之ガ償還又ハ支拂ヲ爲ス

第五十條 擔保ノ額ハ償還ヲ受クベキ元金又ハ支拂ヲ受クベキ利子ノ金額ニ其ノ償還又ハ支拂ヲ受クル日ヨリ元金又ハ利子ノ消滅時効完成ノ日ニ至ル迄ノ日數ニ應ズル年五分ノ利子金額ヲ加ヘタルモノヲ以テ最下限トス但シ第四十八條第一項ノ規定ニ依

リ利札ヲ提出シタルトキハ償還ヲ受クベキ元金中ヨリ其ノ提出利札相當ノ金額ヲ控除シテ擔保額ヲ計算ス

第五十一條 金錢ヲ以テ擔保ト爲ストキハ之ヲ供託スベシ

前項ノ供託ヲ了シタルトキハ其ノ要項ヲ記載シ且記名捺印シタル書面ニ金錢受入ノ記載アル供託書ヲ添ヘ之ヲ取扱行ニ提出スベシ

第五十二條 國債證券ヲ以テ擔保ト爲ストキハ其ノ名稱、額面金額ノ種類、記號及番號ヲ記載シ且記名捺印シタル擔保提供者ニ該國債證券ヲ添ヘ之ヲ取扱行ニ提出スベシ

第五十三條 登錄國債ヲ以テ擔保ト爲ストキハ質權設定ノ登錄ヲ爲スニ必要ナル事項ヲ記載シ且記名捺印シタル擔保提供者ヲ取扱行ニ提出スベシ

第五十四條 擔保ヲ供シタル者ガ其ノ擔保物ヲ變更セントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺

印シタル書面ヲ以テ之ヲ取扱行ニ請求シ其ノ承諾ヲ受クベシ

一 新擔保物ノ種類及數

二 請求ノ年月日

三 請求者ノ住所

前項ノ承諾ヲ受ケタル者ハ直ニ第五十一條乃至第五十三條ノ規定ニ依リ新擔保物ヲ供スルコトヲ要ス

第五十五條 擔保ヲ供シタル者ハ擔保ノ原因ガ一部消滅シタル場合ニ於テ其ノ限度ニ應ジ擔保ノ一部解除ヲ取扱行ニ請求スルコトヲ得

第五十六條 擔保ヲ供シタル者ガ債務ノ履行ヲ爲サザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充テ過剩額アルトキハ之ヲ還付ス

前項ノ場合ニ於テ擔保物タル國債ハ之ヲ公賣ニ附ス

第五十七條 擔保タル國債ノ公賣ハ取引所ニ於テ競争ノ方法ヲ以テ之ヲ執行セシム

前項ノ規定ニ依リ難キ場合ノ公賣ハ取扱行ニ於テ其ノ要項ヲ廣

告シ廣告ノ日ヨリ三日ヲ經過シタル後入札ノ方法ニ依リ之ヲ執行ス

第五十八條 公賣シタル國債ニ付テ擔保提供者ヲシテ權利移轉ノ手續ヲ爲サシムルノ必要アルトキハ取扱行ニ於テ期限ヲ指定シ其ノ手續ヲ爲サシム

前項ノ期限迄ニ擔保提供者ガ權利移轉ノ手續ヲ爲サザルトキハ取扱行ニ於テ擔保提供者ニ代リ之ヲ爲スコトヲ得

第五十九條 公賣ノ費用ハ公賣代金ヲ以テ之ヲ支辨ス

公賣代金ヲ以テ辨償金及公賣ノ費用ヲ支辨スルニ足ラザルトキハ取扱行ニ於テ納付ノ期限ヲ定メ之ヲ擔保提供者ニ通知ス

第六十條 國債證券又ハ利札ヲ亡失シタル者ガ元金ノ償還又ハ利子ノ支拂ヲ受クル爲メ保證人ヲ立テントスルトキハ取扱行ノ承諾ヲ受クベシ

前項ノ保證人ノ債務ハ主タル債務者ト連帶トス

第六十一條 保證人ガ死亡シタルトキハ債務者ニ於テ取扱行ノ承諾ヲ受ケ速ニ代保證人ヲ立ツベシ保證人ノ變更ヲ要スルトキ亦同シ

債務者ハ保證人ノ資産ノ減損ニ因リ取扱行ヨリ擔保ヲ供シ又ハ保證人ヲ立ツベキ旨ヲ求めラレタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

附 則

本令ハ康徳六年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

康徳二年財政部令第十九號政府ニ對スル保證金、供託金其ノ他ノ擔保ニ供シタル國債證券ノ買入銷却ニ關スル規程ハ之ヲ廢止ス

**北邊振興事業公債法**

(康徳六年五月十三日)  
(勅令第四百十四號)

第一條 政府ハ北邊振興事業ノ資金ニ充ツル爲メ二億圓ヲ限リ漸次公債ヲ發行スルコトヲ得

第二條 本公債ハ北邊振興特別會計ノ負擔トシ之ニ受入レ處理スルモノトス

第三條 本公債ノ發行價格、利率其ノ他必要ナル事項ハ經濟部大臣之ヲ定ム

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

**軍需監察ニ關スル件**

(康徳六年四月二十日)  
(勅令第八十三號)

第一條 軍需品生産ニ關スル監督軍需品ノ検査及軍需品工場經營ニ關スル諸般ノ調査ヲ管掌セシムル爲メ軍需監察委員ヲ置ク

軍需監察委員ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 軍需品ノ製造及修理ニ關スル作業ノ指導及監督

二 軍需品ノ納入検査

三 軍需品及工場ノ軍事上ノ秘密保持ニ關スル監督







防毒具、防毒検査器、防毒薬物  
又ハ防毒具材料ノ製造者、輸入  
者又ハ販賣者ハ前二項ノ規定ニ  
依ル表示、性能説明書又ハ効能  
説明書及性能標識ナキ防毒具、  
防毒検査器、防毒薬物及防毒具  
材料ヲ購渡スルコトヲ得ズ

第八條 第一種防毒具又ハ防毒檢  
定器ノ修復ヲ業ト爲サントスル  
者ハ省長ノ許可ヲ受クベシ

第九條 前條ノ修復業者ハ其ノ修  
復シタル第一種防毒具又ハ防毒  
検査器ニ付國務總理大臣及民生  
部大臣ノ定ムル所ニ依リ檢定ヲ  
受クベシ

第十條 省長ハ當該官吏ヲシテ防  
毒具、防毒検査器、防毒薬物又  
ハ防毒具材料ヲ製造、貯蔵又ハ

販賣スル場所ヲ巡視セシメ、防  
毒具、防毒検査器、防毒薬物、  
防毒具材料又ハ營業上ノ帳簿其  
ノ他ノ書類ヲ検査セシメ又ハ關  
係人ヲ尋問セシムルコトヲ得

第十一條 防毒具、防毒検査器、  
防毒薬物又ハ防毒具材料ノ製造  
者、輸入者若ハ販賣者又ハ第八  
條ノ修復業者其ノ業務ニ關シ犯  
罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキ  
又ハ本法ニ違反シタルトキハ民  
生部大臣又ハ省長ハ其ノ許可ヲ  
取消シ又ハ營業ノ停止ヲ命ズル  
コトヲ得

第十二條 第五條第一項又ハ第六  
條第三項ノ規定ニ違反シタル者  
ハ三年以下ノ徒刑又ハ三千圓以  
下ノ罰金ニ處ス

第十三條 第五條第二項、第七條  
第三項、第八條又ハ第九條第三  
項ノ規定ニ違反シタル者ハ一年  
以下ノ徒刑、千圓以下ノ罰金又  
ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當ス  
ル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ拘  
留若ハ科料ニ處ス

第十五條 本法中省長トアルハ首  
都警察廳管内ニ在リテハ警察總  
監トス

第十六條 本法ハ軍用ニ供スル防  
毒具、防毒検査器、防毒薬物及  
防毒具材料ニ付テハ之ヲ適用セ  
ズ

第十七條 本法ハ軍用ニ供スル防  
毒具、防毒検査器、防毒薬物又  
ハ防毒具材料ニシテ本法施行ノ際  
現ニ存スルモノ及本法施行ノ日ヨ

留若ハ科料ニ處ス  
一 第十條ノ規定ニ依リ當該官  
吏ノ職務執行ヲ阻礙シ又ハ尋  
問ニ對シ答辭ヲ爲サズ若ハ虛  
偽ノ答辭ヲ爲シタル者

二 第十一條ノ規定ニ依リ營業  
ノ停止ヲ受ケ其ノ期間満了前  
當該營業ヲ爲シタル者

第十五條 前三條ノ規定ノ適用ニ  
付テハ康徳五年勅令第二百二十  
五號行政法規ノ罰則適用ニ關ス  
ル件ニ依ル

第十六條 本法中省長トアルハ首  
都警察廳管内ニ在リテハ警察總  
監トス

第十七條 本法ハ軍用ニ供スル防  
毒具、防毒検査器、防毒薬物及  
防毒具材料ニ付テハ之ヲ適用セ  
ズ

第十八條 本法ハ軍用ニ供スル防  
毒具、防毒検査器、防毒薬物又  
ハ防毒具材料ニシテ本法施行ノ際  
現ニ存スルモノ及本法施行ノ日ヨ

リ二月以内ニ製造又ハ輸入ヲ完了  
スルモノニ付テハ第六條及第七條  
ノ規定ハ之ヲ適用セズ

**重要特產物検査法  
第二條ノ検査手数料  
ニ關スル件**

(康徳六年九月二十九日)  
産業部令第三十二號

第一條 黃大豆、改良大豆及白眉  
大豆ノ検査手数料(以下手数料  
ト稱ス)ハ一口ニ付五圓トス  
前項ノ一口ノ數量ハ鐵無地麻袋  
入ノモノニ在リテハ三百五十二  
袋六十斤入麻袋入ノモノニ在リ  
テハ五百袋トス但シ鐵無地麻袋  
入ノモノニ在リテハ三百五十二  
袋、六十斤入麻袋入ノモノニ在  
リテハ五百袋ニ滿タザルモノト  
雖モ之ヲ一口ト看做ス

第二條 間島大豆ノ手数料ハ左ノ  
各號ニ依ル

- 一 鐵無地麻袋入一袋ニ付六分
- 二 叭入一叭ニ付四分

**重要特產物検査  
法施行規則**

(康徳六年九月二十九日)  
産業部令第三十號

第一條 重要特產物検査法第二條  
ノ重要特產物ノ種類左ノ如シ

- 一 大豆
- 二 大豆粕
- 三 大豆油
- 四 小豆
- 五 粟
- 六 落花生

第二條 検査ハ産業部大臣ノ指定  
スル検査地ノ検査場ニ於テ之ヲ  
行フ但シ産業部大臣ノ許可ヲ受  
ケタル者ハ検査場以外ノ場所ニ  
於テ検査ヲ受クルコトヲ得  
産業部大臣前項ノ指定ヲ爲シタ  
ルトキハ之ヲ佈告ス

第三條 重要特產物ニシテ左ノ各  
號ノ一ニ該當スル場合ハ検査ヲ  
受クルコトヲ要セス

- 一 指定検査地以外ノ地及検査  
休止中ノ指定検査地ヨリ輸出

第三條 大豆粕ノ手数料ハ一口ニ  
付三圓トス

第四條 大豆油ノ手数料ハ左ノ各  
號ニ依ル

- 一 小諸容器(洋樽、鐵樽、石  
油罐又ハ甕)入ノトキハ一口  
ニ付二圓トス
- 二 油槽車入ノトキハ一口ニ付  
五圓トス

第五條 重要特產物検査法施行規則  
第二條第一項但書ノ規定ニ依  
リ許可ヲ受ケタル油槽(以下  
油槽ト稱ス)入ノトキハ一口  
ニ付六圓トス但シ二口同時ニ  
検査ヲ受クルトキハ十圓、三  
口以上同時ニ検査ヲ受クルト  
キハ二口ノ手数料ニ一口ヲ増  
ス毎ニ二圓五角ヲ加ヘタル額  
トス

第六條 鉄ノ手数料ハ一口ニ付三  
圓トス

第七條 小麥ノ手数料ハ一口ニ付  
五圓トス

第八條 重要特產物検査法施行規  
則第一項ノ數量ハ新麻袋入ニ  
在リテハ三百五十二袋、舊麻袋  
入ニ在リテハ三百三十三袋トス  
但シ新麻袋入ニ在リテハ三百五  
十二袋、舊麻袋入ニ在リテハ三  
百三十三袋ニ滿タザルモノト雖  
モ之ヲ一口ト看做ス

第九條 重要特產物検査法施行規  
則第十四條ノ規定ニ依リ再検査  
ノ手数料ハ之ヲ無料トス

第十條 重要特產物検査法施行規  
則第十條ノ規定ニ依リ生シタル分米  
ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

本令ハ康徳六年十月一日ヨリ之ヲ  
施行ス

法律—滿洲國重要特產物検査法施行規則



法律—滿洲國重要特產物検査法施行規則

- 若ハ移出シ又ハ鐵道若ハ船舶ニ依リ國內ニ向ケ搬出(以下搬出ト稱ス)スルトキ
- 一 名稱及住所
- 二 大豆 形状、大サ、重量及品質
- 三 大豆油品質
- 四 小麦 包裝、重量、容積重量、調製及乾燥
- 五 蕪 包裝、重量、篩目程度
- 六 落花生 包裝、重量、品質、調製及乾燥
- 七 改良大豆
- 八 白眉大豆
- 九 間島大豆
- 一〇 大豆油
- 一一 大豆普通間粕
- 一二 蕪
- 一三 蕪目狀
- 一四 蕪目狀
- 一五 蕪目狀
- 一六 蕪目狀
- 一七 蕪目狀
- 一八 蕪目狀
- 一九 蕪目狀
- 二〇 蕪目狀
- 二一 蕪目狀
- 二二 蕪目狀
- 二三 蕪目狀
- 二四 蕪目狀
- 二五 蕪目狀
- 二六 蕪目狀
- 二七 蕪目狀
- 二八 蕪目狀
- 二九 蕪目狀
- 三〇 蕪目狀
- 三一 蕪目狀
- 三二 蕪目狀
- 三三 蕪目狀
- 三四 蕪目狀
- 三五 蕪目狀
- 三六 蕪目狀
- 三七 蕪目狀
- 三八 蕪目狀
- 三九 蕪目狀
- 四〇 蕪目狀
- 四一 蕪目狀
- 四二 蕪目狀
- 四三 蕪目狀
- 四四 蕪目狀
- 四五 蕪目狀
- 四六 蕪目狀
- 四七 蕪目狀
- 四八 蕪目狀
- 四九 蕪目狀
- 五〇 蕪目狀
- 五一 蕪目狀
- 五二 蕪目狀
- 五三 蕪目狀
- 五四 蕪目狀
- 五五 蕪目狀
- 五六 蕪目狀
- 五七 蕪目狀
- 五八 蕪目狀
- 五九 蕪目狀
- 六〇 蕪目狀
- 六一 蕪目狀
- 六二 蕪目狀
- 六三 蕪目狀
- 六四 蕪目狀
- 六五 蕪目狀
- 六六 蕪目狀
- 六七 蕪目狀
- 六八 蕪目狀
- 六九 蕪目狀
- 七〇 蕪目狀
- 七一 蕪目狀
- 七二 蕪目狀
- 七三 蕪目狀
- 七四 蕪目狀
- 七五 蕪目狀
- 七六 蕪目狀
- 七七 蕪目狀
- 七八 蕪目狀
- 七九 蕪目狀
- 八〇 蕪目狀
- 八一 蕪目狀
- 八二 蕪目狀
- 八三 蕪目狀
- 八四 蕪目狀
- 八五 蕪目狀
- 八六 蕪目狀
- 八七 蕪目狀
- 八八 蕪目狀
- 八九 蕪目狀
- 九〇 蕪目狀
- 九一 蕪目狀
- 九二 蕪目狀
- 九三 蕪目狀
- 九四 蕪目狀
- 九五 蕪目狀
- 九六 蕪目狀
- 九七 蕪目狀
- 九八 蕪目狀
- 九九 蕪目狀
- 一〇〇 蕪目狀

- 若ハ移出シ又ハ鐵道若ハ船舶ニ依リ國內ニ向ケ搬出(以下搬出ト稱ス)スルトキ
- 一 名稱及住所
- 二 大豆 形状、大サ、重量及品質
- 三 大豆油品質
- 四 小麦 包裝、重量、容積重量、調製及乾燥
- 五 蕪 包裝、重量、篩目程度
- 六 落花生 包裝、重量、品質、調製及乾燥
- 七 改良大豆
- 八 白眉大豆
- 九 間島大豆
- 一〇 大豆油
- 一一 大豆普通間粕
- 一二 蕪
- 一三 蕪目狀
- 一四 蕪目狀
- 一五 蕪目狀
- 一六 蕪目狀
- 一七 蕪目狀
- 一八 蕪目狀
- 一九 蕪目狀
- 二〇 蕪目狀
- 二一 蕪目狀
- 二二 蕪目狀
- 二三 蕪目狀
- 二四 蕪目狀
- 二五 蕪目狀
- 二六 蕪目狀
- 二七 蕪目狀
- 二八 蕪目狀
- 二九 蕪目狀
- 三〇 蕪目狀
- 三一 蕪目狀
- 三二 蕪目狀
- 三三 蕪目狀
- 三四 蕪目狀
- 三五 蕪目狀
- 三六 蕪目狀
- 三七 蕪目狀
- 三八 蕪目狀
- 三九 蕪目狀
- 四〇 蕪目狀
- 四一 蕪目狀
- 四二 蕪目狀
- 四三 蕪目狀
- 四四 蕪目狀
- 四五 蕪目狀
- 四六 蕪目狀
- 四七 蕪目狀
- 四八 蕪目狀
- 四九 蕪目狀
- 五〇 蕪目狀
- 五一 蕪目狀
- 五二 蕪目狀
- 五三 蕪目狀
- 五四 蕪目狀
- 五五 蕪目狀
- 五六 蕪目狀
- 五七 蕪目狀
- 五八 蕪目狀
- 五九 蕪目狀
- 六〇 蕪目狀
- 六一 蕪目狀
- 六二 蕪目狀
- 六三 蕪目狀
- 六四 蕪目狀
- 六五 蕪目狀
- 六六 蕪目狀
- 六七 蕪目狀
- 六八 蕪目狀
- 六九 蕪目狀
- 七〇 蕪目狀
- 七一 蕪目狀
- 七二 蕪目狀
- 七三 蕪目狀
- 七四 蕪目狀
- 七五 蕪目狀
- 七六 蕪目狀
- 七七 蕪目狀
- 七八 蕪目狀
- 七九 蕪目狀
- 八〇 蕪目狀
- 八一 蕪目狀
- 八二 蕪目狀
- 八三 蕪目狀
- 八四 蕪目狀
- 八五 蕪目狀
- 八六 蕪目狀
- 八七 蕪目狀
- 八八 蕪目狀
- 八九 蕪目狀
- 九〇 蕪目狀
- 九一 蕪目狀
- 九二 蕪目狀
- 九三 蕪目狀
- 九四 蕪目狀
- 九五 蕪目狀
- 九六 蕪目狀
- 九七 蕪目狀
- 九八 蕪目狀
- 九九 蕪目狀
- 一〇〇 蕪目狀

彩票條例中改正ノ件

(勅令第六百七十九號)  
 彩票條例中左ノ通改正ス  
 一 第二條ヲ左ノ如ク收ム  
 二 彩票ヲ發行セントスルトキハ經濟部大臣ハ其ノ目的一覽ノ價格、得彩金、發行期行、抽籤期日、抽籤場所其ノ他必要ナル事項ヲ定メテ之ヲ公告ス之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ  
 三 第十條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ  
 第十一條ヲ第十二條トス  
 第十一條 代賣人ノ引受ケタル

法律—滿洲國彩票條例中改正ノ件

三五六  
三五七



法律—滿洲國物品供給規則中改正ノ件、物品供給規則第一條第一項ニ係ル團體及物品指定ノ件

物品供給規則中改正ノ件

(康徳六年十月十九日勅令第二百七十四號)

物品供給規則中左ノ通改正ス

一 第一條ヲ左ノ如ク改ム

第一條 官署、公共團體又ハ國務總理大臣ノ指定スル團體ノ所屬物品ニシテ國務總理大臣ノ指定スルモノハ、官署又ハ前項ノ團體ヨリ特ニ依頼アリタルモノトキハ、前項以外ノ物品ニ付テモ之ヲ購買シ供給スルコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

物品供給規則第一條第一項ニ依ル團體及物品指定ノ件

(康徳六年十月二十七日院令第四十三號)

第一條 物品供給規則第一條第一項ニ依ル團體ヲ左ノ通指定ス

- 協和會
滿洲國赤十字社
滿洲國空務協會
保健體育協會
金龍合作社
滿洲特產中央會
滿洲工業技術員協會
滿洲勞工協會
農事合作社
金龍合作社聯合會
滿洲弘報協會
滿洲國防婦人會

三五八

項ニ依ル物品ヲ左ノ通指定ス

- 一 鐵鋼類及原鑄石
普通鐵鋼材、特殊鐵鋼材、鋼塊、半製品、特殊鋼塊、普通鉄、鑄鐵管、鑄鐵、鑄石、フェロアロイ、マンガン鑄、タンクス、タンク、モリブテン鑄、グナジウム鑄、ニッケル鑄
二 非鐵金屬及鑄物類
金、白金、銅、銀、黃銅、鉛、鉛類、亞鉛、亞鉛鑄、錫、ブリキ、ニッケル、アンチモン、アンチモン鑄、水銀、コバルト、クロム、アルミニウム、アルミニウム鑄、マグネシウム、錳土質岩、螢石、硼砂、硼砂原鑄、石綿、石棉鑄、雲母、石灰石、耐火粘土
三 纖維工業品同原料皮革及木材類
紡績用棉花、製綿用棉花、綿糸、綿布、綿羊毛(新毛)、毛織物、豚毛、人絹用バルブ、製紙用パ

- ルプ、特殊用紙、洋紙、牛皮、馬皮、豚皮、羊皮(羊皮子)、毛皮、牛革、亞麻、洋麻、青麻、大麻、黃麻、マニラヘンプ、麻袋(新)、麻袋(舊)、木材
前項物品ヲ主要素材トスル物品
四 石炭及石油類
石炭、原油、揮發油、煤油、輕油、機械油、石油用製煉、石油用製箱材料
五 工業藥品同原料類
鹽、曹達灰、苛性曹達、酒精、酒精用製煉、酒精用製箱材料、ベンゾール、トルオール、石炭酸、硝酸(SE四〇度未満)、濃硝酸(SE四〇度以上)、硫酸、亞硫酸、硝酸曹達、鹽酸、タリニン材料(六〇%エキ)、生ゴム、滑ゴム、ゴム製品、亞麻子油、亞麻子、晒粉、硫安、硫安、加里、燐礦石、硫化鐵、カーバイド、セメント、マグネサイト、マグネシヤ

- 動力機械、農業機械、電氣機械、其ノ他ノ機械類
七 運輸通信器材類
車輪、自動車、航空機、船舶、通信器材、其ノ他ノ運輸通信器材類
八 用紙、帳簿、什器、被服及同附屬品類(別途登錄品局長ノ定メタル物品ニ限ル)

- 臣ノ特ニ指定スルモノ
第二條 特殊團體ノ職員其ノ職務ニ關シテ賄賂其ノ他不正ノ利益ヲ收受シ又ハ他人ニ供與セシメタルモノハ、二年以下ノ徒刑又ハ三千元以下ノ罰金ニ處ス要求又ハ約束ヲ爲シタルトキモ亦同ジ
第三條 前項ノ罪ヲ犯シタルモノハ、五年以下ノ徒刑ニ處ス
第四條 特殊團體ノ職員タラントスル者其ノ擔當スベキ職務ニ關シテ賄賂ヲ受ケ賄賂其ノ他不正ノ利益ヲ收受シ又ハ他人ニ供與セシメ又ハ要求若ハ約束ヲ爲シ後、特殊團體ノ職員ト爲リタルトキハ、三年以下ノ徒刑又ハ三千元以下ノ罰金ニ處ス

- ル不正ノ行為ニ對シ賄賂其ノ他不正ノ利益ヲ收受シ又ハ要求若ハ約束ヲ爲シタルトキハ、二年以下ノ徒刑又ハ三千元以下ノ罰金ニ處ス
第六條 第二條第一項及第二條ノ賄賂其ノ他不正ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ中込若ハ約束ヲ爲シタル者ハ、三年以下ノ徒刑又ハ三千元以下ノ罰金ニ處ス
第七條 前項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ、其ノ利益者ヨリ其ノ價額ヲ追徴ス

- 六 機械類
工作機械、鑛山及土木用機械、

- 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
特殊團體職員ノ濟職處罰ニ關スル件
(康徳六年九月一日勅令第二百二十八號)

- 第一條 本法ニ於テ特殊團體トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ
一 會計其ノ他ノ法人ニシテ當該法人ニ付テ法律ヲ制定シ又ハ條約ヲ締結シタルモノ
二 前號ノ法人ニ準ズル法人其ノ他ノ團體ニシテ國務總理大

- 本令ハ康徳六年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
三五九



棉花統制法中改正ノ件

正ノ件

(康徳五年十二月十四日勅令第二百八十四號)

棉花統制法中左ノ通改正ス

- 一 第二條第二項ヲ左ノ如ク改ム  
前項ニ規定スル者ハ實棉收買ノ價格、時期及場所ニ付産業部大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ認可ヲ受クベシ
- 二 第七條ヲ左ノ如ク改ム  
第七條 第二條第一項ニ規定スル者以外ノ者實棉ヲ買受ケタルトキハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 三 第八條ヲ削リ以下逐條繰上ゲ
- 四 第十條中「第七條乃至前條」ヲ「前二條」ニ改ム
- 五 第十一條乃至第十三條ヲ左ノ如ク改ム  
第十條 前二條ノ規定ノ適用ニ付テハ康徳五年勅令第二百二十五號行政法規ノ規則適用ニ關スル件ニ依ル
- 第六條 第五條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十一條 使用人其ノ他ノ従業員本人ノ業務ニ關シ本法ノ罰則ニ關ルル行為ヲ爲シタルトキハ該行為者ヲ罰スルノ外本人ヲモ處罰ス但シ本人心神喪失者又ハ營業ニ關シ成年者同一ノ能力ヲ有セザル未成年者ナルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

【參照】

康徳四年十月七日公布勅令第二百九十二號棉花統制法抄録

第二條第二項 前項ノ收買ハ産業部大臣ノ指定スル價格、時期及場所ニ於テ之ヲ爲スベシ

第七條 第二條第一項ニ規定スル者以外ノ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 實棉ヲ買受ケタルトキ

二 第三條ノ規定ニ違反シタルトキ

第八條 第五條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 使用人其ノ他ノ従業員本人ノ業務ニ關シ本法ノ罰則ニ關ルル行為ヲ爲シタルトキハ該行為者ヲ罰スルノ外本人ヲモ處罰ス但シ本人心神喪失者又ハ營業ニ關シ成年者同一ノ能力ヲ有セザル未成年者ナルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス

滿洲棉花股份有限公司法中改正ノ件

正ノ件

(康徳五年十二月十四日勅令第二百八十五號)

滿洲棉花股份有限公司法中左ノ通改正ス

- 一 「滿洲棉花股份有限公司」ヲ「滿洲棉花株式會社」ニ改ム
- 二 第一條中「滿洲棉花株式會社」ヲ「滿洲棉花株式會社」ニ改ム
- 三 第三條、第五條、第六條、第十四條乃至第十七條、第二十二條乃至第二十二條、第二十六條及第二十九條中「滿洲棉花株式會社」ヲ「會社」ニ改ム
- 三六〇
- 三 第二條ヲ左ノ如ク改ム  
第二條 會社ハ國內生産棉花ノ收買及採種ニ關スル事業ヲ營ムコトヲ目的トス  
會社ハ産業部大臣ノ認可ヲ受ケ前項ノ事業ニ附帶スル業務ヲ營ムコトヲ得
- 四 第三條第二項及第十五條中「收買所」ノ次ニ「及作業所」ヲ加フ
- 五 第四條ヲ左ノ如ク改ム  
第四條 會社ノ資本ノ額ハ一千萬圓トシ政府ハ會社資本ノ半額以上ヲ出資ス
- 六 第五條、第六條、第十四條及第二十八條中「股份」ヲ「株式」ニ改ム
- 七 第五條中「一股份」ヲ「一株」ニ改ム
- 八 第六條中「公司」ヲ「會社」ニ改ム
- 九 第七條乃至第九條及第二十四條ヲ削ル
- 十 第十條ヲ左ノ如ク改ム  
第十條 會社ニ理事長一人、副

理事長一人、理事四人以内及監事二人以内ヲ置ク

第十一條 理事長ハ會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ綜理ス

第十二條 理事長ハ副理事長長其ノ職務ヲ行フ

第十三條 副理事長共ニ事故アルトキハ理事中ノ一人理事長ノ職務ヲ行フ副理事長及理事ハ理事長ヲ輔佐シ理事長ノ命ヲ承ケテ會社ノ業務ヲ掌理ス

第十四條 副理事長ハ副理事長長其ノ職務ヲ行フ

第十五條 副理事長ハ副理事長長其ノ職務ヲ行フ

第十六條 副理事長ハ副理事長長其ノ職務ヲ行フ

第十七條 副理事長ハ副理事長長其ノ職務ヲ行フ

第十八條 副理事長ハ副理事長長其ノ職務ヲ行フ

第十九條 副理事長ハ副理事長長其ノ職務ヲ行フ

第二十條 副理事長ハ副理事長長其ノ職務ヲ行フ

第二十一條 副理事長ハ副理事長長其ノ職務ヲ行フ

第二十二條 副理事長ハ副理事長長其ノ職務ヲ行フ

第二十三條 副理事長ハ副理事長長其ノ職務ヲ行フ

第二十四條 副理事長ハ副理事長長其ノ職務ヲ行フ

第二十五條 副理事長ハ副理事長長其ノ職務ヲ行フ

第二十六條 副理事長ハ副理事長長其ノ職務ヲ行フ



第十八條 滿洲棉花股份有限公司ハ營業年度毎ニ事業計畫ヲ定メ

年度開始前之ヲ實業部大臣ニ提出シ認可ヲ受クベシ

第十九條 滿洲棉花股份有限公司

董事長、董事、監察人ノ解任、

章程ノ變更、利益金ノ處分、公

司價ノ募集、合併並ニ解散ノ決

議ハ實業部大臣ノ認可ヲ受ケル

ニ非ザレバ其ノ效力ヲ發生セズ

第二十三條 實業部大臣ハ滿洲棉

花股份有限公司ノ決議、法令若

ハ章程ニ違反シ又ハ益ヲ害スト

認メタルトキハ其ノ決議ヲ取消

スコトヲ得實業部大臣ハ滿洲棉

花股份有限公司ノ董事長、董事

又ハ監察人ノ行為法令若ハ章程

ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認メ

タルトキハ之ヲ解任スルコトヲ

得董事長、董事又ハ監察人實業

部大臣ノ命令ニ從ハザルトキ亦

同ジ

棉花統制法施行規則

(康徳五年十二月十四日)

第一條 棉花統制法第二條第二項

ノ規定ニ依ル實收買價格ノ認

可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ

毎月二十五日迄ニ實業部大臣ニ

提出スベシ

一 翌月ニ於テ收買スル實棉ノ

地域別、品種別及等級別ノ收

買價格

二 前號ニ掲グル價格算出ノ基

礎及說明

第二條 棉花統制法第二條第二項

ノ規定ニ依ル實收買價格ハ實

棉ノ生産費、物價其ノ他ノ經濟

事情及國ノ棉花獎勵方策ヲ參酌

シ區別、品種別及等級別ニ之ヲ

定ムベシ

第三條 認可ヲ受ケタル收買價格

ヲ改定セントスルトキハ左ノ事

項ヲ記載シタル改定認可申請書

ヲ實業部大臣ニ提出スベシ

一 改定事由

二 地域別、品種別及等級別ノ

改定收買價格

第四條 棉花統制法第二條第二項

ノ規定ニ依ル收買ノ時期及場所

ノ認可申請書ニハ其ノ事由ヲ具

シ毎年八月十日迄ニ實業部大臣

ニ提出スベシ

第五條 認可ヲ受ケタル收買ノ時

期又ハ場所ヲ改定セントスルト

キハ其ノ事由ヲ具シ改定認可申

請書ヲ實業部大臣ニ提出スベシ

第六條 實業部大臣棉花統制法第

二條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ

爲シタルトキハ之ヲ公告ス

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル

場合ハ棉花統制法第二條第二項

ノ規定ニ依ル實收買價格ハ實

棉ノ生産費、物價其ノ他ノ經濟

事情及國ノ棉花獎勵方策ヲ參酌

シタル實棉ニ付收買價格ヲ爲

ス場合

二 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依ル實收買價格ハ實棉ノ

生産費、物價其ノ他ノ經濟事情

及國ノ棉花獎勵方策ヲ參酌シ

タル實棉ニ付收買價格ヲ爲ス

場合

三 實業部大臣ノ許可ヲ受ケタ

ル場合

第八條 前條第二項ノ規定ニ依リ

縣長又ハ旗長ノ許可ヲ受ケント

スル者ハ毎年七月末日迄ニ左ニ

掲グル事項ヲ記載シタル申請書

ヲ縣長又ハ旗長ニ提出スベシ

一 作付棉花ノ種類、面積及收

種豫想量

二 自家用ニ供スル棉花ノ數量

及用途、

三 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

四 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

第九條 縣長又ハ旗長必要アリト

認ムルトキハ前條ノ申請書ニ對

シ棉花統制法第二條第二項ノ

規定、數量並ニ棉花統制法第

二條第二項ノ規定ニ依リ

第十條 第七條第三項ノ規定ニ依

リ實業部大臣ノ許可ヲ受ケント

スル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載

シタル申請書ヲ實業部大臣ニ提

出スベシ

一 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

二 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

三 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

四 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

五 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

六 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

七 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

八 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

九 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

十 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

十一 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

十二 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

十三 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

十四 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

十五 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

十六 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

十七 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

十八 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

鑛業法中改正

(康徳六年八月一日)

鑛業法中左ノ通改正ス

一 第七條中「鑛業監督署長又ハ

省長」ヲ「省長又ハ滿洲鑛業開

發株式會社理事長」ニ改ム

二 第十六條ヲ左ノ如ク改ム

第十六條 鑛業ヲ爲サントスル

者ハ申請書ニ出願區域ノ圖面ヲ

添ヘ滿洲鑛業開發株式會社理

事長ヲ經テ實業部大臣ニ出願

スベシ

三 第十五條第一項、第十九條第

一項、第二十條第一項、第三十

三條第一項第二項第四項第五項

及第四十三條第一項第二項中

「鑛業監督署長」ヲ「滿洲鑛業

開發株式會社理事長」ニ改ム

四 第五十九條第一項、第六十條

第一項、第六十一條第二項、第

六十三條第一項第二項、第六十

八條、第七十七條、第七十八條

第二項、第七十九條第一項、第

三六三

二 作付棉花ノ種類、面積及收

種豫想量

三 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

四 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

五 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

六 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

七 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

八 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

九 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

十 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

十一 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

十二 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

十三 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

十四 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

十五 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ

十六 棉花統制法第二條第二項ノ

規定ニ依リ



法律 滿洲國礦業財團抵押法中改正、礦業登記令中改正、滿洲國礦業開採株式會社

八十五條第一項、第八十八條第一項及第八十九條第一項中「礦業監督署長」ヲ「省長」ニ改ム

五 第八十二條第一項及第八十二條中「礦業監督署長」ヲ「産業部大臣」ニ改ム

六 第八十三條及第八十四條中「礦業監督署長」ヲ「産業部大臣及省長」ニ改ム

七 第二十條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第二十條ノ二 礦業出願區域出願ノ當時同種又ハ各別ニ礦業ヲ爲スニ支障アリト認ムル異種ノ礦物ニ付他ノ出願區域ニ重複スルトキハ滿洲國礦業開採株式會社理事長期間ヲ指定シテ礦業出願人ニ對シ出願ノ分割ヲ命ズルコトヲ得

礦業出願人前項ノ指定期間内ニ分割ヲ爲サザルトキハ礦業出願ハ之ヲ取下ゲタルモノト看做ス

八 第三十六條第一項ヲ左ノ如ク改ム

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

礦業登記令中改正

(康徳六年八月一日) 勅令第九十五號

滿洲國礦業開採株式會社理事長ヲ「礦業監督署長」ヲ「滿洲國礦業開採株式會社」ニ改正ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

滿洲國礦業開採株式會社理事長ノ行フ礦業行政事務ニ關スル件

(康徳六年八月一日) 勅令第九十六號

第一條 産業部大臣ハ滿洲國礦業開採株式會社理事長ノ行フ礦業行政事務ニ付之ヲ指揮監督ス

第二條 産業部大臣ハ滿洲國礦業開採株式會社理事長ノ行フ礦業行政事務ヲ管理セシムル爲メ礦業行政事務監督官ヲ置ク

三六四

前項ノ監督官ハ鑛山司長ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 礦業行政事務監督官ハ何時ニテモ滿洲國礦業開採株式會社理事長ノ保管スル礦業行政ニ關スル文書物件ヲ検査シ、之ニ命ジテ其ノ行フ礦業行政事務ニ關スル諸般ノ狀況ヲ報告セシメ又ハ之ニ對シ其ノ行フ礦業行政事務ニ付意見ヲ陳述スルコトヲ得

第四條 滿洲國礦業開採株式會社理事長ハ會社ノ從業員ヲシテ其ノ行フ礦業行政事務ニ從事セシムルコトヲ得

滿洲國礦業開採株式會社理事長前項ノ規定ニ依リ礦業行政事務ニ從事セシムル從業員ヲ任命セントスルトキハ産業部大臣ノ認可ヲ受クベシ

産業部大臣必要アリト認ムルトキハ滿洲國礦業開採株式會社理事長ニ對シ礦業行政事務ニ從事スル從業員ノ解任ヲ命ズルコトヲ得

第五條 滿洲國礦業開採株式會社ノ

附則

從業員ニシテ礦業行政事務ニ從事スル者ハ之ヲ公務員ト看做ス

第六條 滿洲國礦業開採株式會社理事長ノ行フ礦業行政事務ノ取扱ニ要スル經費ハ會社ノ負擔トス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

康徳二年勅令第九十一號礦業法

第九條ノ規定ニ依リ國防上必要ナル礦物ヲ目的トスル礦業ノ出願ノ制限ニ關スル件中「滑石及石棉」ヲ

法律 滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

「滑石、石棉、」ニ改メ次ニ「金、銀、銅、鐵、鉛、鋅、錳、鈾、釷、」ノモノヲ除ク、

礦、クローム鐵、錳、鈾、釷、土瀝青及雲母ヲ目的トスル礦業ノ出願ニ付テハ其ノ出願人ノ名義ハ本令施行ノ際滿洲國礦業開採株式會社ノ爲ニ變更アリタルモノト看做ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル金、銀、銅、鐵、鉛、鋅、錳、鈾、釷、土瀝青及雲母ヲ目的トスル礦業ノ出願ノ制限ニ關スル件中「滑石及石棉」ヲ除ク、

礦、クローム鐵、錳、鈾、釷、土瀝青及雲母ヲ目的トスル礦業ノ出願ニ付テハ其ノ出願人ノ名義ハ本令施行ノ際滿洲國礦業開採株式會社ノ爲ニ變更アリタルモノト看做ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

礦業法第九條ノ規定ニ依リ國防上必要ナル礦物ヲ目的トスル礦業ノ出願ノ制限ニ關スル件

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

(康徳六年八月一日) 勅令第九十八號

第一條 礦業法第九條ノ規定ニ基ク勅令ニ依リ礦業ノ出願ノ制限セラレタル礦物ヲ未ダ之ニ付礦業權ノ設定ナキ區域ニ於テ發見シタル者ハ當該礦物ヲ目的トスル礦業ノ出願ヲ爲スコトヲ得ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 礦業法第九條ノ規定ニ基ク勅令ニ依リ礦業ノ出願ノ制限セラレタル礦物ヲ未ダ之ニ付礦業權ノ設定ナキ區域ニ於テ發見シタル者ハ當該礦物ヲ目的トスル礦業ノ出願ヲ爲スコトヲ得ル

第二條 勅令ノ申出ヲ受ケタル者其ノ申出ニ基ク出願ニ依リ礦業權ノ設定ヲ受ケタルトキハ申出人ニ對シ報酬金ヲ交付スベシ但シ申出人ニ對シ租權權ヲ設定シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 同一ノ區域ニ於ケル同種又ハ各別ニ礦業ヲ爲スニ支障アリト認ムル異種ノ礦物ニ付二以上ノ發見ノ申出アリタルトキハ先申出書發送ノ日時先ナルモノニ優トキハ各申出人ノ協議ニ依リ協同ハザルトキハ抽籤ニ依リ優先スル者ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 勅令ニ依リ協同ハザルトキハ産業部大臣之ヲ定ム

第五條 發見ノ申出ニ基キテ爲シタル礦業ノ出願ハ申出書發送ノ日時ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 勅令ニ依リ協同ハザルトキハ産業部大臣之ヲ定ム

三六五

礦業法施行細則

中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正

滿洲國礦業法中改正、礦業法施行細則中改正







原動機取締規則  
施行細則

四 鑛業法第三十一條第二號乃至第四號ノ規定ニ依ル鑛業權ノ取  
消  
五 鑛區ノ合併、分割又ハ分合ノ  
出願ノ許可又ハ不許可  
六 鑛區ノ増減願ノ許可又ハ不許  
可  
七 鑛物ノ名稱更正願ノ許可又ハ  
不許可  
八 鑛業法第四十一條及第四十二  
條第一項ノ規定ニ依ル鑛區ノ訂  
正命令  
九 技術管理署ノ選任又ハ改任ノ  
命令  
十 鑛業法第四四條ノ規定ニ依ル  
鑛區ノ訂正命令又ハ鑛業權ノ取  
消  
十一 鑛業法第五五條第一項ノ規  
定ニ依ル出願區域ノ訂正命令  
附 則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（康徳五年十一月二十六日）  
（奉天省令第四十三號）

第一條 本令ニ於テ規則トハ原動  
機取締規則ヲ謂フ  
第二條 規則第七條ノ規定ニ依ル  
機體検査ニ合格シタル汽機ニハ  
別記第一號様式ノ刻印ヲ押刻ス  
第三條 省長必要アリト認ムルト  
キハ原動機取扱主任者ノ認可ニ  
際シ原動機取扱主任者ヲ認可シ  
ニ原動機取扱方法ニ付試驗ヲ行  
フコトアルベシ  
第四條 原動機取扱主任者ヲ認可  
シタルトキハ別記第二様式ノ原  
動機取扱主任者ヲ交付ス  
前項ノ原動機取扱主任者就業中  
常ニ之ヲ携帶又ハ原動機室ノ見  
易キ場所ニ掲示スベシ  
第五條 規則第十四條ノ規定ニ依  
リ選任シタル原動機取扱主任代  
務者職務ヲ執行スルニ適當ナ  
リト認ムルトキハ警察官署長其  
ノ變更ヲ命ズルコトヲ得  
第六條 規則第十五條第三號ノ規  
定ニ依ル原動機日誌ハ概ネ左ノ  
各號ニ付テ之ヲ記録スベシ  
前項日誌ハ之ヲ機場ニ一括シ一  
箇年間保存スベシ  
一 原動機検査證書番號  
二 天候、室内外溫度  
三 原動機使用開始及終了時刻  
四 計器類ノ指示狀況  
五 燃料、給水其ノ他主ナル消  
耗品ノ消費量  
六 附屬裝置ノ狀況  
七 作業狀態  
八 其ノ他必要ナル事項  
第七條 原動機取扱主任者又ハ原  
動機管理署ノ解任シタルトキハ  
別記第三號様式ニ依リ運送ナク  
之ヲ省長ニ届出テ認可證ヲ返納  
スベシ  
第八條 規則第十四條ノ規定ニ依  
リ選任シタル原動機取扱主任代  
務者ヲ解任シタルトキハ別記第  
四號様式ニ依リ運送ナク之ヲ所  
轄警察署ニ届出ツベシ  
第九條 規則第二十條第一項第一  
號（設置者ノ住所、氏名變更）  
及第四號（法人組織變更）ノ届  
出ハ別記第五號様式第五號（一  
年以上原動機ノ使用休止）ハ別  
記第六號様式ニ依ルベシ  
法人ノ組織變更届書ニハ新定款  
ノ寫ヲ添附スベシ  
第十條 規則第二十條第一項第五  
號ノ規定ニ依リ届出デタル原動  
機（一年以上使用休止）ヲ再ビ  
使用セントスルトキハ其ノ使用  
開始前別記第七號様式ニ依リ之  
ヲ省長ニ届出デ検査ヲ受クベシ  
第十一條 原動機設置所ニ於テ火  
災、倒壞又ハ原動機ノ破裂、毀  
損等ノ事故發生シタルトキハ規  
則第二十二條ノ規定ニ依ル外  
別記第八號様式ニ依リ運送ナク  
之ヲ省長ニ届出ツベシ但シ下掲  
取締規則施行細則第十五條ノ規  
定ニ依リ届出ヅルモノハ此ノ限  
リニ在ラズ  
第十二條 本規則第四條第二項、

第六條乃至第八條、第十條及第  
十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ  
科料ニ處ス  
第十三條 本規則ノ規定ニ依リ省  
長ニ提出スベキ圖面書類ハ原動  
機設置地所轄警察官署ヲ經由ス  
ベシ  
附 則  
本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行  
ス（様式會覽略ス）

ムコトヲ得  
第三條 會社ハ本店ヲ鞍山市ニ置  
ク  
第四條 會社ノ資本ノ額ハ二億圓  
トス  
第五條 會社ノ株式ハ記名式トシ  
一株ノ金額ハ五十圓トス  
第六條 會社ノ株式ハ會社ノ同意  
ヲ得ルニ非ザレバ之ヲ他人ニ讓  
渡スルコトヲ得ス  
第七條 會社ニ理事長一人、理事  
十五人以内及監事五人以内ヲ置  
ク  
第八條 理事長ハ會社ヲ代表シ其  
ノ業務ヲ經理ス  
理事長事故アルトキハ理事中ノ  
一人理事長ノ職務ヲ行フ  
理事ハ理事長ヲ輔佐シ會社ノ業  
務ヲ掌理ス  
第九條 理事ハ會社ノ業務ヲ監査ス  
第十條 理事長、理事及監事ハ株  
主總會ニ於テ之ヲ選任ス  
理事長及理事ノ任期ハ四年、監  
事ノ任期ハ三年トス  
第十一條 現理事長及常務ニ從事スル  
理事ハ產業部大臣ノ認可ヲ受ケ  
ルニ非ザレバ他ノ業務ニ從事ス  
ルコトヲ得ス  
第十二條 會社ニ其ノ重要事項ヲ  
協議スル爲メ理事會ヲ置ク  
理事會ハ理事長及理事ヲ以テ之  
ヲ組織ス  
第十三條 理事會ニ會員ノ互選ニ  
依リ理事會長ヲ置ク  
理事會長ハ理事會ノ事務ヲ統理  
ス  
第十四條 會社ハ營業年度毎ニ事  
業計畫ヲ定メ豫メ之ヲ產業部大  
臣ニ提出スベシ之ヲ變更セント  
スルトキ亦同ジ  
第十五條 理事長、理事及監事ノ  
選任及解任、定款ノ變更、利益  
金ノ處分、社債ノ募集前ニ合併  
及解散ノ決議ハ產業部大臣ノ認  
可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力  
ヲ生ゼズ  
第十六條 會社ハ拂込ミタル株金  
額ノ二倍迄社債ヲ募集スルコト  
ヲ得  
第十七條 會社ハ社債募集ノ委託  
契約ニ別段ノ定ヲ爲シタルトキ  
ハ委託ヲ受ケタル會社ニ以上ア  
ル場合ト雖モ會社法第七十三  
條ノ規定ニ拘ラズ其ノ一ヲシテ  
委託ヲ受ケタル會社ノ權限ニ屬  
スル行爲ヲ爲ナシムルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ社  
債申込證、債券及社債原簿ニ記  
載シ且社債ノ登記ヲ爲ス場合ニ  
之ヲ登記スベシ  
第十八條 會社ハ產業部大臣ノ認  
可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ事業  
ノ全部又ハ一部ヲ廢止シ又ハ休  
止スルコトヲ得ス  
第十九條 產業部大臣ハ會社ノ業  
務ニ關シ監督上又ハ公益上必要  
ナル命令ヲ爲スコトヲ得  
第二十條 產業部大臣ハ會社ノ  
決議方法令若ハ定款ニ違反シ又

株式會社昭和製  
鋼所法

（康徳六年五月二十五日）  
（勅令第百二十一號）

第一條 株式會社昭和製鋼所ハ製  
鐵事業ノ發展爲立ヲ圖ルヲ以テ  
其ノ使命トス  
第二條 會社ハ鉄鐵、鋼材及其ノ  
副産物ノ製造並ニ鑛石ノ採掘ニ  
關スル事業ヲ營ムトス  
會社ハ產業部大臣ノ認可ヲ受ケ  
前項ノ事業ニ附帯スル事務ヲ營  
ム  
第三條 會社ハ本店ヲ鞍山市ニ置  
ク  
第四條 會社ノ資本ノ額ハ二億圓  
トス  
第五條 會社ノ株式ハ記名式トシ  
一株ノ金額ハ五十圓トス  
第六條 會社ノ株式ハ會社ノ同意  
ヲ得ルニ非ザレバ之ヲ他人ニ讓  
渡スルコトヲ得ス  
第七條 會社ニ理事長一人、理事  
十五人以内及監事五人以内ヲ置  
ク  
第八條 理事長ハ會社ヲ代表シ其  
ノ業務ヲ經理ス  
理事長事故アルトキハ理事中ノ  
一人理事長ノ職務ヲ行フ  
理事ハ理事長ヲ輔佐シ會社ノ業  
務ヲ掌理ス  
第九條 理事ハ會社ノ業務ヲ監査ス  
第十條 理事長、理事及監事ハ株  
主總會ニ於テ之ヲ選任ス  
理事長及理事ノ任期ハ四年、監  
事ノ任期ハ三年トス  
第十一條 現理事長及常務ニ從事スル  
理事ハ產業部大臣ノ認可ヲ受ケ  
ルニ非ザレバ他ノ業務ニ從事ス  
ルコトヲ得  
第十二條 會社ニ其ノ重要事項ヲ  
協議スル爲メ理事會ヲ置ク  
理事會ハ理事長及理事ヲ以テ之  
ヲ組織ス  
第十三條 理事會ニ會員ノ互選ニ  
依リ理事會長ヲ置ク  
理事會長ハ理事會ノ事務ヲ統理  
ス  
第十四條 會社ハ營業年度毎ニ事  
業計畫ヲ定メ豫メ之ヲ產業部大  
臣ニ提出スベシ之ヲ變更セント  
スルトキ亦同ジ  
第十五條 理事長、理事及監事ノ  
選任及解任、定款ノ變更、利益  
金ノ處分、社債ノ募集前ニ合併  
及解散ノ決議ハ產業部大臣ノ認  
可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力  
ヲ生ゼズ  
第十六條 會社ハ拂込ミタル株金  
額ノ二倍迄社債ヲ募集スルコト  
ヲ得  
第十七條 會社ハ社債募集ノ委託  
契約ニ別段ノ定ヲ爲シタルトキ  
ハ委託ヲ受ケタル會社ニ以上ア  
ル場合ト雖モ會社法第七十三  
條ノ規定ニ拘ラズ其ノ一ヲシテ  
委託ヲ受ケタル會社ノ權限ニ屬  
スル行爲ヲ爲ナシムルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ社  
債申込證、債券及社債原簿ニ記  
載シ且社債ノ登記ヲ爲ス場合ニ  
之ヲ登記スベシ  
第十八條 會社ハ產業部大臣ノ認  
可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ事業  
ノ全部又ハ一部ヲ廢止シ又ハ休  
止スルコトヲ得ス  
第十九條 產業部大臣ハ會社ノ業  
務ニ關シ監督上又ハ公益上必要  
ナル命令ヲ爲スコトヲ得  
第二十條 產業部大臣ハ會社ノ  
決議方法令若ハ定款ニ違反シ又







法律 滿洲自動車製造株式會社及同和自動車工業株式會社ニ對スル監督事

一 事業計畫書及事業報告書
二 營業所ノ設置又ハ變更屆
三 營業又ハ財産狀況ノ報告書
附 則
本令ハ昭和六年五月五日ヨリ之ヲ施行ス

吉林人造石油株式會社法

（勅令第二百二十九號）
第一條 政府ハ液體燃料製造工業ノ確立ヲ圖ル爲メ吉林人造石油株式會社ヲ設立セシム
第二條 會社ノ直接液化法ニ依ル液體燃料ノ製造及副産物ノ加工ニ關スル事業ヲ營ムコトヲ目的トス
第三條 會社ノ資本ノ額ハ一億圓トス
第四條 會社ノ株式ハ記名式トシ

一株ノ金額ハ五十圓トス
第五條 會社ノ株式ハ會社ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ之ヲ他人ニ譲渡スルコトヲ得ズ
第六條 會社ノ株金ノ第一回拂込額ハ之ヲ株金ノ五分ノ一迄ニ下スコトヲ得
第七條 會社ニ理事長一人、副理事長一人、理事六人以内及監事三人以内ヲ置ク
理事長、副理事長、理事及監事ハ株主總會ヲ於テ之ヲ選任ス
理事長、副理事長及理事ノ任期ハ四年、監事ノ任期ハ三年トス
第八條 理事長ハ會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ綜理ス
理事長事故アルトキハ副理事長其ノ職務ヲ行フ
理事長及副理事長共ニ事故アルトキハ理事中ノ一人理事長ノ職務ヲ行フ
副理事長及理事ハ理事長ヲ輔佐シ理事長ノ命ヲ承ケテ會社ノ業務ヲ掌理ス
監事ハ會社ノ業務ヲ監査ス

滿洲自動車製造株式會社及同和自動車工業株式會社ニ對スル監督事
附 則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 產業部大臣ハ滿洲自動車製造株式會社及同和自動車工業株式會社ヨリ左ニ掲グル書類ノ提出アリタルトキハ交通部大臣ニ其ノ寫ヲ送付シ又ハ其ノ旨ヲ通報スベシ
第二條 產業部大臣ハ滿洲自動車製造株式會社及同和自動車工業株式會社ヨリ左ニ掲グル書類ノ提出アリタルトキハ交通部大臣ニ其ノ寫ヲ送付シ又ハ其ノ旨ヲ通報スベシ

第九條 理事長、副理事長及常務ニ從事スル理事ハ產業部大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ他ノ業務ニ從事スルコトヲ得ズ

第十四條 產業部大臣ハ會社ノ業務ニ關シ監督上又ハ公益上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十條 理事長、副理事長、理事及監事ノ選任及解任、定款ノ變更、利益金ノ處分、社債ノ募集並ニ合併及解散ノ決議ノ決議ハ產業部大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ
第十一條 會社ハ營業年度毎ニ事業計畫ヲ定メ豫メ產業部大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第十五條 產業部大臣ハ會社ノ決議方法若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消スコトヲ得
產業部大臣ハ理事長、副理事長理事又ハ監事ノ行爲ガ法令、定款若ハ本法ニ依ル命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得
第十六條 產業部大臣本法ニ基テ處分ヲ爲サントスルトキハ經濟部大臣ト協議スベシ

附 則

第十二條 會社ハ產業部大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ重要財産ヲ他人ニ讓渡シ又ハ之ヲ擔保ニ供スルコトヲ得ズ
第十三條 會社ハ產業部大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ廢止又ハ休止スルコトヲ得ズ

第十七條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第十八條 政府ハ設立委員ヲ命ジ會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム
第十九條 設立委員ハ定款ヲ作成シ滿洲炭鐵株式會社法第四條中「八千圓」ヲ「二億圓」ニ改正ス

滿洲炭鐵株式會社法中改正

（勅令第七十七號）
滿洲炭鐵株式會社法第四條中「八千圓」ヲ「二億圓」ニ改正ス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
滿洲油化工業株式會社法中改正
（勅令百十八號）
滿洲油化工業株式會社法第七條中「理事五人以内」ヲ「理事六人以内」ニ改正ス

毛皮革類配給統制規則

（勅令第六年一月二十八日）
第一條 販賣ノ目的ヲ以テ牛、馬、騾、及ハ豚ヲ屠殺シタル者ハ特別ノ事由ニ依リ地方行政官署



法律一滿洲國毛皮革類統制規則

ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ  
外其ノ皮ヲ使用若ハ消費シ又ハ  
屠肉ニ附著シタル儘販賣スルコ  
トヲ得ズ

第二條 則條ニ掲グル者ハ主管部  
大臣ノ指定スル毛皮革販賣業  
者(以下販賣業者ト稱ス)及地  
方行政官署ノ指定スル毛皮革  
仲買業者(以下仲買業者ト稱  
ス)以外ノ者ニ則條ノ皮ヲ販賣  
スルコトヲ得ズ

第三條 仲買業者ハ販賣業者及仲  
買業者以外ノ者ニ毛皮又ハ皮ヲ  
販賣スルコトヲ得ズ

第四條 主管部大臣ノ指定スル毛  
皮革類輸入業者(以下輸入業  
者ト稱ス)ニ非ザレバ毛皮、皮、  
革又ハ「ダンニン」ヲ輸入スル  
コトヲ得ズ

第五條 毛皮革業者又ハ製革業者  
ハ販賣業者及輸入業者以外ノ者  
ヨリ毛皮、皮又ハ「ダンニン」  
ヲ買受クルコトヲ得ズ

第六條 販賣業者、輸入業者、毛  
皮革業者又ハ製革業者ハ何等ノ  
名義ヲ以テスルヲ問ハズ主管部  
大臣ノ指定スル價格ヲ超ユル對  
價ヲ以テ毛皮、皮又ハ革ヲ販賣  
スルコトヲ得ズ

第七條 販賣業者、輸入業者、毛  
皮革業者又ハ製革業者ハ毛皮、  
皮又ハ革ノ販賣ニ當リ則條ノ價  
格ヲ超ユル對價ヲ以テ之ヲ販賣  
シタルト同一ノ利益ヲ舉グル目  
的ヲ以テ買戻約款ヲ附シ他ノ商  
品ヲ併セ販賣シ其ノ他之ニ類ス  
ル行為ヲ爲スコトヲ得ズ

第八條 販賣業者ハ毛皮及皮ノ輸  
入業者ハ毛皮、皮、革及「ダン  
ニン」ノ毎年一月ヨリ三月、四  
月ヨリ六月、七月ヨリ九月及十  
月ヨリ十二月迄ノ各期間内ニ販  
賣スベキ月別、種類別及取引先  
別ノ豫定數量ニ付書面ヲ以テ各  
期間開始ノ前月十日迄ニ主管部  
大臣ニ申請シ其ノ承認ヲ受クベ  
シ

第九條 販賣業者及輸入業者ハ主  
管部大臣ニ第一條ニ掲グル者仲  
買業者、毛皮革業者及製革業者  
ハ地方行政官署ヲ經テ主管部大  
臣ニ毎月十日迄ニ其ノ前月中ニ  
賣買シタル毛皮、皮、革又ハ「ダ  
ンニン」ノ種類別及取引先別ノ  
數量ヲ届出ヅベシ

第十條 販賣業者、仲買業者、輸  
入業者、毛皮革業者及製革業者  
ハ帳簿ヲ備ヘ毛皮、皮、革又ハ  
「ダンニン」ノ買受及販賣ニ關  
スル事實ヲ記載スベシ

第十一條 第二條又ハ第四條ノ指  
定ヲ受ケントスル者ハ其ノ旨ヲ  
當該官署ニ申請スベシ

第十二條 本令ニ於テ毛皮、皮又  
ハ革トハ第一條ノ場合ヲ除クノ  
外毛皮革類統制法ニ規定スル  
毛皮、皮又ハ革ヲ謂フ

第十三條 本令ニ於テ主管部大臣  
トハ産業部大臣及經濟部大臣ヲ  
地方行政官署トハ第一條及第二  
條ノ場合ニ在リテハ省長又ハ新  
京特別市長ヲ第九條ノ場合ニ在  
リテハ新京特別市長、市長、縣  
長又ハ旗長ヲ謂フ

附 則

本令ハ康德六年二月一日ヨリ之ヲ  
施行ス

第八條第一項ニ規定スル承認申請  
ハ康德六年三月末日ヲ以テ終ル期  
間ニ關スル分ニ限り本令施行ノ日  
ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲スベシ

三七四

統計及諸表

本邦會社總數

(昭和十二年末商工省會社統計表)

種別	一、營業別		二、組織別(△印には相互會社を含む)	
	社數	資本金	合名會社	株式會社
農	一、四三	一、九七、六一	一、一六	一、二七
水	一、三三	一、七六、六八	一、一三	一、二〇
工	一、三三	一、七六、六八	一、一三	一、二〇
商	一、三三	一、七六、六八	一、一三	一、二〇
運輸	一、三三	一、七六、六八	一、一三	一、二〇
計	一、三三	一、七六、六八	一、一三	一、二〇
昭和十一年	一、三三	一、七六、六八	一、一三	一、二〇
九年	一、三三	一、七六、六八	一、一三	一、二〇

本邦最近一ケ年の物價情勢

(日銀物價指數)

昭和十三年	七月	二四・三
八月	二五・八	
九月	二五・八	
十月	二五・五	
十一月	二五・一	
十二月	二五・一	
昭和十四年	一月	二五・〇
二月	二四・四	
三月	二四・八	
四月	二六・二	
五月	二六・九	
六月	二六・九	

本邦重要物資増産豫想

普通鋼	特殊鋼及	アルミニ	ニウム
100	100	100	100
100	100	100	100

三七五























統計及び諸表—一覽關係

一、官營工場の分を含まず 二、昭和四年よりは職工五人未満にして職工五人以上を使用し得る設備を有する工場を含む

本邦労働時間延数、賃金支拂總額、原料及び材料總使用額 (通工省工務統計表)

工業別	労働時間延数		賃金支拂總額		原料及び材料總使用額	
	昭和十一年	昭和十二年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十一年	昭和十二年
紡織工業	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
金銀工業	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
機械器具工業	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
窯業	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
化学工業	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
製材及び木製品工業	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
印刷及び製本業	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
印刷品工業	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
食料品工業	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
「ガス」及び電気業	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
その他の工業	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
合計	七、六〇〇、〇〇〇	八、五〇〇、〇〇〇	二、七〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	二、八〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇

本邦昭和元年以降労働賃金指数

(通工省賃金統計表、全國十三都市平均、大正一〇—十二年—一〇〇)

年次	繊維工業	金属工業	窯業	化学工業	食品工業	被服工業	製材工業	印刷工業	土木建築業	仲仕及日傭人	雑業	平均
昭和元年	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
六年	105	108	110	112	115	118	120	122	125	128	130	115
七年	108	110	112	115	118	120	122	125	128	130	132	118
八年	110	112	115	118	120	122	125	128	130	132	135	120

本邦金塊、銀塊相場

(正金銀行調)

年次	最高	最低
昭和十年	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
昭和十一年	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
昭和十二年	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇

本邦業種別全國労働賃金指数 (通工省賃金統計月報、昭和九年—一〇年—一〇〇)

年次	繊維工業	金属工業	窯業	化学工業	食品工業	被服工業	製材工業	印刷工業	土木建築業	仲仕及日傭人	平均
昭和九年	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
一〇年	105	108	110	112	115	118	120	122	125	128	115
一一年	108	110	112	115	118	120	122	125	128	130	118
一二年	110	112	115	118	120	122	125	128	130	132	120
一三年	112	115	118	120	122	125	128	130	132	135	122
一四年	115	118	120	122	125	128	130	132	135	138	125
一五年	118	120	122	125	128	130	132	135	138	140	128
一六年	120	122	125	128	130	132	135	138	140	142	130
一七年	122	125	128	130	132	135	138	140	142	145	132
一八年	125	128	130	132	135	138	140	142	145	148	135
一九年	128	130	132	135	138	140	142	145	148	150	138
二〇年	130	132	135	138	140	142	145	148	150	152	140
二一年	132	135	138	140	142	145	148	150	152	155	142
二二年	135	138	140	142	145	148	150	152	155	158	145
二三年	138	140	142	145	148	150	152	155	158	160	148
二四年	140	142	145	148	150	152	155	158	160	162	150
二五年	142	145	148	150	152	155	158	160	162	165	152
二六年	145	148	150	152	155	158	160	162	165	168	155
二七年	148	150	152	155	158	160	162	165	168	170	158
二八年	150	152	155	158	160	162	165	168	170	172	160
二九年	152	155	158	160	162	165	168	170	172	175	162
三〇年	155	158	160	162	165	168	170	172	175	178	165
三一年	158	160	162	165	168	170	172	175	178	180	168
三二年	160	162	165	168	170	172	175	178	180	182	170
三三年	162	165	168	170	172	175	178	180	182	185	172
三四年	165	168	170	172	175	178	180	182	185	188	175
三五年	168	170	172	175	178	180	182	185	188	190	178
三六年	170	172	175	178	180	182	185	188	190	192	180
三七年	172	175	178	180	182	185	188	190	192	195	182
三八年	175	178	180	182	185	188	190	192	195	198	185
三九年	178	180	182	185	188	190	192	195	198	200	188
四〇年	180	182	185	188	190	192	195	198	200	202	190
四一年	182	185	188	190	192	195	198	200	202	205	192
四二年	185	188	190	192	195	198	200	202	205	208	195
四三年	188	190	192	195	198	200	202	205	208	210	198
四四年	190	192	195	198	200	202	205	208	210	212	200
四五年	192	195	198	200	202	205	208	210	212	215	202
四六年	195	198	200	202	205	208	210	212	215	218	205
四七年	198	200	202	205	208	210	212	215	218	220	208
四八年	200	202	205	208	210	212	215	218	220	222	210
四九年	202	205	208	210	212	215	218	220	222	225	212
五〇年	205	208	210	212	215	218	220	222	225	228	215
五一年	208	210	212	215	218	220	222	225	228	230	218
五二年	210	212	215	218	220	222	225	228	230	232	220
五三年	212	215	218	220	222	225	228	230	232	235	222
五四年	215	218	220	222	225	228	230	232	235	238	225
五五年	218	220	222	225	228	230	232	235	238	240	228
五六年	220	222	225	228	230	232	235	238	240	242	230
五七年	222	225	228	230	232	235	238	240	242	245	232
五八年	225	228	230	232	235	238	240	242	245	248	235
五九年	228	230	232	235	238	240	242	245	248	250	238
六〇年	230	232	235	238	240	242	245	248	250	252	240
六一年	232	235	238	240	242	245	248	250	252	255	242
六二年	235	238	240	242	245	248	250	252	255	258	245
六三年	238	240	242	245	248	250	252	255	258	260	248
六四年	240	242	245	248	250	252	255	258	260	262	250
六五年	242	245	248	250	252	255	258	260	262	265	252
六六年	245	248	250	252	255	258	260	262	265	268	255
六七年	248	250	252	255	258	260	262	265	268	270	258
六八年	250	252	255	258	260	262	265	268	270	272	260
六九年	252	255	258	260	262	265	268	270	272	275	262
七〇年	255	258	260	262	265	268	270	272	275	278	265
七一年	258	260	262	265	268	270	272	275	278	280	268
七二年	260	262	265	268	270	272	275	278	280	282	270
七三年	262	265	268	270	272	275	278	280	282	285	272
七四年	265	268	270	272	275	278	280	282	285	288	275
七五年	268	270	272	275	278	280	282	285	288	290	278
七六年	270	272	275	278	280	282	285	288	290	292	280
七七年	272	275	278	280	282	285	288	290	292	295	282
七八年	275	278	280	282	285	288	290	292	295	298	285
七九年	278	280	282	285	288	290	292	295	298	300	288
八〇年	280	282	285	288	290	292	295	298	300	302	290
八一年	282	285	288	290	292	295	298	300	302	305	292
八二年	285	288	290	292	295	298	300	302	305	308	295
八三年	288	290	292	295	298	300	302	305	308	310	298
八四年	290	292	295	298	300	302	305	308	310	312	300
八五年	292	295	298	300	302	305	308	310	312	315	302
八六年	295	298	300	302	305	308	310	312	315	318	305
八七年	298	300	302	305	308	310					



